コンバイン

取扱説明書

VR90



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびはコンバインをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は，機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れのしかた，また，守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し，いつでも読めるようにしてください。（保管場所は6ページ参照）
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容，およびイラストなどの一部が機械と一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は稲・麦の収穫作業に使用してください。
・上記作業以外には使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は，保証の対象になりません。（詳細は，保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，次のように構成されています。まず，**安全作業のために**からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

ページ

● **安全な作業をするための注意事項は？** **安全作業のために** 安全作業説明編

安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

● **使用前に知っておかなければならないことは？** **ご使用まえに** 1

機械の概要「**仕様（装備）**」等について説明しています。

● **各部のはたらきを知るには？** **各部のはたらき** 6

各部の主な名称，操作レバー，装置の取扱いを説明しています。

● **コンバインを動かすには？** **運転のしかた** 32

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動，走行のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかた等を説明しています。

● **収穫作業を行うには？** **作業のしかた** 42

コンバイン作業の基本操作を説明しています。作物の条件やほ場条件にあった機械の調整をして，上手な収穫作業をしてください。

● **自動装置を使用して作業するには？** **自動装置について** 69

各自動装置の取扱いについて説明しています。

● **キャビン仕様機の取扱いは？** **キャビンについて** 86

各装置の取扱いについて説明しています。

● **機械を長もちさせるには？** **手入れのしかた** 91

機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守，点検してください。

● **機械を3ケ月以上格納するときは？** **長期格納のしかた** 180

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

● **故障かなと思ったら？** **不調時の処置** 182

作業中のトラブルや不調，異常を感じた時はすぐ原因を調べ処置してください。

● **諸元・関連部品？** **付　　表** 194

機械に係る諸元表・消耗部品等を一覧表で説明し，また，取扱説明書にでてくる専門用語を解説しています。

もくじ

安全作業のために…(安-1)～(安-23)
（安全作業説明編）

ご使用まえに……1
1．保証とサービスについて…… 1
2．仕様（装備）について…… 2
3．用語について…… 4
4．小型特殊自動車について…… 5
1．小型特殊自動車の届出…… 5
2．公道走行するためには…… 5

各部のはたらき……6
1．各部の名称…… 6
1．キャビン無し仕様…… 6
2．キャビン仕様…… 7
3．運転操作部…… 8
2．運転装置の取扱い…… 9
1．スイッチ・計器関係…… 9
2．ペダル・レバー関係……19
3．電装関係……28

運転のしかた……32
1．運転まえの点検……32
2．エンジンの始動と停止……34
1．エンジン始動のしかた……34
2．エンジン停止のしかた……35
3．走行・停車のしかた……36
1．走行のしかた……36
2．停車のしかた……38
4．自動車への積込み・積降ろし……39
1．自動車・アユミについて……40
2．コンバインの取扱い……40
5．ほ場への出入り……41
1．ほ場への出入りのしかた……41

作業のしかた……42
1．作業まえの準備……42
1．作物の条件について……42
2．ほ場の条件について……42
3．ほ場の準備……43
4．機械の準備……43
2．刈取り作業のしかた……48
1．刈取り操作の手順……48
2．作業速度の選びかた……50
3．刈取り手順……51
4．こく粒の排出操作方法……54
5．グレンタンク補助樋口の取扱い……58
6．リフトシャットの取扱い……59
7．夜間作業……59
8．エンジン自動停止の取扱い……60
9．手こぎ作業……61
10．エンジン停止スイッチの取扱い……62
11．刈取り作業終了後の取扱い……62
12．警報装置について……64
3．ワラ処理部の取扱い……65
1．カッタ作業……65
2．排ワラ作業……67
4．麦刈り作業時の調整のしかた……68
1．選別ダイヤルの調節……68
2．回転数のセット……68

自動装置について……69
1．こぎ深さ自動制御……69
1．運転装置……69
2．こぎ深さセンサの調整……70
3．こぎ深さ自動制御が使えない条件……70
2．方向自動制御［A，S仕様］……71
1．運転装置……71
2．作業のしかた……72
3．方向自動制御の使えない条件……73
3．刈高さ自動制御［A，S仕様］……73
1．運転装置……73
2．自動での作業のしかた……75
3．手動での作業のしかた……75
4．刈高さポジションコントロール……76
1．運転装置……76
2．ポジションコントロールでの作業のしかた…77
3．手動での作業のしかた……78

5．クイックアップデバイダ……79
1．運転装置……79
2．作動……79
6．水平自動制御（ジャストマチック）……80
1．運転装置……80
2．作業のしかた……80
7．選別自動制御……81
1．運転装置……81
8．排出オーガ自動制御……82
1．運転装置……82
9．強制かき込み……84
1．運転装置……84
2．作業のしかた……84
10．マイコン（マイクロコンピュータ）……85

キャビンについて［キャビン仕様］……86
1．各部の取扱い……86
1．ドア・ウインドウの開閉のしかた……86
2．スイッチ類の取扱い……87
3．クーラの取扱い……88
4．格納のしかた……90

手入れのしかた……91
1．定期点検整備……91
「定期点検整備表」……91
2．給油・注油・給水のしかた……95
「給油・注油・給水表」……95
1．燃料の補給……97
2．エンジンオイルの点検・交換……98
3．エンジンオイルフィルタの交換……100
4．ラジエータ冷却水の点検・交換……101
5．ミッションケースのオイル点検・交換 103
6．油圧作動油の点検・交換……104
7．油圧オイルフィルタの交換……106
8．ＨＳＴオイルフィルタエレメントの交換 106
9．脱こくギヤケース……107
10．こぎ胴ギヤケース……108
11．脱こくフィードチェンギヤケース……109
12．グレン入力ギヤケース……110
13．集中注油タンク……111
14．ウォッシャタンク［キャビン仕様］…… 111
15．給脂個所…… 112
16．集中注油装置の使いかた…… 113
17．各部の注油，給脂…… 114
3．各部の点検と掃除のしかた…… 115
1．ラジエータ吸気部の掃除…… 115
2．エアクリーナの掃除…… 116
3．燃料フィルタの水抜き・交換…… 117
4．燃料ポンプ内蔵フィルタの掃除･交換… 117
5．燃料のエア抜きのしかた…… 118
6．電気配線の点検と掃除…… 119
7．バッテリの点検と充電…… 119
8．グレンタンクの回動のしかた…… 122
9．こぎ胴部の開閉のしかた…… 124
10．脱こくファンケースの取外しかた…… 126
11．脱こく内部の掃除…… 128
12．揺動流板の掃除…… 133
13．グレンタンク部の掃除…… 140
14．カッタの開閉のしかた…… 142
4．各部の点検と部品交換のしかた…… 144
1．カッタ刃組品の取外しと分解…… 144
2．ホース類の点検と交換…… 155
3．ワラ切カマの手入れ…… 156
4．こぎ歯の点検と交換…… 158
5．各部の点検と調整のしかた…… 159
「レバー・ペダルの点検・調整」
1．マルチステアリングレバー…… 159
2．走行クラッチペダル・駐車ブレーキ… 160
3．刈取クラッチレバー･作業機クラッチレバー… 161
4．カッタ排ワラ切替レバー…… 162
5．リフトシャットレバー…… 163
「ベルトの点検・調整」
6．オルタネータベルト…… 164
7．エンジンファンベルト…… 165
8．走行ベルト…… 166
9．こぎ胴伝動ベルト…… 167
10．こぎ胴ベルト…… 167
11．脱こくフィードチェン駆動ベルト…… 168
12．１番ラセン駆動ベルト…… 169

13. カッタベルト…… 169
14. 選別ベルト…… 170
15. かき込みベルト …… 170
16. 排ワラ駆動ベルト…… 171
17. グレン入力ベルト…… 171
「チェンの点検・調整」
18. 引起こしチェン…… 172
19. 上部搬送チェン…… 172
20. 下部搬送チェン（右・左）…… 173
21. 下部搬送チェン（中）…… 174
22. 縦搬送チェン…… 174
23. 補助搬送チェン…… 174
24. 受継搬送チェン…… 175
25. 脱こくフィードチェン…… 175
26. 穂先排ワラチェン…… 176
27. 排ワラチェン…… 176
28. 拡散装置駆動チェン…… 177
「刈刃の手入れのしかた」
29. 刈刃…… 178
「クローラの点検・調整」
30. クローラ…… 179

長期格納のしかた ……180
1．機械の掃除と洗浄…… 180
2．錆止めと注油…… 180
3．エンジンの手入れ…… 180
4．点検・整備…… 180
5．格納…… 181
6．再使用にあたって…… 181

不調時の処置 ……182
1．エンジン部…… 182
2．走行・運転操作部…… 183
3．電気・自動制御部…… 186
4．刈取部…… 188
5．脱こく部…… 189
6．ワラ処理部…… 191
7．グレンタンク部…… 192
8．キャビン部［キャビン仕様］ …… 193

付　　表 ……194
1．主要諸元…… 194
2．電気配線図…… 195
3．ベルト一覧表…… 197
4．主な消耗部品…… 198
1．爪関係…… 198
2．刈刃・カマ関係…… 199
3．カッタ関係…… 200
4．ヒューズ…… 200
5．アタッチメント（別売り） …… 201
6．潤滑油について…… 202
1．エンジンオイル…… 202
2．油圧作動油…… 202
3．ギヤオイル…… 202
4．三菱農機(純正油)マルチオイル …… 203
7．コンバイン関連商品…… 204
8．用語解説…… 205

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1．安全作業のしかた……（安-1）

⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）

⚠安全作業のポイント……（安-2）

⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）

⚠点検・整備及び掃除をする時は……（安-5）

⚠エンジンを始動する時は……（安-9）

⚠路上走行をする時は……（安-10）

⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……（安-12）

⚠ほ場で作業をする時は……（安-13）

⚠１日の作業が終わったら……（安-16）

⚠長期格納する時は……（安-17）

2．表示ラベルについて……（安-18）
（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）

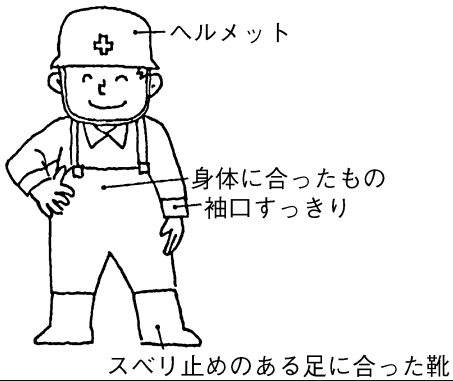
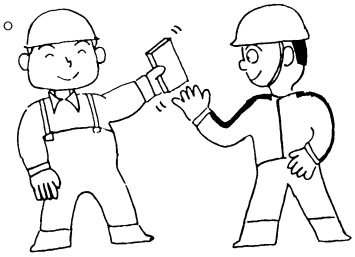
安全作業のために

1．安全作業のしかた

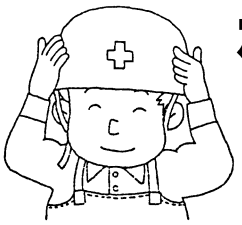
・安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し安全作業に努めてください。

・なお，この項の安全作業の説明は**コンバイン全般**についてのものです。これ以外にも本文の中で同様に説明していますので，よく読んで必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。 ●酒気をおびた人 ●妊娠している人 ●16才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ◆運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。	誤操作したりして思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。  	このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり，足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。 	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠ 安全作業のポイント

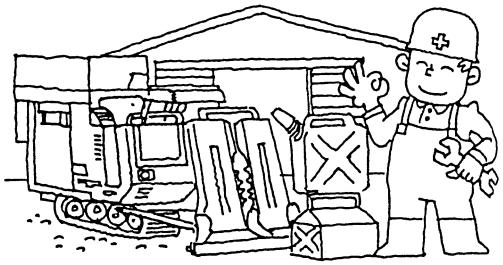


- 取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転をする

始業・点検

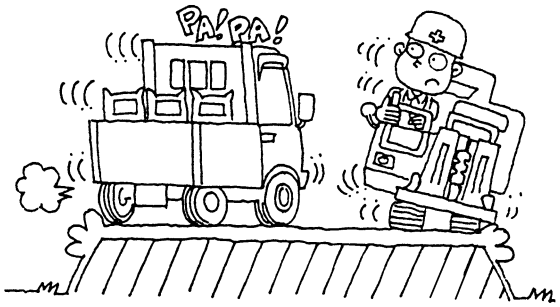
準備点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
- 機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替える
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する
- バッテリコードや電気配線，燃料ホースを点検する
- 集中注油作業時は，運転者以外の人を機械に近づけない
- 給油，冷却水の点検はエンジンが冷えているときに行う
- 燃料補給時はエンジンを停止し，火気を近づけない
- 方向指示器などの保安部品の作動を確認する
- 刈取部を上げて掃除や点検をするときは油圧を固定して刈取部の下に固定脚を置く
- 機械は改造しない



エンジン始動

- 始動前にすべてのカバーを取付ける
- 駐車ブレーキをかけ，各操作レバーを《N》（中立）または《切》にする
- 屋内で始動するときは窓や戸を開けて換気をする
- 機械の周囲から人を遠ざける
- エンジンの始動はシートに座って行う（乗用型）歩行型は正しい姿勢で行う
- 始動のときは周囲の人に「合図」をする



走行・運転

- 刈取部先端部にバンパを取付ける
- ナローガイド，排出オーガを収納する
- 機械に子供等，人や物をのせない
- 走行する前にグレンタンク内のこく粒をすべて排出する
- 発進時は周囲をたしかめる
- 走行時の旋回は低速で行う
- 後進時は後方を確認する
- 急発進，急ブレーキ，急旋回はしない
- わき見運転や手放し運転をしない
- 作業機クラッチ，刈取クラッチを《切》にする
- 運転中は子供等，人を機械に近づけない

道路（公道）走行

- ナンバープレートの交付を受ける
- 運転免許証を携帯し，交通法規を守る
- 取扱説明書で指定された作業機以外は取外す
- 前後左右を確認し，低速車線を走る
- 夜間走行は前照灯をつける（作業灯は消す）
- 走行中に飛び乗り，飛び降りはしない

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

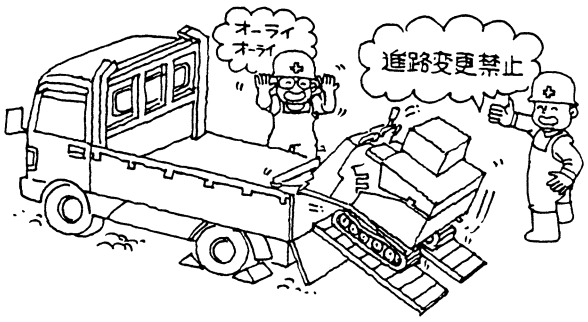
- 速度を落として走行する
- 対向車を避けるとき，端に寄りすぎない
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない
- 急な坂道でのギヤ変速操作はしない
- 下り坂では速度を下げて走行する
- 急傾斜地は走行しない
- 坂道での旋回は低速で行う

停車・駐車

- 平坦な場所で刈取部を下げて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
- 副変速は「低速」に入れておく
- 傾斜地では駐車しない
  （やむを得ず駐車するときは歯止めをする）
- 機械を離れるときは始動キーを抜取る

自動車への積込み・積降ろし

- アユミは，じゅうぶんな強度，長さ，幅のある基準に合ったすべり止め，フック付きを使用する
- アユミは自動車の荷台に平行にかけ，フックが外れないことを確認する
- 周囲を確認し機械の周囲には人を近づけない
- 作業機，刈取クラッチは《切》にする
- 積込みは前進，積降ろしは後進で低速で行う
- アユミの上では進路変更や変速操作をしない
- キャビン仕様機以外は機械から降りて行う



ほ場作業　ほ場の出入り

- グレンタンク内のこく粒を排出して行う
- 変速は低速であぜに対して直角に行う
- あぜ，溝，急傾斜を越すときはアユミを使用する
- あぜがくずれないことを確認しゆっくり行う

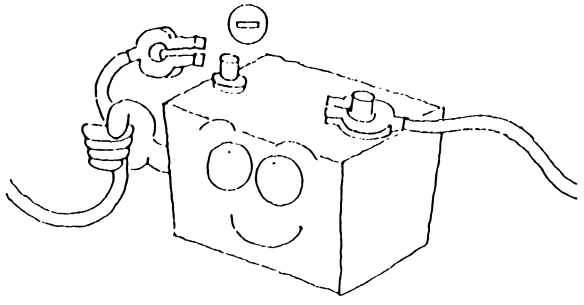


ほ場での作業

- エンジン始動，クラッチ《入》の前には周囲を確認する
- 刈取り作業は機械の周囲に子供等，人を近づけない
- 旋回時は周囲の状況を確認し，低速で行う
- 排出オーガの排出口に手を入れない
- 運転走行中の乗り降りはしない
- 過労にならぬようゆとりをもって，作業の間に休憩を入れる
- あぜぎわでの旋回時は周囲を確認する
- ノッタの結束ひもを交換するときはエンジンを停止する（ノッタ仕様）
- ノッタのそばに手や身体を近づけない

手こぎ作業

- 刈取クラッチを《切》にして，走行を停止して行う
- 手袋は使用しない
- 手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れない
- カッタの切ワラがたまったら，手こぎを中断して移動する
- ワラクズの近くに機械を停止しない



作業中途の点検

- 平坦な場所で刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する
- 詰まり等の異常時にはエンジンを停止して行う
- 脱こくこぎ室カバーまたはこぎ胴部を開いたらストッパをかける
- カッタやグレンタンクをオープンしたときはストッパをかける
- 取外したカバー類はすべて取付けてから作業を始める

終業・格納　１日の作業が終わったら

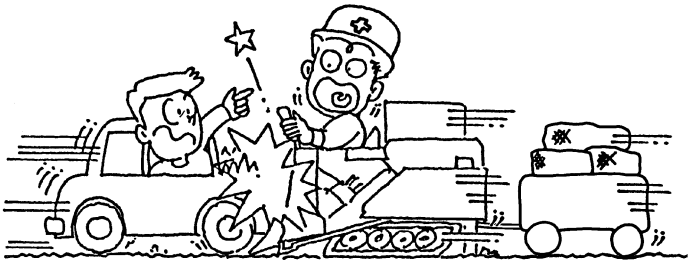
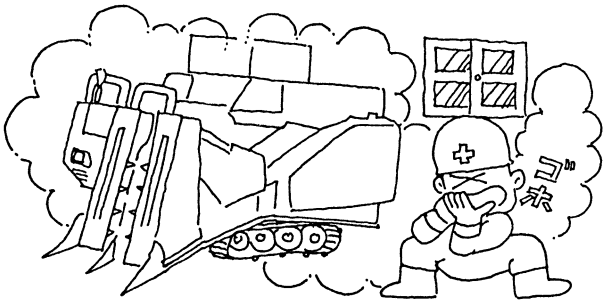
- 平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけて歯止めをする
- 始動キーを抜取っておく
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する
- マフラやラジエータ等は冷えるまで直接触れない
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける

長期格納

- １シーズンごとに定期点検をする
- 燃料コックを閉じる
- バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外す
- 平坦な場所で刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて，クローラに歯止めをする

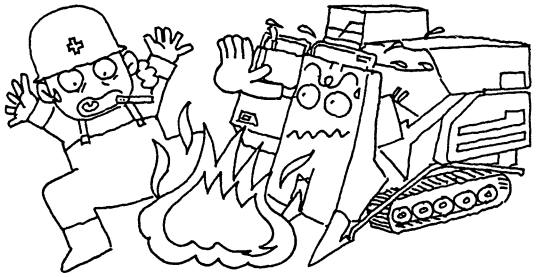
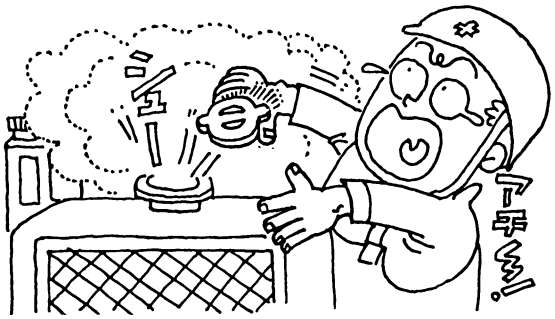
⚠作業前の一般的な注意事項

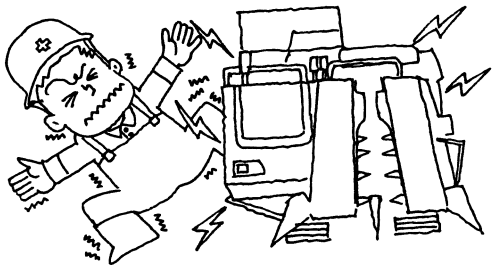
必 ず 守 っ て く だ さ い → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆機械を稲や麦の収穫作業以外には使用しないでください。	思わぬ傷害事故を引起こす原因になります。 
⚠警告 ◆機械は改造しないでください。	機械の機能に悪影響を与えるだけでなく，人身事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆毎日の運転まえには,「運転まえの点検表」の項目を点検し，異常があれば整備してから運転してください。 ◆１年ごとに定期点検整備を行い，各部の保守を行なってください。	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気してください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。 

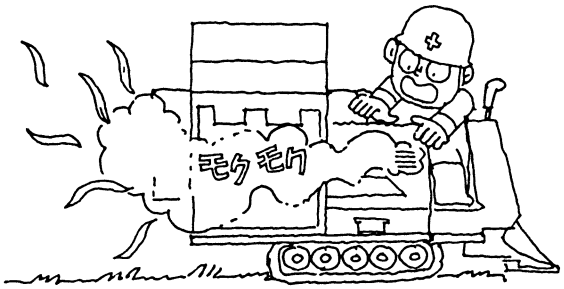
⚠点検・整備及び掃除をする時は……

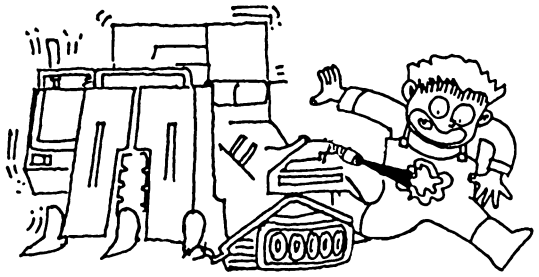
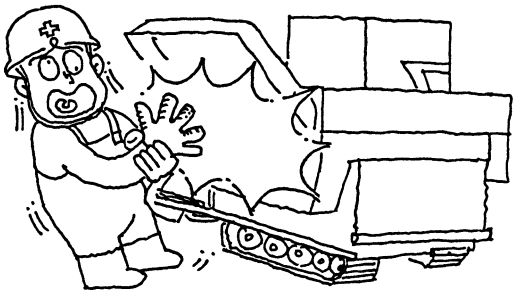
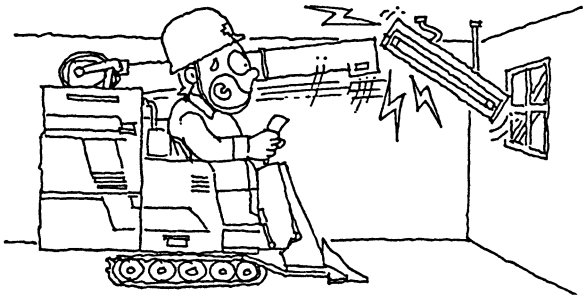
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し各部の回転が止まってから行なってください。	機械が動き出し，思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠危険 ◆燃料補給時は，くわえタバコなど火気を近づけないでください。 ●燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいにふきとる。 ●エンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしない。 ◆燃料ホースの破損や燃料もれがないか，点検してください。 ●燃料ホースは 2 年ごとに交換する。	燃料などに引火し，ヤケドや火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱い時は，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止しエンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検は，補助タンクで行う。	熱湯が吹きだし，ヤケドすることがあります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（タバコ・ライターなど）を近づけないでください。	バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して傷害事故を引起こすことがあります。
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆バッテリ液が，目，皮ふ，衣服，物についた時は，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだ時はすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入った時や飲み込んだ時は医師の診断を受けてください。	バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，失明やヤケドをすることがあります。
⚠警告 ◆バッテリ端子からコードを取外す時は，㊀側を先に取外してください。取付けは㊉側を先に取付けてください。 ●バッテリは指定されたバッテリを使用する。 ●㊉，㊀を逆に接続しない。	ショートして，ヤケドや火災の原因となります。

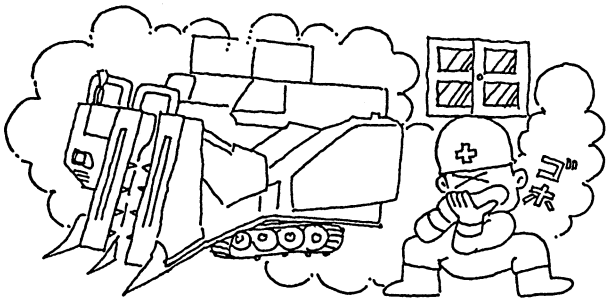
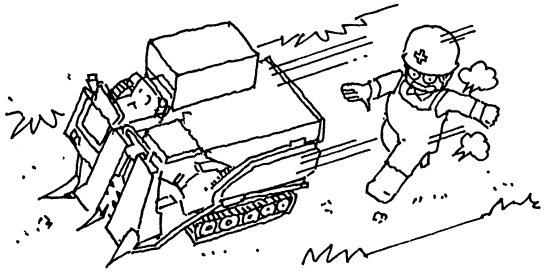
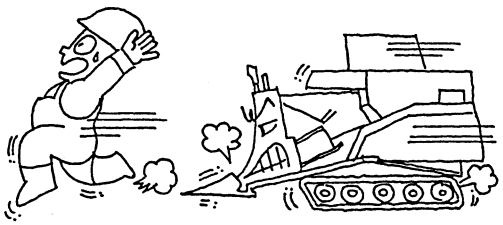
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆電気配線が他の部品に接触していないか，はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ● クランプや固定金具のゆるみがないか点検する。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲にワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して付着していれば取除いてください。 ● ベルトカバー内のワラクズを取除く。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆方向指示器などの保安部品の作動確認は機械を動かす前に行なってください。	交通事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆マルチステアリングレバー（サイドクラッチレバー）のきき具合や，片ぎきなどがないか点検調整してください。	正常な走行ができず事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，油圧リフト部をもっとも下げた状態にして残圧を抜いてから作業をしてください。 ◆もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。		圧力がかかって噴出した油は皮ふに浸透し傷害の原因になります。 油が皮ふに浸透した場合，取除かないと壊疽（えそ）になるおそれがあります。 
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，すべて取付けてください。		機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。 
⚠注意 ◆グレンタンク仕様の排出オーガの作動確認は周囲にゆとりのある広い場所で行なってください。 ●屋外では電線等に引っ掛けない。		屋内などの狭い場所で旋回すると，排出オーガの先端で電灯などを引っ掛けて損害事故を起こすことがあります。 

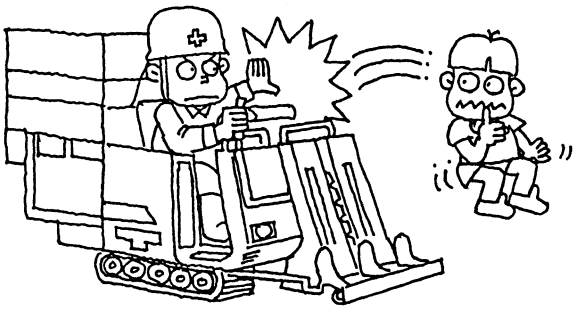
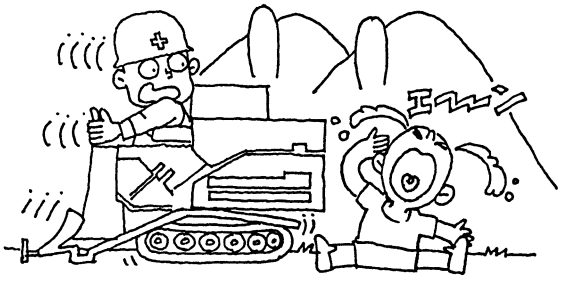
⚠エンジンを始動する時は……

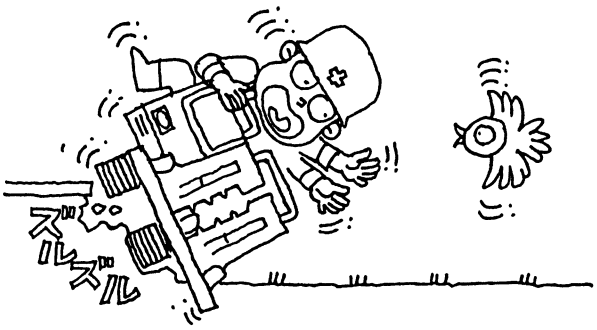
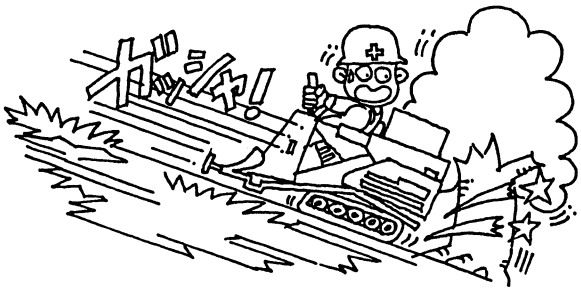
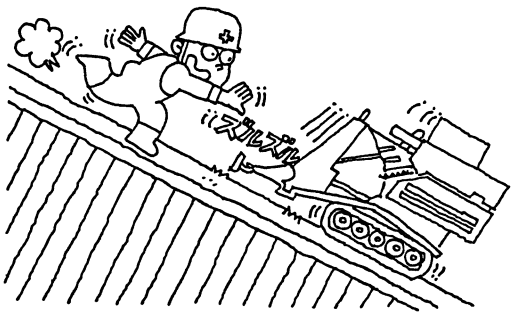
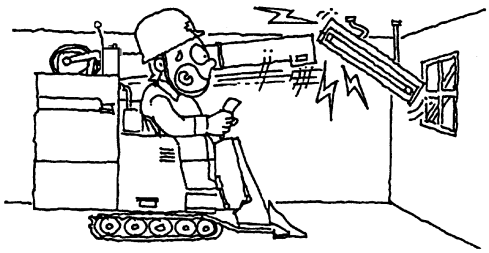
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気してください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。 
⚠警告 ◆駐車ブレーキをかけてください。 ◆変速を《N》（中立）にしてください。 ◆作業機クラッチ・刈取クラッチを《切》にしてください。 ◆取外したカバーなどはすべて取付けてください。 ●変速レバーが《N》（中立）になっているか手で動かして確認する。 ●周囲を確認し，合図してから始動する。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆始動は運転席のシートに座って行なってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆暖機運転は，駐車ブレーキをかけ，主変速，副変速を《N》（中立），作業機クラッチ・刈取クラッチを《切》にして行なってください。	急に発進したりして思わぬ事故の原因となります。 

⚠路上走行をする時は……

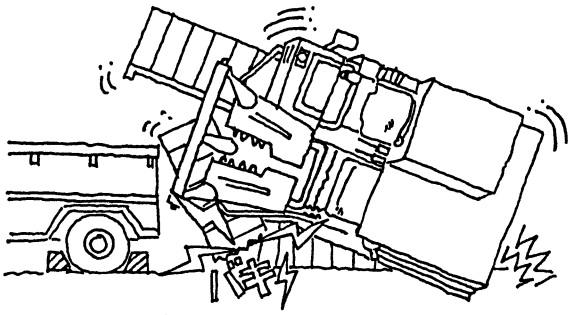
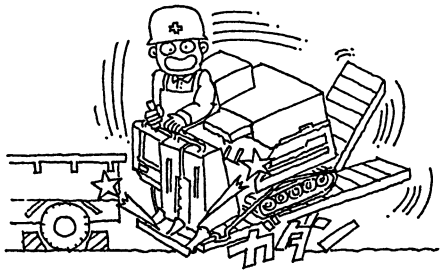
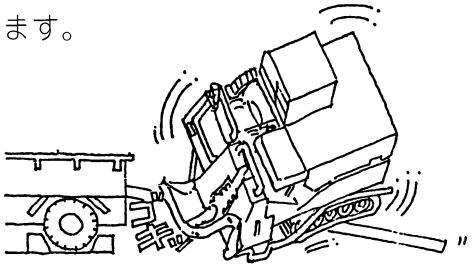
必 ず 守 っ て く だ さ い → 守らないとこんな事故が！

⚠注意 ◆路上走行するときは刈取部の先に指定されたバンパを取付けてください。 ◆取扱説明書で指定された作業機以外は取外してください。 ◆刈取部先端（50cm程度）を上げて走行します。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆走行時はサイドステップ，ナローガイド，排出オーガを収納し，人や物をのせないでください。 ◆グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。 ●子供等，人や物を機械にのせない。 ●荷物は別の自動車（運搬車）などで運ぶ。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆路上走行時は交通法規を守り，ヘルメットを着用してください。 ●夜間の走行は前照灯をつける。作業灯は消す。	思わぬ傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆発進するときは，機械の周囲から人を遠ざけて，低速で発進してください。 ◆作業機・刈取クラッチが《切》になっていることを確認してください。 ●急発進，急ブレーキ，急旋回しない。 ●前後，左右の確認をし，わき見運転はしない。	傷害事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないようにしてください。 ●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。 ●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。 ●雨天，雨あがりのときは，低速で慎重に走行する。 ●凸凹道路，下り坂は速度を落とし，慎重に走行する。	路肩がくずれ，横転事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道の途中で走行クラッチを切ったり変速レバーを操作しないでください。 ●坂の手前でいったん停止して，変速を低速に入れ変えてから，登り降りする。 ●坂道での旋回は低速で行う。 ●急傾斜地を走行しない。	エンジンブレーキがきかず思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道では駐車しない。やむをえず坂道の途中で駐車するときは駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，木片などで歯止めをしてください。 ●刈取部は下げておく。 ●機械から離れるときは，始動キーを抜取る。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆業務用無線やアマチュア無線等の無線機器は機械の制御系に影響を与える可能性がありますので機械に設置しないでください。	思わぬ事故を引起こすことがあります。 

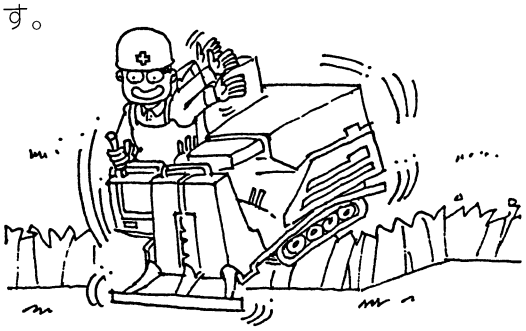
⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆自動車は積載重量を超えない車で荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。 ●自動車は駐車ブレーキをかけエンジンを停止し変速を１速か後進に入れ，タイヤに歯止めをする。 ◆アユミは，じゅうぶんな強度，長さ，幅のある基準に合ったすべり止め，フック付きを使用してください。 ●アユミの幅は，クローラ幅に合ったものを使う。	アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ，自動車の荷台に平行にまっすぐにかけてください。 ●荷台にアユミのフックをかけ，外れないことを確認する。	
⚠警告 ◆グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。 ◆積込みは前進，積降ろしは後進で変速は低速で行なってください。 ●補助者立合誘導のもとに行う。機械の周囲に子供等，人を近づけない。 ◆キャビン仕様機以外は機械から降りて行なってください。 ◆水平自動スイッチを「切」にして機体を一番下げた状態で行なってください。 ◆[方向自動仕様]は自動スイッチを「切」にして行なってください。	万一のときに逃げることができなくなり，傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆アユミの上では進路変更や変速操作をしないでください。 ●機械をアユミに対してまっすぐに止め，左右のクローラがアユミの中央にあることを確認し，途中で機械を止める必要がないようにする。	急旋回したり，急降下したりして転倒事故を起こすことがあります。 

⚠ほ場で作業をする時は……

必ず守ってください ⟶ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆10㎝以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のある**ほ場への出入り**はアユミを使ってください。 ●グレンタンク内のこく粒を排出して行う。 ●キャビン仕様機以外は，機械から降りて行う。 ●アユミ上では進路変更しない。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆**あぜ越え**は，変速を低速にしてあぜに直角に横切るようにしてください。 ●キャビン仕様機以外は，機械から降りて行う。 ●あぜがくずれないことを確認して行う。	転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆補助者との共同作業が多いので，作業前によく打合わせをしてください。 ●エンジン始動や発進するとき，作業機・刈取クラッチを入れるときはホーンで合図する。 ◆作業時の旋回は低速で行なってください。 ●旋回するときは周囲を確認し，低速で行う。 ●機械の周囲に人を近づけない。	傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆手こぎ作業のときは手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れないでください。 ●手袋は使用しない。 ●供給口が見えなくなるほど多量の作物を供給しない。 ●カッタ切ワラがたまったら，手こぎ作業を中断して移動する。 ●手こぎ作業は走行を停止して刈取クラッチを《切》にして行う。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こします。 

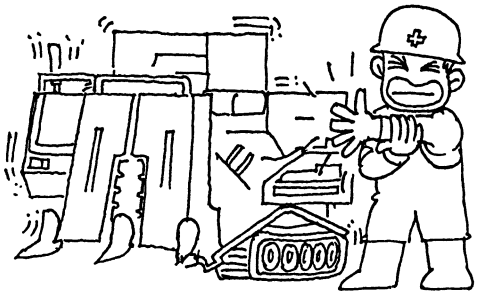
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆詰まり等の除去や，ノッタのひも交換（ノッタ仕様）をする時は，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

- 脱こく部やカッタの詰まり，チェンやベルトのワラの巻付き，垂れ穂などに気付いても，作動中は手を出さない。
- エンジンを停止して各部の動きが止まってから行う。
- 脱こくこぎ室カバーまたはこぎ胴部を開いたときはストッパをかける。

傷害事故を引起こすことがあります。



⚠警告

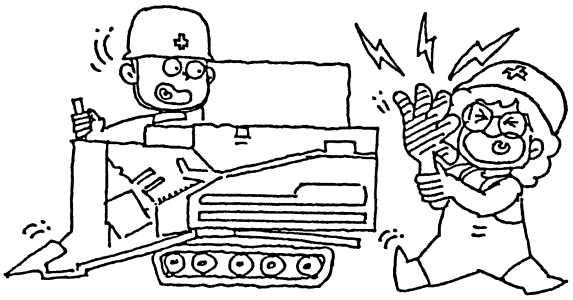
◆補助者は作業中はワラの巻付き，詰まりを取除かないでください。

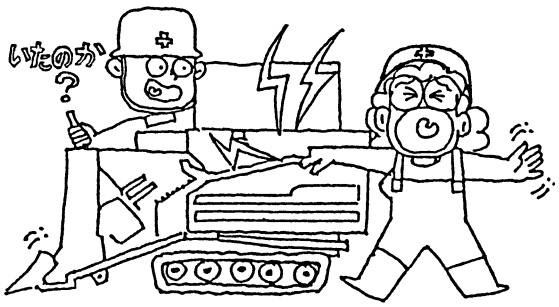
◆補助者は機械に近づく時運転者に合図をして，確認を取ってください。

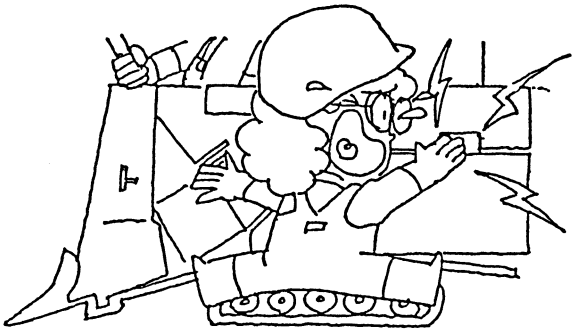
◆人が機械の近くにいないことを確認してからエンジン始動，作業機クラッチ操作をしてください。

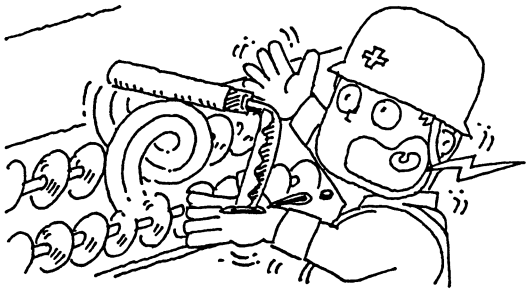
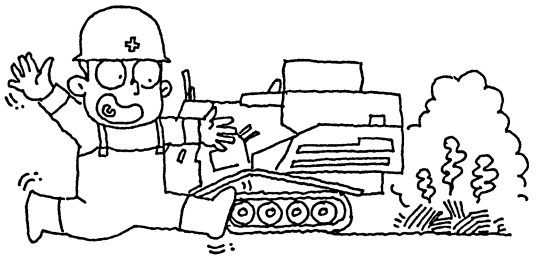
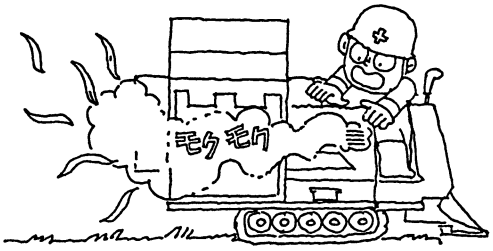
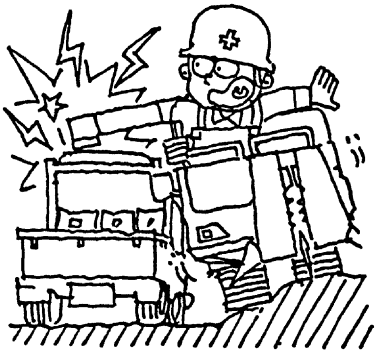
- カッタでの事故がいちばん多く発生していることを，作業者は認識しておく。
- エンジンが作動中は，カッタのそばに手・足・衣服を近づけない。
- 補助者に機械の機構，運転や操作のしかたをよく知らせておく。
- 作業中は機械に人を近づけない。
- 運転者は常に補助者の状態を確認しながら作業をする。
- 特に，カッタや搬送部・脱こく部・刈取部付近には作業中は近づかない。
- ワラなどの巻付き・詰まり等が発生しても，作動中は手を出さない。
- 運転者と補助者は常に「合図」し合いながら作業する。

傷害事故を引起こすことがあります。



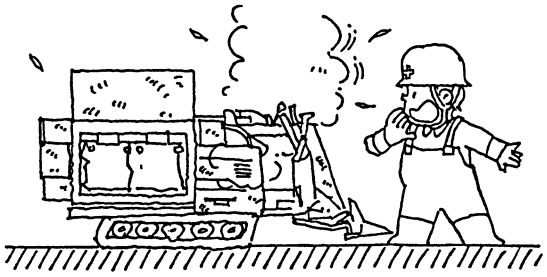
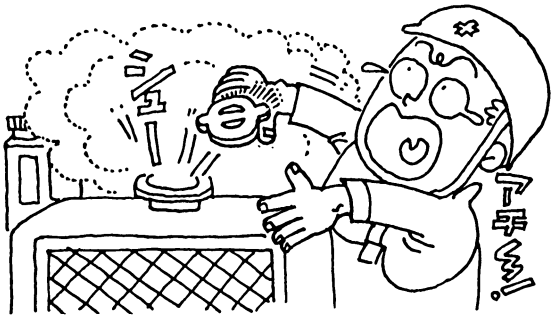
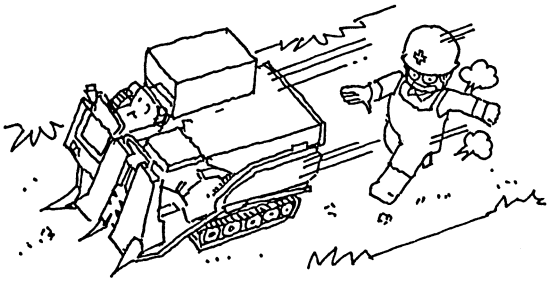
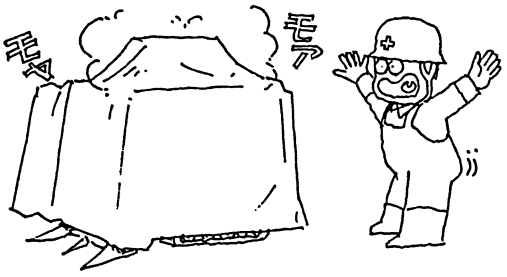




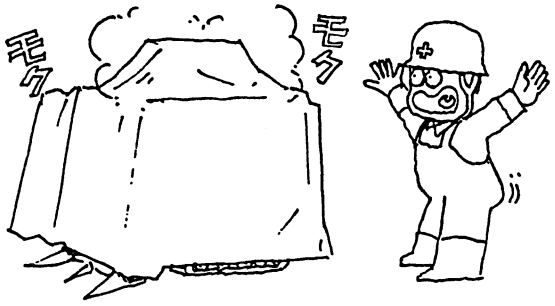
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業中にカマなどを使って脱こく部やカッタの掃除をしないでください。 ●カッタにワラが巻付いても，回転中は掃除をしない。カッタのカバーを開閉するときはエンジンを停止する。 ●カッタをオープンしたときはストッパをかける。	カマなどがはね飛ばされて，傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆ワラクズの近くには機械を止めないでください。 ●エンジン排気による火災を防ぐため，ワラのないところに止める。 ●手こぎ作業時，ワラの上に機械を止めて作業をしない。	マフラの排気で火災になることがあります。 
⚠警告 ◆エンジンやマフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲，ベルトカバーにワラクズがたまった場合はエンジンを停止して掃除をしてください。	火災の原因となることがあります。 
⚠注意 ◆排出オーガの排出口に手を入れないでください。 ●排出口のビニールが破損したら直ちに交換してください。 ◆排出オーガの操作は周囲を確認してから行なってください。 ◆移動の前に，排出オーガがオーガ受けに収納され，固定されているか確認する。	ラセンに巻込まれ，負傷することがあります。 排出オーガが周囲の人にあたり，負傷したりすることがあります。 

⚠1日の作業が終わったら……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して，機械が冷えてから点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●エンジン・マフラ・バッテリ・燃料タンクの周囲のワラクズを除去・掃除する。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱い時は，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止しエンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検は補助タンクで行う。	熱湯が吹きだし，ヤケドすることがあります。 
⚠警告 ◆保管は平坦な場所に置き，刈取部を下げて，駐車ブレーキをかけてください。 ●副変速レバーを「低速」に入れ，駐車ブレーキをかける。 ●始動キーを抜取っておく。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆エンジンが熱い時は，シートカバーをかけないでください。	火災の原因となることがあります。 

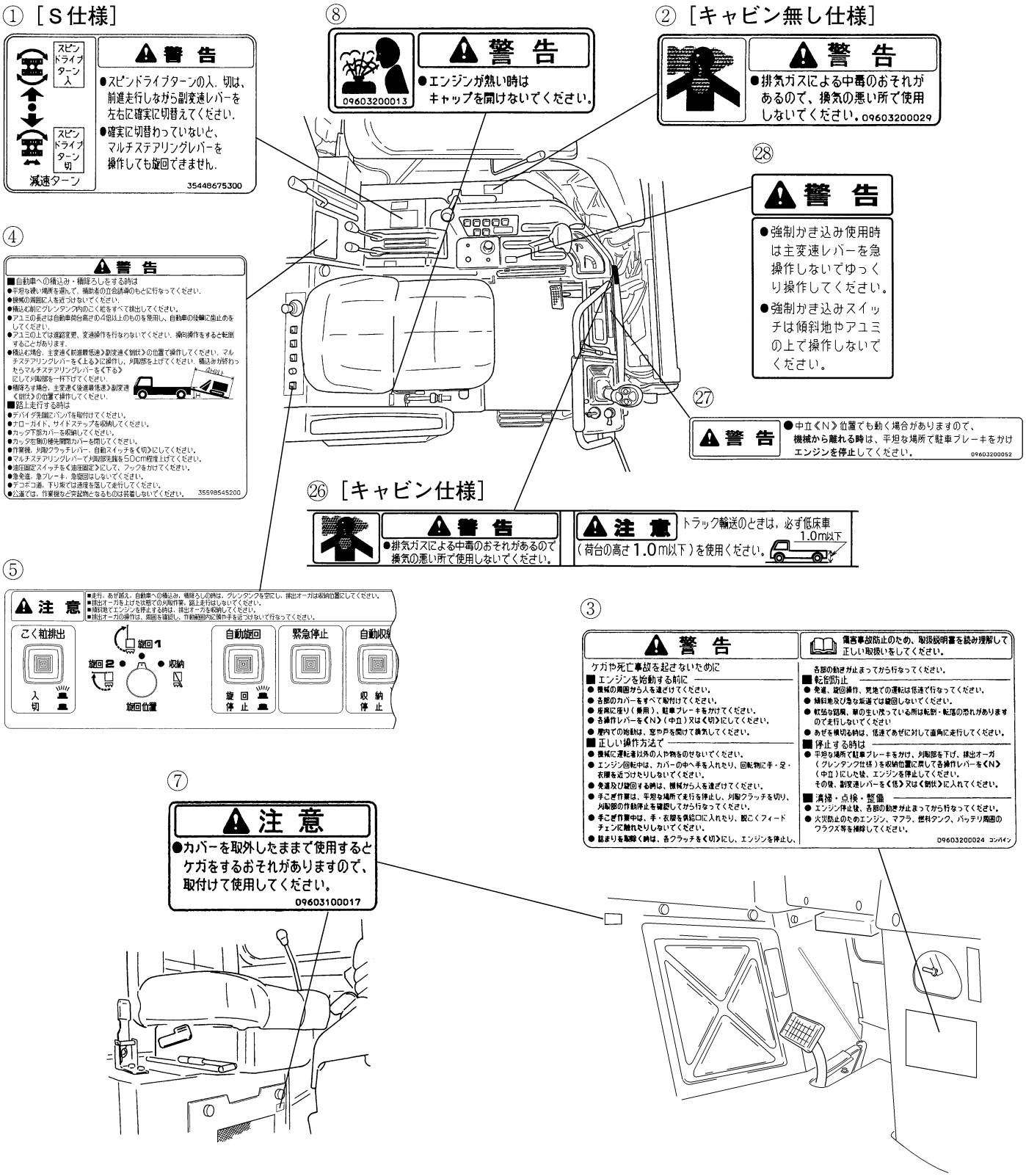
⚠長期格納する時は……

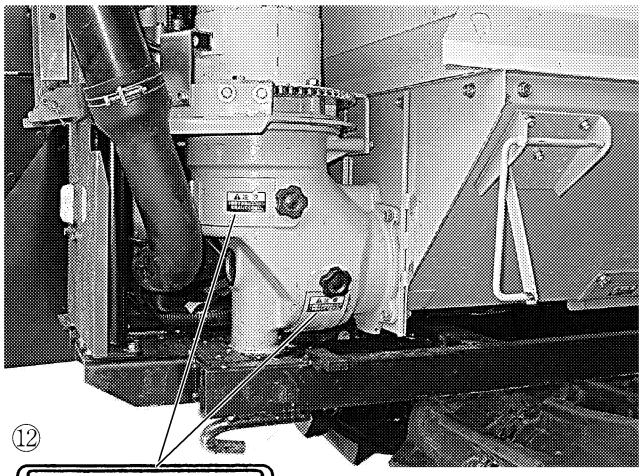
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外してください。 ● 1ケ月に1回程度補充電をする。 ◆燃料コックを閉じてください。	思わぬ火災事故を起こす場合があります。 
⚠警告 ◆平坦な場所に置き刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて歯止めをしてください。 ●副変速レバーを「低速」に入れ，クローラに歯止めをする。 ●始動キーを抜取っておく。	機械が動き出し，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。 ● 1年ごとに定期点検・整備を**「お買いあげ先」**で純正部品を使用して行なって，各部の保安を確保してください。 	整備不良のまま使用すると思わぬ事故を引起こす原因となります。

2．表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くやカバーに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを「**お買いあげ先**」に注文して購入し貼り替えてください。

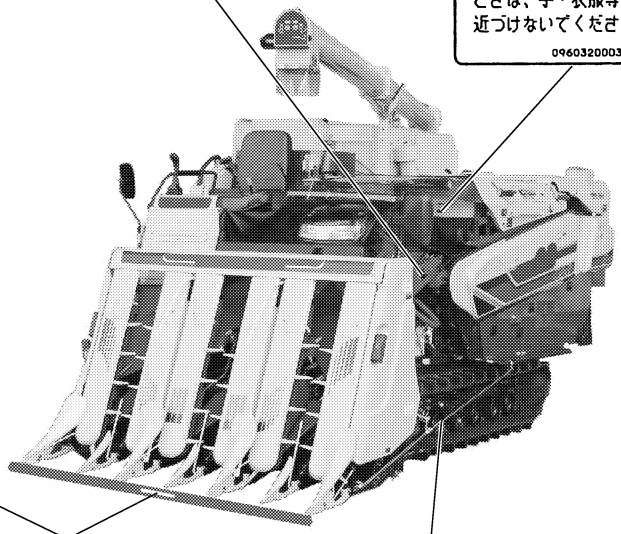




⑫
⚠注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
09603100015

⑯
⚠警 告
●こぎ胴が回転しているときは、手・衣服等を近づけないでください。
09603200034

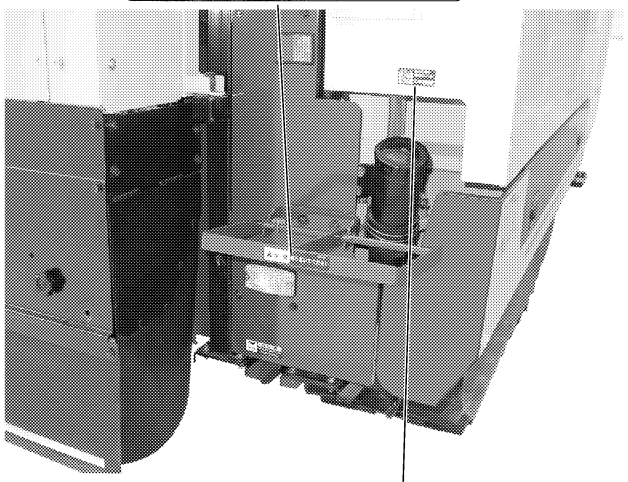
㉕
35598523500
⚠注 意 乗らないでください



㉓
⚠注 意 路上走行時は装着してください。
09603100023

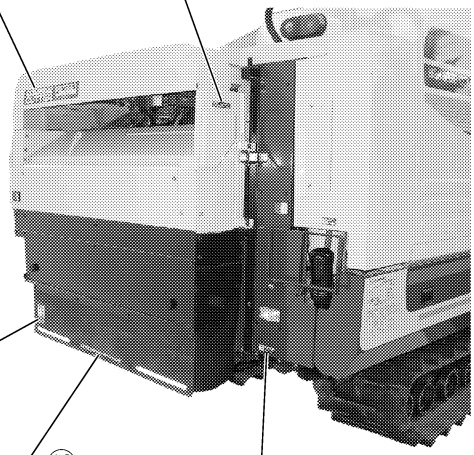
⑲
⚠注 意 路上走行時は収納してください。
09603100024

㉕
35598523500
⚠注 意 乗らないでください



㉔
INE
ER
⚠危 険
● カッター部点検の際は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
● 回転中は、カバーの中に手を入れないでください。
取扱のポイント カッターの刃は摩耗すると切れにくくなりますので、交換してください。
（刃の交換方法は、取扱説明書に明記されております。）

⑭
35448656000
⚠注 意 路上走行時およびカッター作業時は閉じてください。



⑥
⚠危 険 ■火気厳禁 ■給油時エンジン停止
軽 油
09603000015

⑬
⚠注 意
● 排じんファンやカッタにより飛散する排出物（作物屑や小石等の異物）でケガをするおそれがあります。
脱穀運転中は，排出物が飛散する付近に近づかないでください。
35328557000

⑩
09603100026
⚠注 意
●やけどをするのでマフラーにふれないでください。

⑮
⚠注 意 回転中は手や足をカバーの中へ入れないでください。
09603100020

⑰

危 険

● カッター部点検の際は，各クラッチを切り，エンジンを停止し，各部の作動が停止してから行なってください。
●回転中は，カバーの中に手を入れないでください。

35518658000

㉑

警 告

■手こぎ作業をする時は
● 走行を停止して，刈取クラッチを切り，作動が止まってから行なってください。
● 手，衣服を供給口に入れたり，フィードチェンに触れたりしないでください。

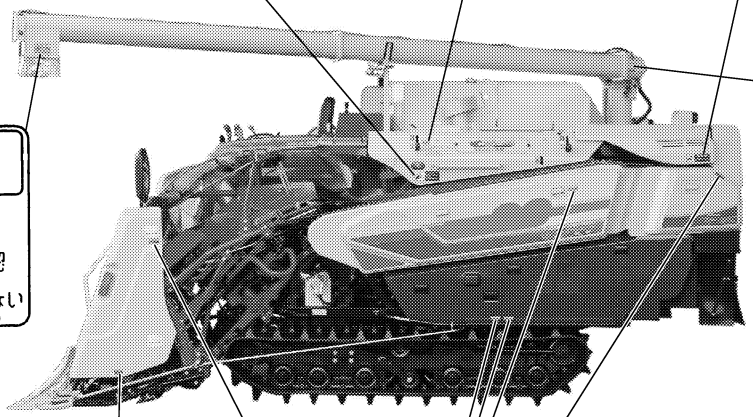
3551853310002

⑫

注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

09603100015



⑫

注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

09603100015

㉒

注 意

●排出オーガは手押し厳禁
●排出オーガの旋回は周囲を確認
●排出中は手を排出口に近づけない

35448538300

［左右各１ケ］

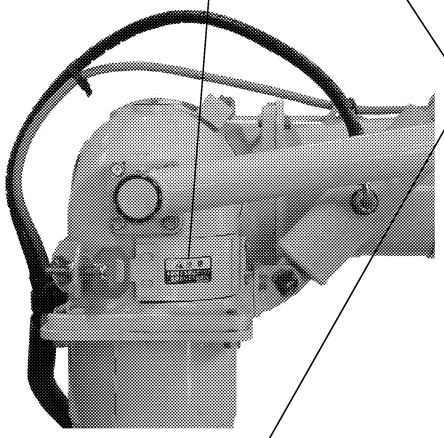
⑨

危 険

●刃部に手をかけないでください。
●着脱作業時は手袋をしてください。

09603000019

［左右各１ケ］



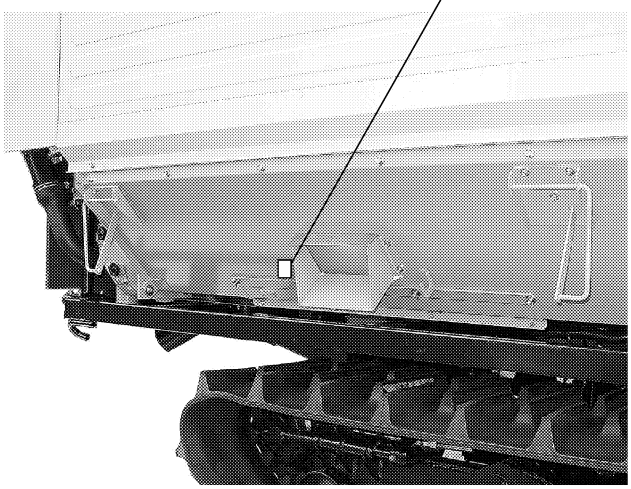
⑦

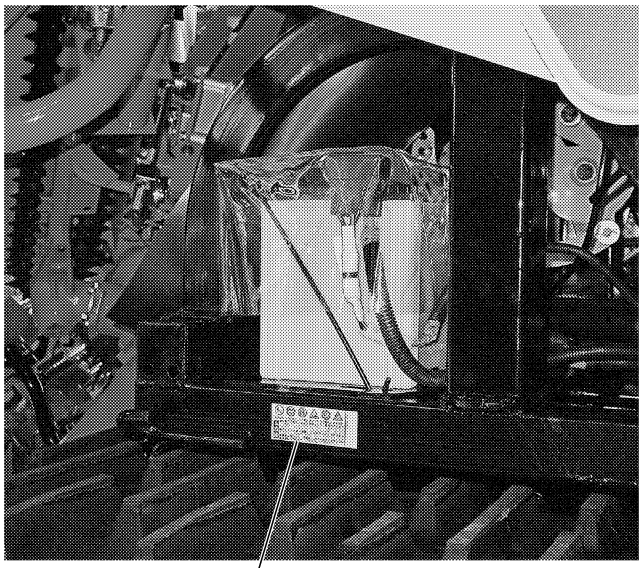
注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

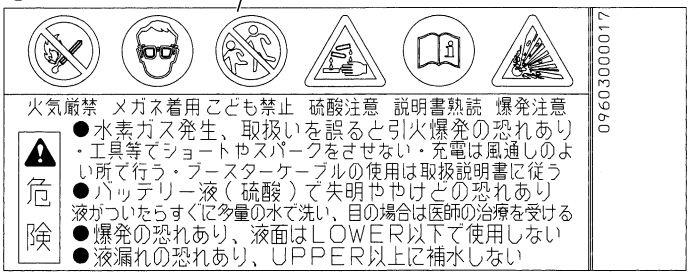
09603100017



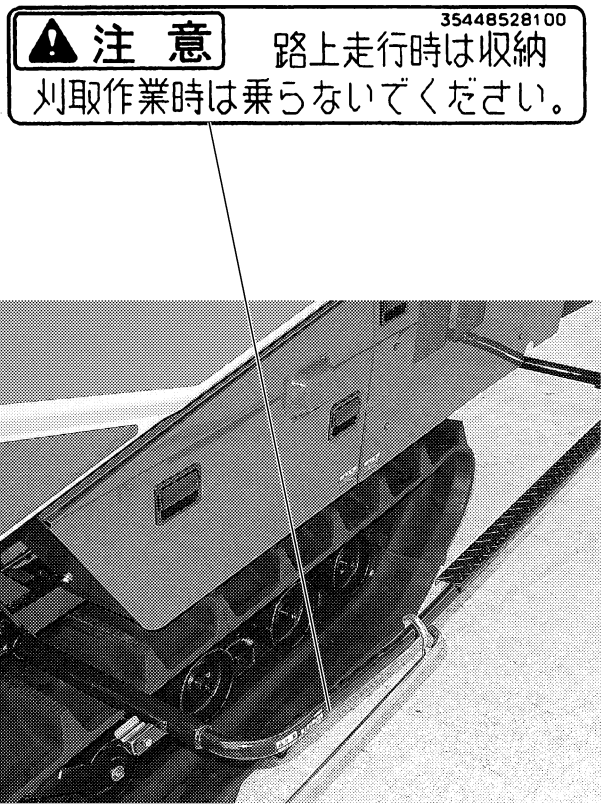


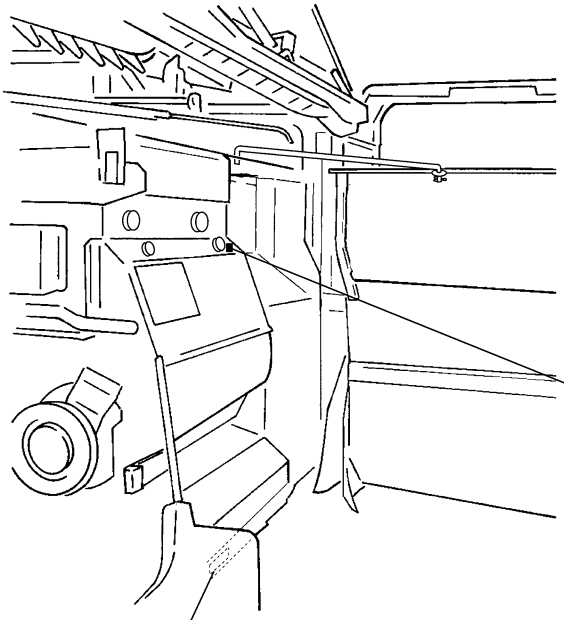


⑪

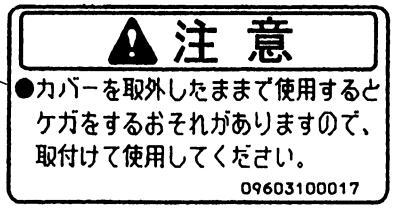


⑱

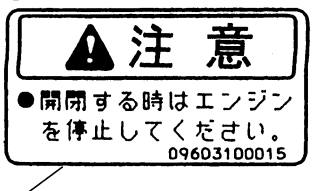




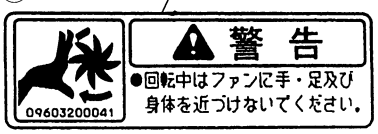
⑦

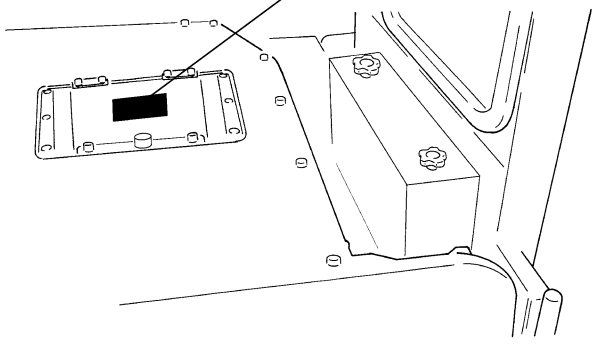


⑫

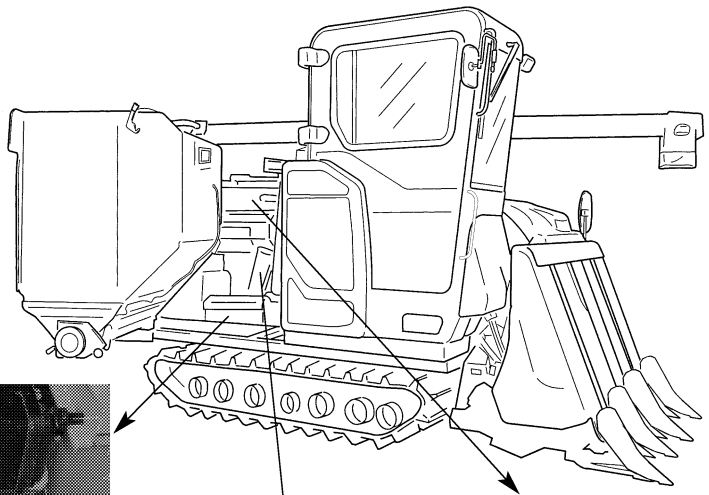


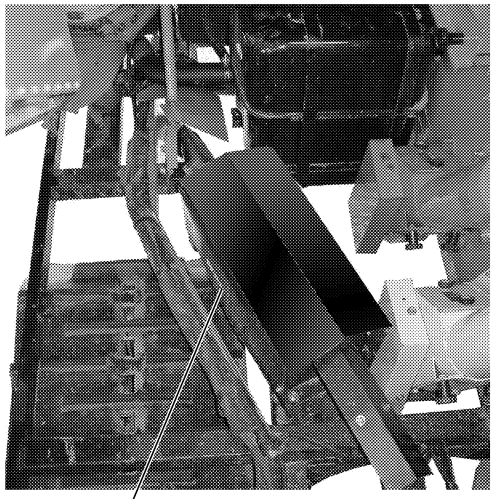
⑳

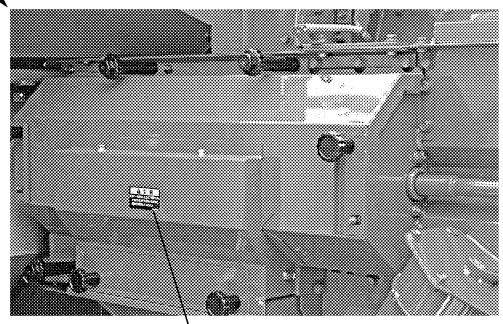




［グレンタンク上面］



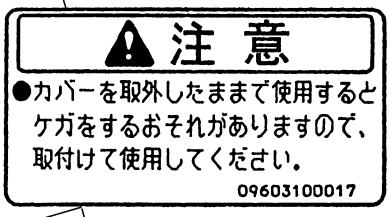


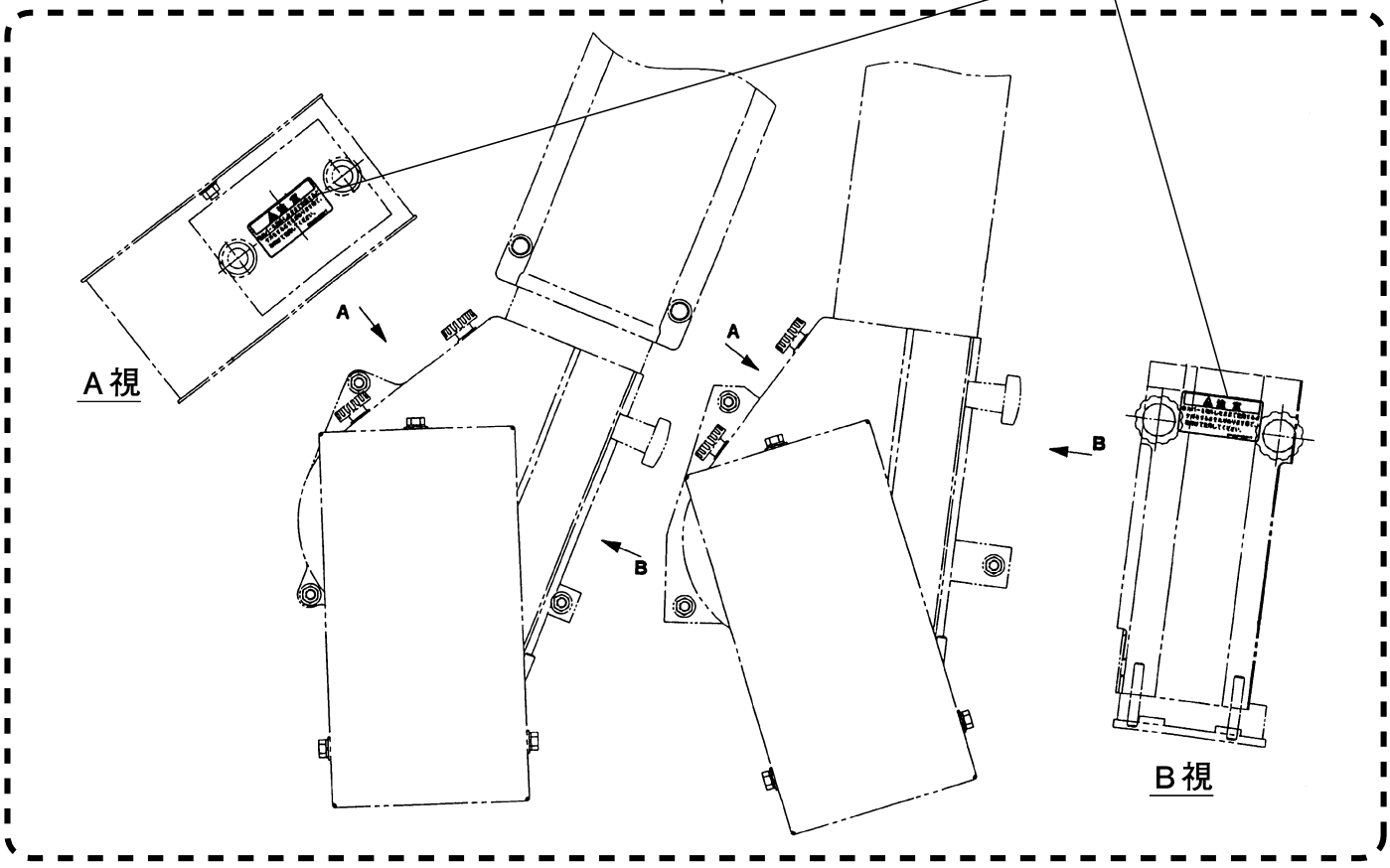


⑩


注 意
●やけどをするのでマフラーにふれないでください。
09603100026

⑦


注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017

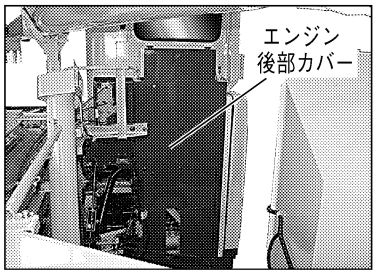

A
A
B
B
A視
B視

No.	部　品　名　称	部　品　番　号	備　　考
①	トリアツカイマーク	3544 8675 300	［S仕様］
②	ケイコクラベル・ハイキ	0960 3200 029	［キャビン無し仕様］
③	ケイコクラベル・コンバイン	0960 3200 024	
④	ケイコクラベル	3559 8545 200	
⑤	チュウイラベル	3559 8663 000	
⑥	キケンラベル・ケイユ	0960 3000 015	
⑦	チュウイラベル・カバー	0960 3100 017	
⑧	ケイコクラベル・ラジエータ	0960 3200 013	
⑨	キケンラベル・カリハ	0960 3000 019	
⑩	チュウイラベル・マフラ	0960 3100 026	
⑪	キケンラベル・バッテリ	0960 3000 017	
⑫	チュウイラベル・カイヘイ	0960 3100 015	
⑬	チュウイラベル・ハイジン	3532 8557 000	
⑭	チュウイマーク	3544 8656 000	
⑮	チュウイラベル・カッタカバー	0960 3100 020	
⑯	ケイコクラベル・コギドウ	0960 3200 034	
⑰	キケンラベル・カッタ	3551 8658 000	
⑱	チュウイマーク	3544 8528 100	
⑲	チュウイラベル・シュウノウ	0960 3100 024	
⑳	ケイコクラベル・ファン	0960 3200 041	
㉑	ラベル・チェン	3551 8533 100	
㉒	チュウイマーク	3544 8538 300	
㉓	チュウイマーク	0960 3100 023	
㉔	メイショウマーク	3551 8652 000	
㉕	チュウイラベル	3559 8523 500	
㉖	ケイコク・チュウイマーク	3559 3849 300	［キャビン仕様］
㉗	ケイコクマーク	0960 3200 052	
㉘	トリアツカイマーク	3590 8582 000	

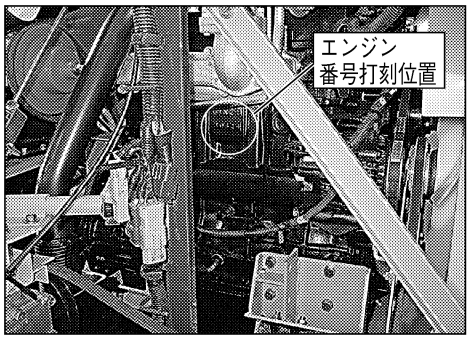
ご使用まえに

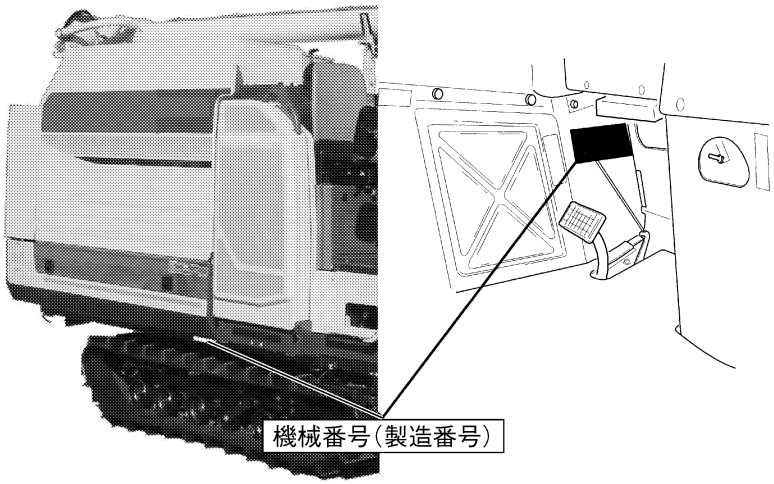
1．保証とサービスについて

・この機械には保証書が添付されていますので，ご使用まえによくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。



・エンジン後部カバーを外します。





・補修用部品の供給年限について

・この製品（機械）の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後 9 年といたします。
ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

・機械の使用目的について

・機械は**稲・麦の収穫作業**に使用してください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。

⚠警告
◆機械を使用目的以外の作業に使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。
◆使用目的以外の作業や改造すると本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

2．仕様（装備）について

・主な仕様（装備）は次のようになっています。
仕様の異なる型式の場合は都度［○○**仕様**］表示で型式を示し追加説明していますので，お買いあげの機械の型式をお確かめのうえ，お間違えのないようにお読みください。

・お買いあげの機械の型式と主な仕様の違いを次の表でお確かめください。

名称	型式名	仕様（装備）／区分	エンジンS4S—DT	クローラ				HST×副変速3段	マルチステアリング	緊急エンジン停止	集中注油	防じんカバー	可動転輪	可変シート高さ	負荷モニタ	モミ充填モニタ	増速ツインこぎ胴	コンポアップ	ツインハーモニ	引起し3段変速	強制かき込み	オーガコントロール	ジャストディレクタ	自動化機構							4モードターン	エンジン自動停止	グレンタンク 1950L	モミ満杯予告シグナル	カッタ		高耐久カッタ刃	自動スライドノッタ	キャビン（ラジカセ付）	大型特殊装備
				ハイラグ 500mm	ハイラグ 550mm	皿型 550mm	皿型 600mm																	方向自動	刈高さ自動	こぎ深さ自動	選別自動	オーガ自動旋回・収納	リフトシャットシステム	水平自動	クイックアップデバイダ					マルチカッタ60／180mm	マルチカッタ40／160mm				
三菱VR90	三菱VR85	M	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○			○
		MB	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○			○
		AM	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○			○
		AMB	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○			○
		AMN	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○		○
		SM	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
		SMB	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
		SMN	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
		CAM	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○		○	○
		CAMB	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○		○	○
		SCM	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○
		SCMB	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○
		SCMN	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		YM	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○				○
		YMB	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○			○
		YAM	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
		YAMB	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
		YAMN	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
		SYM	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
		SYMB	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
		SYMN	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
		CYAM	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○
		CYAMB	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○
		CYAMN	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		SCYM	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○
		SCYMB	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○
		SCYMN	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		UAM	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
		WM	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
		WAM	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
		WAMB	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
		SUM	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
		SWMB	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
		CWAM	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○
		CWAMB	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○
		CUAM	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○

・型式記号の説明

A＝オーガコントロール，ジャストディレクタ，方向自動，刈高さ自動

M＝マルチカッタ（切断長　60㎜／180㎜）

MB＝スーパーマルチカッタ（切断長　40㎜／160㎜）

N＝スライドノッタ

S＝4モードターン，オーガコントロール，ジャストディレクタ，方向自動，刈高さ自動

C＝キャビン

Y＝ハイラグクローラ・550㎜幅（湿田仕様）

U＝皿型クローラ・550㎜幅（湿田仕様）

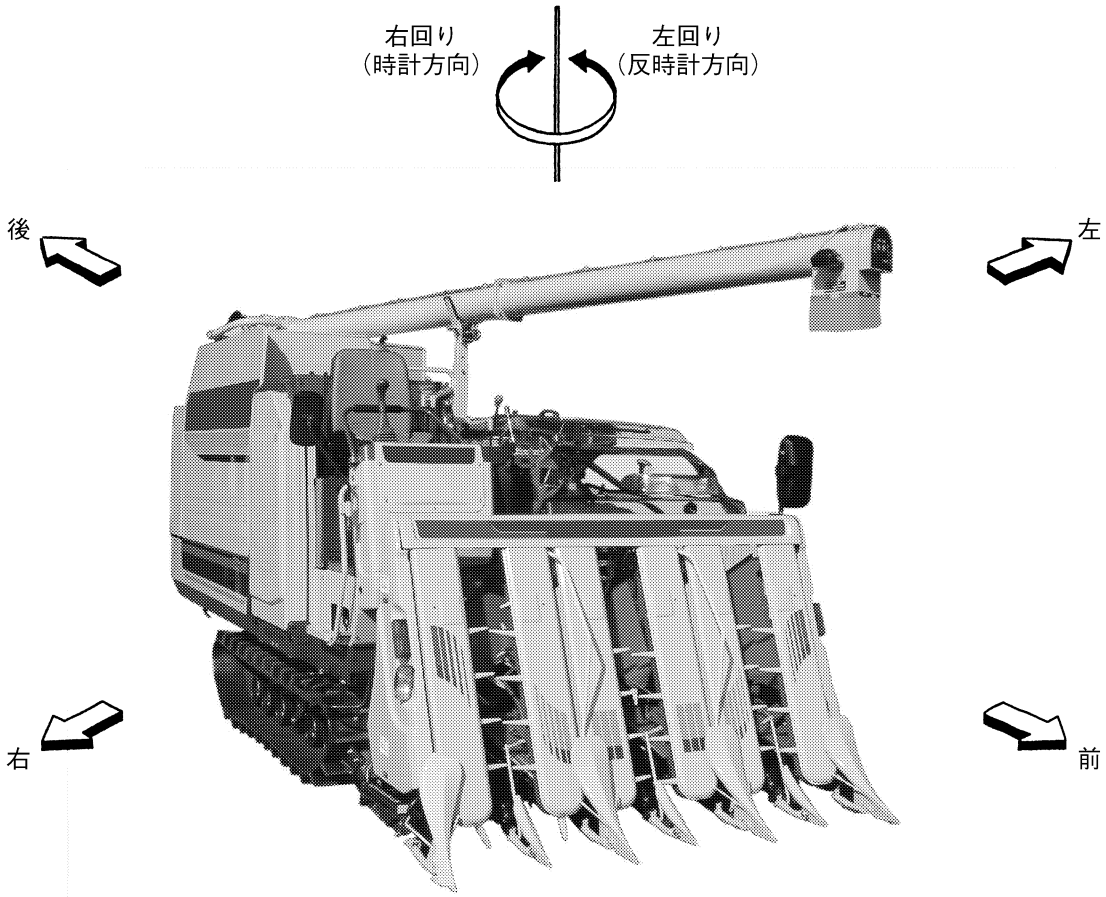
W＝皿型クローラ・600㎜幅（湿田仕様）

取扱いのポイント

● これらの機械は工場から出荷のときは「稲作業セット」に調整してあります。
麦作業のときは，「取扱説明書」の68ページ「麦刈り作業のしかた」の項を参考に調整してご使用ください。

3．用語について

(1)　この取扱説明書に使用している「**前後・左右・右回り・左回り**」などの用語は図示のとおりです。



(2)　**マークの説明**

この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

・危険 警告 注意 ……安全上重要な事項を３段階に分けて説明していますので必ず読んでください。

・取扱いのポイント ……機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと故障の原因になることがあります。

4．小型特殊自動車について

このコンバインは，「**小型特殊自動車**」に該当し，道路運送車両法に適合していますので公道走行ができます。

1．小型特殊自動車の届出

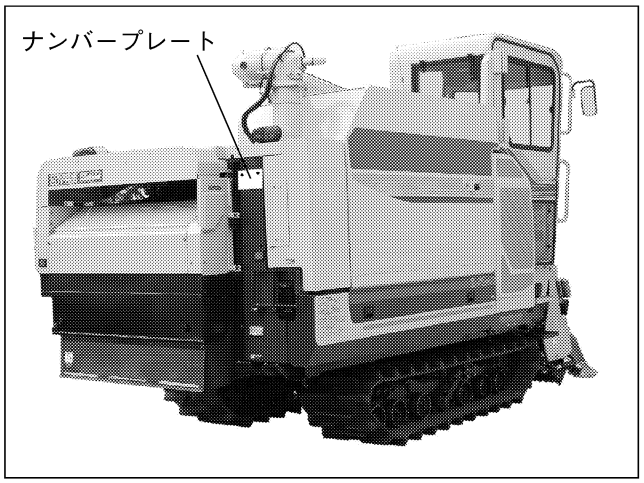
❶　小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車を購入された方，または所有者となられた方は，市（町・村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは「**市（町・村）役所**」または「**お買いあげ先**」に相談してください。

小型特殊自動車の取得証明書または売渡・販売証明書等（「**お買いあげ先**」で準備します）をそえて市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けます。

ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。



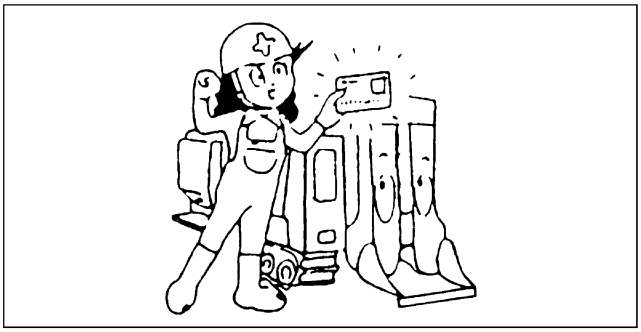
2．公道走行するためには

❶　運転免許

小型特殊自動車であっても，次の基準を越える自動車は，「**大型特殊自動車**」の運転免許が必要です。

車体の大きさ	全　長	4.70m
	全　幅	1.70m
	全　高	2.00m
最　高　速　度		15km／時
原動機の総排気量		1.500 L｛1,500cc｝

このコンバインは上記の基準を越えますので，公道を走行するときは，「**大型特殊自動車**」の運転免許が必要です。運転免許証を所持してください。



❷　指定の作業機（カッタ）以外の作業機を取付けた状態では，公道走行はできません。

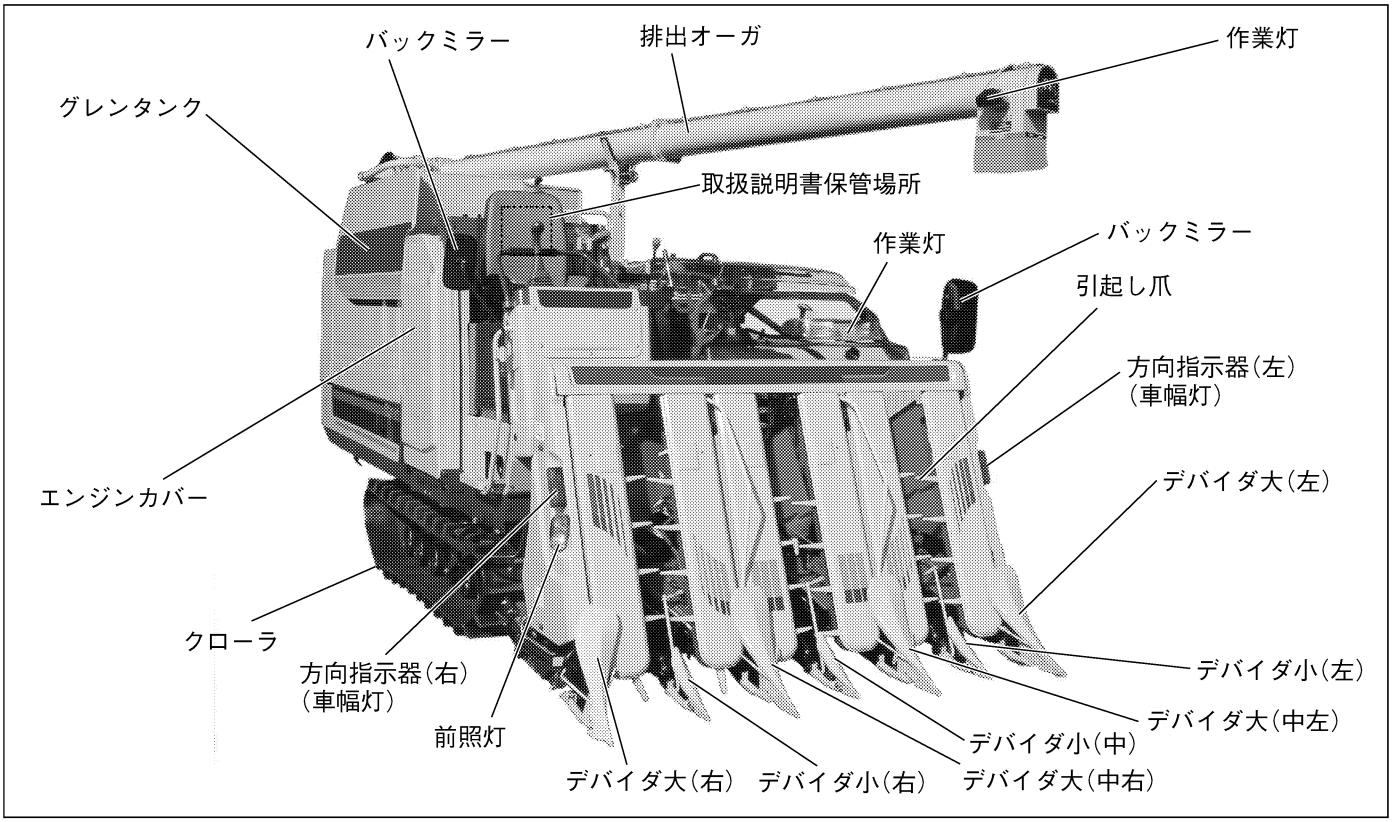
❸　任意保険のお勧め

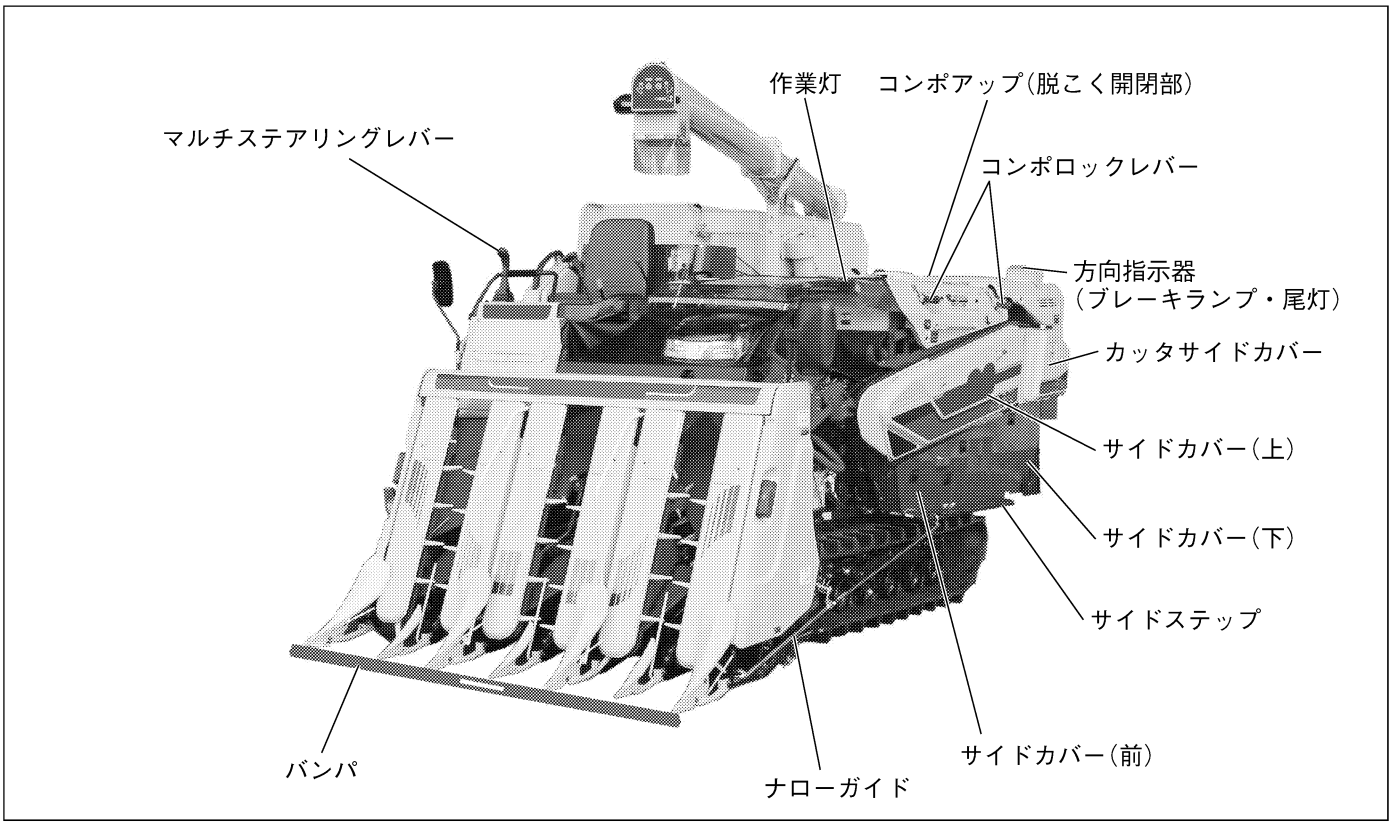
万一の交通事故にそなえ，任意保険に加入されるようお勧めします。

各部のはたらき

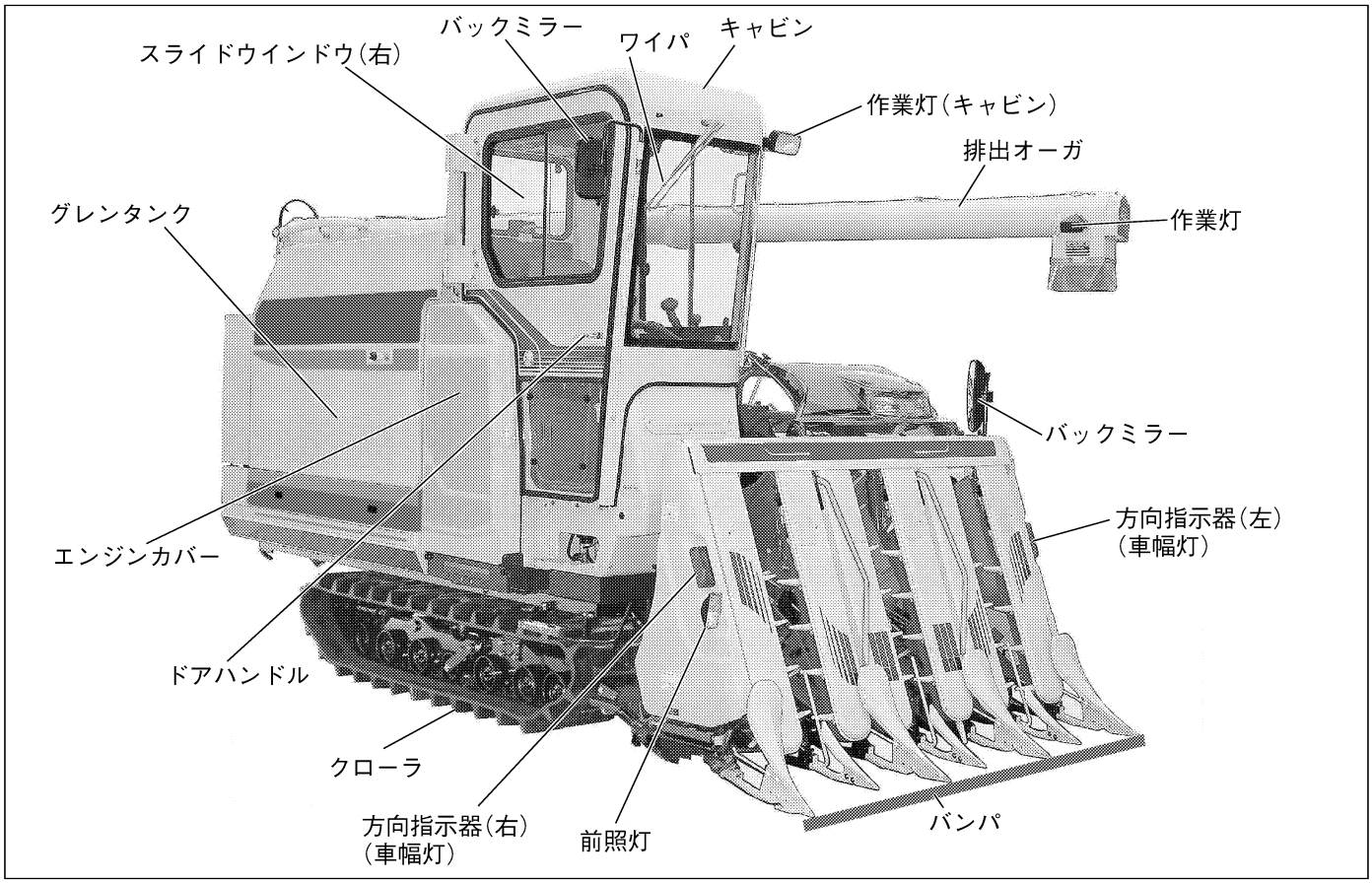
1．各部の名称

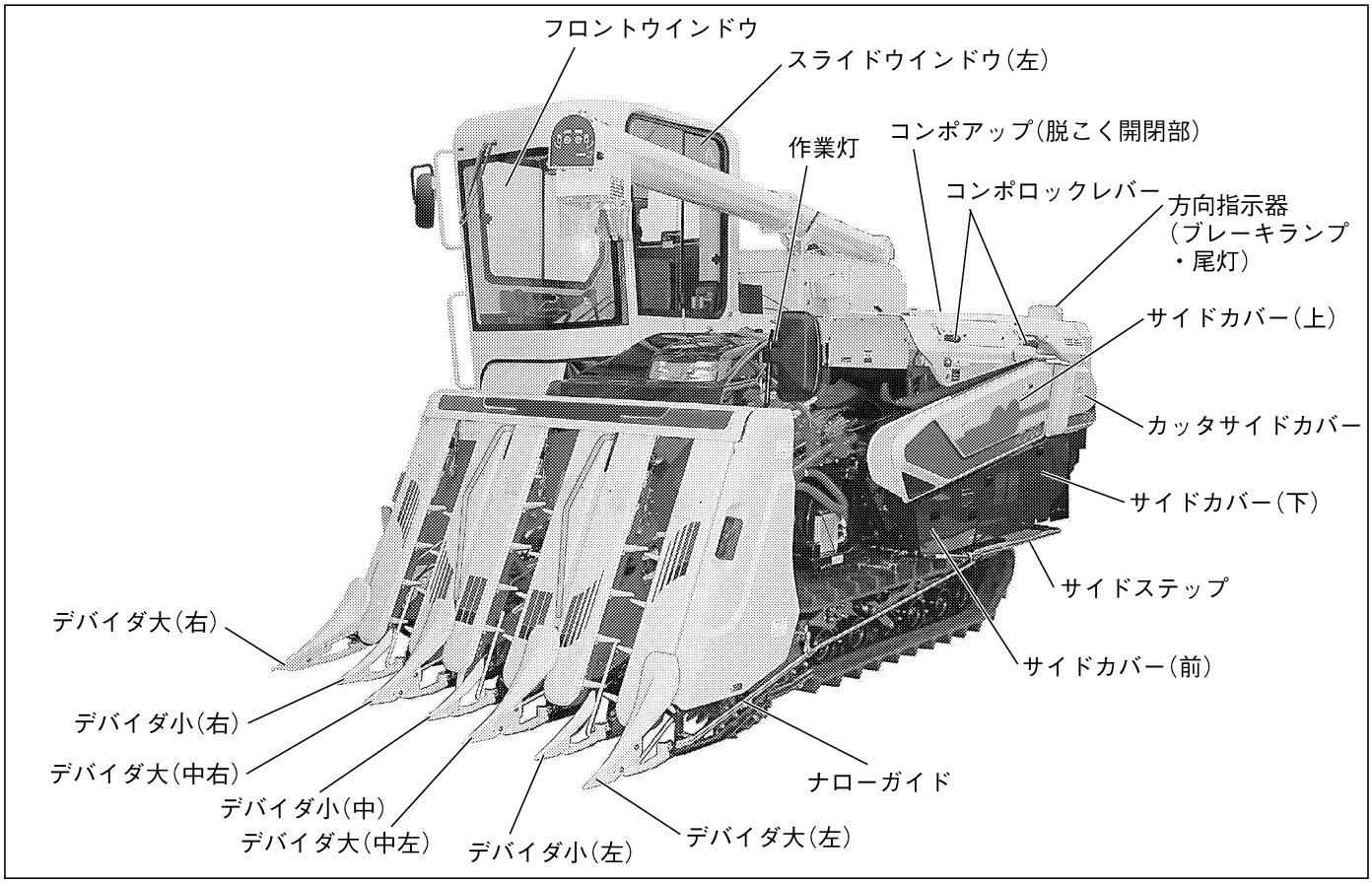
1．キャビン無し仕様



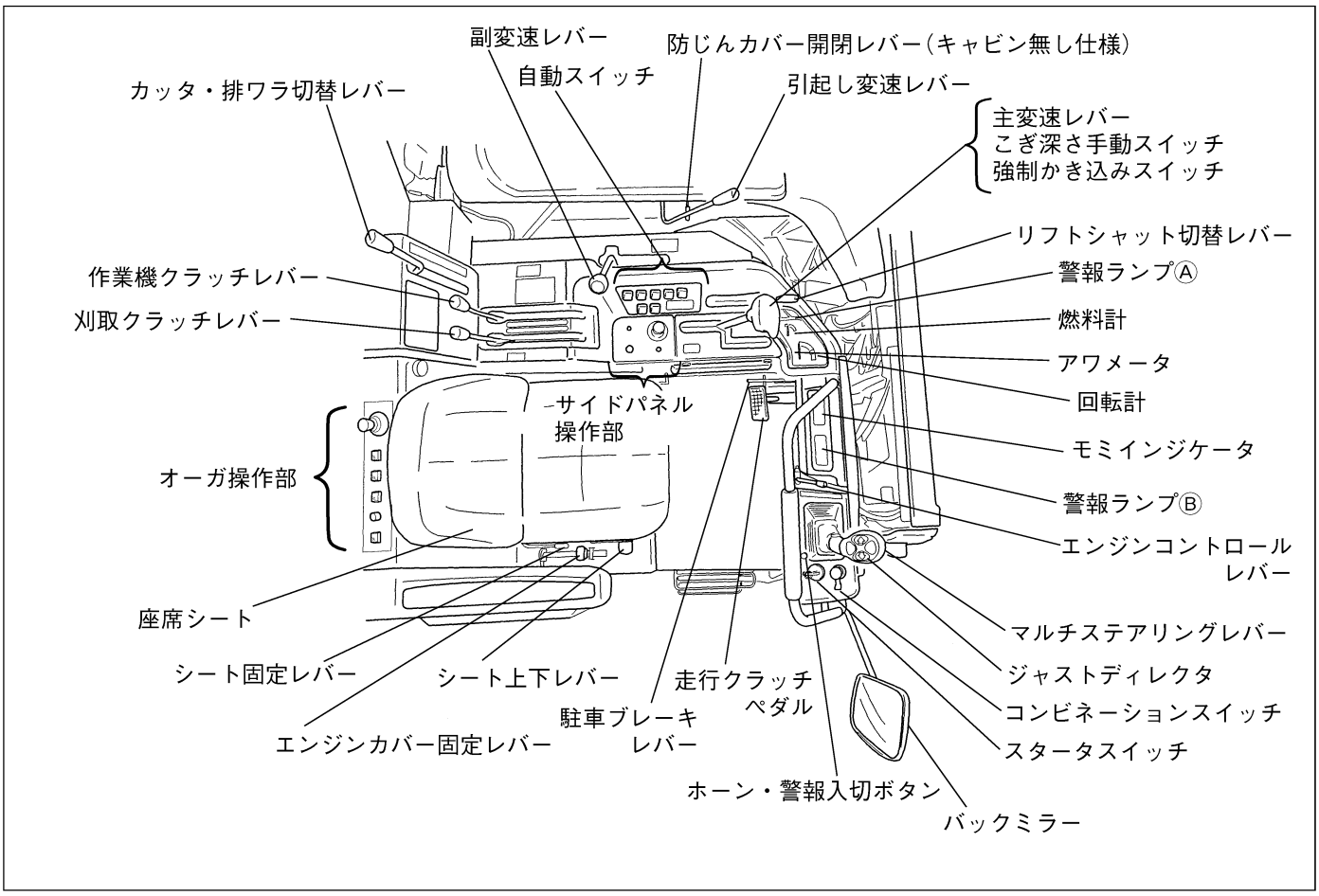


2. キャビン仕様

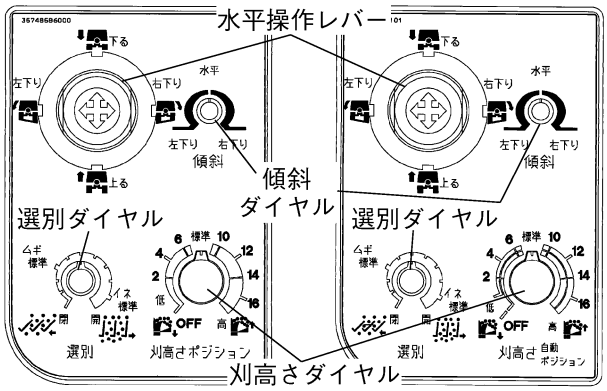

バックミラー
ワイパ
キャビン
スライドウインドウ(右)
作業灯(キャビン)
排出オーガ
グレンタンク
作業灯
バックミラー
方向指示器(左)
(車幅灯)
エンジンカバー
ドアハンドル
クローラ
方向指示器(右)
(車幅灯)
前照灯
バンパ


フロントウインドウ
スライドウインドウ(左)
作業灯
コンポアップ(脱こく開閉部)
コンポロックレバー
方向指示器
(ブレーキランプ
・尾灯)
サイドカバー(上)
カッタサイドカバー
サイドカバー(下)
サイドステップ
デバイダ大(右)
サイドカバー(前)
デバイダ小(右)
デバイダ大(中右)
ナローガイド
デバイダ小(中)
デバイダ大(中左)
デバイダ小(左)
デバイダ大(左)

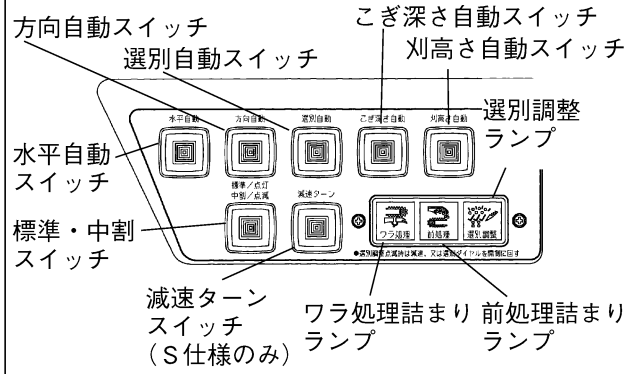
3．運転操作部



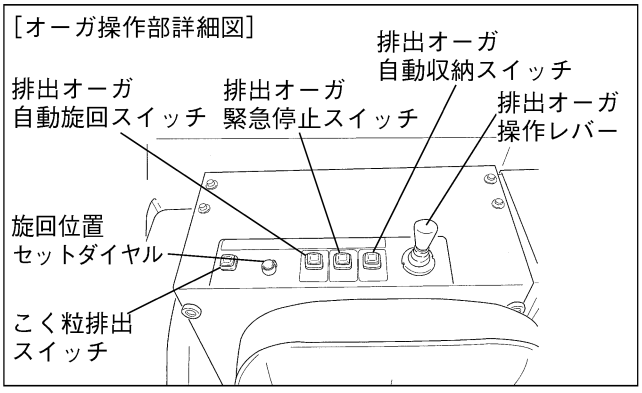
［サイドパネル操作部詳細図］



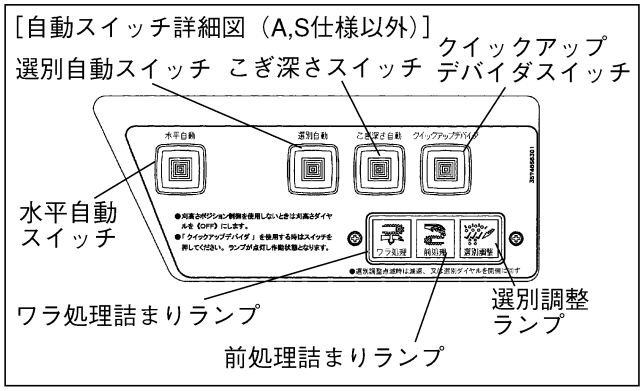
［自動スイッチ詳細図（A,S仕様）］



［オーガ操作部詳細図］

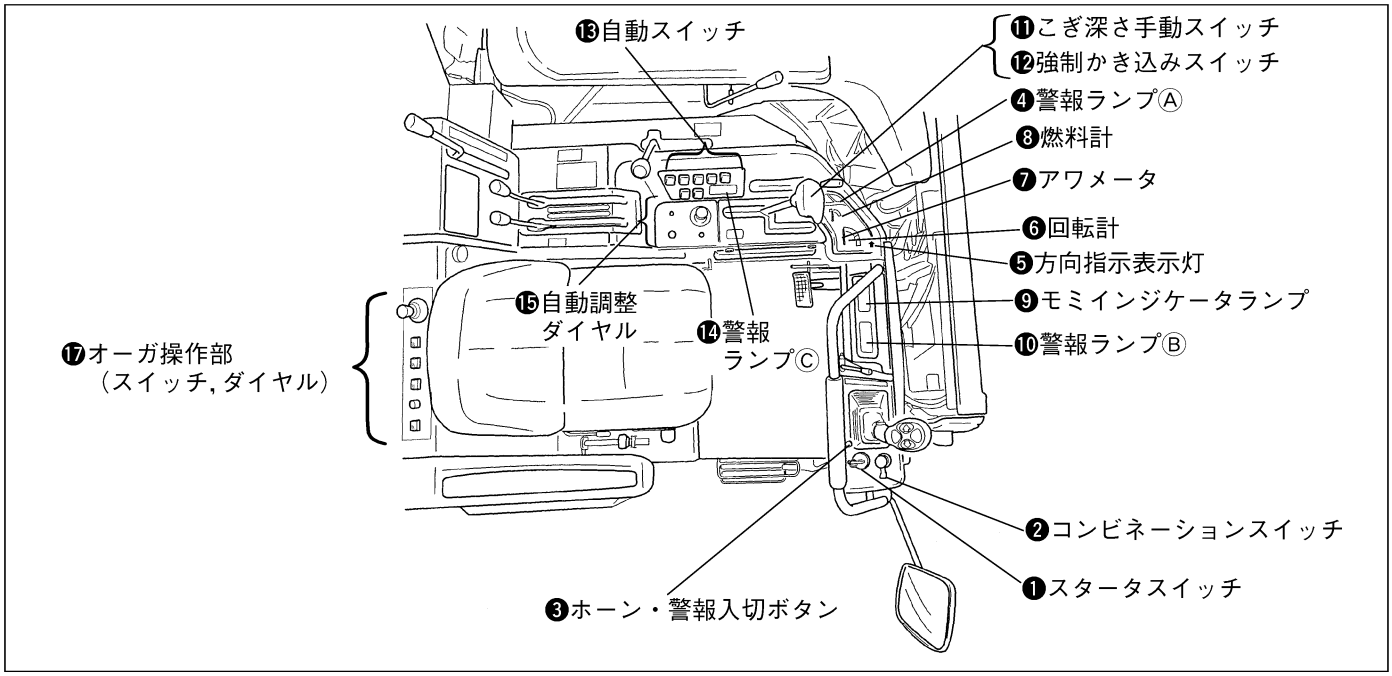


［自動スイッチ詳細図（A,S仕様以外）］



2．運転装置の取扱い

1．スイッチ・計器関係



❶　スタータスイッチ（始動キー）

《 **切**》……電源切（エンジン停止）

スタータスイッチを《 **切**》にするとエンジンが停止します。

《 **入**》（**運転・予熱**）……電源入（運転中）

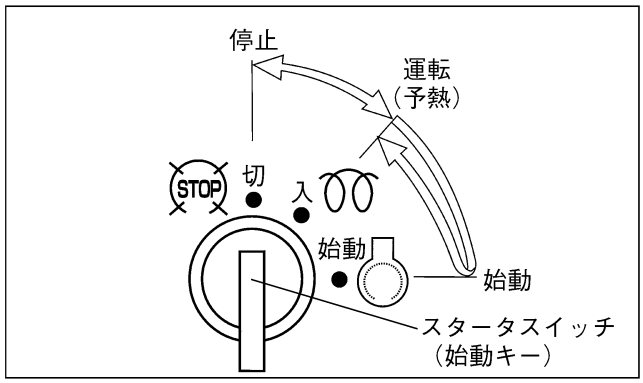
スタータスイッチを《 **入**》にするとメータ内の予熱インジケータランプが点灯し，エンジンを予熱します。

約 6 秒後に消灯して予熱が完了します。

《 **始動**》……エンジン始動

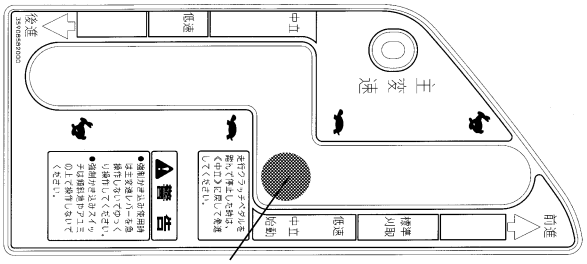
スタータスイッチを《 **始動**》位置に回すとエンジンが始動します。

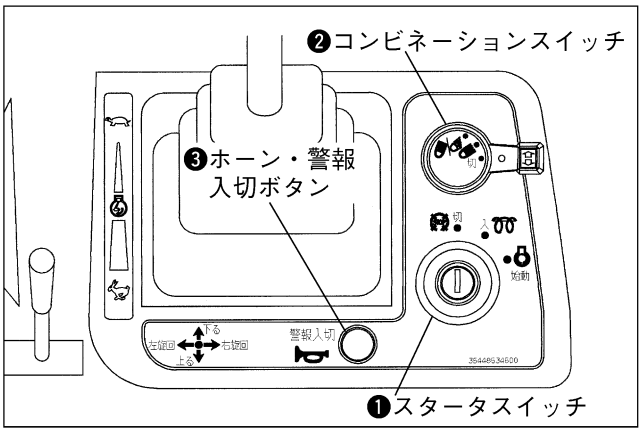
手を放せば自動的に《 **入**》位置に戻ります。



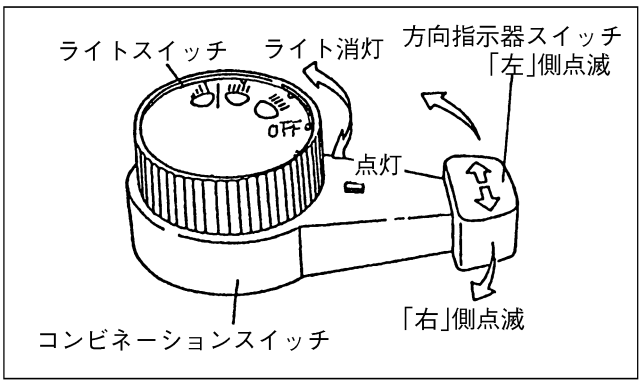
取扱いのポイント

● 主変速レバーを《中立始動》位置にし，刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。





❷ コンビネーションスイッチ



⑴ **ライトスイッチ**

《ＯＦＦ》……消灯

《 ≡D 》……回転計の照明が点灯し，前照灯及び車幅灯が点灯します。

《 ≡D/ 》……回転計の照明が点灯し，前照灯，車幅灯及びすべての作業灯が点灯します。(脱こく入口部と排出オーガ部の作業灯にはスイッチがありますので，必ず「ON」（入）の状態にしておきます。)

⑵ **方向指示器スイッチ**

スイッチを前後へ操作すると左側又は右側の方向指示器及び方向指示表示灯が点滅します。

❸ ホーン・警報入切ボタン



・スタータスイッチを《 ➿ 入》の位置にして，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。走行するときの警報，作業時の合図に使用します。

・モミインジケータランプが点灯し（タンク満杯）警報ブザーが鳴ったとき，このボタンを押すと警報ブザーが鳴りやみます。

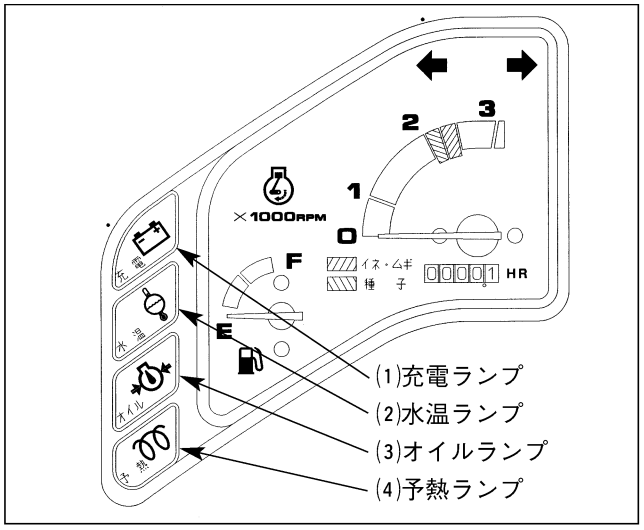
取扱いのポイント

●つぎの場合は，警報入切ボタンを押しても鳴りやみません。下記の方法で警報を解除してください。(ランプの詳細は11～15ページを参照してください。)

警報機能	解除方法
・水温ランプ点灯（オーバーヒート）	(水温が下がるまでエンジンを「低速運転」にしてスタータスイッチ《 STOP 切》)
・ワラ処理警報ランプ点灯 (脱こく搬送詰まり，排ワラ詰まり，ノッタひも切れ)	作業機クラッチレバー《切》
・前処理警報ランプ点灯（刈取搬送詰まり）	作業機クラッチレバー《切》
・エンジン回転負荷モニタランプ点滅	作業速度を下げる
・燃料フィルタランプ点灯	（フィルタの水抜き）スタータスイッチ《 STOP 切》

❹ 警報ランプⒶ

メータパネルの中に4個の警報ランプが装備されています。



(1) 充電ランプ



エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯します。

正常なときは，スタータスイッチを《 入》位置にすると点灯し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- **エンジンの運転中に連続点灯するときは，エンジンを停止し，オルタネータベルトの張りを点検し，調整してください。(164ページ参照)**
- **オルタネータベルトが正常であれば，ほかに異常があります。ただちに「お買いあげ先」にて点検を受けてください。**

(2) 水温ランプ



エンジンの冷却水温度が異常に上昇（**オーバーヒート**）すると，「**点灯**」し，警報ブザーが鳴ります。

取扱いのポイント

- **運転中にランプが点灯し警報ブザーが鳴ったら直ちに作業を中止し，警報ブザーが鳴り止むまでエンジンのみ「低速運転」してください。**
- **「低速運転」時，警報ブザーは断続音となります。**
- **冷却水温度が下がり，ランプが消灯し警報ブザーが鳴り止んだらエンジンを停止し，エンジンが冷えてからエンジンカバーおよび金網，ラジエータフィン，オイルクーラフィン等のラジエータ吸気部・エンジンファンベルトの張り，および冷却水（補助タンク）の水量などを点検してください。(詳細は 手入れのしかた の章を参照してください。)**

(3) オイルランプ



エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があれば「**点灯**」します。

正常なときはスタータスイッチを《 入》位置にすると点灯し，エンジンが始動すると消灯します。

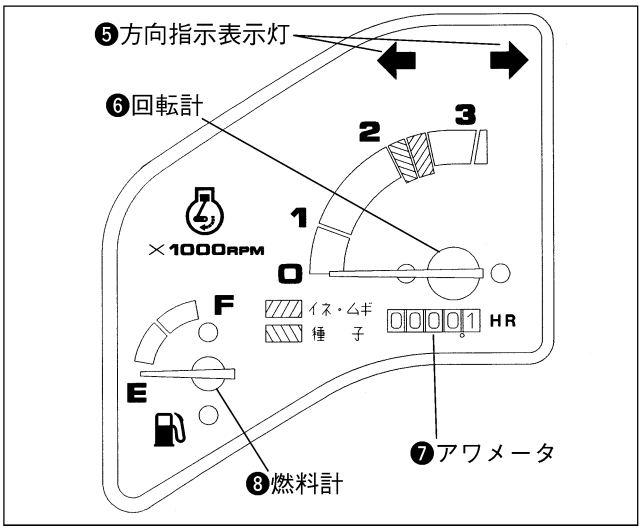
取扱いのポイント

- **運転中に点灯したときは，直ちにエンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。オイル量が適量であれば，ほかに異常があります。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。**

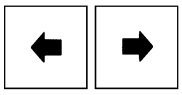
(4) 予熱ランプ



スタータスイッチを《 入》位置にすると，点灯してエンジンの予熱の状態を示します。約10秒後に消灯し予熱が完了します。



❺　方向指示表示灯



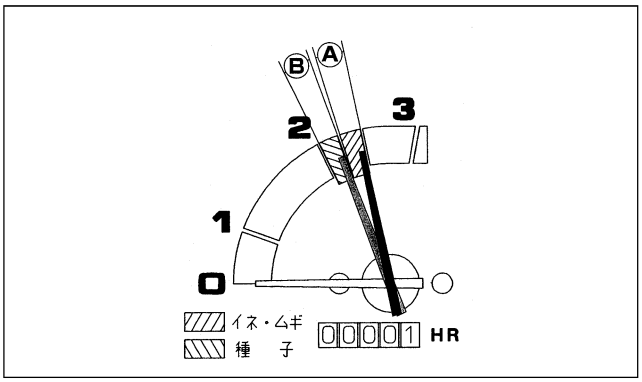
方向指示灯スイッチに合わせ，方向指示表示灯が点滅します。

❻　回転計

１分間のエンジン回転数を示します。

回転数は，イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦），種子等，刈取る作物によって変えます。

・刈取り作業中は回転計の針が常時「**色別表示**」の範囲内に位置するように主変速レバーで作業速度を調整して使用します。



・イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦）の場合……Ⓐの範囲

・種子の場合……Ⓑの範囲

❼　アワメータ

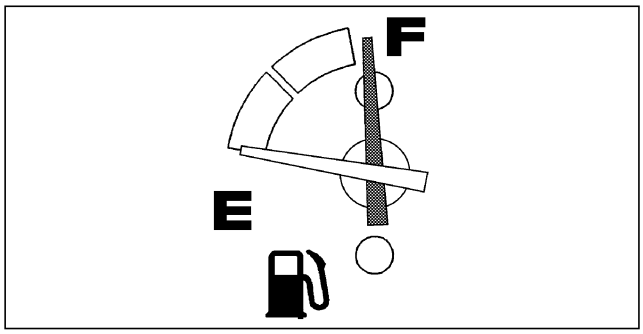
エンジン運転時間の積算時間を示します。

積算時間を目安に定期点検整備を行います。

❽　燃料計



スタータスイッチが《 入》位置のとき作動し，燃料タンク内の燃料の量を示します。《F》は満量（約80Ｌ），《E》（ラベル下限）は約10Ｌを示します。



取扱いのポイント

●燃料計が《E》近くになったら早めに燃料を補給してください。

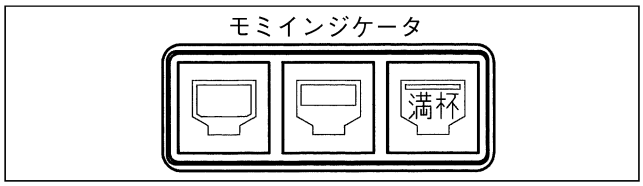
❾　モミインジケータランプ

グレンタンク内のこく粒量を表示するランプでこく粒量が増していくと，インジケータランプも → → 満杯 の順に点灯します。

ランプが点灯すると，方向指示器全てが点滅します。**（満杯予告シグナル）**

満杯時には，満杯 ランプの点灯と警報ブザーの断続音で報せます。

そのまま作業を続けるとグレンタンク上側からオーバーフローし，エンジンが停止します。



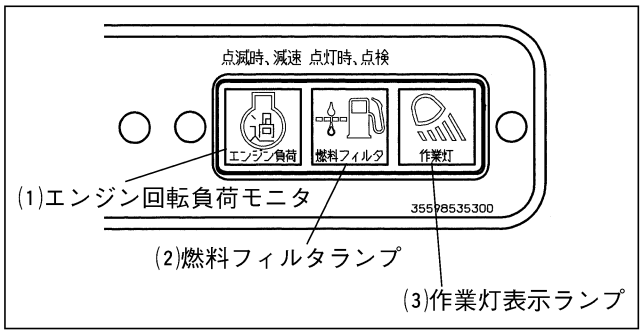
取扱いのポイント

●最初の警報ブザーが鳴ったら，刈取り作業を中止し，グレンタンク内のこく粒を排出してください。

●最初の警報ブザーはパネルの警報入切ボタンを押すと鳴りやみます。

●グレンタンクからモミがオーバーフローし，エンジンが停止した場合は，主変速レバーを《中立始動》位置にし，作業機クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むとエンジンを再始動できます。その後こく粒を排出してください。

⑩　警報ランプⒷ



(1)　エンジン回転負荷モニタ



エンジンの過負荷状態を知らせるランプです。刈取り作業中，過負荷運転でエンジン回転が下がるとモニタランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。エンジン回転が下がり，モニタランプが点滅し警報ブザーの断続音が鳴ったら，主変速レバーで走行速度を下げます。

取扱いのポイント

- **エンジン回転負荷の警報ブザーは，警報入切ボタンを押しても鳴りやみません。走行速度を下げてエンジンの負荷を軽くするとブザーは鳴りやみます。**

(2)　燃料フィルタランプ



燃料フィルタに一定量の水が溜まったことを知らせるランプです。

燃料フィルタに水が溜まるとランプの点灯と警報ブザーの連続音で異常を知らせます。

警報ブザーは警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。(水抜きは117ページ参照)

(3)　作業灯表示ランプ

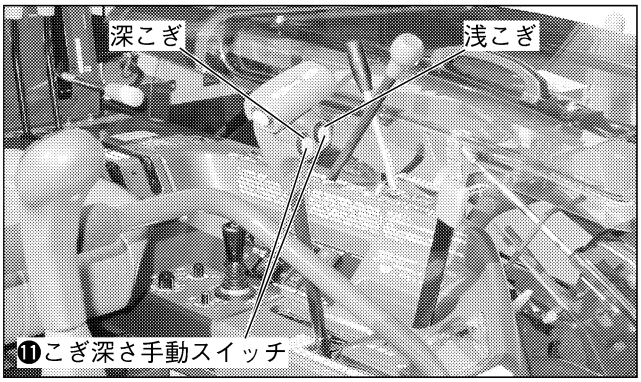


スタータスイッチを《 ʊʊ 入》位置にし，コンビネーションスイッチを２段回すと作業灯表示ランプが点灯し，作業灯が点灯します。

・路上走行時は作業灯を消灯します。

⑪　こぎ深さ手動スイッチ

作物の長さに合わせて脱こく部へ供給される作物の穂の位置を調整するスイッチです。



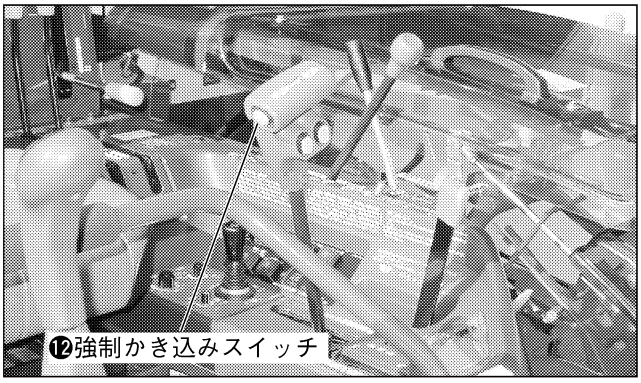
⑫　強制かき込みスイッチ

⚠警告　傷害事故防止のために

◆強制かき込み使用時に，主変速レバーを急操作すると機械が急発進することがあります。主変速レバーはゆっくり操作してください。

◆強制かき込みスイッチを傾斜地やアユミの上で操作すると，機械が暴走するおそれがあるので，平坦な所以外では操作しないでください。

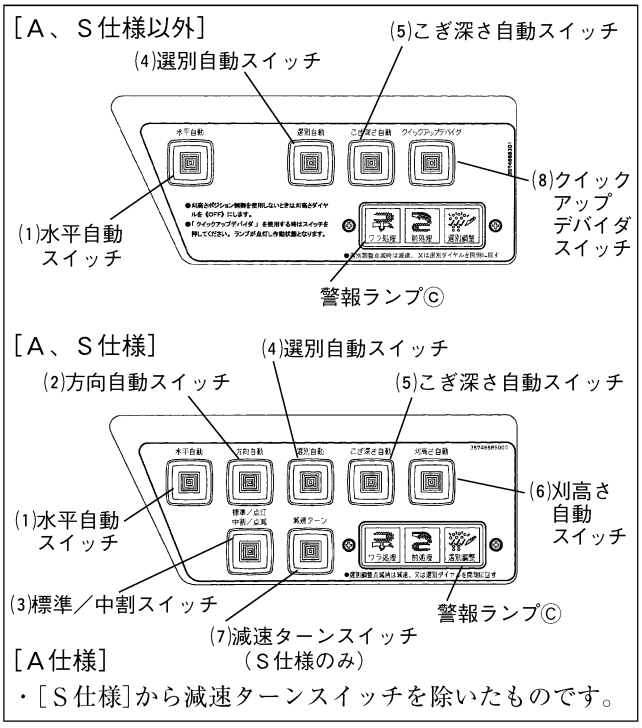
副変速を《N》にしなくても，強制かき込みスイッチを押すことで，機体停止状態で搬送のみ駆動して，前処理部に残る穀稈を処理することができます。



⓭ 自動スイッチ

各種の自動制御を作動させるスイッチです。ランプ付スイッチとなっていて，自動作動中はランプが点灯状態となります。

☆仕様により装備されるスイッチが異なりますので注意してください。



・［S仕様］から減速ターンスイッチを除いたものです。

取扱いのポイント

●選別自動，こぎ深さ自動スイッチはスタータスイッチ《入》時に自動で点灯（作動状態）になります。その他の自動スイッチは自動で作業状態になりませんので必要に応じて《入》,《切》してください。

(1) 水平自動スイッチ

水平自動を使用する時は，スイッチを押してランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すとランプが消灯し，自動は働きません。

(2) 方向自動スイッチ［A，S仕様］

方向自動を使用する時は，スイッチを押してランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すとランプが消灯し，自動は働きません。

(3) 標準・中割スイッチ［A，S仕様］

方向自動スイッチ「**入**」（ランプ点灯）で使用します。

・《**標準**》　（条刈り作業）の時は，スイッチを押してランプが点灯した状態で使用します。

・《**中割**》　（中割作業）の時は，スイッチを押してランプが点滅した状態で使用します。

(4) 選別自動スイッチ

スタータスイッチを《 **入**》位置にするとランプが点灯し，選別自動が「**入**」になります。点灯状態から再びスイッチを押すとランプが消灯し，自動は働きません。

(5) こぎ深さ自動スイッチ

スタータスイッチを《 **入**》位置にするとランプが点灯し，こぎ深さ自動が「**入**」になります。点灯状態から再びスイッチを押すとランプが消灯し，自動は働きません。

(6) 刈高さ自動スイッチ［A，S仕様］

刈高さ自動を使用する時はスイッチを押してランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すとランプが消灯し，刈高さ自動は働きません。そのかわりに刈高さポジションコントロールが働きます。

・刈高さ自動は刈取部の高さを地面に対して自動的に一定に保つ機能です。

・刈高さポジションコントロールは刈取部を機体に対して一定の高さに保つ機能です。

(7) 減速ターンスイッチ［S仕様］

⚠警告　傷害事故防止のために

◆減速ターンは通常の旋回より旋回半径が大きくなります。路上走行時や狭い所では減速ターンは使用しないでください。

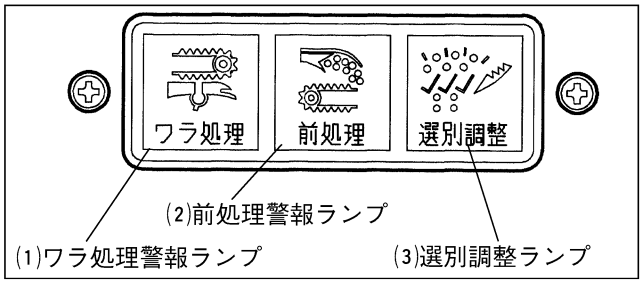
（減速ターンで1分40秒以上連続して旋回すると自動的に通常のブレーキターンとなり急激に旋回します。）

減速ターンスイッチを《**入**》にするとランプが点灯し，マルチステアリングレバーを左または右にいっぱいに倒した状態で使用すると減速ターンが作動します。

(8) **クイックアップデバイダスイッチ[A，S仕様以外]**

刈取部のクイックアップ（緊急自動上昇）機能を使用する時は，スイッチを押してランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すとランプが消灯し，自動は働きません。

⓮ 警報ランプⓒ



(1) **ワラ処理警報ランプ**

排ワラチェン終端部または脱こくフィードチェン終端部に詰まりが発生すると，警報ランプが点灯し，警報ブザーの連続音が鳴り，エンジンが停止します。

・「ノッタ仕様機」でノッタ作業中，ひもが切れたときや，ひもがなくなったときにランプが点滅し，同時に警報ブザーが鳴ります。ただちに作業機クラッチレバーを《切》にし，エンジンを停止してから点検をします。

取扱いのポイント

- **エンジンが停止したらスタータスイッチを《STOP 切》位置にし，詰まりを取除いてください。**
- **主変速レバーを《中立始動》位置にし，刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，エンジンを再始動できます。**
- **ノッタのひも切れ警報については「ノッタ」の取扱説明書を参照してください。**

(2) **前処理警報ランプ**

こぎ深さ搬送の始端部または終端部に詰まりが発生すると，インジケータランプが点灯し，警報ブザーの連続音が鳴り，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **エンジンが停止したらスタータスイッチを《STOP 切》位置にし，詰まりを取除いてください。**
- **主変速レバーを《中立始動》位置にし，刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，エンジンを再始動できます。**

(3) **選別調整ランプ**

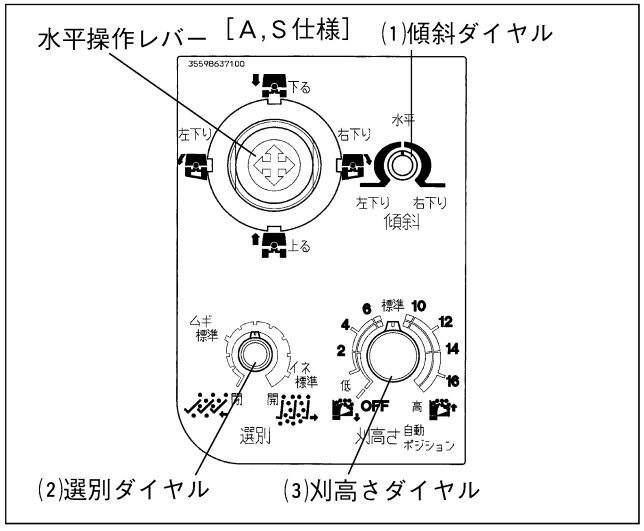
選別部が過負荷の時に点滅します。作業速度を下げるか，選別ダイヤルを「開」側に回します。

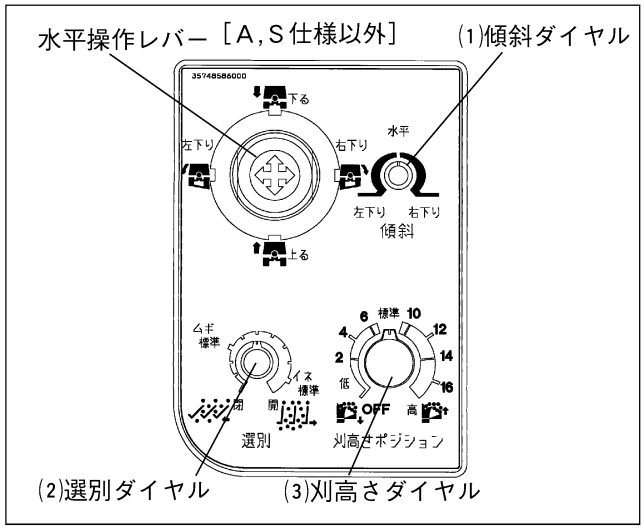
取扱いのポイント

- **処置後もランプが点滅する時は，「お買いあげ先」で点検を受けてください。**

⓯ 自動調整ダイヤル

各自動制御の調整ダイヤルが装備されています。





(1) **傾斜ダイヤル**

傾斜ダイヤルの操作によって，機体を一定の角度に傾斜させた制御をすることができます。

・ダイヤルを《**右下り**》の方向に回すと，機体は右下がりになります。

・ダイヤルを《**左下り**》の方向に回すと，機体は左下がりになります。

(2) **選別ダイヤル**

刈取る作物に合わせて選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。

《**ムギ標準**》－通常のムギ刈り作業はこの位置で行います。

《**イネ標準**》－通常のイネ刈り作業はこの位置で行います。

取扱いのポイント

- **選別自動スイッチ「入」（ランプ点灯）状態で作業すると刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。**
- **選別自動スイッチ「切」（ランプ消灯）状態で作業するときも選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。**
- **選別自動スイッチは「切」（ランプ消灯）の状態でも作業に支障はありませんが良好な選別状態を得られない場合があります。**
- **スタータスイッチを《 ⟳ 入》にして，選別自動スイッチのランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。**

(3) **刈高さダイヤル**

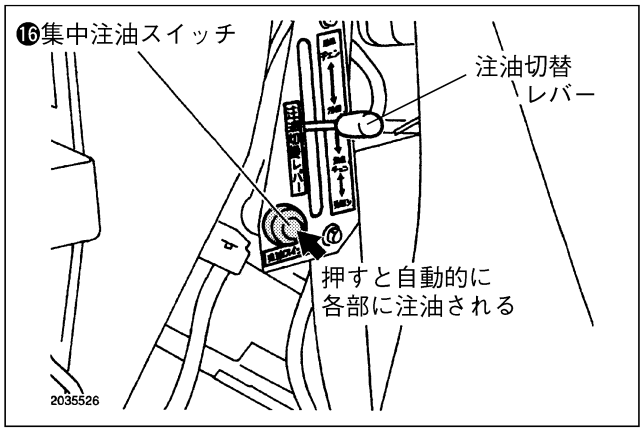
・刈高さの調節は刈高さダイヤルの操作によって，希望する「**刈高さ位置**」を設定することができます。

・刈高さダイヤルは通常《**標準**》位置で使用します。

取扱いのポイント

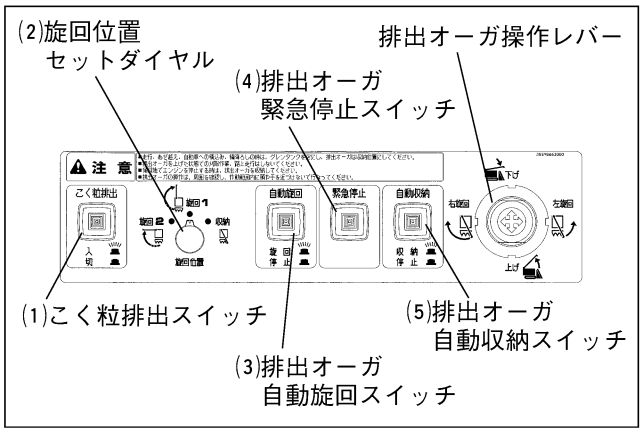
- **刈高さ自動制御を使用しないときは刈高さ自動スイッチを押してランプを消灯してください。［A，S仕様］**
- **刈高さポジションコントロールを使用しない時は刈高さダイヤルを《OFF》位置で使用します。**
- **ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。**
- **刈高さダイヤルをどの位置にセットしても刈高さ自動が設定できないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。**

⑯ **集中注油スイッチ**



集中注油スイッチを押している間だけモータが作動し，注油切替レバーの位置に応じて刈刃やチェン類に注油します。

⑰ オーガ操作スイッチ，ダイヤル



(1) こく粒排出スイッチ

グレンタンク内のこく粒を排出するスイッチです。

・排出オーガ先端にも同じ機能のスイッチが付いています。［A，S仕様］

取扱いのポイント

●こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「色別表示」に合わせて行なってください。回転が低いと詰まりの原因となります。

(2) 旋回位置セットダイヤル

旋回位置セットダイヤルの操作によって，2個所の《**排出位置**》を設定することができます。

・ダイヤルを《**旋回１**》の位置に合わすと，排出オーガは，機械に対して後方まで旋回します。

・ダイヤルを《**旋回２**》の位置に合わすと，排出オーガは，機械に対して右横まで旋回します。

・ダイヤルを《**収納**》の位置に合わすと，排出オーガ自動旋回スイッチを「入」にしても、排出オーガは作動しません。

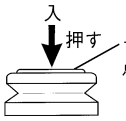
取扱いのポイント

●旋回位置セットダイヤルを２個所の表示セット位置以外にセットすると排出オーガ自動旋回スイッチを押しても排出オーガは作動しません。

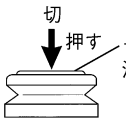
●自動旋回を使用しない時は旋回位置セットダイヤルを《収納》位置に合わせてください。

(3) 排出オーガ自動旋回スイッチ

・「**入**」……押すとランプが点灯し，排出オーガは自動的に上昇後旋回位置セットダイヤルのセット位置まで旋回します。



・「**切**」……「**入**」の状態から再び押すとランプが消え，排出オーガは停止します。

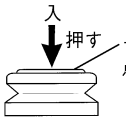


(4) 排出オーガ緊急停止スイッチ

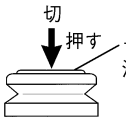
・排出オーガが自動旋回及び自動収納途中での排出オーガ停止に使用します。

(5) 排出オーガ自動収納スイッチ

・「**入**」……押すとランプが点灯し，排出オーガは排出位置から自動的に旋回収納します。



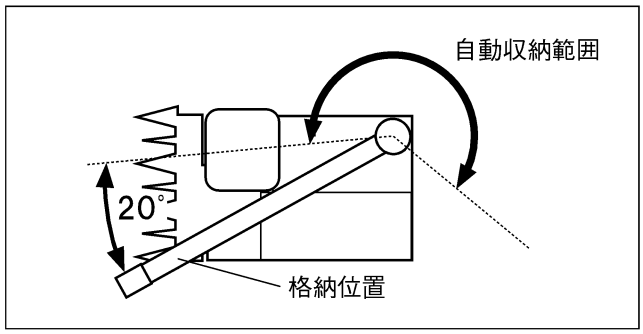
・「**切**」……「**入**」の状態から再び押すとランプが消え，排出オーガは停止します。



取扱いのポイント

●自動旋回は排出オーガが格納位置にあるときにだけ作動します。排出オーガ自動旋回スイッチの操作は排出オーガ固定リングを外してから行なってください。

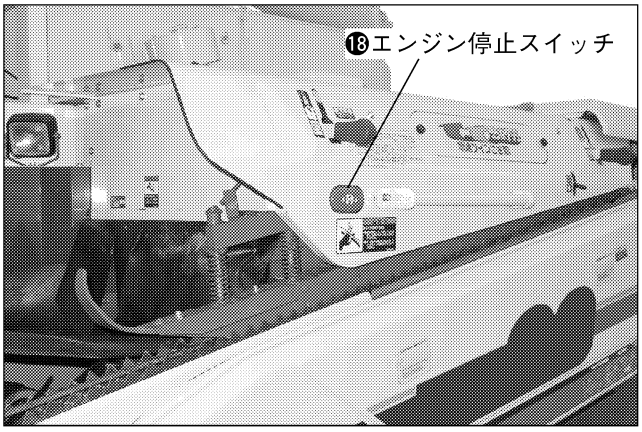
●自動収納は排出オーガが下図の範囲にある時だけ作動します。



- **スイッチを「入」にして，ランプが点灯しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。**
- **自動旋回及び自動収納が作動しないときは排出オーガ操作レバーによって，手動で操作してください。**

⑱　エンジン停止スイッチ

手こぎ作業時等のトラブル発生時にこのスイッチを押すと，エンジンが停止します。



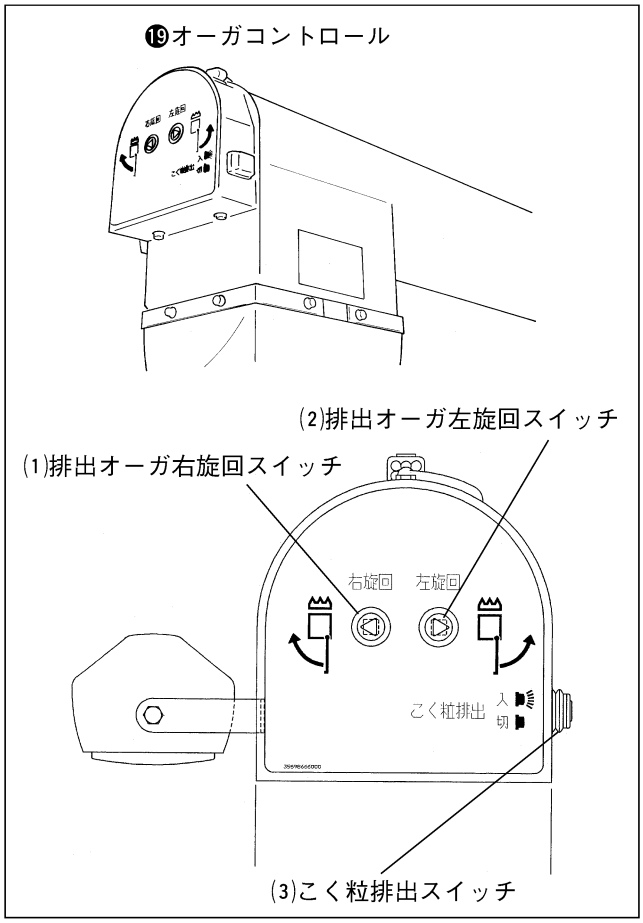
取扱いのポイント

- **エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，スタータスイッチを《 切》位置にしてください。そのまま放置するとバッテリが放電します。**

⑲　オーガコントロール［A，S仕様］

> **⚠警告**　傷害事故防止のために
>
> ◆コンバイン運転者は，トラック等の排出側に作業者がいる場合に排出オーガを操作しないでください。
>
> ◆排出側の作業者はコンバイン運転者が排出オーガを操作している時に排出オーガに近づかないでください。

トラックなどの排出側にいるオペレータ（作業者）がオーガ位置の微調整，オーガ排出のタイミングを決定することができます。



(1)　排出オーガ右旋回スイッチ

・押すと排出オーガが右（排出側の作業者から見ると左）に旋回します。

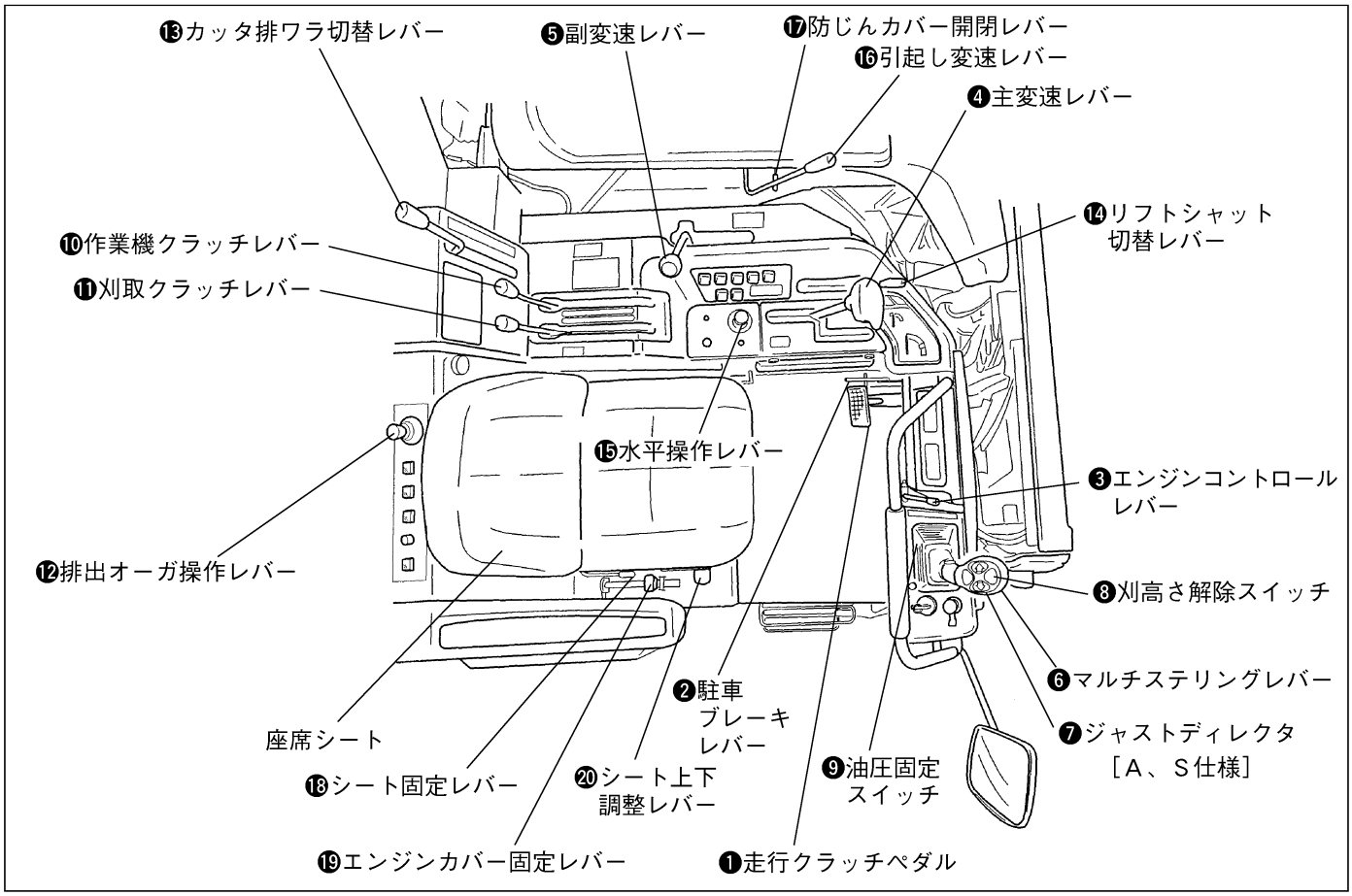
(2)　排出オーガ左旋回スイッチ

・押すと排出オーガが左に（排出側の作業者から見ると右）に旋回します。

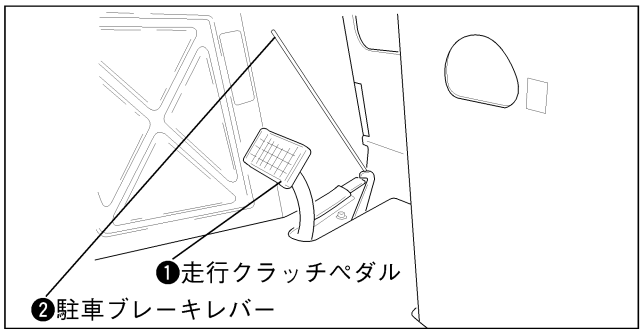
(3)　こく粒排出スイッチ

・押すと排出オーガからこく粒を排出します。

2．ペダル・レバー関係



❶ 走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）



⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルは自動車への積込み・積降ろし等アユミの上では操作しないでください。転落事故を起こすことがあります。

◆走行クラッチペダルを踏んで停止した時は，主変速レバーを《N》に戻してください。戻さないで発進すると急発進することがあります。

走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）をいっぱい踏込むと，トランスミッションへの動力が断たれブレーキがかかり，ブレーキランプが点灯する構造になっています。

つぎの操作を行うときには，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで行います。

・エンジンを始動するとき。

主変速レバーを《**中立始動**》位置にし，刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《**切**》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。

取扱いのポイント

- **主変速レバーは走行クラッチペダルを踏まなくても操作できます。**
- **走行クラッチペダルを半クラッチ状態で使用すると走行ベルトが焼損する恐れがあります。**

❷ 駐車ブレーキレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道など傾斜のある所では駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，駐車ブレーキをかけ，木片などでクローラに「歯止め」をしてください。
◆駐車ブレーキは，自動車への積込み，積降ろし等アユミの上では操作しないでください。機械がずり落ちることがあります。

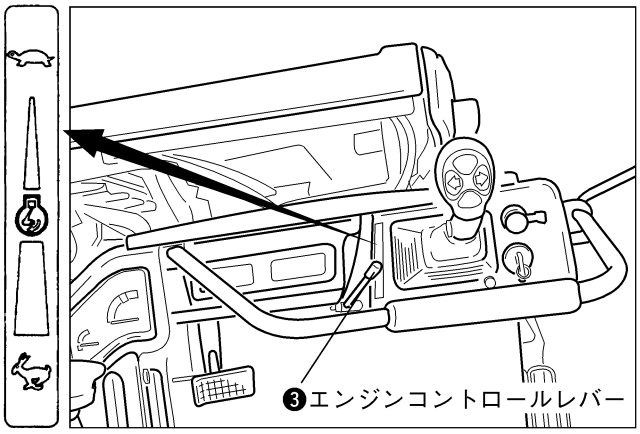
駐車するときに使用します。走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，レバーを操作してペダルに駐車ブレーキフックをかけます。

解除するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，自動的に駐車ブレーキフックが外れます。

❸ エンジンコントロールレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。

・「**始動**」のときは……エンジンコントロールレバーを手前に引き，《🐇》（**高速**）の位置にしてエンジンを始動します。
・「**作業**」のときは……適正回転数になるよう回転計の指針を合わせます。
・「**停止**」のときは……《🐢》（**低速**）の位置にしてエンジンを停止します。



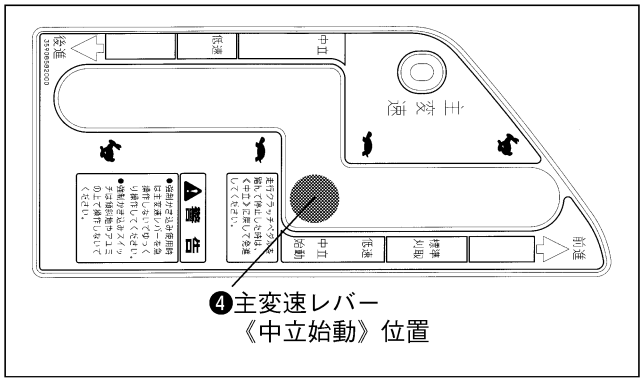
❹ 主変速（無段変速）レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆中立《N》位置でも動く場合がありますので，機械から離れるときは，平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。
◆走行中，主変速レバーを急激に増速，減速操作しないでください。
◆前後進の切替えは機械が停止してから行なってください。
◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上で変速操作，クラッチ操作をしないでください。

走行クラッチペダルを踏まないで走行速度の変速ができます。前進（F）・後進（R）いずれにも任意の位置に操作するだけで，作業に適した速度が得られます。

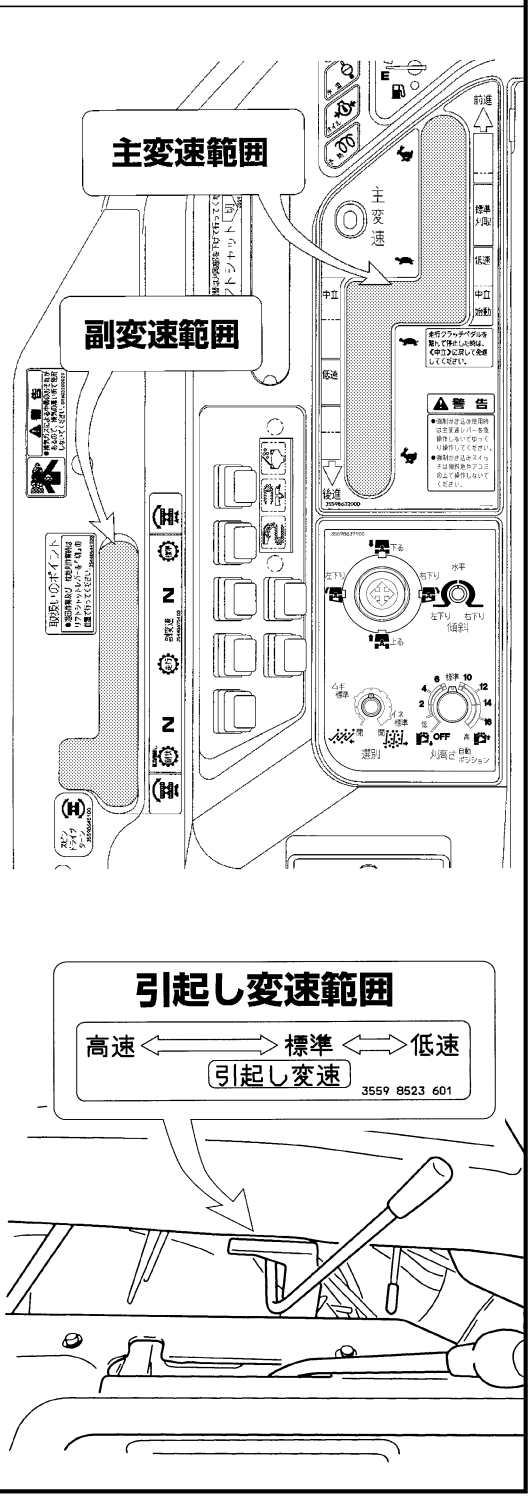
主変速（無段変速）レバーを《**中立始動**》位置にし，刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《**切**》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まなければエンジンは始動しません。



主変速レバーの作業別変速位置は，副変速レバーとの組合せにより，次ページの表のようになります。

［作業別標準作業速度表］

<table>
<tr><th rowspan="2">No.</th><th rowspan="2">使用条件
（作物の状態）</th><th colspan="3">変　速　レ　バ　ー　位　置</th></tr>
<tr><th>副変速</th><th>引起し
変　速</th><th>主　変　速</th><th>各　レ　バ　ー　略　図</th></tr>
<tr><td>①</td><td>1. 直立。
2. 半倒伏の場合。</td><td>標準</td><td>低速
標準</td><td rowspan="6">「中立」位置から発進してください。

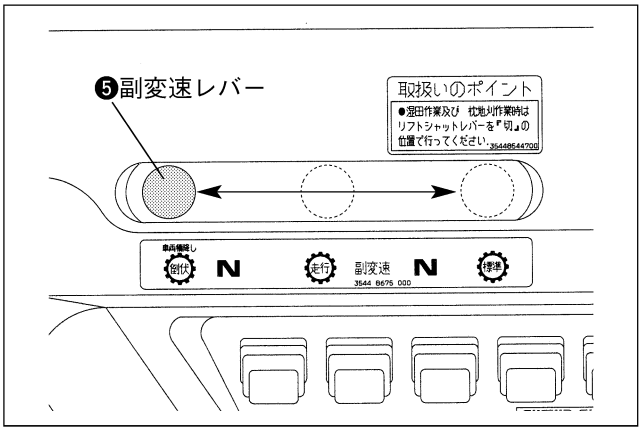
刈取作業を行い，稈の搬送状態，及びエンジンの馬力の余裕に応じて順次速度を上げてください。</td><td rowspan="8">
</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1. 倒伏追い刈りなどで穂先が極端に遅れている場合。または整然と搬送されない場合。</td><td>倒伏
標準</td><td>高速</td></tr>
<tr><td>③</td><td>1. 全倒伏の場合。
2. 周囲刈りで，低速作業をする場合。
3. 稈のボリュームが多く，脱こく部が頻繁にゴトゴト音を発する場合。</td><td>倒伏</td><td>標準</td></tr>
<tr><td>④</td><td>1. 脱粒しやすい品種を刈取る場合。
2. 倒伏向刈りなどで株抜けや，稈の浮き上がりが目立つ場合。
3. 根腐れや根付きが悪く，株抜けが発生する場合。</td><td>標準</td><td>低速</td></tr>
<tr><td>⑤</td><td>1. ④の２，３の場合で穂先の遅れや稈のボリュームが多く，脱こく部がゴトゴト音を発する場合。</td><td>倒伏</td><td>低速</td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>1. 路上走行
2. 長距離の走行</td><td>走行</td><td>－</td></tr>
<tr><td>⑦</td><td>1. 積込み，積降ろし
2. あぜ越え</td><td>倒伏</td><td>－</td><td>「中立」から低速，エンジン2000回転程度。</td></tr>
<tr><td>⑧</td><td>1. 集中注油</td><td>N
（中立）</td><td>－</td><td>「中立」から
「標準刈取」</td></tr>
</table>

❺ 副変速レバー

［4モードターン無仕様］

作業目的や刈取り条件により《 倒伏 》（**低速**），《 標準 》（**中速**），《 走行 》（**高速**）の3段に変速ができます。

・副変速レバー操作は，主変速レバーを《**N**》にして，走行を停止してから走行クラッチペダルを踏込んで行います。
・倒伏材の刈取り作業や自動車への積込み・積降ろし，ほ場への出入りは《 倒伏 》位置で行います。
・刈取り作業は《 倒伏 》または《 標準 》位置で行います。《 走行 》位置での刈取り作業はできません。
・見通しが良く平坦な道路では《 走行 》位置で走行します。せまい道路や凹凸のある道路は《 倒伏 **，** 標準 》で走行します。



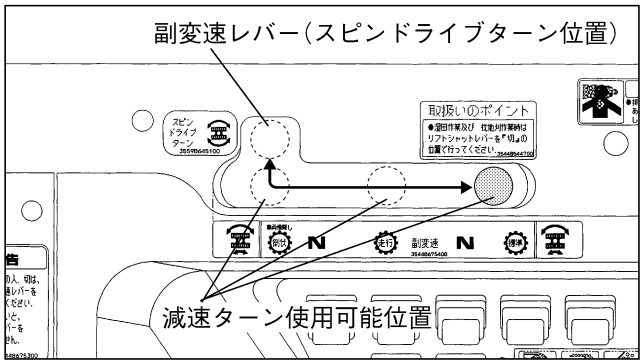
［4モードターン仕様（S仕様）］

⚠警告 傷害事故防止のために

◆スピンドライブターンの「入，切」は，ゆっくり前進走行しながら副変速レバーを左右に確実に切替えてください。確実に切替わっていないと，マルチステアリングレバーを操作しても旋回できません。
◆路上走行する時はスピンドライブターンや減速ターンは使用しないでください。

作業目的や刈取り条件により《 倒伏 》，《 標準 》，《 走行 》の3段に変速ができます。

・通常の副変速としての使い方は［**4モードターン無仕様**］と同じ要領で行います。
・「**スピンドライブターン**」とは，左右のクローラが逆転して旋回します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用します。
《 **スピンドライブターン**》への切替えは，《 倒伏 》位置で，走行クラッチペダルを踏まずにゆっくり前進走行しながら副変速レバーを左に確実に切替えます。旋回する時は，マルチステアリングレバーを左または右にいっぱい倒して行います。
・「**減速ターン**」とは，片側のクローラが減速し，左右のクローラが同じ方向に回転して旋回します。ほ場の荒れを少なくします。
《 **減速ターン**》は，減速ターンスイッチを《**入**》にして使用します。旋回はマルチステアリングレバーを左または右にいっぱいに倒して行います。
減速ターンスイッチを《**切**》にして旋回操作すると，通常のブレーキターンになります。



取扱いのポイント

- **副変速レバーを操作する時は，レバーが確実にマークで指定された位置にあることを確認して，発進してください。**
- **副変速が入らない時は，主変速レバーを前進（又は後進）へ少し動かした後《中立》へ戻し，クラッチペダルを踏んで操作してください。一回で入らない場合は，もう一度行ってください。**
- **スピンドライブターンを使用するときは，減速ターンスイッチを《切》にして行なってください。**

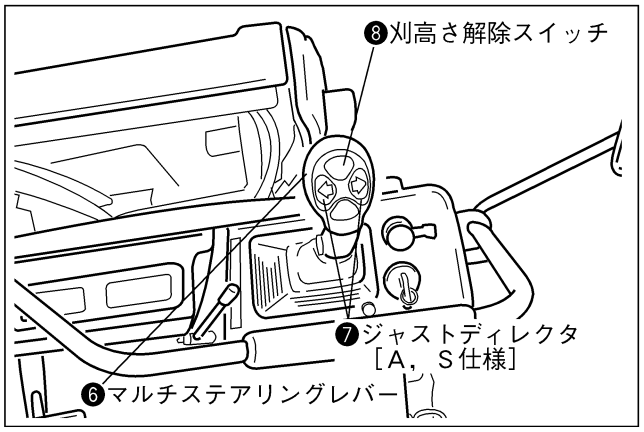
●副変速を《 走行 》で，主変速を低速にすると旋回しにくい場合があります。そのときは副変速を《 標準 》，《 倒伏 》にしてください。

❻ マルチステアリングレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆旋回する時は主変速レバーで速度を落として行なってください。

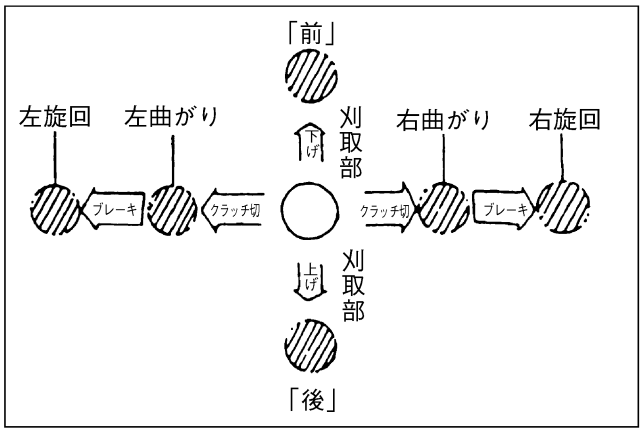
◆自動車等への積込み・積降ろしの時は，アユミの上でマルチステアリングレバーを左右操作しないでください。レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。



・１本のレバー操作により，左右操作で「**旋回**」，前後操作で刈取部の「**上げ**」「**下げ**」ができます。

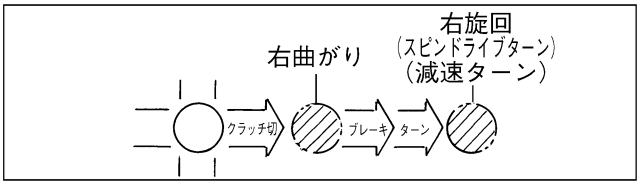
［4モードターン無仕様］

・左右に浅く倒すと機械は徐々に旋回し，深く倒すと急旋回します。



［4モードターン仕様］

・《 スピンドライブターン》及び《 減速ターン》に切替えて旋回する時は，マルチステアリングレバーを左または右に深く倒して行います。



取扱いのポイント

●マルチステアリングレバーを斜め方向に操作すると，刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行えます。

❼ ジャストディレクタ

［A，S仕様］

・マルチステアリングレバーに内装されています。

・ジャストディレクタスイッチの《**左**》を押すと左方向に，《**右**》を押すと右方向に機械の進行方向を修正します。

・刈始めの条合わせや，刈取り中の微調整に使用します。

取扱いのポイント

●ジャストディレクタとマルチステアリングレバーの併用はできません。マルチステアリングレバー操作が優先します。

●ジャストディレクタは旋回力が小さいので旋回には使用しないでください。

❽ 刈高さ解除スイッチ

刈高さコントロールダイヤルで設定された刈高さを解除するスイッチです。

刈高さ解除スイッチを押しながら，マルチステアリングレバーを《**下げ**》にすると刈取部は刈高さ設定位置に関係なく通常のマルチステアリングレバー操作の《**下げ**》となります。

取扱いのポイント

● レバーの刈高さ解除スイッチの操作については，75，78ページを参考に取扱いをしてください。

❾ 油圧固定スイッチ

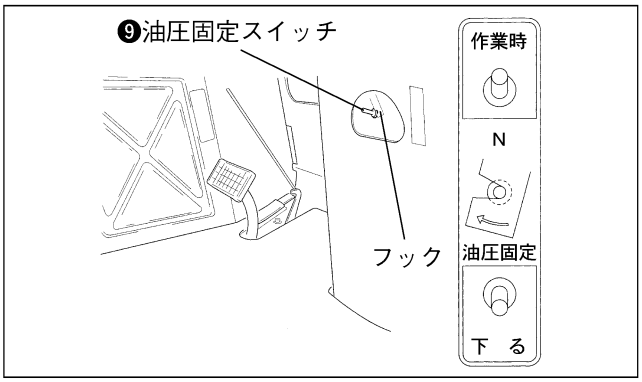
⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈取部を上げて，その下で整備等する時は，エンジンを停止し，油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にし，フックをかけてください。さらに刈取部が下がらないように刈取部の下に固定脚等をおいて作業してください。

◆油圧固定スイッチを《下る》の位置にすると，マルチステアリングレバーの操作に関係なく，刈取部は下がります。通常はスイッチを《下る》の位置にしないでください。

◆油圧固定スイッチを操作する時は，刈取部付近に人がいないことを確認してください。

・《**油圧固定**》位置にするとマルチステアリングレバーを操作しても作動しません。**油圧固定位置では，フックをかけて**使用します。
路上を走行するときは，《**油圧固定**》位置で行います。
・作業時には，油圧固定スイッチを《**作業時**》の位置で使用します。
・刈取部全体を取外すときには油圧固定スイッチを《**下る**》の位置で使用します。



❿ 作業機クラッチレバー

⓫ 刈取クラッチレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

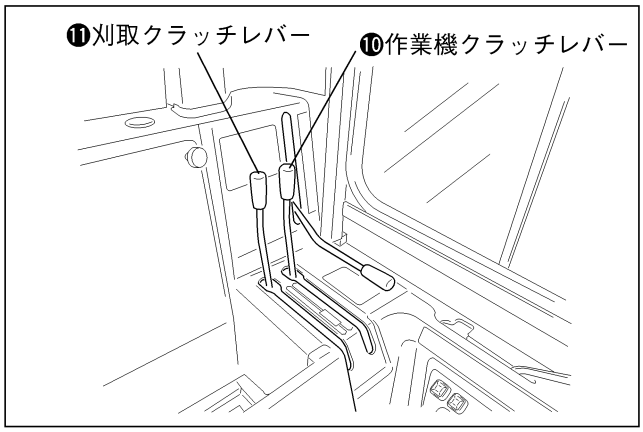
◆作業機クラッチレバーまたは刈取クラッチレバーを《入》に操作する時は，コンバインの周囲から人を遠ざけてください。

◆作業機クラッチレバーまたは刈取クラッチレバー《入》の状態ではエンジンを始動しないでください。

作業機クラッチレバーは脱こく部の運転・停止を操作するクラッチレバーです。

刈取クラッチレバーは刈取部の運転・停止を操作するクラッチレバーです。

・刈取クラッチレバーを《**入**》位置にすると，作業機クラッチレバーも連動して《**入**》となります。
・作業機クラッチレバーを《**切**》位置にすると，刈取クラッチレバーも連動して《**切**》位置となります。



取扱いのポイント

● **刈取り作業を行う時は，作業機クラッチレバーは，回転計のそれぞれの「色別表示」以下では《入》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**

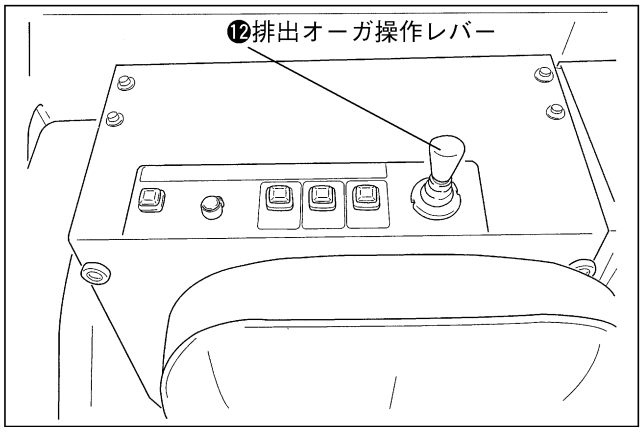
⓬　排出オーガ操作レバー

⚠警告　傷害事故防止のために

◆排出オーガを収納位置以外では走行しないでください。収納位置以外で走行すると，障害物との衝突により事故となることがあります。また，故障の原因にもなります。

◆排出オーガは必ず最上位置まで上げてから旋回させてください。運転席及びグレンタンク上方を旋回する時は，最上位置でなければ動かない構造となっています。

排出オーガを《**上げ**》，《**下げ**》及び《**左**》旋回，《**右**》旋回させるレバーです。



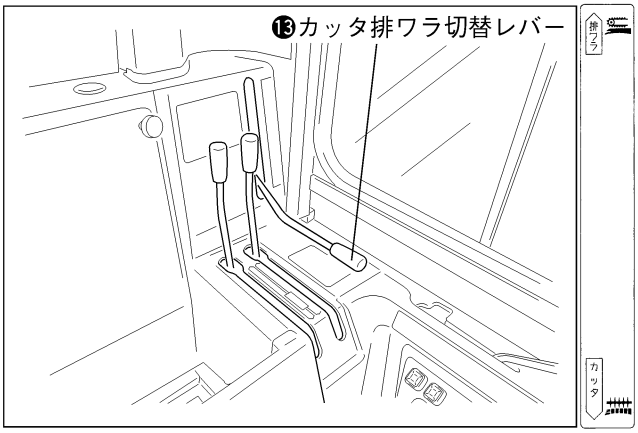
⓭　カッタ排ワラ切替レバー

カッタ作業又は排ワラ作業の切替えをするレバーです。

・切替え操作はワラが搬送途中にないことを確認してから行います。

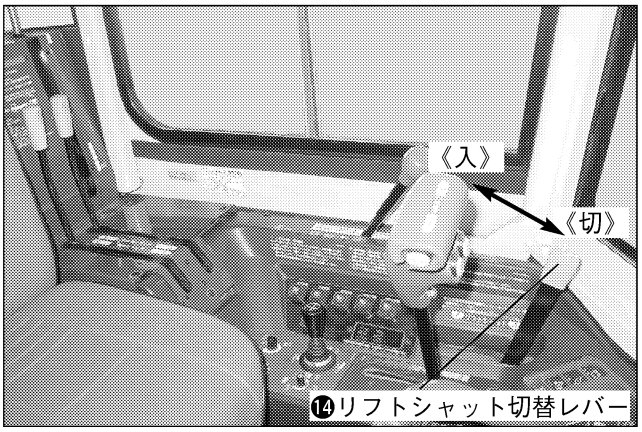
《**カッタ**》…ワラをカッタで切断します。

《**排ワラ**》…ドロッパ作業，ノッタ作業，ワラをそのまま排出する作業。



⓮　リフトシャット切替レバー

刈取部を上げると刈取り搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構がリフトシャットです。刈取部をいっぱい下げて切替レバーを操作し，リフトシャットの《**入**》《**切**》の切替えを行います。



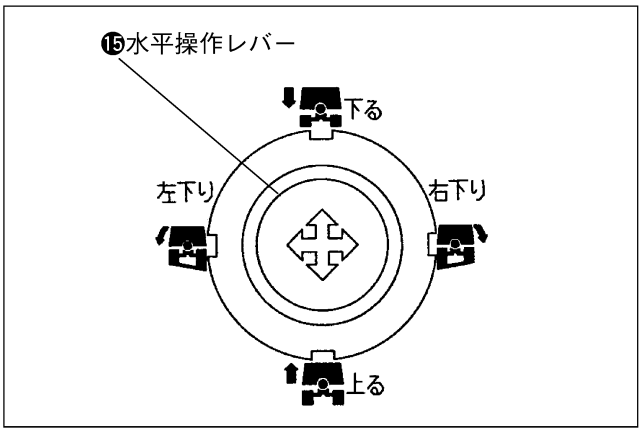
取扱いのポイント

- **リフトシャットの切替え操作は刈取部をいっぱい下げて行なってください。上げた状態で切替えると故障の原因になります。**
- **あぜぎわや枕地刈りのときは，リフトシャットを《切》にして行なってください。**
- **刈取り作業をする前にリフトシャットの作動を確認してから作業を始めてください。**

⑮　水平操作レバー

機体の「**上げ**」「**下げ**」「**右下げ**」「**左下げ**」をします。

・レバーを《**上る**》の方向に倒すと，機体が上がります。
・レバーを《**下る**》の方向に倒すと，機体が下がります。
・レバーを《**右下り**》の方向に倒すと，まず右側が下がり，次に左側が上がります。
・レバーを《**左下り**》の方向に倒すと，まず左側が下がり，次に右側が上がります。



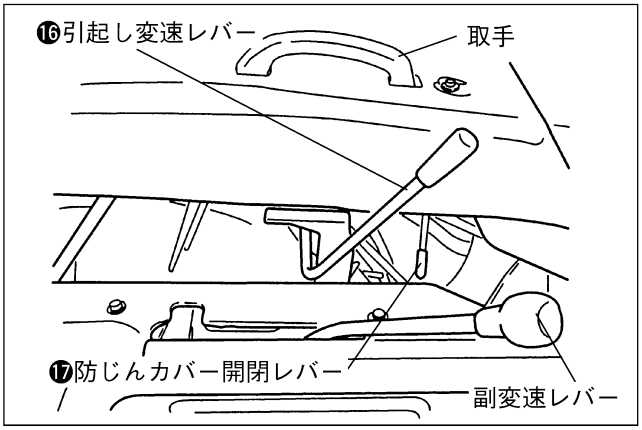
取扱いのポイント

●刈取り作業時以外は水平操作レバーで機体を一番下まで下げて使用してください。

⑯　引起し変速レバー

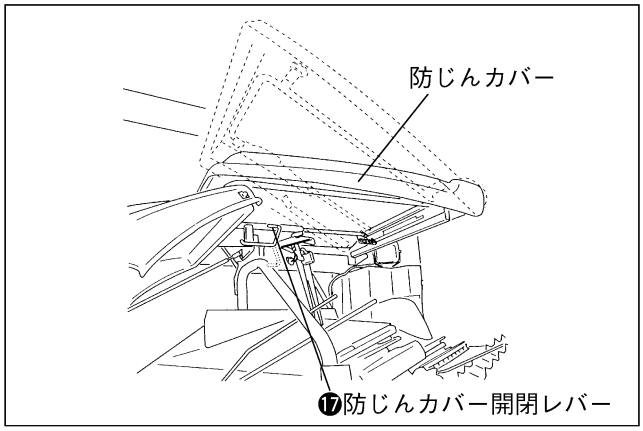
作物の倒伏状態，稈の強弱等により引起こし速度を変速します。

・レバー操作は刈取クラッチレバー《**切**》るか，または走行クラッチペダルを踏込んで行います。

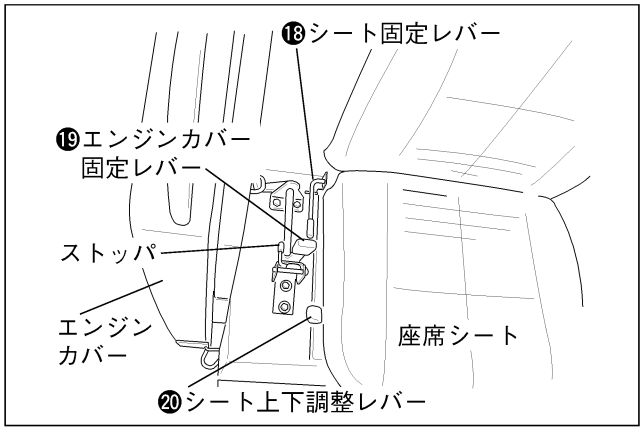


⑰　防じんカバー開閉レバー[キャビン無し仕様]

防じんカバーを上げる時に使用します。このレバーは運転席側（左下図）と防じんカバー下側（下図）で操作できます。下げる時はカバー上部の取手を持って押し下げます。

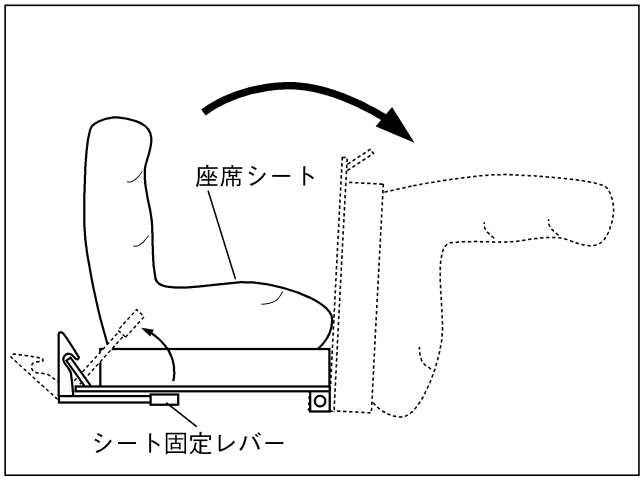


⑱　シート固定レバー



シートを前方に倒す時に使用します。

(1)　レバーを引上げ，固定を外します。
(2)　シートをゆっくり前方に倒します。
(3)　シートを通常の位置にもどすと，自動で固定がかかります。



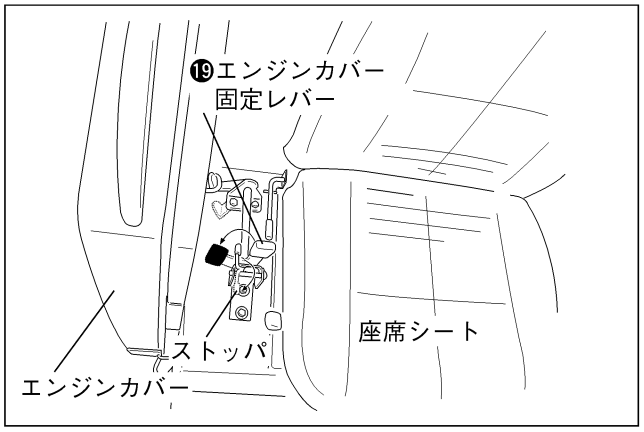
⑲ エンジンカバー固定レバー

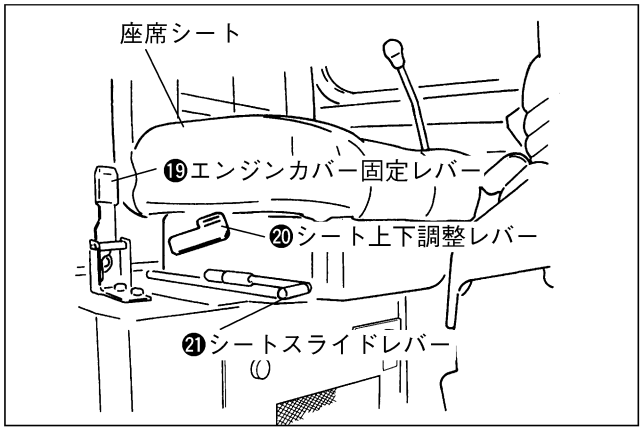
エンジンカバーを開く時に使用します。

(1) ストッパを解除します。

(2) エンジンカバー固定レバーを外側に倒し，固定を外します。

(3) エンジンカバーをゆっくり外側に開きます。



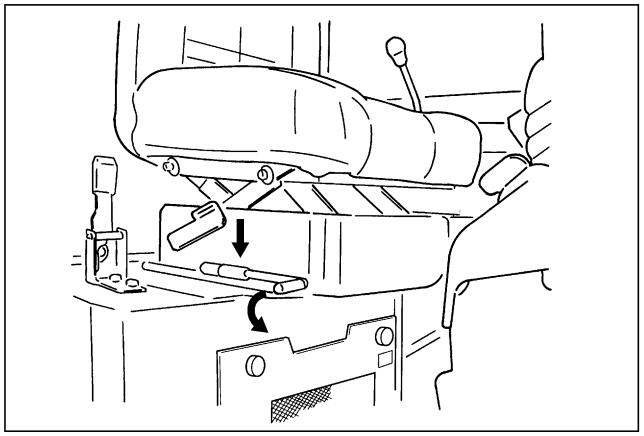


⑳ シート上下調整レバー

運転者の体格に合わせ着座位置を上下させます。

(1) レバーを押しながら腰をうかせます。バネにより，シート位置が上がります。

(2) レバーを押しながら腰をおろします。運転者の体重により，シート位置が下がります。



㉑ シートスライドレバー

運転者の体格に合わせ着座位置を前後にスライドさせます。

(1) レバーを下方に回動します。
この状態で固定が外れます。

(2) シートを前後にスライドさせ，最適位置でレバーから手をはなします。

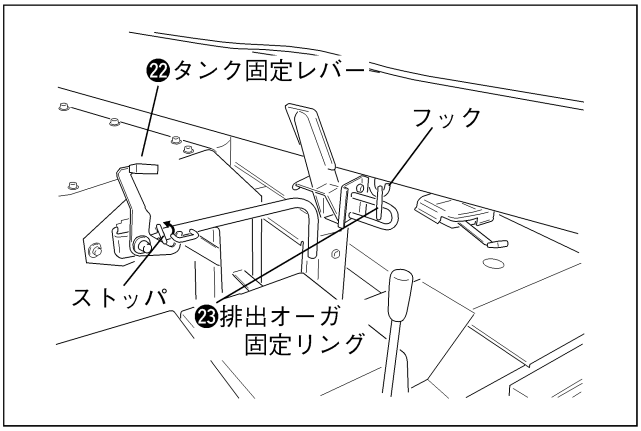
(3) その位置で固定されます。

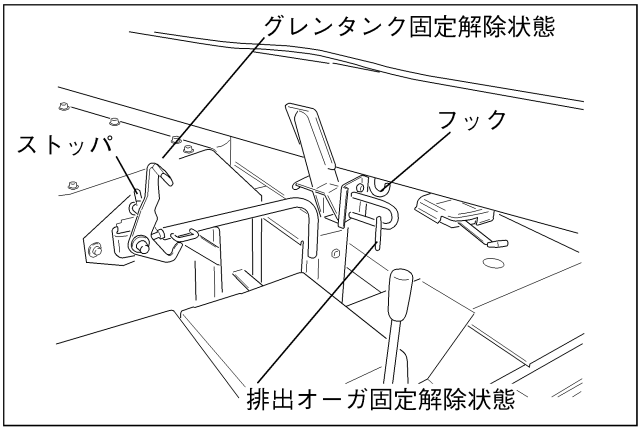
㉒ タンク固定レバー

グレンタンクを回動（オープン）する時にストッパを上げてタンク固定レバーを解除します。それ以外の時はタンク固定レバーを固定にしてストッパをかけておきます。

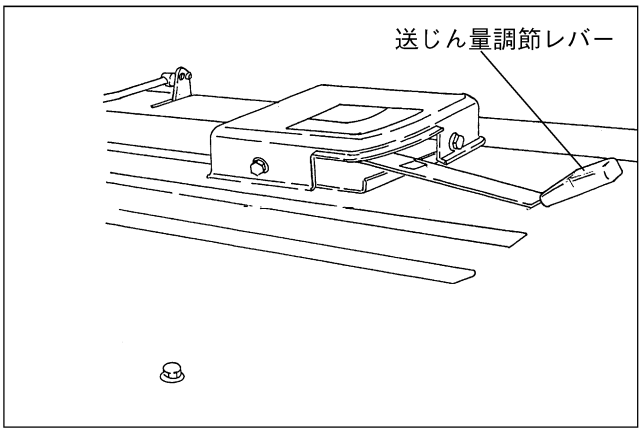
㉓ 排出オーガ固定リング

排出オーガを操作する前に固定リングを外します。排出オーガ収納時は固定リングをフックにかけておきます。





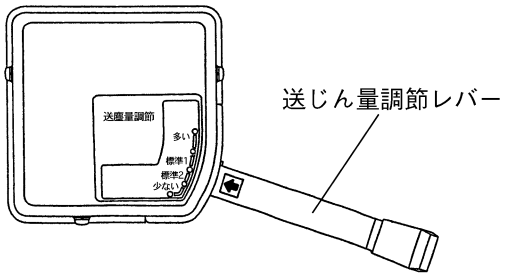
㉔ 送じん量調節レバー



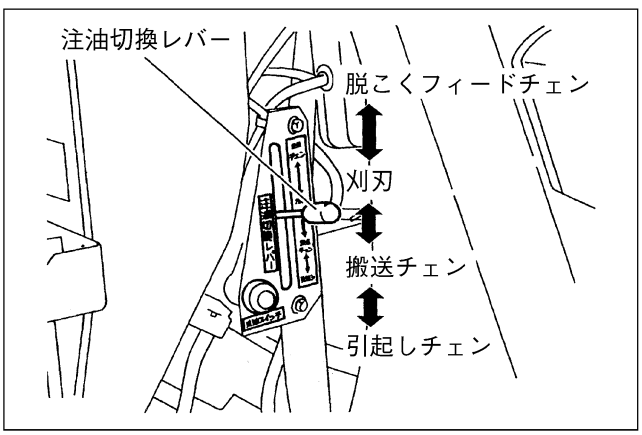
こぎ室内の送じん量を調節します。

《**標準 1**》位置で作業を始め，作業の状態に合わせて調節します。

・モミに枝梗付着が目立つときは《**標準 2**》位置で使用します。
・《**標準 2**》位置で作業してもモミに枝梗付着が目立つときは，《**少ない**》側で使用します。
・こぎ室内でゴトゴト音がして送じんがスムースでないときは，レバーを《**多い**》側で使用します。（倒伏材等）



㉕ 注油切換レバー



注油個所（脱こくフィードチェン・刈刃・刈取搬送チェン・引起しチェン）の切換えを行います。

3．電装関係

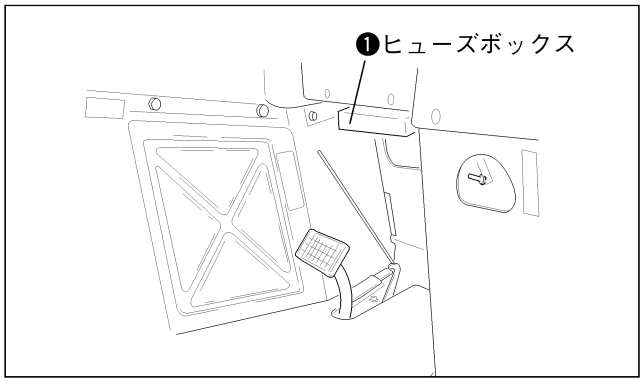
⚠警告 火災防止のために

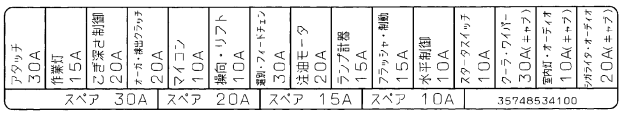
◆取付けてあるヒューズと同じ容量のヒューズを使用してください。針金，銀紙などを使用すると配線の過熱焼損の原因になります。

配線の回路に異常を生じたとき，事故を未然に防止するためにヒューズが設けてあります。

運転中，電気系統の異常を確認したときは，ヒューズの状態をチェックします。

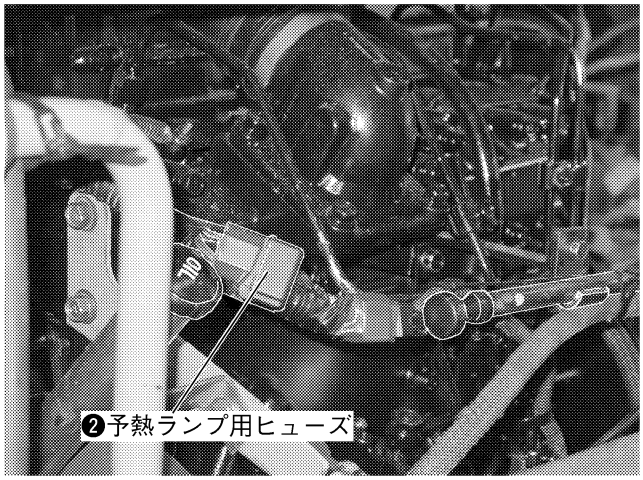
❶ ヒューズボックス

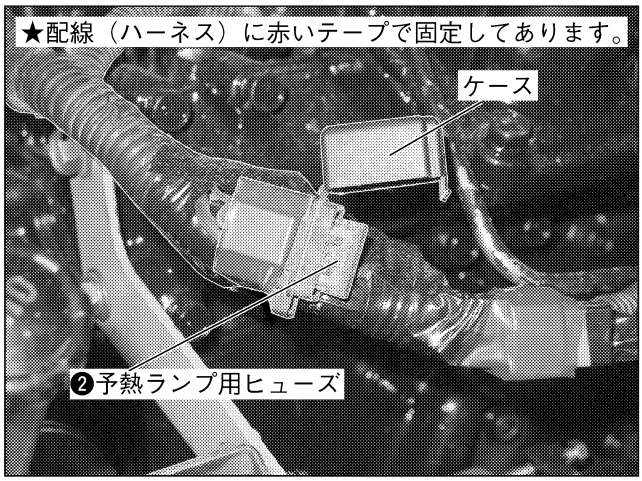




❷ 予熱ランプ用ヒューズ（10A）

予熱ランプ用保護ヒューズです。





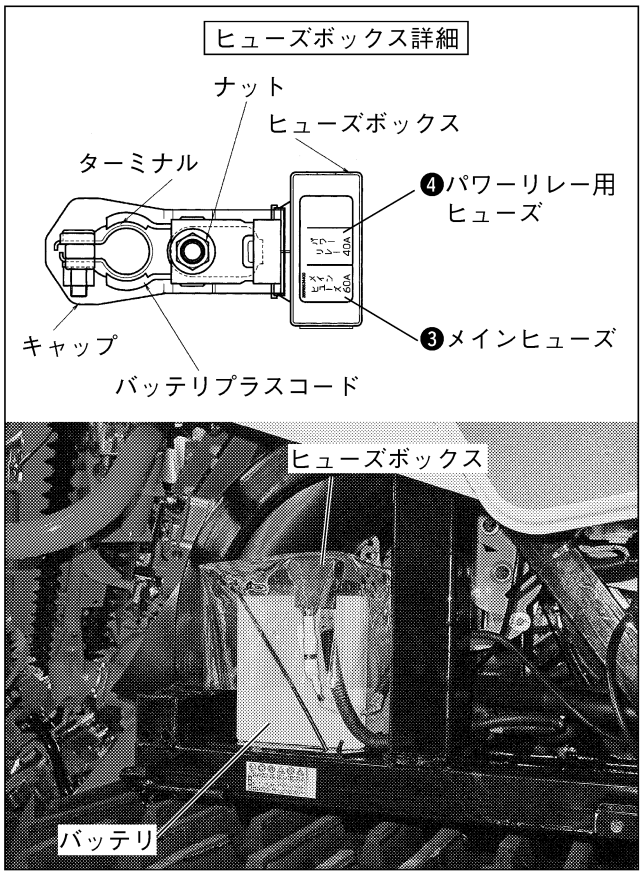
❸ メインヒューズ（60A）

全ての電気回路の保護ヒューズです。このヒューズが切れると全ての電気回路が使用できなくなります。

❹ パワーリレー用ヒューズ（40A）

エンジン始動回路の保護ヒューズです。

このヒューズが切れると全ての電気回路が使用できなくなります。



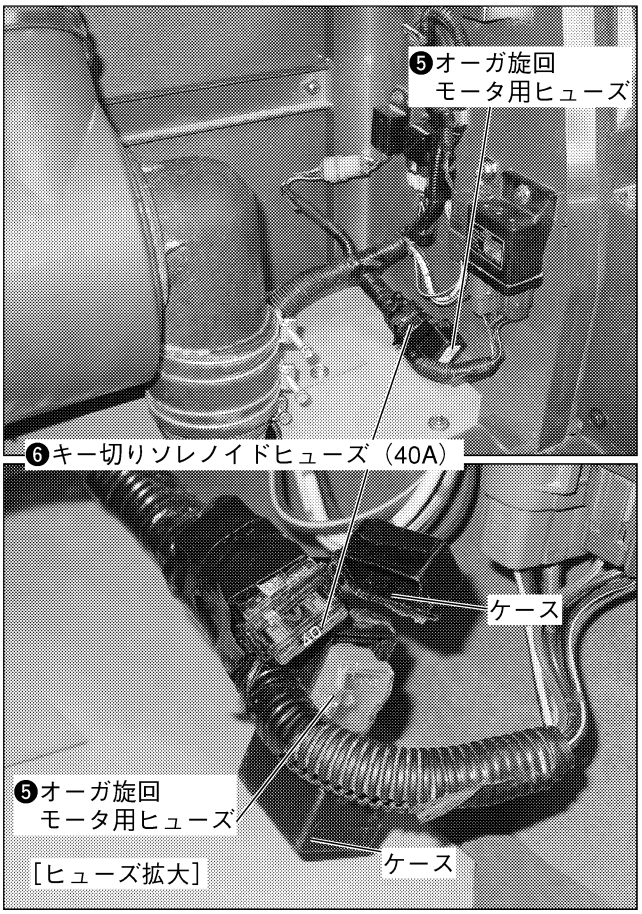
❺ オーガ旋回モータ用ヒューズ（40A）

オーガ旋回モータ用保護ヒューズです。

❻ キー切りソレイドヒューズ（40A)

燃料停止ソレイド（キー切りソレイド）回路の保護ヒューズです。このヒューズが切れると，エンジンが始動できなくなります。

・シート後のカバーを取外すとオーガ旋回モータ用ヒューズ，キー切りソレイドヒューズを見ることができます。



❼ ［ヒューズの交換］

(1) ブレード（板）ヒューズの交換

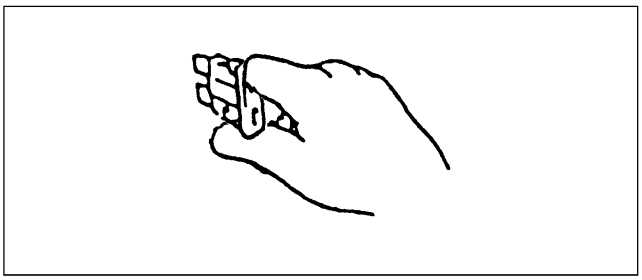
> ⚠警告 火災防止のために
>
> ◆取付けてあるヒューズと異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などをヒューズのかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

❶ヒューズボックス，❷予熱ランプ用ヒューズ，❻キー切りソレノイドヒューズはブレードヒューズを使用しています。

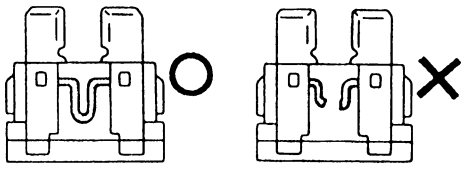
各ヒューズの該当する装置が作動しないときは次のように処置してください。

① スタータスイッチを《 切》位置にします。

② ヒューズボックス，ケースを開き直接指で引抜きます。



③ ヒューズが切れていれば，スペアのヒューズと交換してください。



取扱いのポイント

- **交換してもヒューズが切れる時は「お買いあげ先」で点検を受けてください。**

(2) ヒューズ（大電流用）の交換

⚠警告 火災防止のために

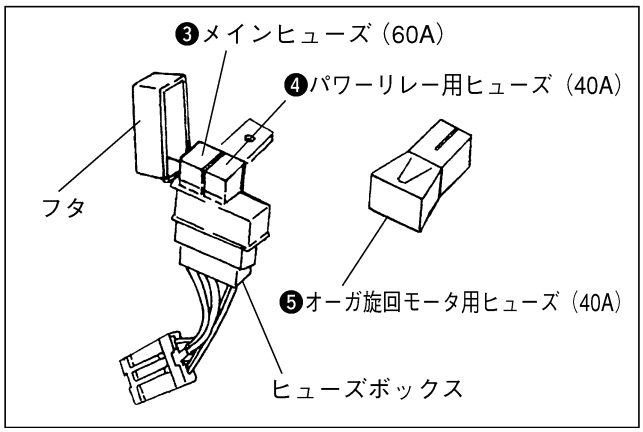
◆取付けてあるヒューズ（大電流用）と異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などをヒューズ（大電流用）のかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

❺オーガ旋回モータ用ヒューズ，❸メインヒューズ，❹パワーリレー用ヒューズはヒューズ（大電流用）を使用しています。

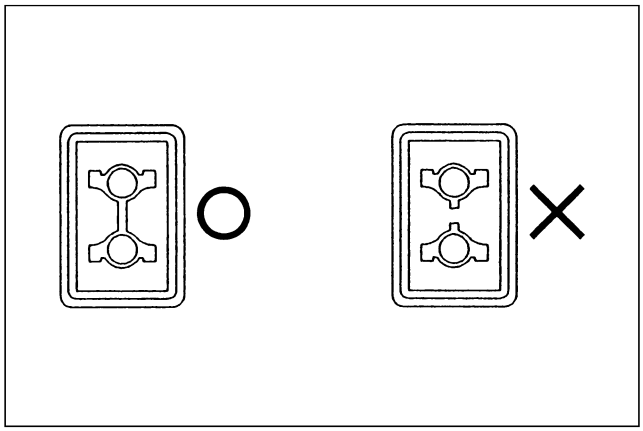
① バッテリ(－)端子を外します。

② ❸メインヒューズ，❹パワーリレー用ヒューズはヒューズボックスのフタを開きます。

③ ❺オーガ旋回モータ用ヒューズは，赤いテープをはがして配線から外し，ヒューズボックスを開きます。



④ ヒューズ（大電流用）が下図右側（×印）のようであればヒューズ切れです。指定のヒューズ（大電流用）と交換します。



取扱いのポイント

- **交換してもヒューズ（大電流用）が切れるときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。**

❽ ［ヒューズの機能］

・ヒューズが溶断した場合，下記の機能が作動不能となります。　　×：作動不能

ヒューズの種類 ＼ 影響の出る機能	エンジン始動	計器類のモニタランプ	前照灯・作業灯	ホーン	バックブザー	燃料の供給	マルチステアリングレバー	排出オーガ旋回	排出オーガ上下	選別自動制御	水平自動制御	こぎ深さ自動制御	方向自動制御(OP)	刈高さ自動制御	方向指示器	こぎ深さ手動操作	傾斜手動操作	結束位置自動モータ(OP)	エンジン自動停止	エンジン停止スイッチ	ジャストディレクタ(OP)	エンジン回転負荷モニタ	減速ターン(OP)	こく粒排出	ツインハーモニー	集中注油	クーラ(OP)	カーステレオ(OP)	ルームランプ(OP)	ワイパ・ウォッシャ(OP)	予熱ランプ	シガライタ(OP)	エンジン停止	強制かき込み
アタッチ 30A																		×															
作業灯 15A			×																														
こぎ深さ制御 20A												×				×																	
オーガ･排出クラッチ 20A																								×									
マイコン 10A				×	×		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×	×	×	×	×	×								×
操向・リフト 10A							×		×		×		×	×			×				×		×										×
選別･フィードチェン 30A										×															×								
注油モータ 20A																										×							
ランプ計器 15A		×	×	×	×	×																×											
フラッシャ・制動 15A															×																		
水平制御 10A											×						×																
スタータスイッチ 10A	×																																
クーラ・ワイパー 30A[キャビン仕様]																										×				×			
室内灯・オーディオ 10A[キャビン仕様]																												×	×				
シガライタ･オーディオ 20A[キャビン仕様]																												×			×		
オーガ旋回用ヒューズ 40A								×																									
予熱ランプ用ヒューズ 10A																														×			
メインヒューズ 60A	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×
パワーリレー用ヒューズ 40A	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×
キー切りソレイドヒューズ 10A																																×	

取扱いのポイント

●取換えてもヒューズが切れるときは「お買いあげ先」で点検を受けてください。

運転のしかた

1．運転まえの点検

安全作業のために毎日の運転まえに「**運転まえの点検表**」を参考に点検してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・給水・注油・点検する時は機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止してから行なってください。
◆ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行なってください。

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は給油をしないでください。
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給後は燃料キャップをしめ，こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆燃料ホースの老化や，傷によるもれなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷やもれがあれば交換してください。

「運転まえの点検表」

点検個所	内　　容	処　　置	参照ページ
エンジンカバー 及び金網 ラジエータフィン オイルクーラフィン クーラコンデンサ［キャビン仕様］	・金網の目詰まりはありませんか。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィン，クーラコンデンサフィンの目詰まりはありませんか。	・やわらかいブラシなどで，掃除してください。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィン，クーラコンデンサフィンは，コンプレッサのエアで掃除してください。	115
マフラやエンジン回り，サイドカバー(上)(下)(前)	・ワラクズがたまっていませんか。	・掃除をしてください。	—
各部の損傷，汚れ，ボルトのゆるみ	・エンジン始動後，異常音がしていませんか。	・ボルトのゆるみを締めてください。 ・損傷したものは交換してください。	—
油もれ	・各給油個所部に油もれがありませんか。	・給油，排油，検油栓のゆるみを締めてください。 ・直らない時は点検を受けてください。	95〜113
燃料ホース	・損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ）や燃料もれがありませんか。	・ホースを交換してください。 ・継ぎ部をしっかり締めてください。	155
電気配線	・他の部品に接触していませんか。 ・損傷はありませんか。	・傷んだ配線は交換修理してください。 ・電気配線回りのワラクズ等を取除いてください。	119

点検個所	内　　容	処　　置	参照ページ
エアクリーナ	・エレメントが目詰まりしていませんか。	・エレメントを軽くたたくか，内側からコンプレッサでエアを吹きつけてください。	116
エンジンオイル (エンジンクランクケース)	・オイルがレベルゲージの上・下限の間にありますか。	・エンジンオイルを適量補給してください。	98～99
冷却水（ラジエータ）	・補助タンクに適量ありますか。 （給水レベルの上・下限の間にあること。）	・清水を補助タンクに適量補給してください。	101～102
エンジン	・エンジン始動後の異音がありませんか。 ・排気ガスの色はきれいですか。	・点検を受けてください。	—
燃料（燃料タンク）	・作業に必要な量の燃料が入っていますか。	・ディーゼル軽油を補給してください。 タンク容量：80 L	97
ホーン	・ホーン・警報入切ボタンを押せば鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置してください。	28～31
方向指示器等の保安部品	・正常に作動しますか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置してください。	28～31
バックブザー	・主変速レバーを「後進」位置にした時，バックブザーが鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置してください。	28～31
警報ランプ	・オイル，充電，予熱ランプは消灯しますか。（エンジン始動後）	・エンジンオイルを補給してください。 ・バッテリを充電してください。 ・異常個所を調べ，処置してください。	98～99 119～122
回転計	・正常に作動しますか。（エンジン始動で）	・点検を受けてください。	—
マルチステアリングレバー	・ゆっくり走行してレバー操作して正常に旋回，刈取部が上下しますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置してください。 ・可変リリーフバルブのアジャスタボルトを調整してください。 ・副変速レバーを確実に切替えてください ・油圧固定スイッチを《**作業時**》位置にセットしてください。	28～31 159 22 24
走行クラッチペダル	・ゆっくり走行してペダル操作した時に正常に発進・停止しますか。	・走行ベルトを適正に張り調整してください。 ・走行クラッチペダルの踏込み量を調整してください。	160
チェン，ベルト，ワイヤ，ワイヤー	・たるみ，損傷はありませんか。	・正常に調整してください。	164～177

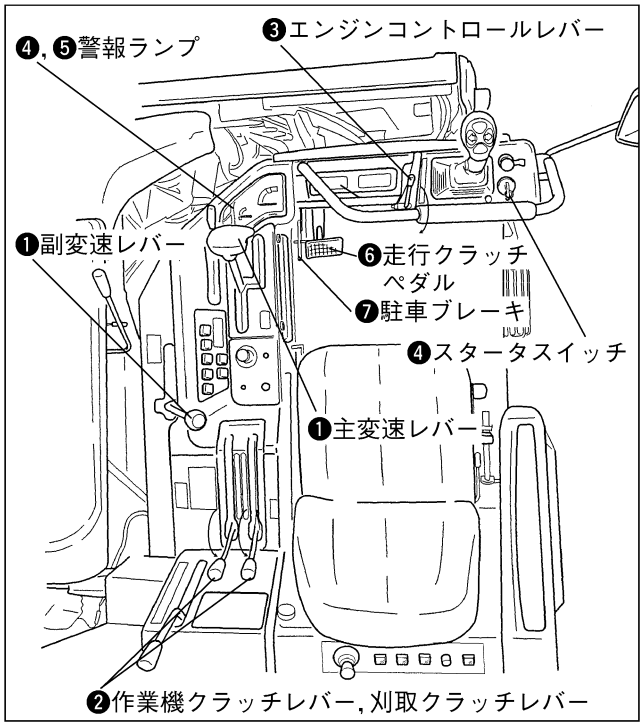
2．エンジンの始動と停止

⚠警告 傷害事故防止のために

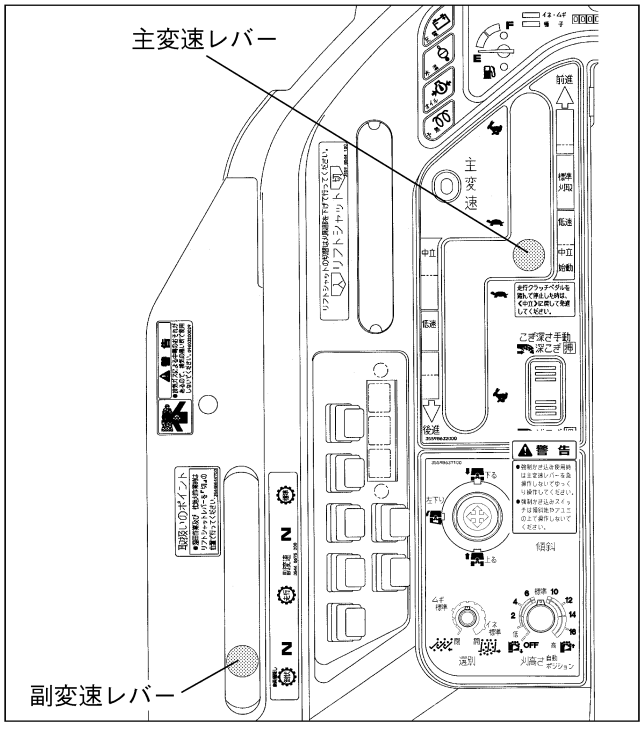
◆点検整備などで取外したカバー類はすべて取付けてください。
◆変速レバーが《N》(中立)，作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーが《切》位置であることを確認してください。
◆機械の周囲から人を遠ざけてください。
◆始動は座席に座って行なってください。
◆屋内での始動は窓や戸を開け換気をしてください。
◆暖機運転は主変速レバー，副変速レバー《N》(中立)にして，作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバー《切》で駐車ブレーキをかけて行なってください。
●運転者はエンジンをかけた状態では機械の周囲から離れないでください。
●外気温が「0℃以下」の時は暖機運転を10分間以上行なってください。行わないと油圧装置が正常に作動しなくなり，方向変換ができなくなることがあります。
◆空運転する時はこぎ胴部，グレンタンク部およびカッタ部を開かないでください。

1．エンジン始動のしかた

❶ 体格に合わせ着座位置を調節します。(27ページ参照)



❷ 主変速レバーを《**中立始動**》位置にし，副変速レバーを《**N**》（**中立**）にします。

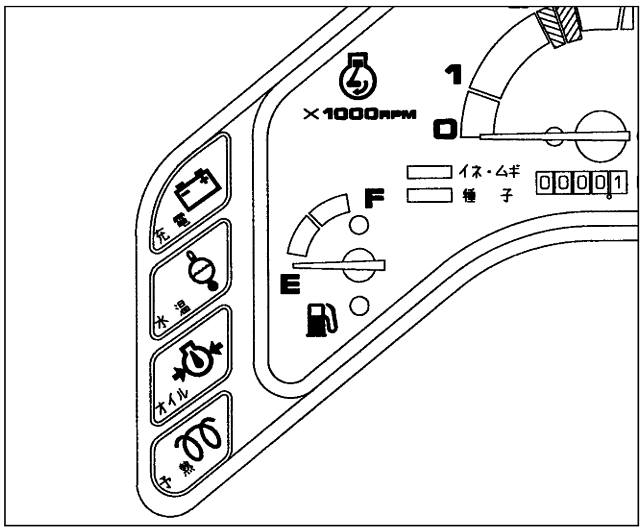


❸ 作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーが《**切**》位置にあることを確認します。

❹ エンジンコントロールレバーを《🐇》（高速）位置にセットします。

❺ スタータスイッチを《**入**》位置にし，「**オイル**」「**充電**」「**予熱**」の警報ランプが点灯することを確認します。

❻ 「予熱ランプ」が消えるまで待ちます。（約10秒）



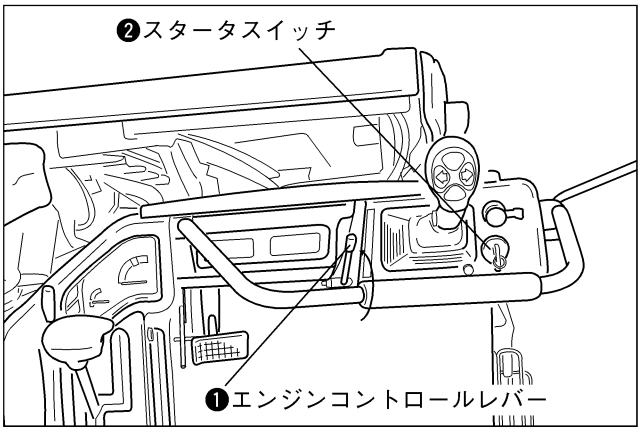
❼ 走行クラッチペダルをいっぱい踏込みスタータスイッチを《 始動》位置に回し，エンジンを始動します。

❽ 始動後，駐車ブレーキをかけ，エンジン回転を「2000rpm」程度にセットし，暖機運転をします。

取扱いのポイント

- **主変速（無段変速）レバーを《中立始動》位置にし，刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まなければエンジンは始動しません。**
- **エンジン始動後，「オイル」「充電」の警報ランプが消灯することを確認してください。**
- **スタータスイッチは５秒以上の連続使用はしないでください。**
  セルモータは短時間に大きな電力を消費しますので５秒以上の連続使用はバッテリ故障の原因となります。

２．エンジン停止のしかた



❶ エンジンコントロールレバーを《 》（低速）にします。

❷ スタータスイッチを《 STOP 切》位置にするとエンジンが停止します。

3．走行・停車のしかた

1．走行のしかた

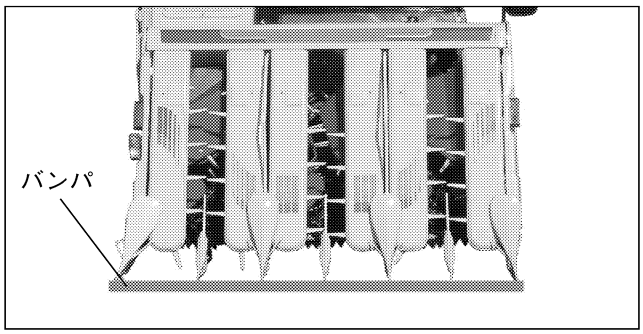
⚠警告 傷害事故防止のために

◆公道走行は交通法規を守って運転してください。
- カッタ以外のアタッチメントを取外します。
- 排出オーガは収納し，固定リングで固定します。

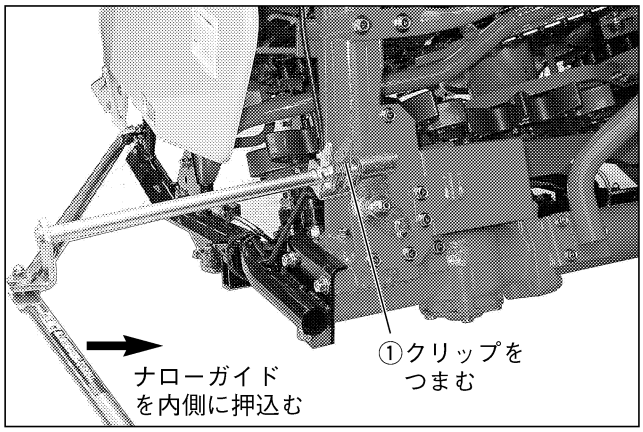
◆走行する前にグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。
◆ヘルメットをかぶってください。
◆発進，停止および旋回する時は周囲を確認し速度を落としてください。
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし時には，水平自動スイッチを「切」にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてください。
◆方向自動スイッチを「切」にしてください。［A，S仕様］
◆路上走行するときは，作業灯は消灯してください。
◆狭い農道や傾斜地では，路肩に寄りすぎないようにして低速走行し，軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。
◆路上走行するときは，スピンドライブターンや減速ターンは使用しないでください。［S仕様］
◆運転者の他に子供等，人や物を機械にのせないでください。
◆走行中に走行クラッチペダルを踏んで停止するときは，主変速レバーを《中立始動》に戻し，発進するときは低速から徐々に速度を上げてください。

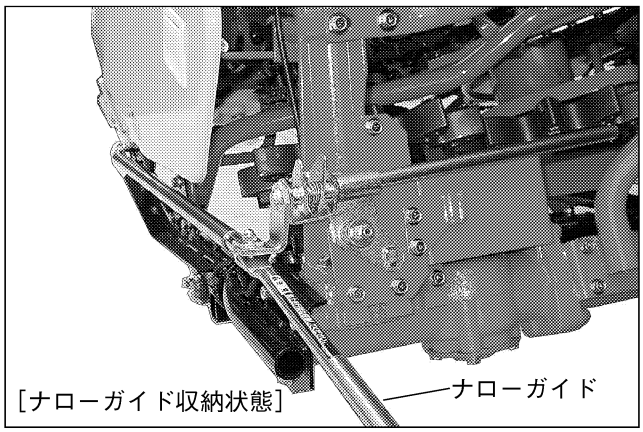
つぎのことを守り，運転をします。

❶ デバイダ先端に「**バンパ**」を取付けます。

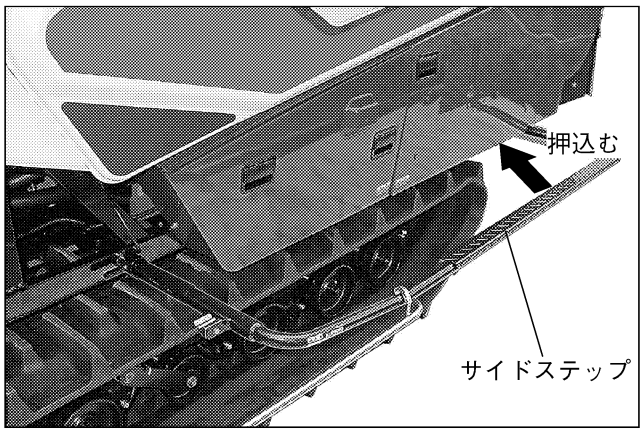


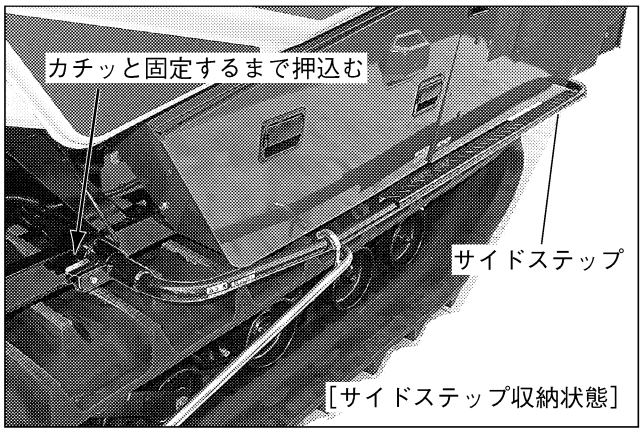
❷ 「**ナローガイド**」を内側に収納します。



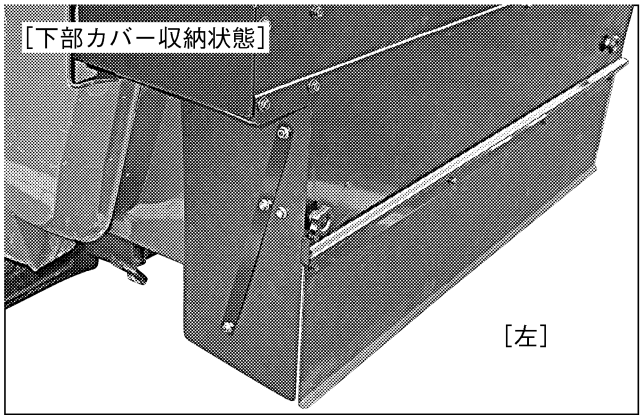


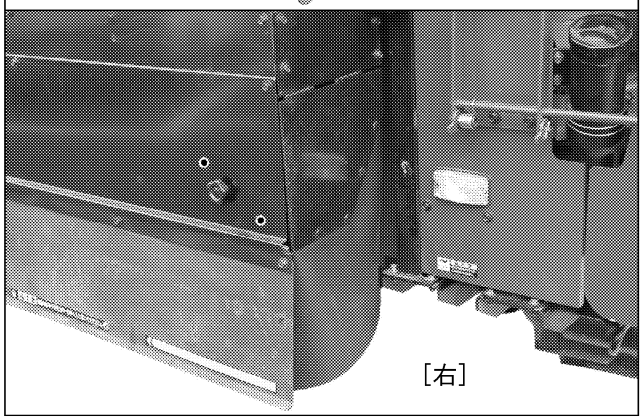
❸ 「**サイドステップ**」を収納します。（点検，整備時のみ，サイドステップを引出して使用します。）



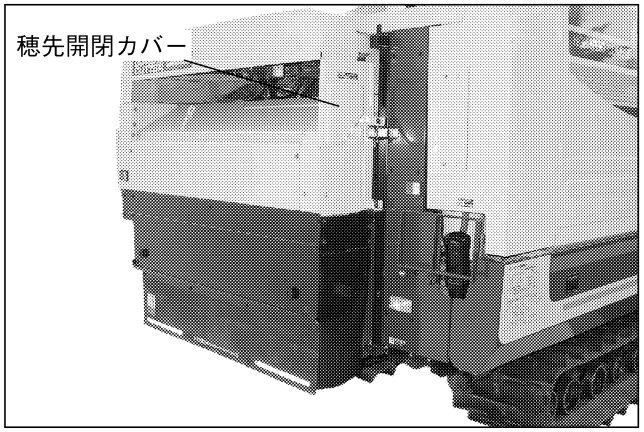


❹・公道を走行するときは，カッタ以外のアタッチメント（ノッタ等）を取外します。
・カッタは下部カバーを収納状態にします。



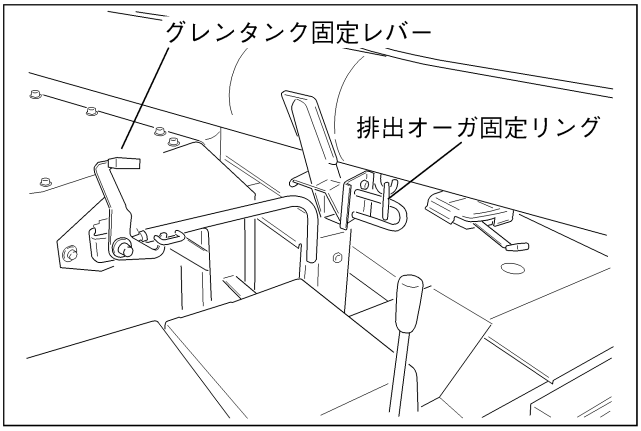


・カッタ右側の穂先開閉カバーを閉じます。



❺ グレンタンク内のこく粒をすべて排出し，排出オーガを収納します。

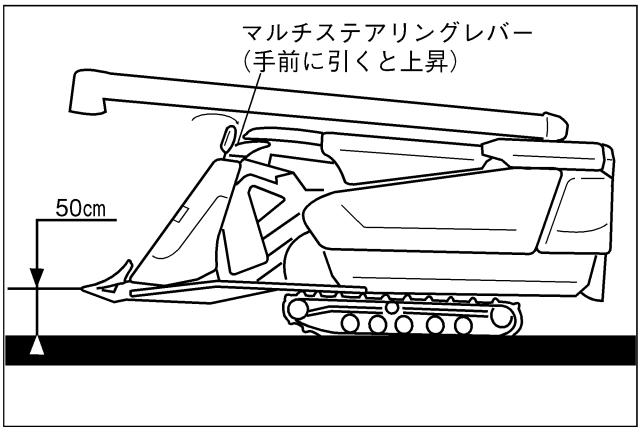
❻ 排出オーガの「**固定リング**」，グレンタンクの「**固定レバー**」がかかっていることを確認します。



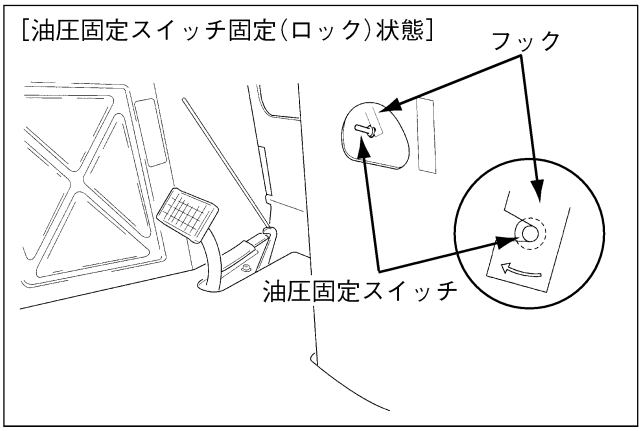
❼ 作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《**切**》にし，自動スイッチをすべて「**切**」にします。（スイッチのランプを消灯にします。）

❽ エンジンを始動してエンジン回転を「**2000rpm**」以上にセットします。

❾ マルチステアリングレバーで刈取部先端を「**50cm**」程度上げます。



⑩　油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にして，フックをかけ，刈取部を固定します。



⑪　水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。

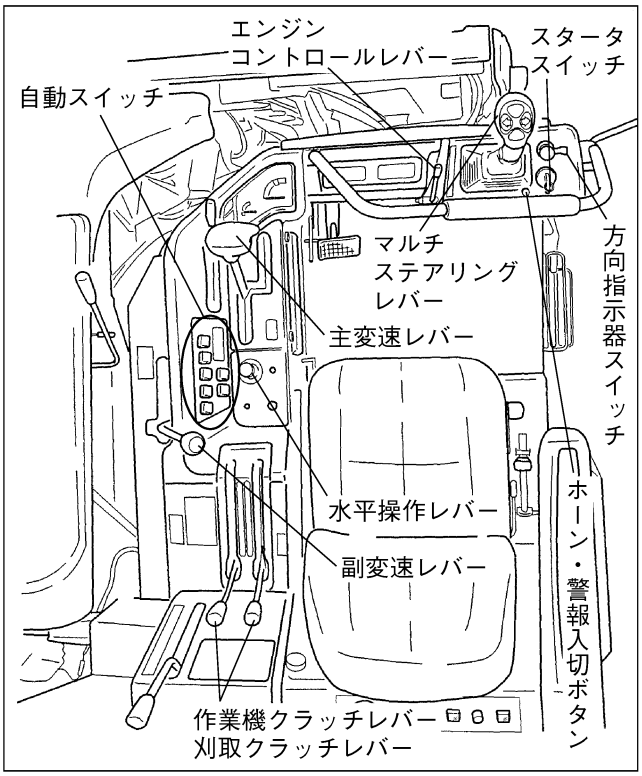
⑫　副変速レバーを走行する条件に合った位置にします。

⑬　主変速レバーをゆっくり操作し，適正な走行速度にします。

⑭　路上走行で方向を変えるときは，方向指示器を点灯し合図をします。

⑮　発進するときや作業開始の合図は，ホーンボタンで行います。

⑯　路上走行時は，作業灯は消灯します。



2．停車のしかた

⚠警告　火災や傷害事故防止のために

◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，刈取部を下げ，排出オーガを収納位置に戻して，各操作レバーを《N》(中立)，副変速レバーを《 倒伏 》に入れてください。

◆燃えやすいものの近くには止めないでください。

◆機械から離れる時は平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。

- ［キャビン仕様］はドアキーをかけてください。

❶　主変速レバー，副変速レバーを《**N**》(**中立**)にします。

❷　駐車ブレーキをかけます。

❸　エンジン回転を「**2000rpm**」程度にセットし，5分間程度空運転を行います。

❹　エンジンコントロールレバーを《 》(**低速**)にして，エンジンを停止します。

❺　副変速レバーを《 倒伏 》に入れて，駐車ブレーキレバーがかかっていることを確認します。

取扱いのポイント

- **駐車ブレーキを解除する時は，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで離してください。**
- **走行クラッチペダルは半クラッチでは使用しないでください。機械がずり落ちたり，走行ベルトが焼損する恐れがあります。**

4．自動車への積込み･積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，まわりに障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して次のことを守り，慎重に行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆自動車を停車し，アユミを自動車にセットする時はアユミが傾いたりしない平坦で硬い場所を選び，自動車は駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を１速か後進（バック）に入れ，タイヤに歯止めをしてください。

●アユミは，じゅうぶんな強度，長さ，幅のある基準に合ったすべり止め，フック付きを使用します。

●アユミのフックは段差のないように，またはずれないように荷台に平行にかけます。

◆機械を積込むまえにグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。

●水平自動スイッチを「切」にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。

●［A，S仕様］は方向自動スイッチを「切」にします。

◆積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行なってください。また機械の周囲に人を近づけないようにしてください。

●アユミの上での進路変更がないように，左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットします。

◆自動車への積込み・積降ろし中は，つぎの操作はしないでください。操作をすると，急に方向転換し転落する恐れがあります。

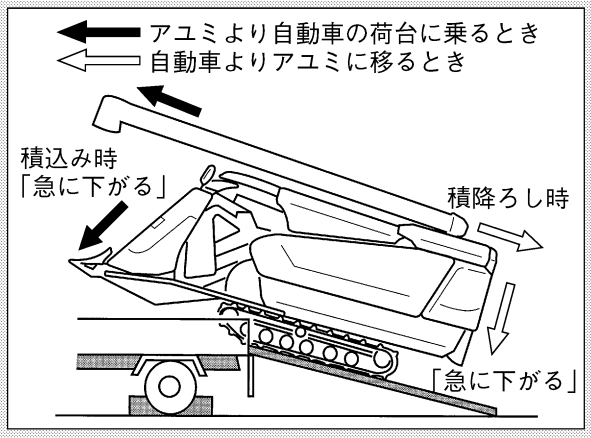
・主変速レバー
・副変速レバー
・マルチステアリングレバー
・走行クラッチペダル
・駐車ブレーキレバー
・ジャストディレクタ

} はアユミの上では操作しないこと。

◆積込みは前進，積降ろしは後進で，低速で行なってください。

◆［キャビン仕様］以外は機械に乗らないでください。また，機械の周囲には立たないでください。

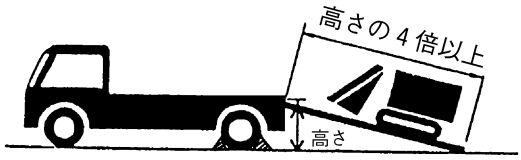
◆機械は自動車に乗る直前や降りる直後，急に姿勢が変わることがありますので，機械が自動車に乗って（降りて）から近づいてください。



◆各カバーの固定が確実か確認してください。

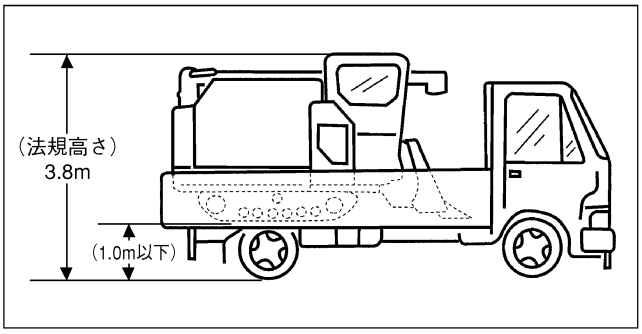
◆積込みが終わったらコンバインのフレームの４隅のフックにロープ又はワイヤをかけて機械を固定してください。
このフックは他の物のけん引には使用しないでください。

1．自動車・アユミについて



❶　積載重量4000kg以上の自動車で荷台から機械がはみ出さない車を使用します。

・［**キャビン仕様**］の場合は，荷台高さが1.0m以下の自動車を使用します。



❷　自動車は駐車ブレーキをかけ，タイヤに「**歯止め**」をします。

❸　アユミは，じゅうぶんな強度，長さ，幅のある基準に合ったすべり止め，フック付きのものを使用します。

アユミの基準

長さ	自動車の荷台高さの４倍以上
幅	60㎝以上
数量	２枚
強度	１枚が2,500kg以上の重量にたえるもの

❹　アユミは機械のクローラに合わせ自動車の荷台と平行に「**段差**」のないようにかけ，「**横ずれ**」したり，「**はずれ**」たりしないようにセットします。

2．コンバインの取扱い

❶　ナローガイド，サイドステップを収納します。（36ページ参照）

グレンタンク，排出オーガの固定を確認します。

❷　エンジンを始動して，エンジンコントロールレバーでエンジン回転を「**2000rpm**」程度にします。

❸　刈取部をいっぱい上げます。

❹　積込みは，主変速レバー前進の《**低速**》，副変速《 倒伏 》で行います。

❺　積降ろすときは，主変速レバー後進の《**低速**》，副変速《 倒伏 》で行います。

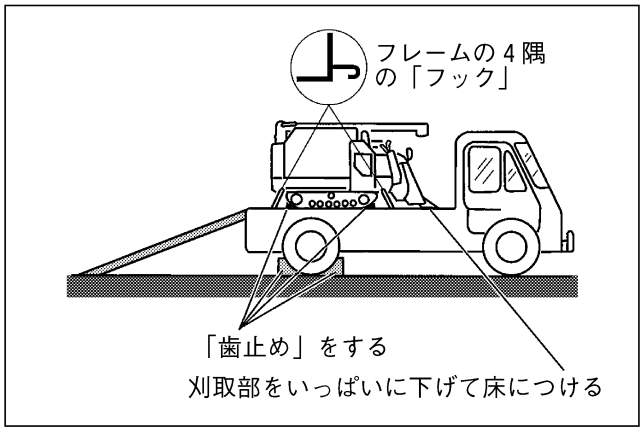
❻　［**キャビン仕様**］以外の積込み・積降ろしは，機械に乗らないで行います。

❼　積込み・積降ろしの途中では，進路変更，走行クラッチ操作，変速操作はしないでください。

❽　補助者の立会誘導のもとに，周囲を確認して行います。（補助者は機械の前後に立たないでください。）

❾　自動車に積込みが終わったら，機械のクローラに「**歯止め**」をし，駐車ブレーキをかけ，機械のフレームの４隅のフックにロープ又はワイヤをかけて固定します。

❿　刈取部は完全に下げて床につけます。



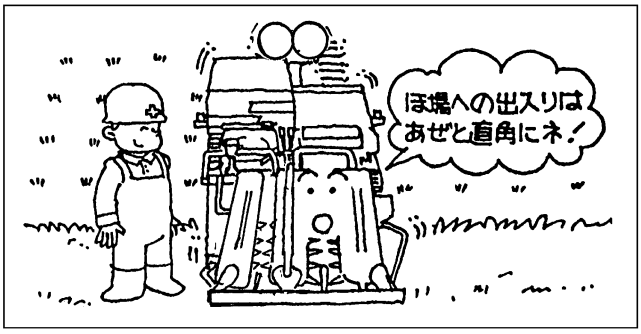
⓫　［**キャビン仕様**］を輸送する時はドアと窓を閉めて，ロックしておきます。

5．ほ場への出入り

⚠警告 傷害事故防止のために

◆10㎝以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使用し「低速」で「直角」に行なってください。
◆ほ場への出入りをする前にグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。
◆水平自動スイッチを「切」にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてください。
◆［A，S仕様］は方向自動スイッチを「切」にしてください。
◆あぜがくずれないことを確認してから，ゆっくり行なってください。

1．ほ場への出入りのしかた



❶ 刈取部を上げ，エンジン回転を「2000rpm」程度にセットし，副変速を《 倒伏 》，主変速（無段変速）を前進《**低速**》または後進《**低速**》にしてあぜに直角に走行します。

❷ アユミを使用する時は，「**自動車への積込み・積降ろし**」の内容に従って行います。

作業のしかた

1．作業まえの準備

作物やほ場の条件が刈取り作業に適していないと，脱こく精度が低下するおそれがあります。つぎの条件を整えて作業に入ります。

1．作物の条件について

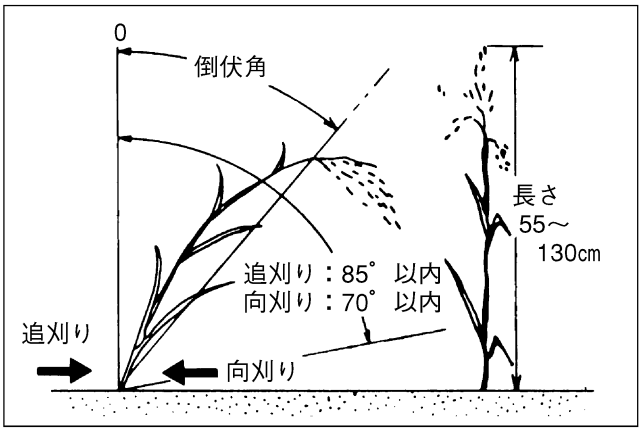
❶ 作物の長さと倒れ

・長さ…55～130㎝まで刈取りできます。

・倒れ（倒伏角）

…追刈り：85°以内まで刈取りできます。

向刈り：70°以内まで刈取りできます。



❷ 作物のぬれ

・ぬれた作物（雨あがり・朝露）の刈取りはつぎのようなことがありますので，乾燥するのを待って刈取ります。

・能率があがらない

・選別不良

・詰まりやすい

・乾燥処理時間の増加

❸ 病害虫におかされた作物

病害虫におかされた作物の刈取りはつぎのようなことがありますので，刈取り作業の速度をおそくするか，またはできるだけその部分は「手刈り」をしておきます。

・こく稈が折れやすい

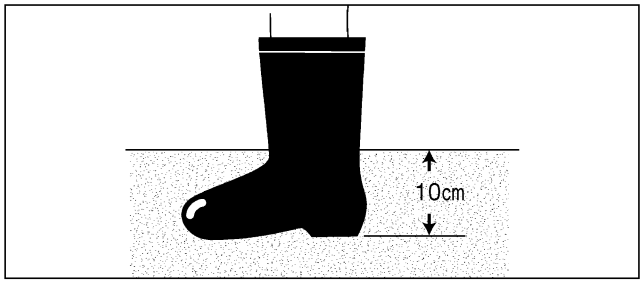
・刈取り・搬送部の詰まり

・脱こく部の詰まり

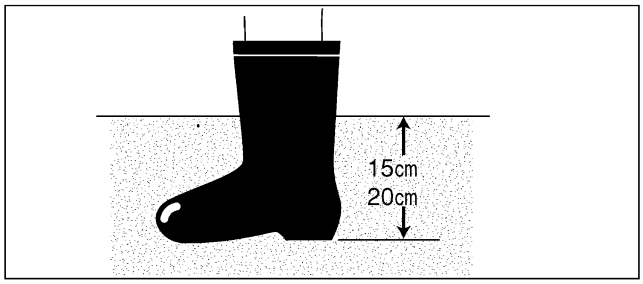
2．ほ場の条件について

❶ 湿田ほ場のぬかるみ程度

・沈下量が「10㎝」までは作業ができます。



・［湿田仕様］は沈下量が「15～20㎝」までは作業ができます。

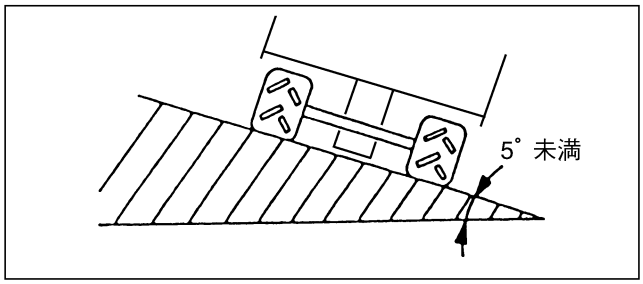


取扱いのポイント

●一度通ったクローラ跡はなるべく通らないようにしてください。

❷ 機械の傾斜

機械の傾斜角度5°以上では作業できません。



取扱いのポイント

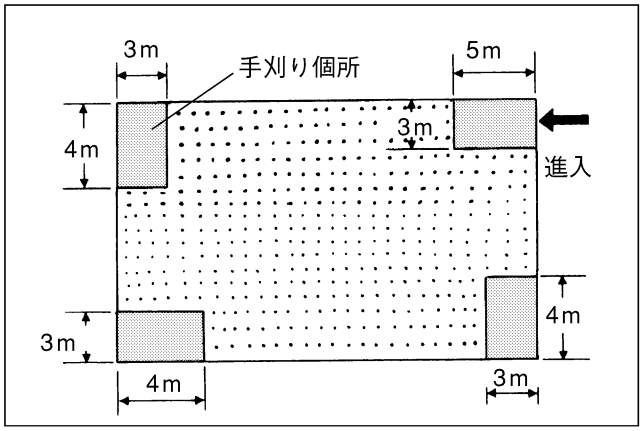
●適応範囲をこえての作業はできません。

●ほ場内に雑草が多いと刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

3．ほ場の準備

❶ 手刈り

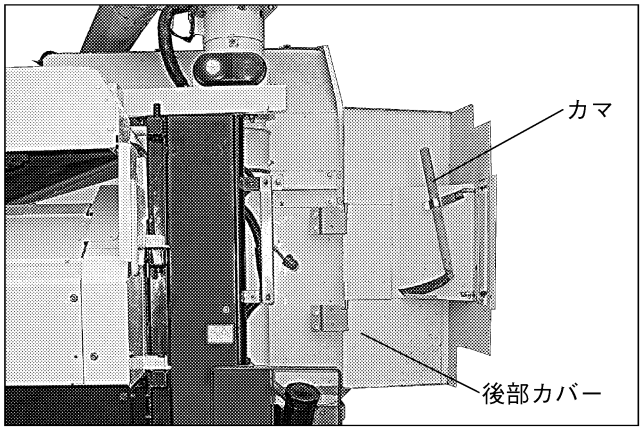
・機械をほ場に入れるまえに，あらかじめ四隅を「**旋回できる程度**」手刈りします。



・カマ差しはグレンタンク後部カバー内側にあります。

・グレンタンク後部カバーを開いてカマを図のようにセットし，刃部に手が触れないようにします。

・カバーは常時閉めておきます。



取扱いのポイント

●ほ場の周囲がコンクリートあぜ，又は高あぜで，あぜぎわいっぱいに植付けされているときは，作業に支障がないように手刈りしてください。

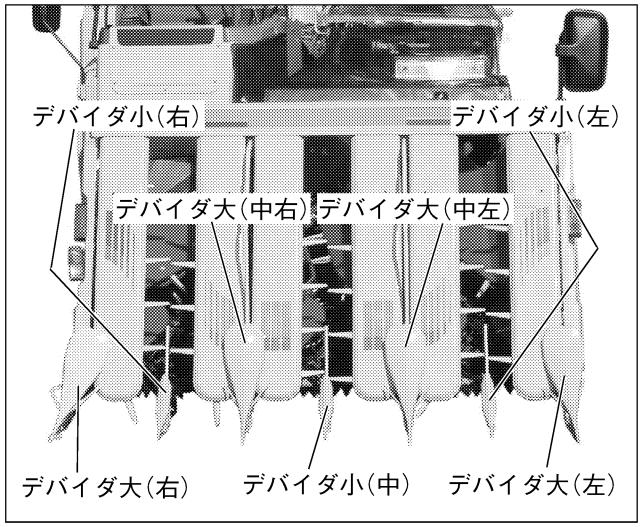
4．機械の準備

❶ デバイダの上下調整

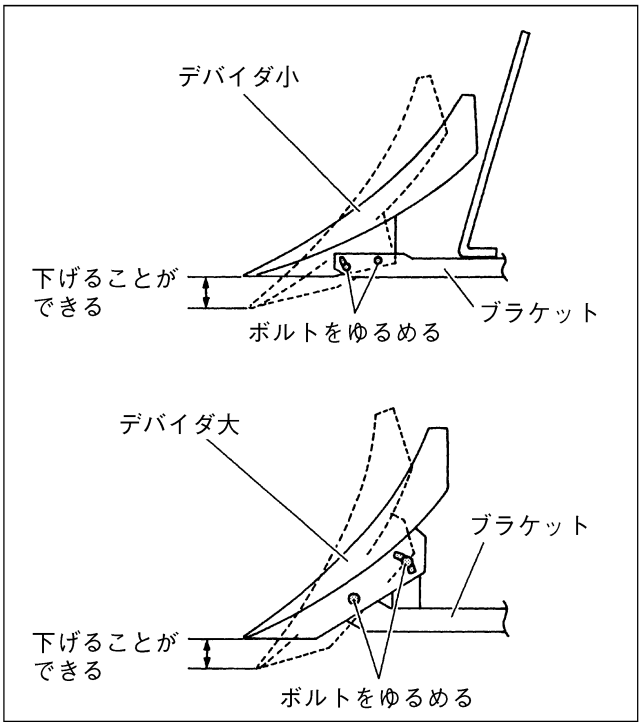
次のような場合は，デバイダを「**下側**」にセットします。

・刈取部を下げたときに，デバイダよりも先に刈刃が地面に着く場合。

・刈取部をいっぱいに下げても，デバイダが地面より離れている場合。



デバイダ取付ナットを緩めてデバイダが適正な高さとなるように長穴で調整し，締付けて固定します。



取扱いのポイント

- **デバイダの先端高さは，全てのデバイダが同じ高さになっていることを確認してください。**

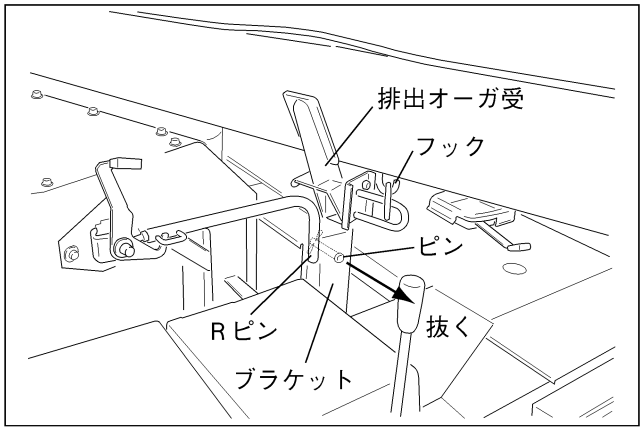
❷ 排出オーガ受のセット

⚠注意
◆刈取り作業時には，排出オーガを固定リングで固定してください。
◆路上走行時は排出オーガ受を「下セット」にしてください。

工場出荷時に排出オーガ受は「**下セット**」で出荷されています。

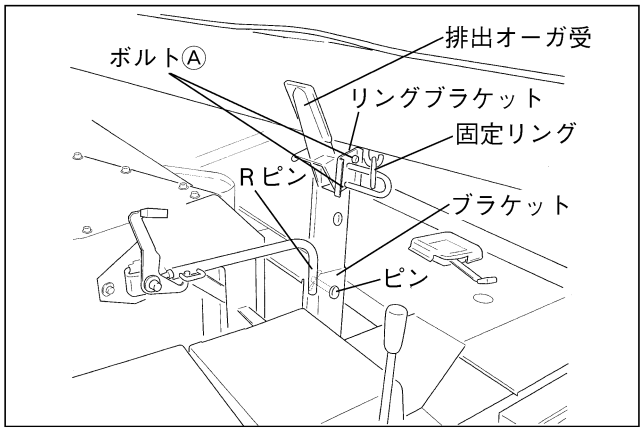
(1) オーガ固定リングを外し排出オーガを《**上げ**》ます。(54～55ページ参照)
(2) 排出オーガ受をとめているピンのRピンを抜き，ピンをブラケットから抜きます。

「出荷状態（下セット）」



(3) 排出オーガ受「**上位置**」のセット穴と，ブラケットの穴を合わせます。
(4) ピンを差込んで，Rピンでとめます。
(5) 排出オーガを《**下げ**》フックにオーガ固定リングを掛けます。

［上位置セット］

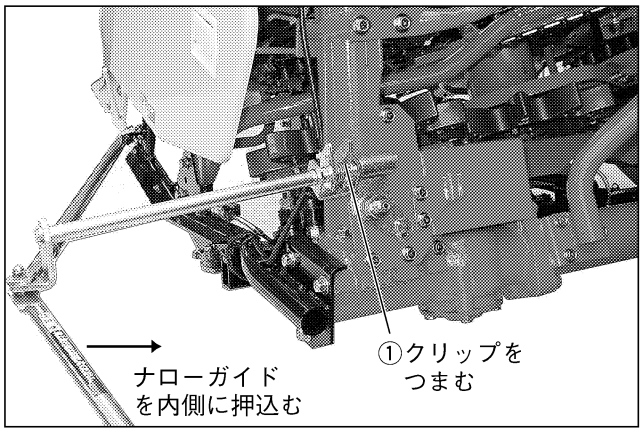


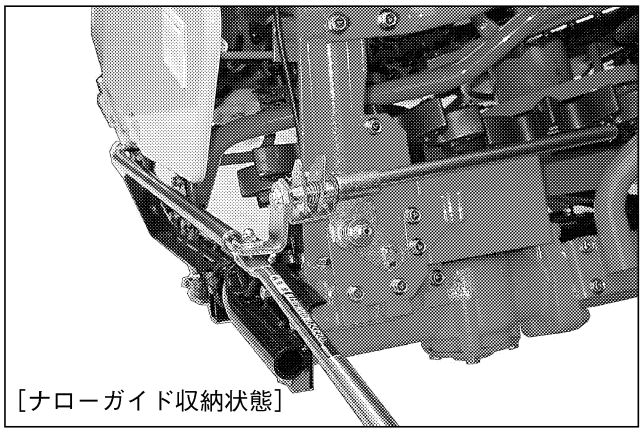
取扱いのポイント

- **キャビン仕様は，左のサイドウインドウ又はリヤウインドウを開けて，作業を行います。**
- **排出オーガ「上セット」の時，固定リングがフックにかからない場合がありますので，リングブラケットのボルトⒶをゆるめ，上下調整してください。**

❸ ナローガイドの調整

あぜ際右回り刈り作業やあぜ際がコンクリート等の壁になっているほ場では，ナローガイドを収納して使用します。





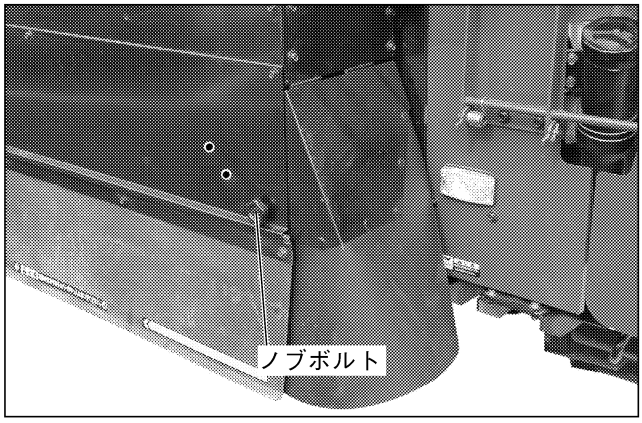
❹ カッター下部のカバーの調整

(1) カッター下部カバー（右）のノブボルトを外しカバーを開閉します。

(2) 下部カバー（左）のノブボルトを外しカバーを開閉します。

[下部カバー（右）通常作業状態]

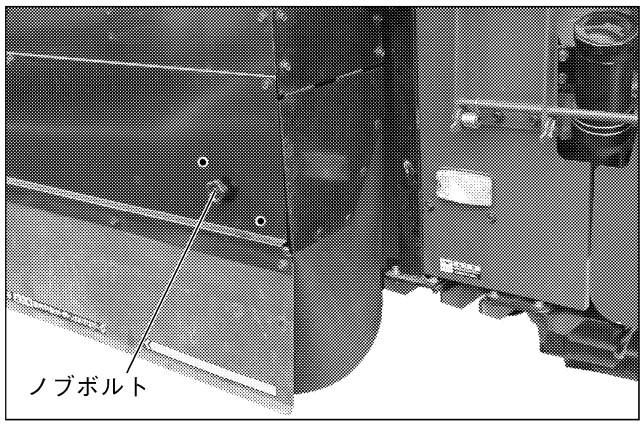
・通常の作業時はこの位置にセットします。



[下部カバー（右）ワラ左よせ状態１]

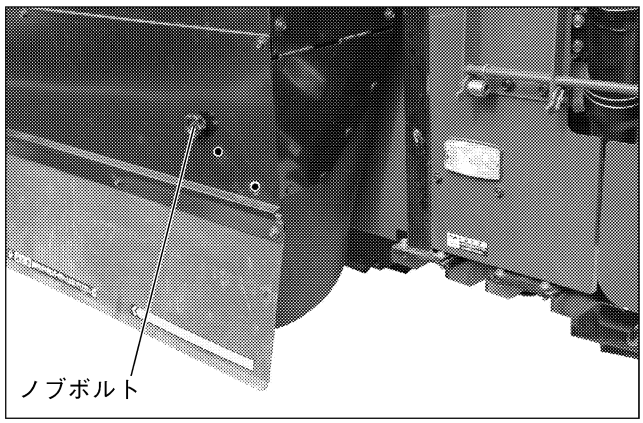
・ワラを少し左側によせたい時にこの位置にセットします。

又，路上走行時もこの位置にセットします。



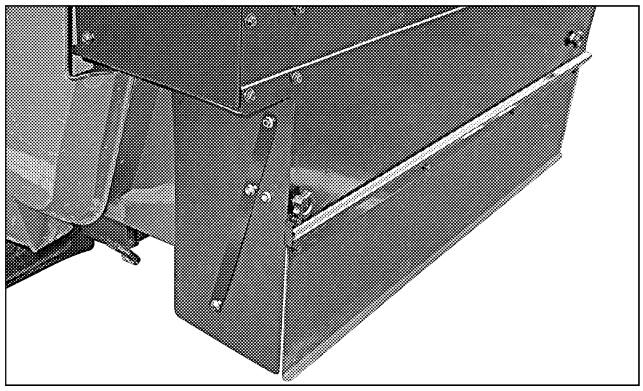
[下部カバー（右）ワラ左よせ状態２]

・ワラを左側によせたい時にこの位置にセットします。



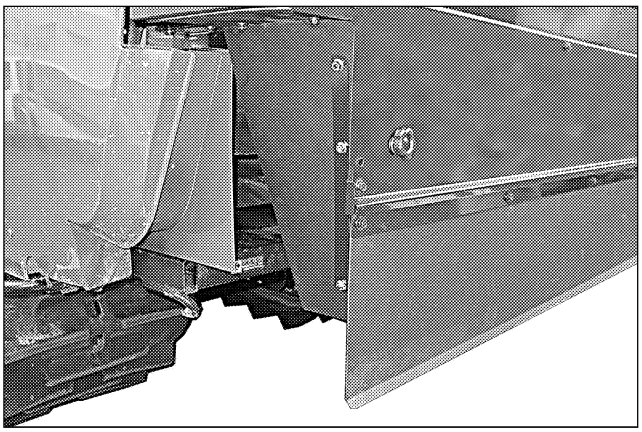
[下部カバー（左）通常作業状態]

・通常の作業時，路上走行時はこの位置にセットします。



［下部カバー（左）作業状態（ワラ右よせ）］

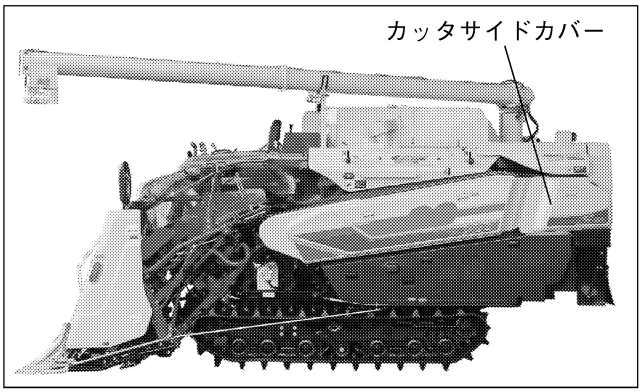
・稲が倒伏した状態で，ワラが稲にかぶってしまうのを防ぐ為にこの位置にセットし，ワラを右によせます。

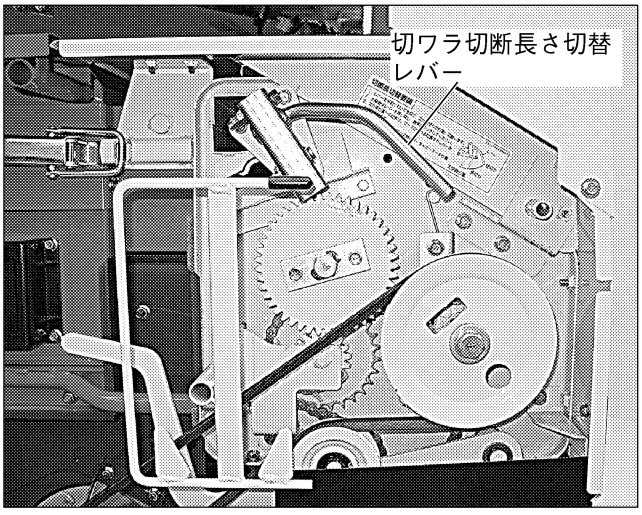


❺ ワラ切断長さ切替レバーの調節

「**カッタ**」作業の場合は「**切ワラ長さ**」を切ワラ切断長さ切替レバーで「**長切り**」「**短切り**」の2段階に調節します。

・カッタサイドカバーを外すと，レバーが見えます。



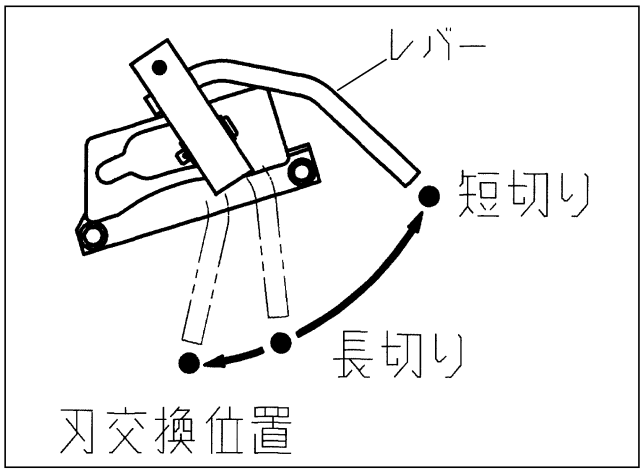


(1) レバーを手前に引いて長切り，又は短切りの位置に回動します。

(2)回動後はレバーを押し戻し，確実にロックしてください。

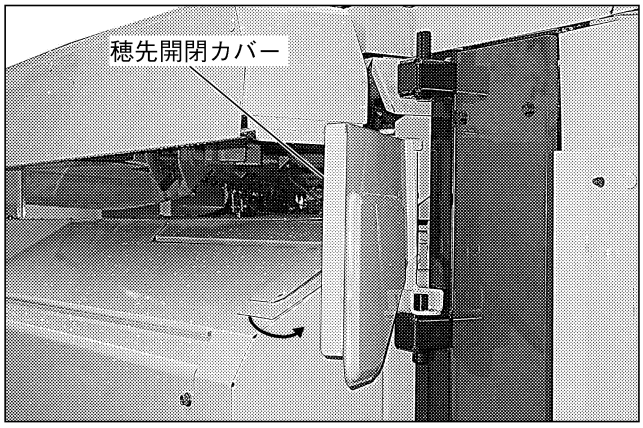
(3)刃交換位置への切替は，ロックが外れる位置までレバーを引き回動します。

★刃交換位置は，カッタ排ワラ切替レバーを《**カッター**》位置にして行ってください。



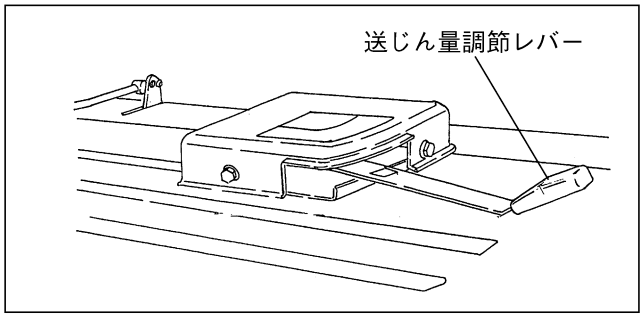
❻ 穂先開閉カバーの操作

「**排ワラ**」作業の場合は，穂先開閉カバーを開きます。



❼ 送じん量調節レバーのセット

送じん量調節レバーを《**標準１**》位置にします。



❽ 旋回方式の選択［S仕様］

⚠警告 傷害事故防止のために

◆減速ターンは通常の旋回より旋回半径が大きくなります。路上走行するときや狭い所では減速ターンは使用しないでください。

◆スピンドライブターンは急旋回しますので路上走行するときは使用しないでください。

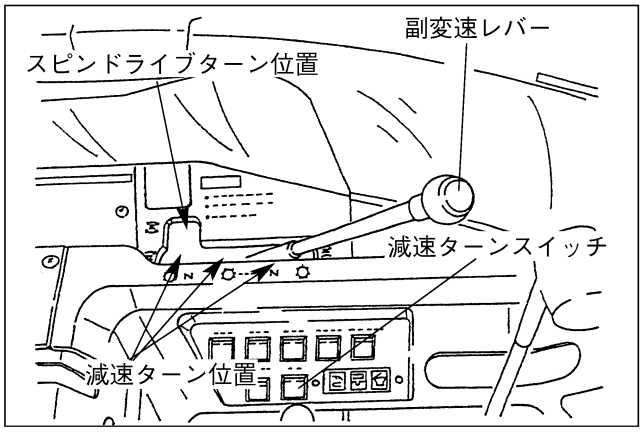
［S仕様］の場合，通常ブレーキターンの他に，作業条件に応じて次の旋回方式が選択できます。

《スピンドライブターン》

……左右のクローラが逆転して旋回します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用します。

《減速ターン》

……片側のクローラが減速し，左右のクローラが同じ方向に回転して旋回します。ほ場の荒れを少なくして作業する場合に使用します。

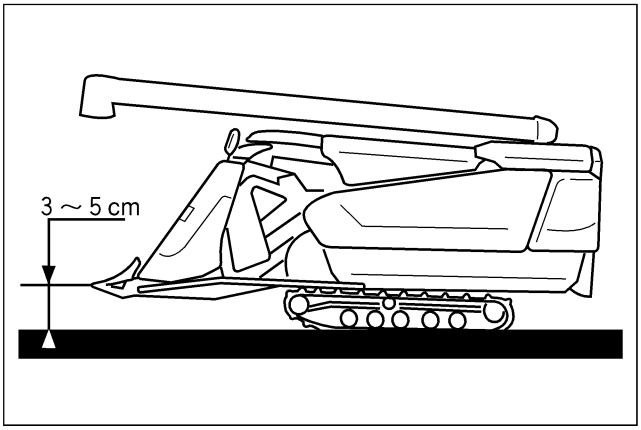


❾ 刈取り高さの調節

刈取部を下げ，デバイダ先端がほ場表面から「3～5㎝」になるようにマルチステアリングレバーで調節します。

・倒伏および短い作物の場合は，デバイダ先端を地面すれすれに調節します。

・［A，S仕様］は刈高さ自動スイッチを押して自動制御で作業が行えます。



2．刈取り作業のしかた

・麦刈り作業時の調整のしかたは68ページを参照してください。
・各自動装置の取扱いは **自動装置について** の項を参照します。

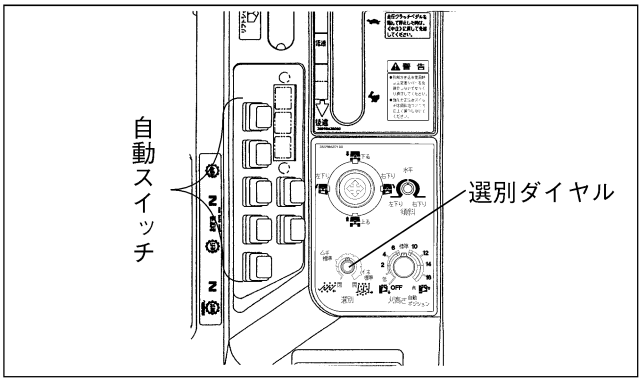
1．刈取り操作の手順

⚠警告 傷害事故防止のために

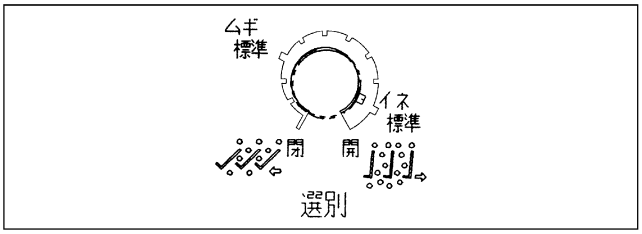
◆刈取り作業をするときは，周囲を確認し，機械に人を近づけないでください。
◆作業中に走行クラッチペダルを踏んで停止した時は，主変速レバーを《中立始動》位置に戻してください。発進するときは低速から順次に速度を上げてください。

❶ エンジンを始動し，各自動スイッチが点灯していることを確認します。使用したい自動スイッチが消灯している場合は，スイッチを押して点灯させます。

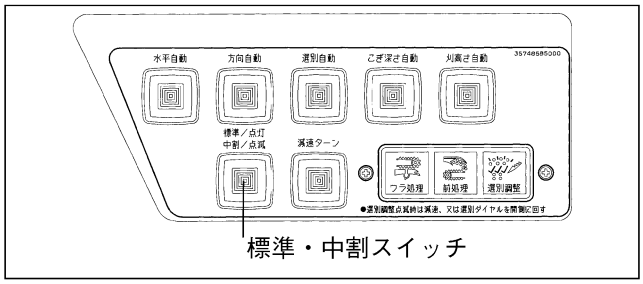
❷ 選別ダイヤルを刈取る作物に合った位置にセットします。



・選別ダイヤルのセット方法は，**「選別自動制御の取扱い」**の項を参照。



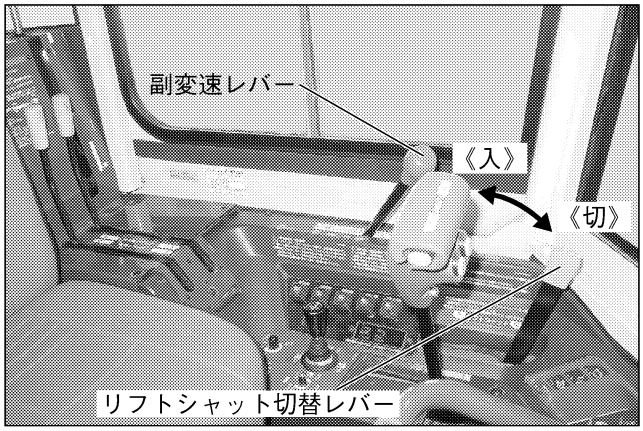
❸ ［**A，S仕様**］は，標準・中割スイッチを押し，自動制御を作動させます。（方向自動使用時）



・**「条刈り」**のときはランプ**「点灯」**で使用します。
・**「中割作業」**のときは，スイッチを押してランプ**「点灯」**から**「点滅」**に切替えて使用します。

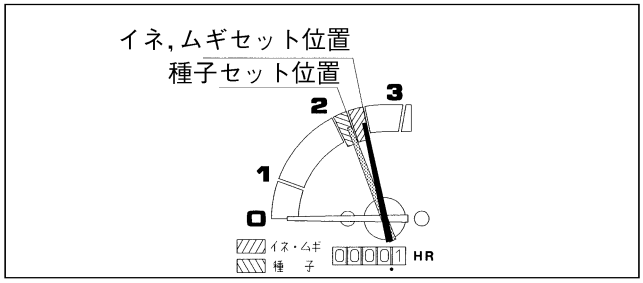
❹ リフトシャット切替レバーを作業に応じて《**入**》，または《**切**》位置にします。（25ページ参照）

❺ 刈取り条件に合わせ副変速レバー位置を調整します。（22ページ参照）



❻ エンジン回転を調整します。

❼ 刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《**入**》位置にします。回転計の指針が**「色別表示の上限」**になるようにエンジンコントロールレバーで調整します。



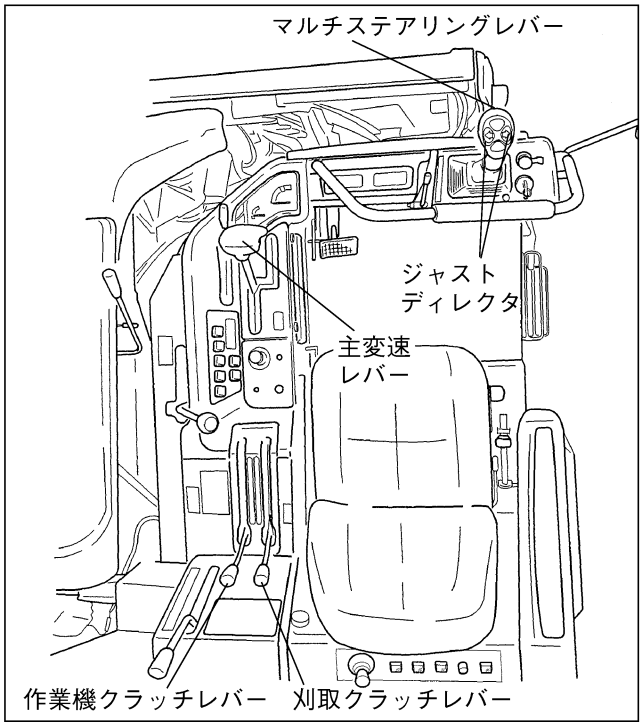
❽ 最初は低速で発進し，刈取り条件に合わせ，主変速レバーで適正な速度を選びます。（**「作業速度の選びかた」**参照）

❾　方向修正は，マルチステアリングレバーを操作して行います。

・ジャストディレクタで方向修正を行うとスムーズに修正できます。

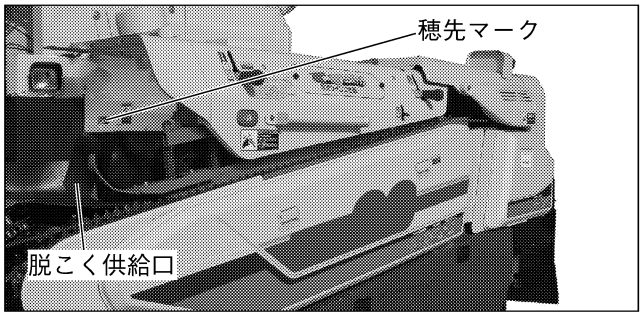
［A・S仕様］

・方向自動制御を使用する場合は,「**方向自動制御**」の項を参照してください。



❿　**適正こぎ深さの調整**

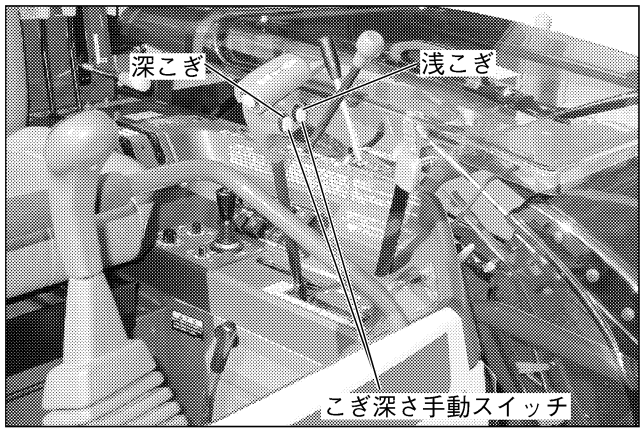
作物が脱こく供給口に搬送され始めたら作物の穂先と「**穂先マーク**」との位置関係を確認します。



・こぎ深さを変更する場合は,「**こぎ深さ自動制御**」の項を参照してください。

取扱いのポイント

- **こぎ深さの調整方法には手動スイッチで調整する方法と，自動的に制御する方法の2種類があります。**
- **手動調整を行う時は自動スイッチを押し，ランプを消灯させて自動制御を「切」にします。再び自動制御を行いたい時は，自動スイッチを押し，自動制御に切替える必要があります。**
- **こぎ深さ自動は，刈取った作物の長さを搬送の途中に設けたセンサで検出して適正なこぎ深さとなるように自動的に調整します。こぎ深さ自動使用中に手動スイッチで手動操作すると手動が優先となりますが，手動スイッチから手を離すと自動設定位置に復帰します。**



⓫　作業中は，回転計の指針が,「**色別表示の範囲内**」に位置するように，主変速レバーで適正な速度に調整します。

刈取り作業中，エンジン回転が下がると，エンジン回転負荷モニタランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。その時はすぐに主変速レバーで走行速度を下げ，適正負荷レベルにして作業を行います。

取扱いのポイント

- **規定の回転より低いと，こぎ残しが多くなったり，脱こく内部にこく粒が詰まったりすることがあります。**
  また，回転が高すぎると，こく粒が損傷したり飛散が多くなることがあります。
- **エンジン回転負荷の警報ブザーは警報入切ボタンを押しても鳴りやみません。**
  走行速度を落としてエンジンの負荷を軽くするとブザーは鳴りやみます。

2．作業速度の選びかた

・作物の状態など，作業内容に合わせて，副変速・主変速レバー，引起し変速レバーの速度を選び，最適の状態で作業してください。

<table>
<tr><th rowspan="2">No.</th><th rowspan="2">使用条件
（作物の状態）</th><th colspan="4">変　速　レ　バ　ー　位　置</th></tr>
<tr><th>副変速</th><th>引起し変速</th><th>主　変　速</th><th>各　レ　バ　ー　略　図</th></tr>
<tr><td>①</td><td>1. 直立。
2. 半倒伏の場合。</td><td>標準</td><td>低速
標準</td><td rowspan="6">「中立」位置から発進してください。

刈取作業を行い，稈の搬送状態，及びエンジンの馬力の余裕に応じて順次速度を上げてください。</td><td rowspan="8">
</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1. 倒伏追い刈りなどで穂先が極端に遅れている場合。または整然と搬送されない場合。</td><td>倒伏
標準</td><td>高速</td></tr>
<tr><td>③</td><td>1. 全倒伏の場合。
2. 周囲刈りで，低速作業をする場合。
3. 稈のボリュームが多く，脱こく部が頻繁にゴトゴト音を発する場合。</td><td>倒伏</td><td>標準</td></tr>
<tr><td>④</td><td>1. 脱粒しやすい品種を刈取る場合。
2. 倒伏向刈りなどで株抜けや，稈の浮き上がりが目立つ場合。
3. 根腐れや根付きが悪く，株抜けが発生する場合。</td><td>標準</td><td>低速</td></tr>
<tr><td>⑤</td><td>1. ④の２，３の場合で穂先の遅れや稈のボリュームが多く，脱こく部がゴトゴト音を発する場合。</td><td>倒伏</td><td>低速</td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>1. 路上走行
2. 長距離の走行</td><td>走行</td><td>－</td></tr>
<tr><td>⑦</td><td>1. 積込み，積降ろし
2. あぜ越え</td><td>倒伏</td><td>－</td><td>「中立」から低速，エンジン2000回転程度。</td></tr>
<tr><td>⑧</td><td>1. 集中注油</td><td>N
（中立）</td><td>－</td><td>「中立」から
「標準刈取」</td></tr>
</table>

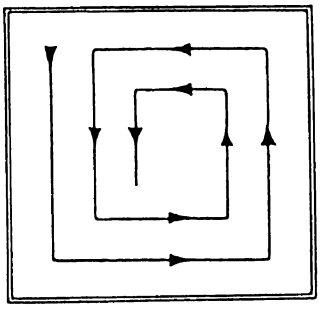
3．刈取り手順

❶ 回り刈り（左回り）

・このコンバインでの刈取りは,「**左回り刈り**」が基本です。

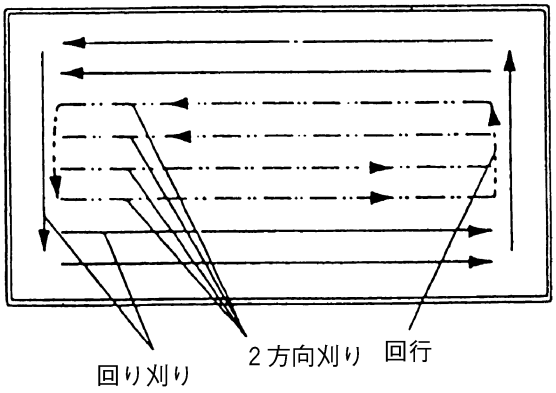
ほ場の形状・大きさにより，つぎのような刈取りをします。

⑴ 正方形に近いほ場



⑵ 長方形に近いほ場

・回行部分が広くなったら，長い２方向のみ刈取ると能率的です。

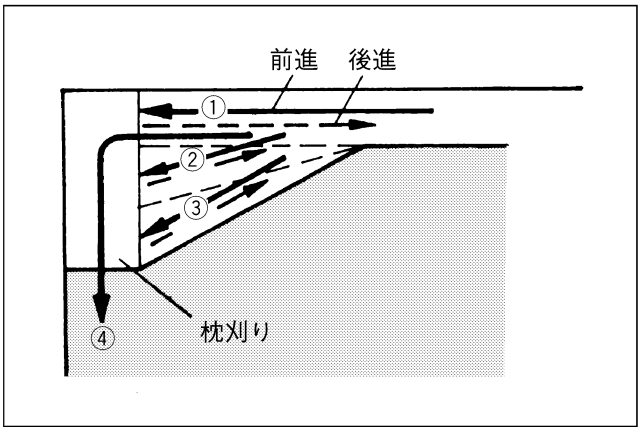


⑶ あぜぎわ刈り

あぜの草等により，デバイダが見づらい場合がありますので，右デバイダをあぜに当てたり，デバイダ先端を突っ込んだりしないように刈取りします。

⑷ コーナー部の刈取り

回り刈り時機械が旋回できるコーナー部が狭い場合の刈取りは下図のようにします。

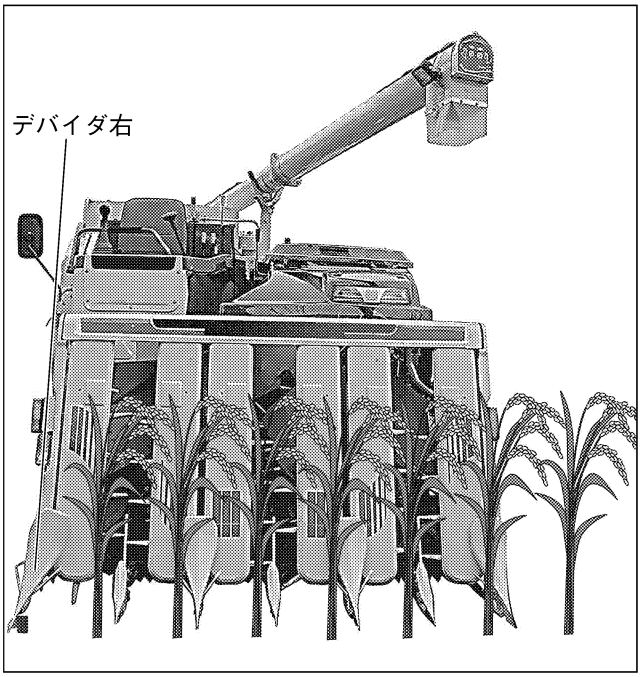


取扱いのポイント

- **コーナー部の刈取り中に方向修正しないでください。途中で方向修正すると稈が倒れ稈長が不揃いになりこぎ残しの原因になります。**
- **②③の斜め刈りで回行しにくいときや湿田では斜め刈りの回数をふやして刈取りしてください。**

⑸ 条合わせ刈り

・デバイダ（右）を基準に「**左回り**」で刈残しのないように刈取りします。



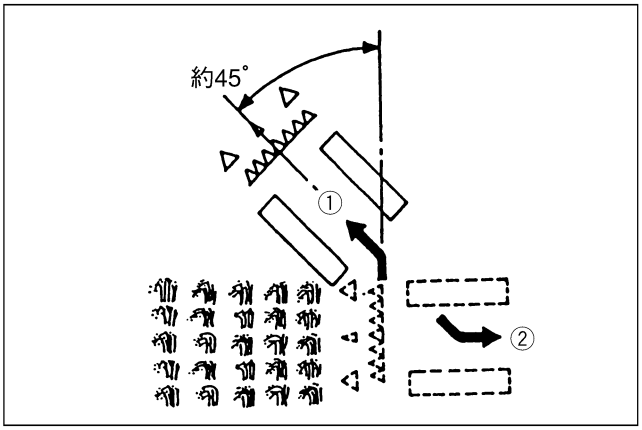
(6) 旋回のしかた（左回り刈り）

・刈り終わったら刈取部を上げます。

作業機クラッチレバーを《**切**》にしないで，エンジン回転はそのまま，連続作業の状態で旋回します。(湿田では大きく回ります。)

①左に「**約45°**」向きを変えて停止します。

②後進しながら向きをかえ，次の刈取る方向に機械がまっすぐになるように「**条合わせ**」をします。



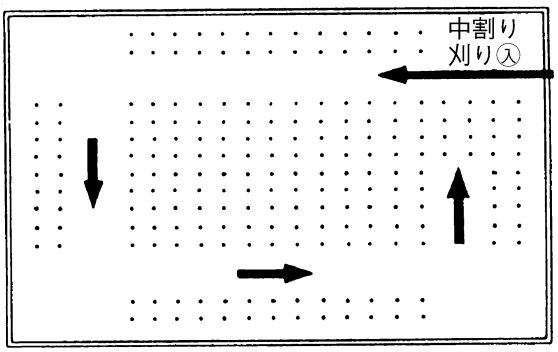
取扱いのポイント

●旋回のときには，エンジン回転を下げたり作業機クラッチレバーを《切》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。

❷ 中割り刈り

・あぜぎわ刈りや，ほ場の状態により部分的に刈取りするとき，「**中割り刈り**」をします。

・中割り刈りは，《**標準刈取**》よりやや「**低速**」で行います。



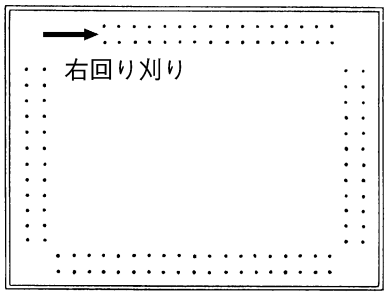
デバイダ（右）を刈取りする株元の右側に合わせ，刈取ります。

❸ 右回り刈り

(1) まわりのあぜが高く，あぜぎわまで植付けされているときは，あぜぎわ5条を残し「**中割り・左回り**」で刈取りをします。

(2) 残した5条を最後に「**右回り**」で刈取ります。

(3) あぜぎわを「**右回り刈り**」するときは，「**ナローガイド（左）**」を収納し，「**デバイダ（左）**」をあぜに突っ込まないようにします。

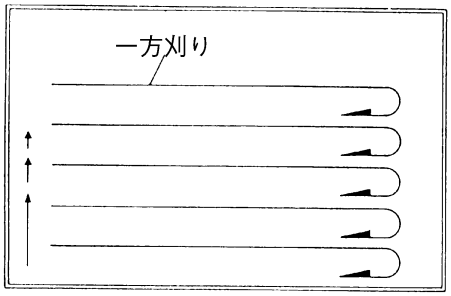


取扱いのポイント

●ほ場の状態によっては，最初にあぜぎわを「右回り」で刈取り，つぎから正常な「左回り」で刈取りするのが良い場合もあります。

❹ 倒伏作物の刈取り

・倒伏した作物は，状態にあわせて「**一方刈り**」を行います。



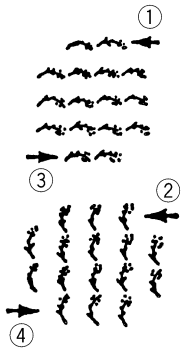
(1) 刈取り方向

・倒伏した作物の刈取りは次ページの図表を参考にして行います。

1)「**刈取り速度**」は，副変速《倒伏》，主変速《**低速**》で刈取ります。

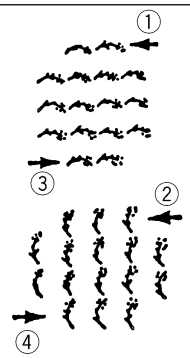
2) ②右倒伏刈りが困難なときは，「**④左倒伏刈り・③追刈り**」となるように「**一方刈り**」をします。

「方向自動を使用しないとき」

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
	①向かい刈り	×	△	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	△	○	○
	④左倒伏刈り	△	○	○

○刈取り可能　△走行速度を落として刈取り可能
×刈取り不可能

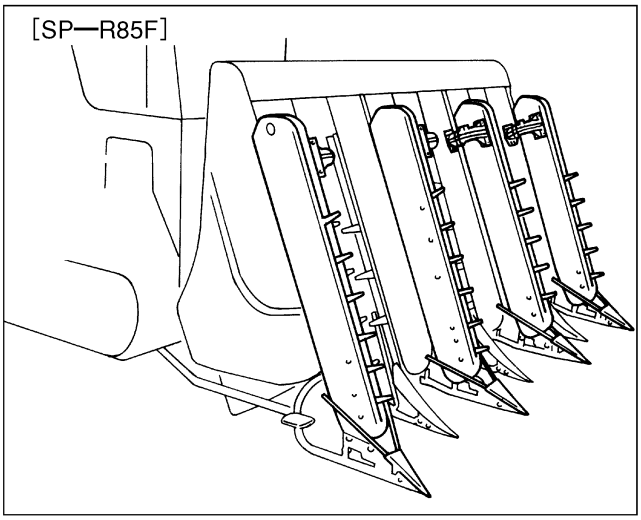
「方向自動で刈取りするとき」

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
	①向かい刈り	×	×	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	×	○	○
	④左倒伏刈り	×	○	○

○刈取り可能
×刈取り不可能（倒伏刈取りできません）

❺ スーパーデバイダ（別売り）

スーパーデバイダは倒伏材の引起し性能をさらにアップさせます。



取扱いのポイント

- 倒伏した作物を刈取るときは，引起こし爪が最もさがった状態（地面に近い位置）で作用するようにデバイダを調整してください。
- デバイダ先端が土に突っ込まないようにしてください。
  土に突っ込むと株の引きぬきが発生し，詰まりの原因となります。
- 倒伏した作物の，中割り刈りはさけてください。
- クローラで穂先を踏まないようにしてください。
  脱こく部の詰まり等の原因になることがあります。

4．こく粒の排出操作方法

⚠警告 傷害事故防止のために

◆排出オーガの操作は運転席から，後方を向いて周囲を確認して行なってください。
◆排出オーガの作動範囲に頭や手を近づけないでください。
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをする時はグレンタンク内のこく粒を排出してください。
◆傾斜地でのこく粒の排出作業はしないでください。
◆こく粒の排出作業をするときは，駐車ブレーキをかけて行なってください。
◆排出オーガ先端部にたまったこく粒を取除く場合は，こく粒排出スイッチを《切》にし，エンジンを停止してください。
◆排出オーガ自動収納中に緊急停止する場合は，排出オーガ緊急停止スイッチを押して止めてください。
旋回範囲近くに障害物がある場合は自動収納を使用しないで，排出オーガ操作レバーで排出オーガを操作してください。
◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングをフックに掛けて固定してから行なってください。
◆水平自動スイッチを「切」にして，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてから排出作業をしてください。
◆［キャビン仕様］は，キャビンの窓から頭や手を出して排出オーガの操作をしないでください。

⚠注意

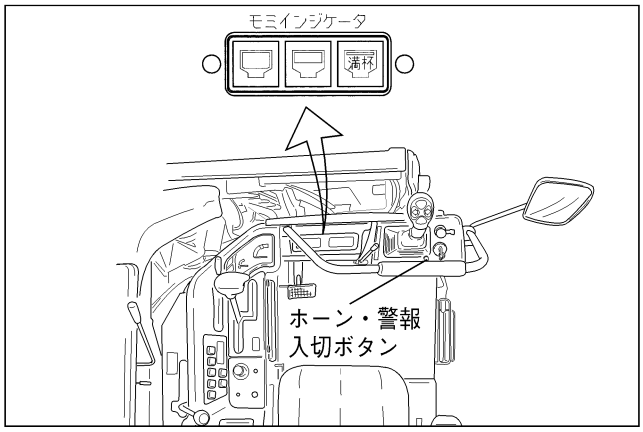
◆排出オーガ排出口のビニールカバーは，人や物に接触したときに，相手を傷つけないように装備されています。ビニールカバーが破損した時は直ちに交換してください。

❶ グレンタンクのモミ警報

(1) グレンタンクにこく粒が充満すると，モミインジケータランプが［ ］→［ ］→［満杯］の順に点灯します。
［ ］ランプが点灯すると，方向指示器が全て点滅して報せます。(**予告シグナル**)

(2) 満杯時にはインジケータランプ，方向指示器の点滅，警報ブザーの「断続音の断続」で報せ，そのまま作業を続けるとエンジンが停止します。

(3) 警報ブザーが鳴ったら直ちに刈取り作業を中止し，こく粒の排出を行います。
警報ブザーはホーン・警報入切ボタンを押すと止まります。

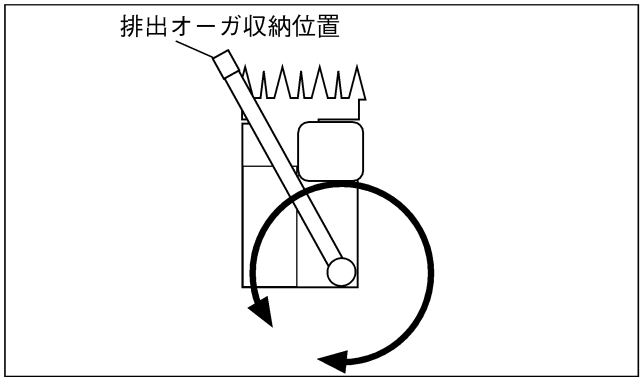


取扱いのポイント

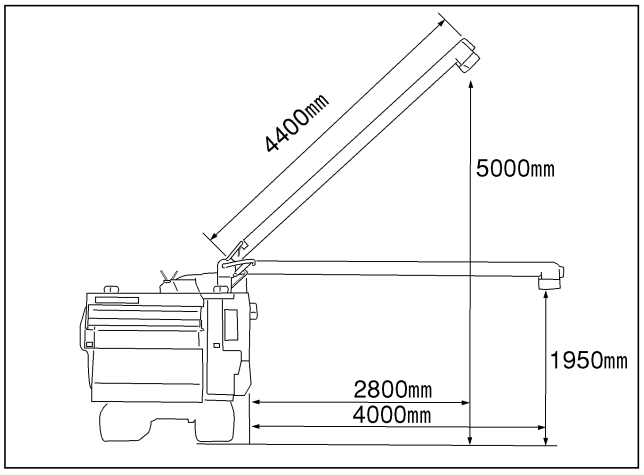
- 警報ブザーが鳴ったあと，そのまま作業を続けるとグレンタンク上部よりオーバーフローし，警報ブザーの断続音が鳴り自動的にエンジンが停止します。
- 主変速レバーを《中立始動》位置にし，刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まなければエンジンの再始動はできません。
- こく粒を排出せずにエンジンを再始動し，作業機クラッチレバーを《入》位置にすると約５秒でエンジンが停止します。

❷ こく粒排出範囲（排出オーガ旋回範囲）

こく粒排出位置まで移動し，平坦な場所を選び，主変速レバーを《**中立始動**》位置にし，駐車ブレーキをかけて機械を停止します。

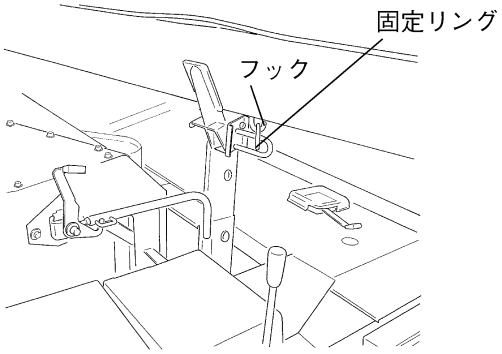


❸ 排出オーガ可動範囲（上下作動距離）

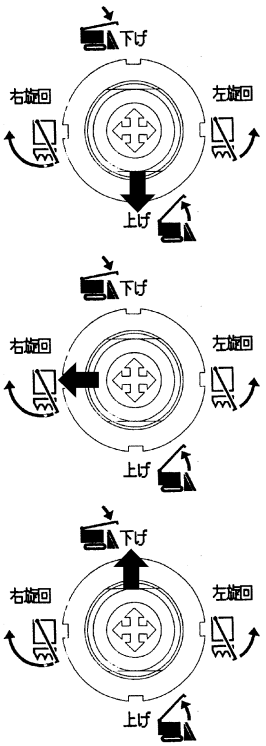


❹ こく粒排出操作手順(自動旋回を使用しない場合)

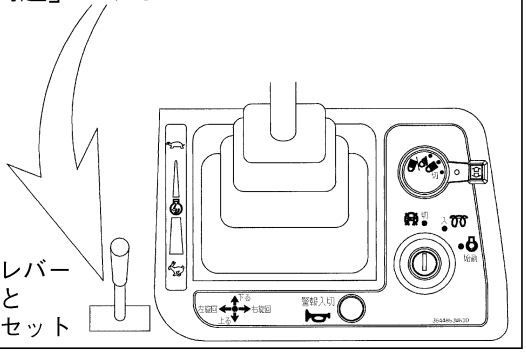
① 排出オーガの固定リングをはずす



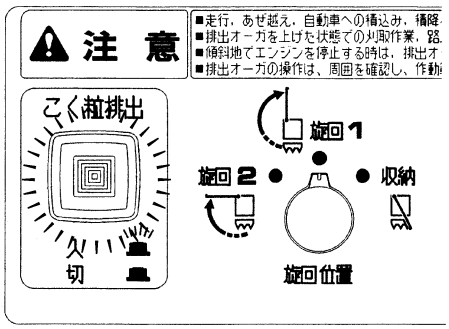
② 排出オーガ操作レバー…上げ➡右旋回➡下げ
（排出位置，高さにセット）



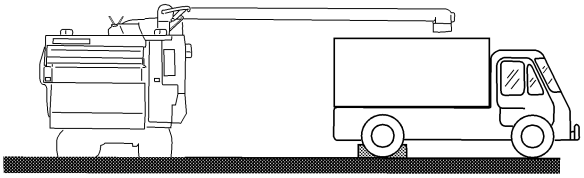
③ エンジンコントロールレバーを
「高速」セット



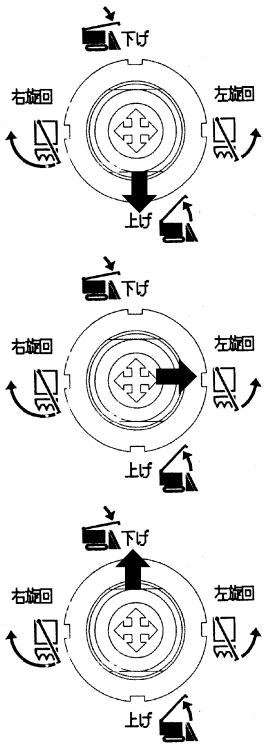
④　こく粒排出スイッチ「入」



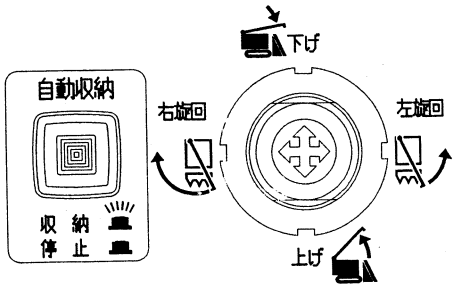
⑤　こく粒排出終了
……こく粒排出スイッチ「切」



⑥　排出オーガ収納
排出オーガ上げ➡左旋回➡下げ



⑥　排出オーガ自動収納
排出オーガ自動収納スイッチ
「押す」…自動収納

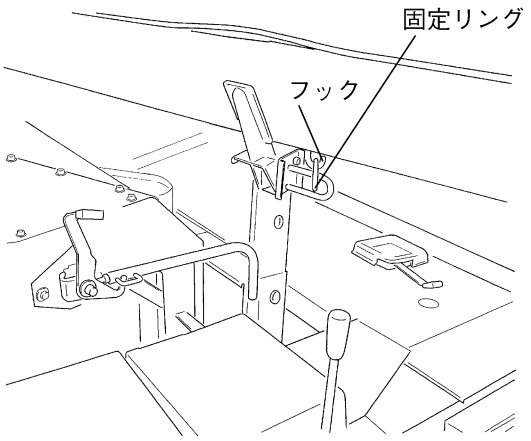


取扱いのポイント

●収納は自動収納で行うと便利です。

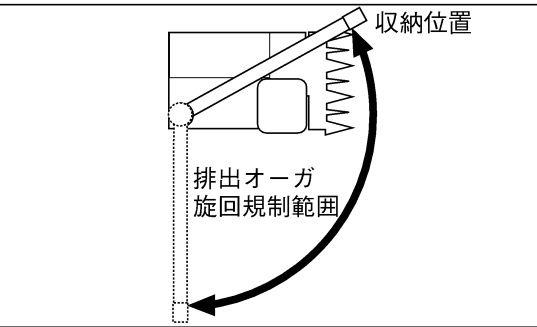
次ページ⑦へ

⑦　排出オーガの固定リングをかける



取扱いのポイント

- こく粒の排出は，排出オーガの先端部をこく粒でふさがないようにして，排出位置を変えながら行なってください。
- 排出位置の変更は，機械を止めた状態で排出オーガを少しずつ回動させて行なってください。
- 機械が傾いた状態ではオーガの旋回がおそくなったり，旋回ができなくなったり（サーキットブレーカ作動）しますので，旋回操作は平坦な場所で操作してください。
- 排出オーガは手で押して動かさないでください。故障の原因になります。
- 排出オーガ旋回は排出オーガを一杯上げてから行なってください。
- [キャビン仕様機] は，ドアをフルオープンした状態で，排出オーガを旋回させないでください。
- 排出オーガ旋回規制範囲内では，排出オーガを最上げ状態にしなければ旋回できません。又この範囲内では，排出オーガの下降はできません。



❺　オーガコントロールの取扱い［A，S仕様］

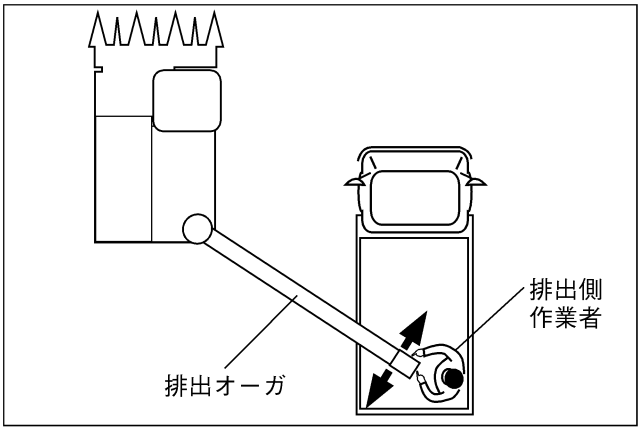
⚠警告　傷害事故防止のために

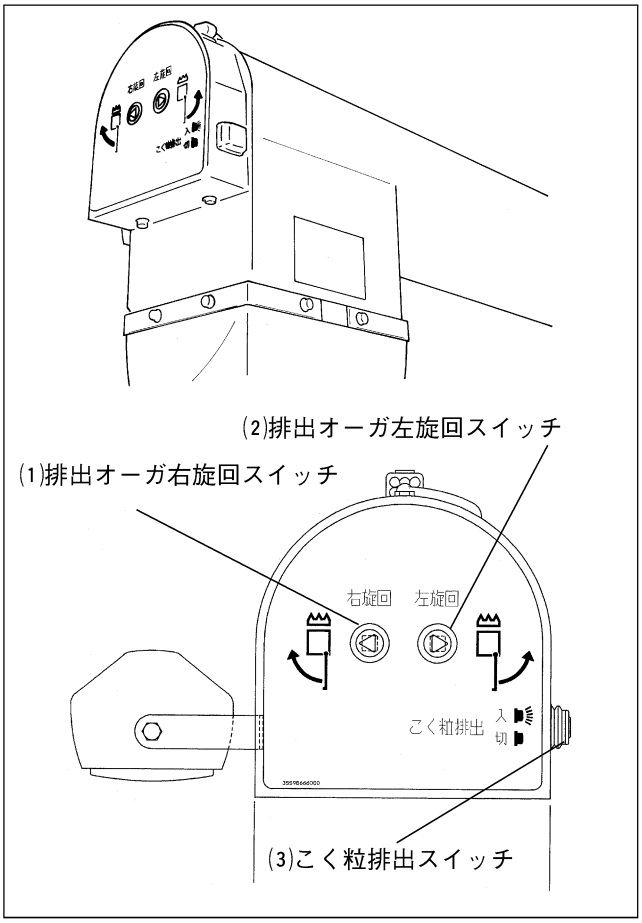
◆コンバイン運転者は，トラック等の排出側に作業者がいる場合に排出オーガを操作しないでください。

◆排出側の作業者はコンバイン運転者が排出オーガを操作している時に排出オーガに近づかないでください。

排出オーガの先端にオーガ左右旋回スイッチと，こく粒排出スイッチが装備されています。

この装置で，トラックなどの排出側にいるオペレータ（作業者）がオーガ位置の微調整，オーガ排出のタイミングを決定することができます。





(1) 排出オーガ右旋回スイッチ

・押すと排出オーガが右（排出側の作業者から見ると左）に旋回します。

(2) 排出オーガ左旋回スイッチ

・押すと排出オーガが左（排出側の作業者から見ると右）に旋回します。

(3) こく粒排出スイッチ

・押すと排出オーガからこく粒を排出します。

5．グレンタンク補助樋口の取扱い

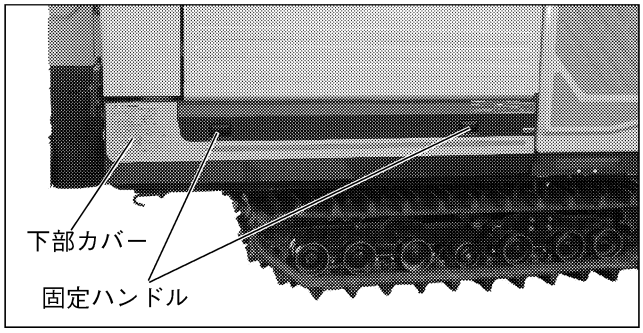
故障等によりグレンタンク内のこく粒が排出不可能になったときに使用します。樋口はグレンタンク下部カバーを取外すとその内側にあります。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆補助樋口からこく粒を取り出すときはエンジンを停止してください。

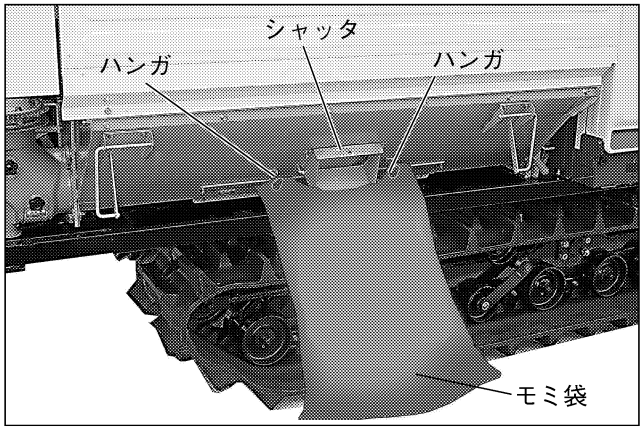
◆カバーを取外したままでエンジンを運転するとケガをするおそれがありますので，取付けて使用してください。

❶ グレンタンク下部カバーの固定ハンドルを引いてカバーを外します。



❷ ハンガにモミ袋をかけます。

❸ シャッタを引き上げタンク内のこく粒をモミ袋に取出します。



❹ モミ袋いっぱいになったらシャッタを閉じて次の袋と交換します。

❺ こく粒を取出し終わったらシャッタを確実に締めます。

❻ 下部カバーを元どおりに取付けます。

6．リフトシャットの取扱い

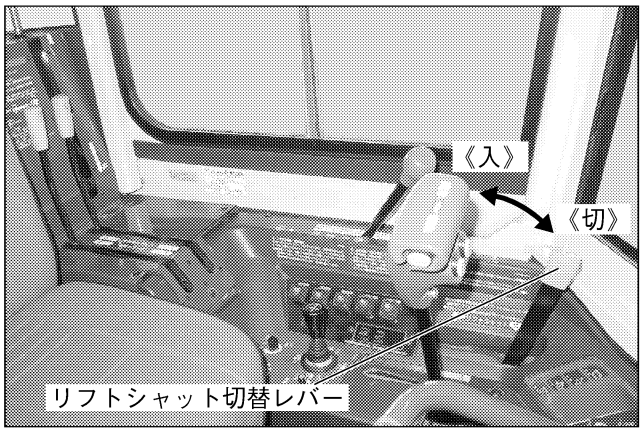
⚠警告 傷害事故防止のために

◆リフトシャット《入》位置で作業機クラッチ，刈取クラッチが入っていると，刈取部を上げた時に刈取部，脱こくフィードチェンが停止します。下げた時は回転しますので刈取部，脱こくフィードチェンに近づかないでください。

リフトシャットとは，リフトシャット切替レバーを《**入**》にして刈取部を上げると，作業機クラッチ・刈取クラッチが入った状態でも自動的に刈取部，脱こくフィードチェンが停止する機構です。刈取部を下げると自動的に回り始めます。

・リフトシャット切替レバーを《**切**》にするとリフトシャットは作用しませんので，刈取部の上下位置に関係なく，刈取部・脱こくフィードチェンは回転します。

・**リフトシャット切替レバーの操作は，刈取部をいっぱい下げて行います。**



次の場合は，リフトシャット《**切**》位置で使用します。

・**手刈りのしてないほ場の回り刈り作業**

・**あぜ越え直後からの刈取り作業**

・**あぜぎわ等を高刈りする場合**

・**湿田等で刈取部を上げた状態で作業する場合**

7．夜間作業

⚠警告 傷害事故防止のために

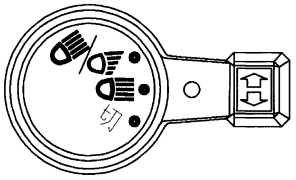
◆夜間作業を行うときは前照灯，作業灯を点灯してください。

◆作業灯電源を他の電源に使用しないでください。

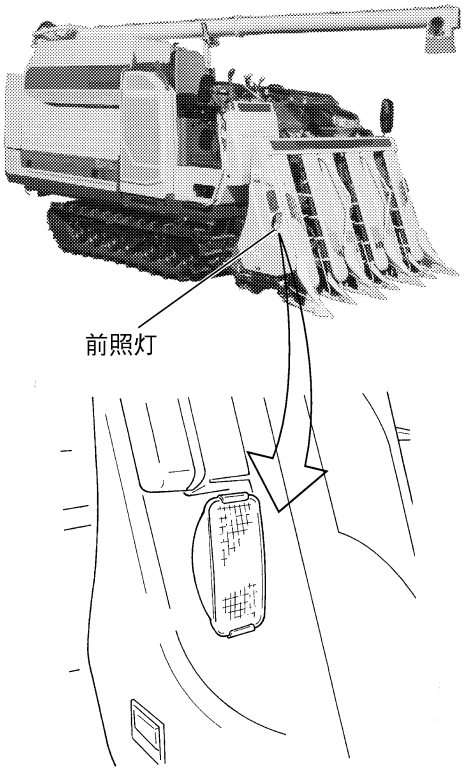
◆路上走行するときは作業灯を消灯してください。

コンビネーションスイッチを２段回し，各作業灯スイッチを《**入**》にして前照灯と作業灯を点灯します。

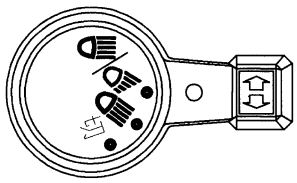
❶ ライトスイッチを１段回すと前照灯が点灯します。



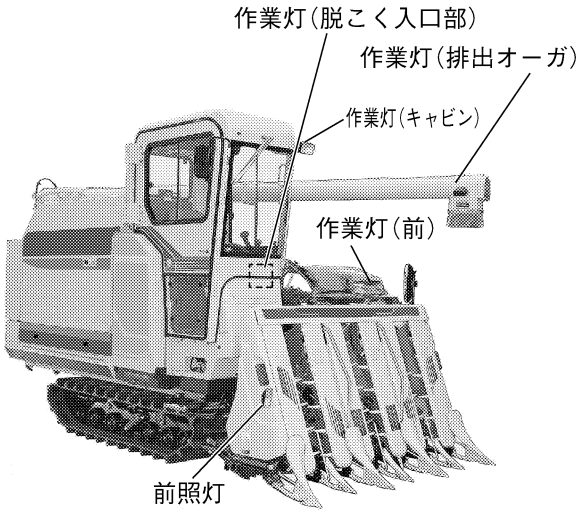
ライトスイッチ「入」（１段）



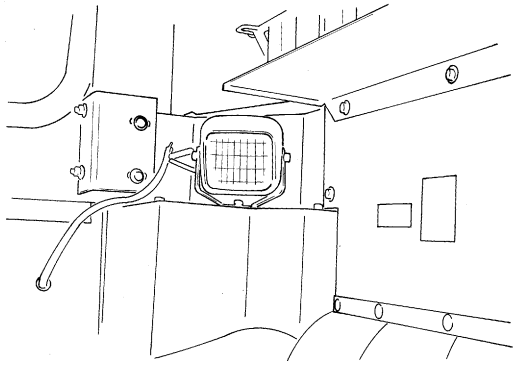
❷　ライトスイッチを２段回すと前照灯及び全ての作業灯が点灯します。(脱こく入口部と排出オーガ部の作業灯にはそれぞれスイッチがありますので，必ず「**ON**」（**入**）の状態にしておきます。)



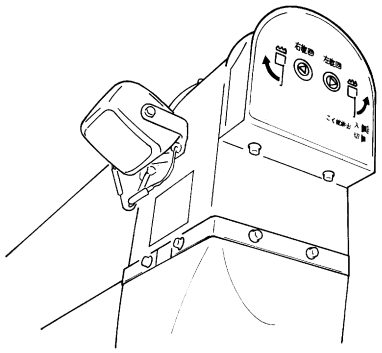
ライトスイッチ「入」（２段）



[作業灯(脱こく入口部)]



[作業灯(排出オーガ)]



８．エンジン自動停止の取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

◆詰まり等の異常が発生しエンジンが自動停止した場合は，スタータスイッチを《STOP切》位置にして作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《切》位置にしてから，詰まりを取除いてください。

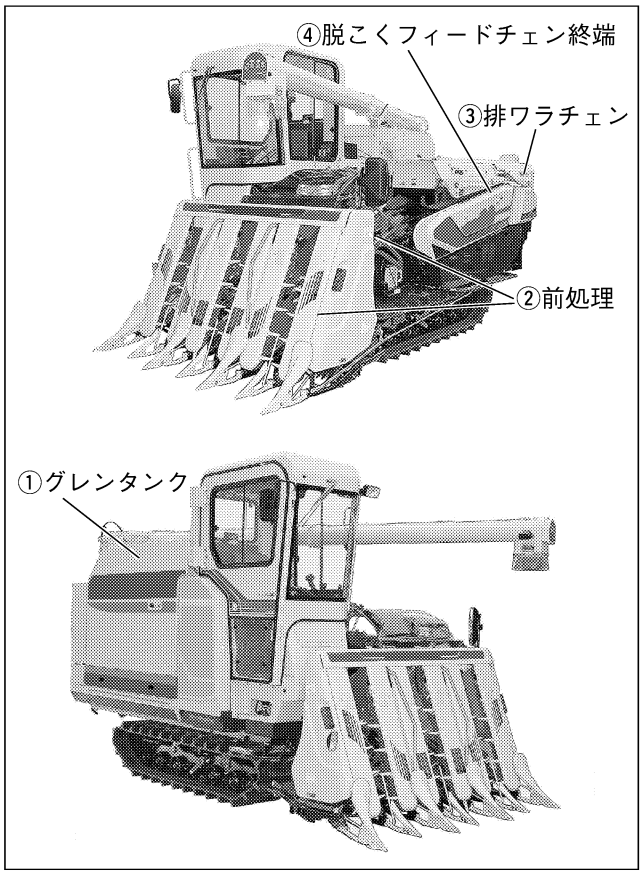
◆脱こくフィードチェンの詰まりの掃除・点検作業はこぎ胴部を持上げ，「カチッ」という音を確認して（こぎ胴部は自動ロックされます）ゆっくり手を離してから行なってください。

◆排ワラチェン詰まりやカッタ詰まりの掃除・点検作業はカッタをオープンしてストッパをかけてから行なってください。

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前にこぎ胴部を閉めて，全てのカバーを取付けて機械の周囲に人がいないことを確認し，低速回転で行なってください。

刈取り作業中に異常（詰まり等）が発生したとき，機械の破損や変形を未然に防ぐためつぎの個所のセンサが作動して，警報ブザーが鳴り，ワラ処理警報ランプまたは前処理警報ランプもしくはモミインジケータランプが点灯してエンジンが自動停止します。

①グレンタンク（満杯）
②前処理（詰まり・２個所）
③排ワラチェン（詰まり）
④脱こくフィードチェン終端（詰まり）



❶ エンジンが停止したら，スタータスイッチを《 切》位置にして，作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《**切**》にしてから詰まりを取除きます。

❷ 詰まりを取除き，主変速レバーを《**中立始動**》位置にし，刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《**切**》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでエンジンを始動します。エンジンコントロールレバーを《 》（**低速**）にし，作業機クラッチレバーおよび刈取クラッチレバーを《**入**》位置にして，主変速レバーを《**前進・低速**》に操作し正常に回ることを確認してから作業を開始します。

取扱いのポイント

- **こぎ胴部を閉じるときは，脱こくフィードチェン，排ワラチェン部のワラを取除いてから閉じてください。**

9．手こぎ作業

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆手こぎ作業は，手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れたりしないでください。
- ◆手こぎ作業をするときは手袋を使用しないでください。
- ◆機械を走行しながらの手こぎ作業はしないでください。機械の走行を停止して行なってください。
- ◆手こぎ作業は刈取クラッチレバーを《切》にし刈取部の作動停止を確認してから行なってください。
- ◆手こぎ作業をするときは，機械をワラクズの近くに止めないでください。（火災予防）
- ◆作業機クラッチレバーは周囲の人に合図してから《入》にしてください。

⚠注意

- ◆カッタの切ワラがたまったら作業を中断し機械を移動するか，作業機クラッチレバーを《切》にし，エンジンを停止して切ワラを取除いてください。

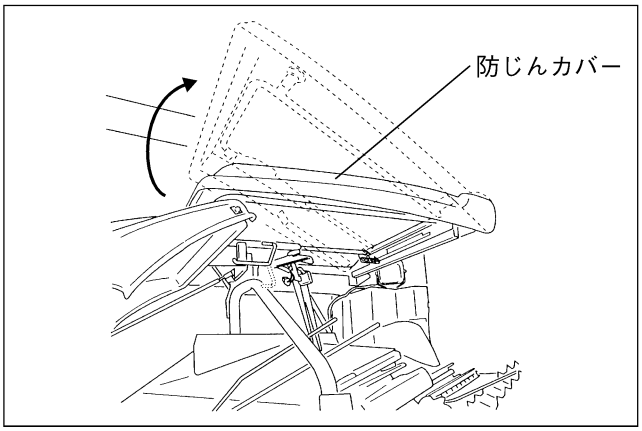
❶ 水平自動スイッチ，刈高さ自動スイッチ（［**A，S仕様以外**］はクイックアップスイッチ）を「**切**」にし水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。

❷ 主変速レバーおよび副変速レバーを《**N**》（**中立**）にし，走行を停止します。

❸ 作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《**切**》にします。

❹ 刈取部をいっぱいに「**下げ**」ます。

❺　防じんカバーを上方に開きます。（キャビン無仕様のみ）



❻　作業機クラッチレバーを《**入**》れ，エンジン回転を「**色別表示の上限**」にセットします。

❼　作物の穂先を穂先マーク位置に合わせ，手こぎ作業をします。

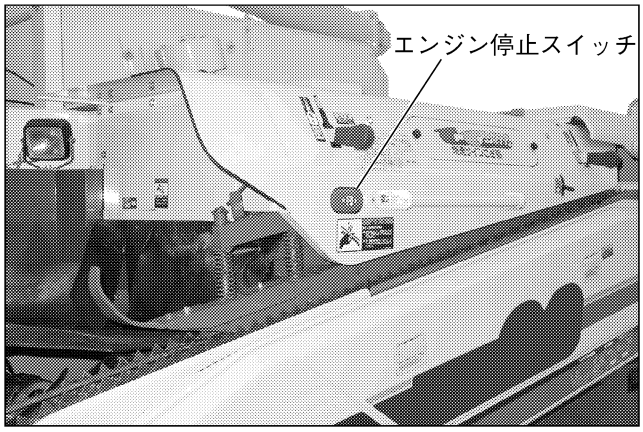
❽　手こぎ作業が終わったら，作業機クラッチレバーを《**切**》にして防じんカバーの取手を持って下に押して元の位置に戻します。

取扱いのポイント

- **バラこぎで平均に供給します。結束した作物は供給しないでください。**

10．エンジン停止スイッチの取扱い

このスイッチを押すと，エンジンが停止します。手こぎ作業中等に万一トラブルが発生したときはこのエンジン停止スイッチを押してエンジンを停止します。



取扱いのポイント

- **エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，スタータスイッチを《 STOP 切》にしてください。そのまま放置するとバッテリが放電します。**

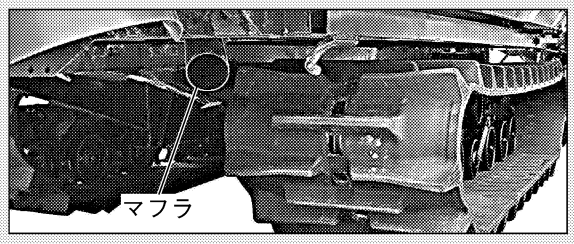
11．刈取り作業終了後の取扱い

⚠警告　火災防止のために

◆機械をワラクズのたまった近くに止めないでください。マフラ排気口にワラクズが触れ火災になることがあります。

◆機械カバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行なってください。

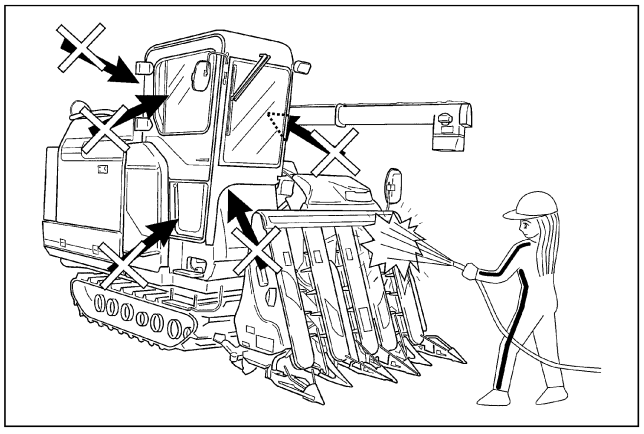
◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズ等を掃除してください。



❶　平坦な場所で主変速レバーを《**中立始動**》の位置にします。
❷　刈取クラッチレバーおよび作業機クラッチレバーを《**切**》の位置にします。
❸　駐車ブレーキをかけます。
❹　エンジンコントロールレバーを《 》（**低速**）の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから，副変速レバーを《 倒伏 》に入れて停止します。
❺　**作業後の手入れ**
・機械をきれいに洗車・掃除し，各回転部・摺動部に注油をします。

取扱いのポイント

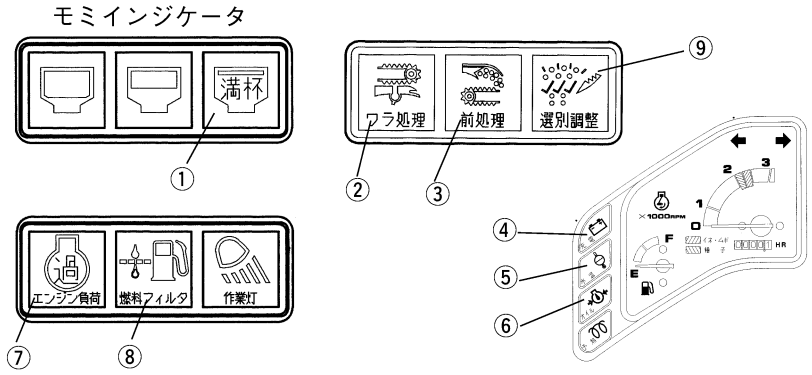
- **作業機クラッチレバーは，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで空運転してから《切》にします。**
- **水洗いするときは，エンジンまわり，電気配線部，運転席前側のマイコンユニット装着部，運転パネル部および脱こく内部には水をかけないでください。故障の原因となります。**
- **［キャビン仕様］は「水・スチーム厳禁」ラベル貼付付近には水をかけないでください。キャビン内部に水が入るおそれがあります。**



12. 警報装置について

つぎの個所に異常が発生した場合は，警報ランプの点灯，警報ブザー，エンジン停止などで警告します。

異常個所を確認して，つぎの処置を行います。



No.	名称	現象	警告の方法			解除方法	点検と処置	参照ページ
			警報ランプ	ブザー	エンジン			
①	モミ処理	満杯	点灯	断続音の断続	−	警報切入ボタン「**押す**」または作業機クラッチレバー《**切**》	こく粒が満杯になっていますので，こく粒を排出します。	54〜58
		モミオーバーフロー		断続	停止			
②	ワラ処理	脱こくフィードチェン詰まり	点灯	連続	停止	作業機クラッチレバー《**切**》	脱こくフィードチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	60〜61
		排ワラ詰まり					排ワラチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	
		ノッタひも切れ	点滅		−		ひもが切れているか，ひもがなくなっていますので点検します。	ノッタの取扱説明書
③	前処理	こぎ深さ搬送の始端部または終端部の詰まり	点灯	連続	停止	作業機クラッチレバー《**切**》	こぎ深さ搬送部にワラが詰まっていますので取除きます。	60〜61
④	充電	充電不足	点灯	−	−	スタータスイッチ《STOP **切**》	・スタータスイッチ《ᔓᔓ **入**》で点灯し，エンジンを始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯はバッテリへ充電されていませんので，エンジンを止め，ファンベルト等を点検します。	119〜122
⑤	水温	オーバーヒート	点灯	連続	−	水温が下がるまでエンジンを「**低速運転**」	・エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）しています。作業を中止し，エンジンを低速運転し，温度を下げます。 ・低速運転時，警報ブザーは断続音となります。 ・エンジンを停止し，ラジエータ吸気部，ファンベルトの張り，冷却水（補助タンク）の水量などを点検します。	115 165 101〜102
⑥	オイル	エンジンオイル量不足	点灯	−	−	スタータスイッチ《STOP **切**》	・スタータスイッチ《ᔓᔓ **入**》で点灯し，エンジン始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯は，エンジンオイル量を点検して補給します。	98〜99
⑦	エンジン回転負荷モニタ	エンジン回転が下がる	点滅	断続	−	走行速度を下げる	・作業速度を下げてエンジンの過負荷をなくします。 ・こぎ深さ，送じん量調節レバーの調整がよいか確認します。 ・ワラ切りカマが損耗していないか確認します。	50 28,70 156〜158
⑧	燃料フィルタ	燃料フィルタ内に水が溜まる	点灯	連続	−	スタータスイッチ《STOP **切**》	ドレンコックを開き，中に溜まった水を抜きます。	117
⑨	選別調整	選別部の過負荷	点滅	−	−	−	作業速度を下げるか，選別ダイヤルを「**開**」側に回します。	15

3．ワラ処理部の取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆回転部にワラ等の巻付きが発生したり異物が混入した時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから，カッタをオープンし，ストッパをかけて，ワラ等を取除いてください。

◆巻付き等を取除くときは，カマ等を使用し，手ではカッタ刃にふれないでください。

取扱いのポイント

- カッタ排ワラ切替レバー操作は搬送通路のワラを完全に排出してから行います。
- 脱こく作業中の切替え操作はしないでください。詰まりの原因となります。
- こぎ胴部を開いた状態でカッタ排ワラ切替レバーの切替えは行わないでください。

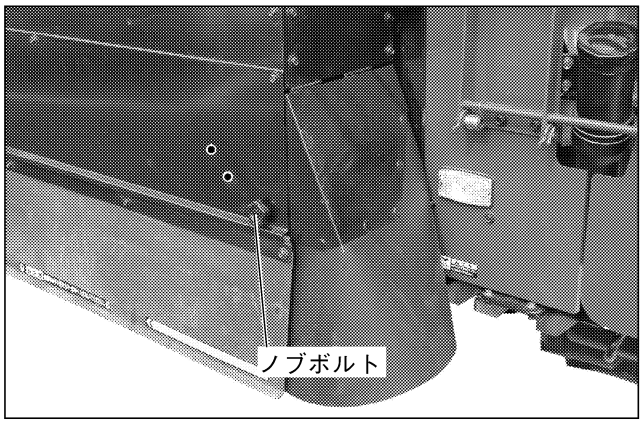
1．カッタ作業

・工場出荷時は，下部カバー（右），（左）共に通常作業状態にしてあります。

・下部カバーはノブボルトを外すと左右に振る事ができますので，以下の写真の位置に下部カバーを動かし，ノブボルトの穴位置を差し替えて締め込み，固定します。

［下部カバー（右）通常作業状態］

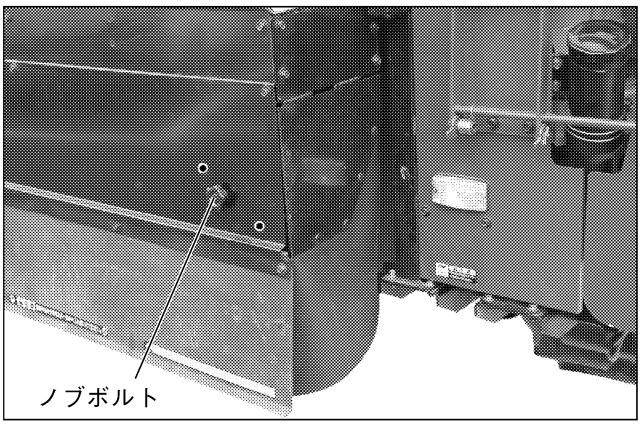
・通常の作業時はこの位置にセットします。



［下部カバー（右）ワラ左よせ状態１］

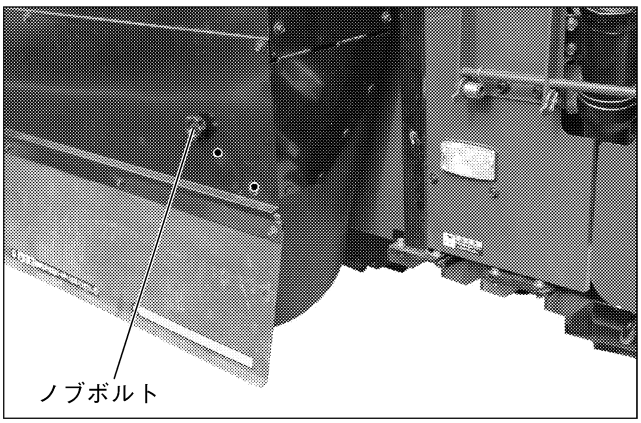
・ワラを少し左側によせたい時にこの位置にセットします。

又，路上走行時もこの位置にセットします。



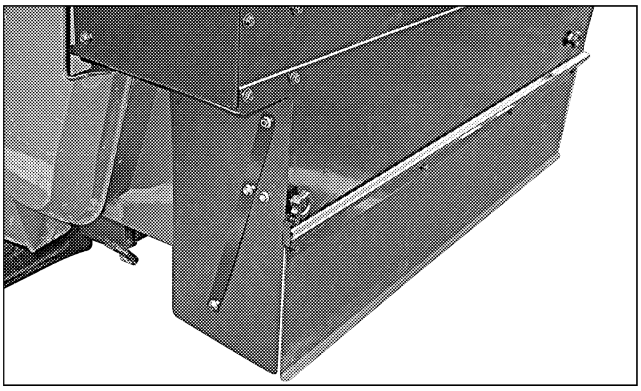
［下部カバー（右）ワラ左よせ状態２］

・ワラを左側によせたい時にこの位置にセットします。



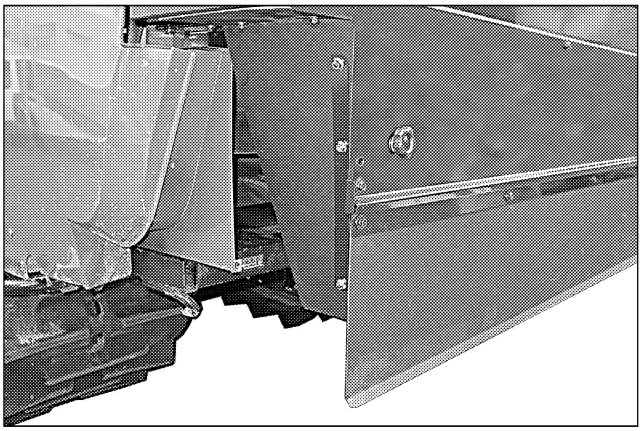
［下部カバー（左）通常作業状態］

・通常の作業時，路上走行時はこの位置にセットします。

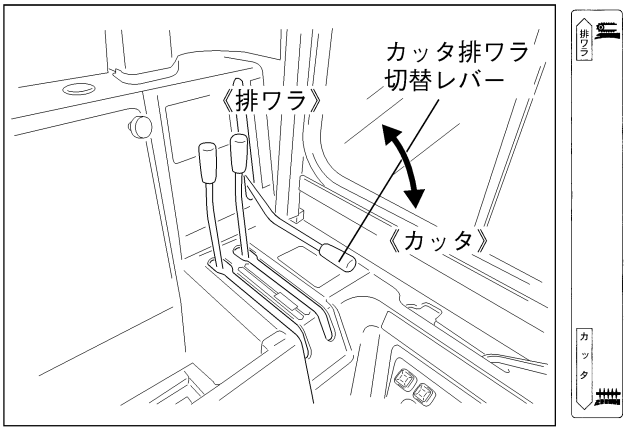


［下部カバー（左）作業状態（ワラ右よせ）］

・稲が倒伏した状態で，ワラが稲にかぶってしまうのを防ぐ為にこの位置にセットし，ワラを右によせます。



❶　カッタ排ワラ切替レバーを《**カッタ**》位置にします。



❷　カッタサイドカバー（左）を取外し，カッタの切ワラ切断長さをセットします。

・出荷時は切ワラ切断長さのセット位置は《**短切り**》位置にしてあります。

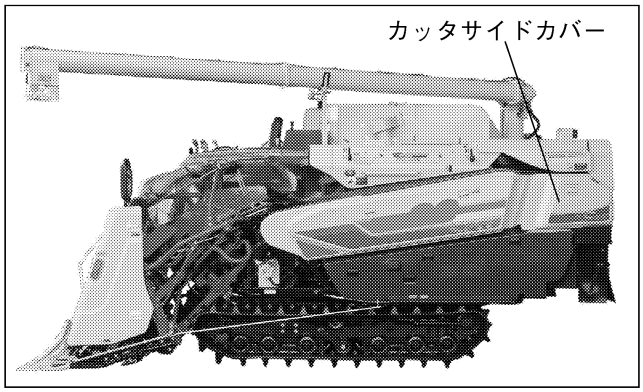
・《**長切り**》位置に切替える場合は，切ワラ切断長さ切替レバーを《**長切り**》位置にセットします。

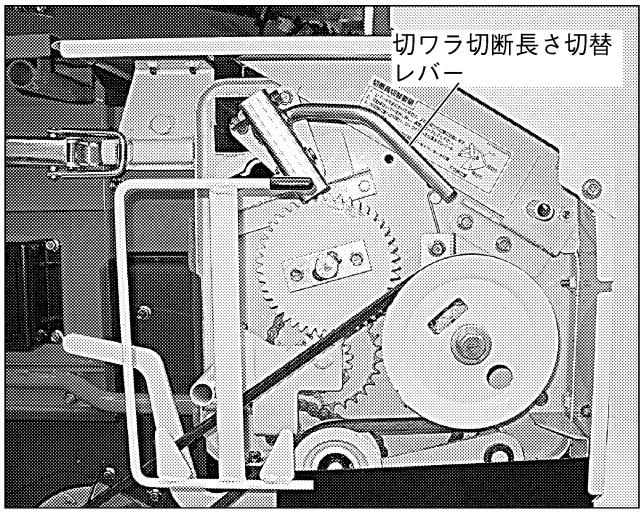
・切断長さ切替レバーはロックレバーを手前に引いた後，回動します。

《**短切り**》……切断長さ約60(40)㎜

《**長切り**》……切断長さ約180(160)㎜

((　)寸法は［**スーパーマルチカッタ仕様**］の切断長さを示します)

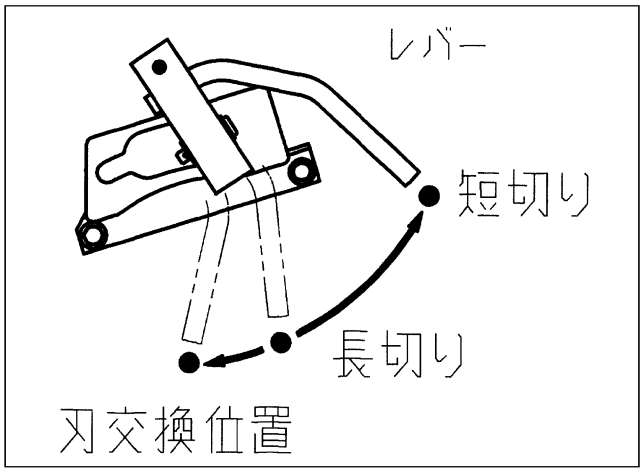




(1)　レバーを手前に引いて長切り，又は短切りの位置に回動します。

(2)　回動後はレバーを押し戻し，確実にロックしてください。

(3)　刃交換位置では作業できません。



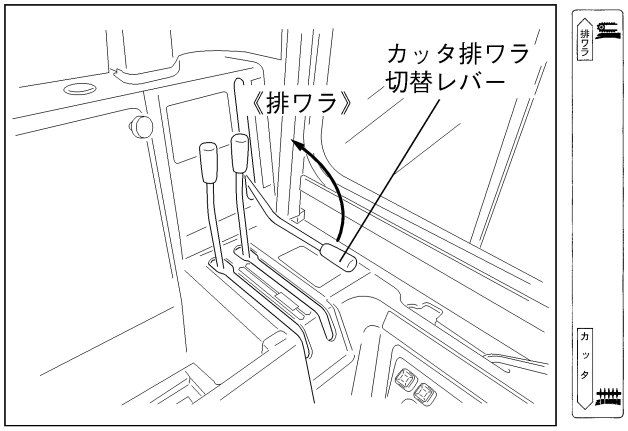
取扱いのポイント

- 刃の切れ味が低下すると巻付きが発生しやすくなりますので，刃の交換を行なってください。
- 倒伏した作物の刈取り作業を行う場合，ワラがカッタの回転軸に巻付くことがあります。巻付いたまま長時間作業しますと，巻付き防止パイプが変形する恐れがありますので，50 a（アール）作業ごとにエンジンを停止してカッタ内を点検し，巻付いている場合は巻付きを除去してください。
- カッタの点検，掃除はカッターをオープンし，ストッパをかけてから行います。（オープンのしかたは142〜143ページ参照）

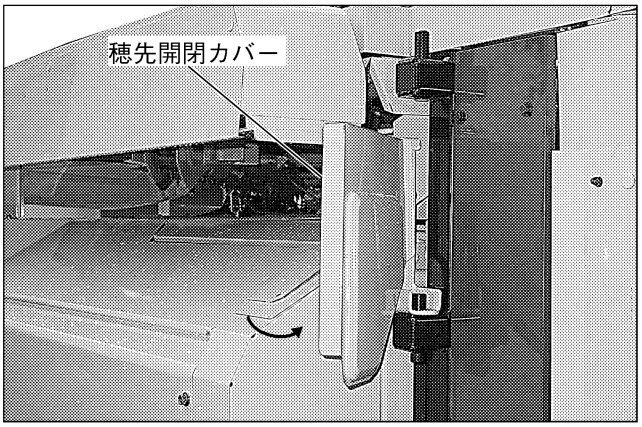
2．排ワラ作業

排ワラ作業には，①脱こくされたワラをそのまま排出する作業，②ドロッパ作業，③ノッタ作業があります。

❶ カッタ排ワラ切替レバーを《**排ワラ**》位置で使用します。



❷ 穂先開閉カバーを開きます。



取扱いのポイント

- ドロッパは別売りです。取扱いについては，それぞれの「取扱説明書」をお読みください。

4．麦刈り作業時の調整のしかた

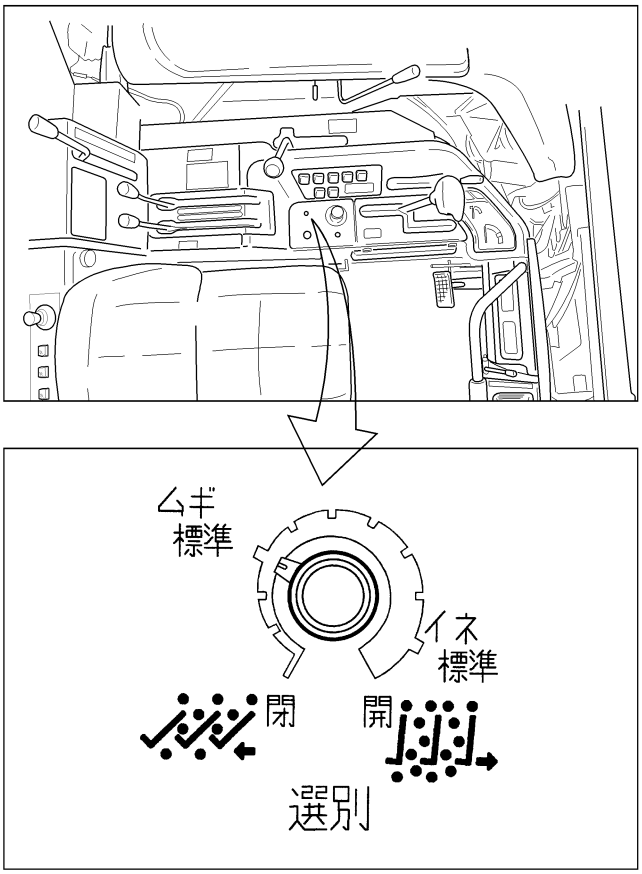
工場から出荷のときは,「稲作業セット」にしてあります。

麦刈り作業をするときは，つぎの個所を「麦作業セット」に切替え調整します。

1．選別ダイヤルの調節

麦刈り作業

・選別ダイヤルは，通常の麦刈り作業では《ムギ標準》にセットします。
・選別が悪いときには，選別ダイヤルを《閉》側に回します。
・高収量材料又は脱こく負荷が大きいときには，選別ダイヤルを《開》側に回します。



取扱いのポイント

- 選別ダイヤルの操作は，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで脱こく部を空運転し，ワラクズ等が排出された後に行なってください。
- 脱こく内部にワラクズ等がたまっていると，選別自動が作動しない場合があります。
- 選別自動スイッチ「入」（ランプ点灯）状態で作業すると刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。
- 選別自動スイッチ「切」（ランプ消灯）状態でも作業に支障はありませんが良好な選別状態を得られない場合があります。

2．回転数のセット

こぎ胴回転数は回転計で確認し，エンジンコントロールレバーで設定します。（12ページを参照）

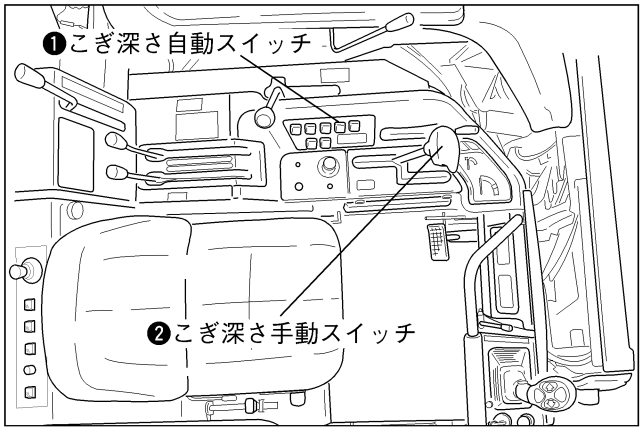
自動装置について

・各自動スイッチ内部にはランプが付いています。自動制御の作動と同時に点灯し，コンバインの運転者に自動制御の作動状態を知らせます。

1．こぎ深さ自動制御

こぎ深さ自動は，刈取った作物の長さを搬送の途中に設けたセンサで検出して適正なこぎ深さとなるように自動的に調整します。こぎ深さ自動使用中に手動スイッチで手動操作すると手動が優先となりますが，手動スイッチから手を離すと自動設定位置に復帰します。

1．運転装置



こぎ深さ調整は，「**自動制御**」と「**手動**」の二通りの操作が可能です。

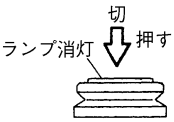
・自動制御中は手動スイッチによる調整の必要はありません。

ただし，倒伏角45°以上の倒伏材および雑草の多い材料で極端に作物の長さが変動するときは，自動制御を解除してこぎ深さ調整をこぎ深さ手動スイッチで行います。

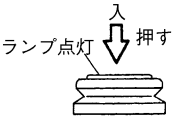
❶　こぎ深さ自動スイッチ

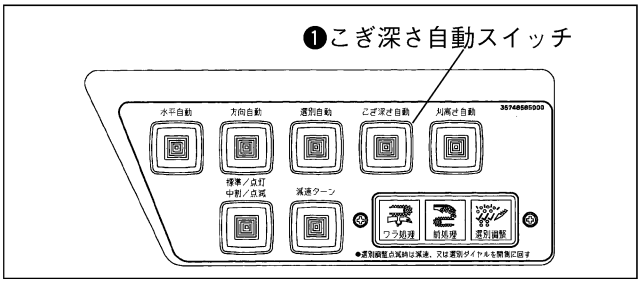
スタータスイッチを《 **入**》位置にするとランプが点灯し，こぎ深さ自動が作動状態になります。

・「**切**」……ランプが点灯している時にこぎ深さ自動スイッチを押すとランプが消灯し，こぎ深さ自動は作動しません。



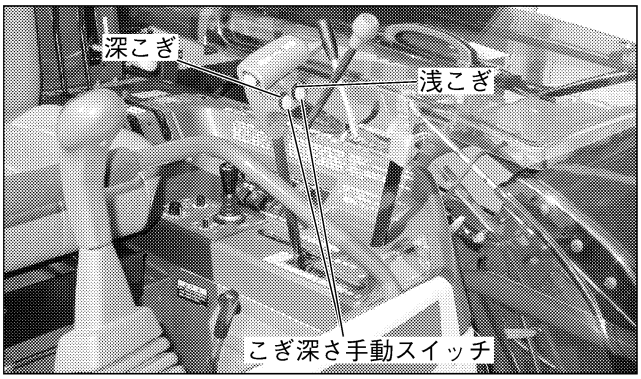
・「**入**」……再度，こぎ深さ自動スイッチを押すとランプが点灯し，こぎ深さ自動が作動状態となります。





❷　こぎ深さ手動スイッチ

脱こく供給口の「**穂先マーク**」位置に作物の穂先がくるようにこぎ深さ手動スイッチで調整します。



《**深こぎ**》……《**深こぎ**》側を押すと作物の穂先が深い位置に移動します。

《**浅こぎ**》……《**浅こぎ**》側を押すと作物の穂先が浅い位置に移動します。

取扱いのポイント

●自動制御が故障のときはこぎ深さ手動スイッチによって，手動で操作してください。

❸ ヒューズ

取扱い方は28～31ページを参照します。

取扱いのポイント

●こぎ深さ自動スイッチ内ランプが点灯してもこぎ深さ自動が作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。

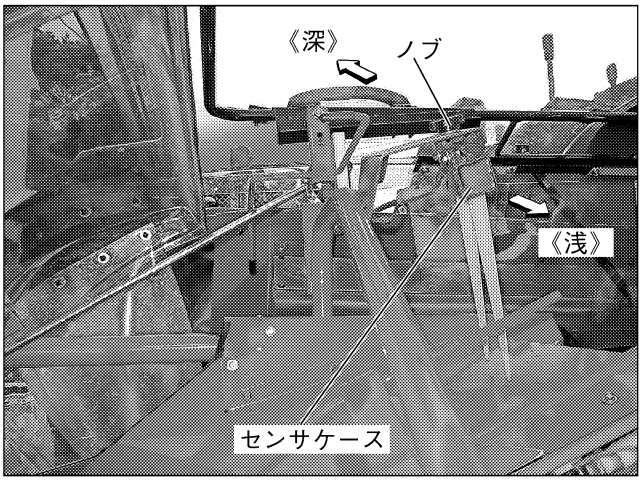
2．こぎ深さセンサの調整

こぎ深さセンサは工場からの出荷のときは「**標準**」(合わせマークの中央）の位置に調整してあります。

・つぎのようなときは，ノブをゆるめセット位置を調整します。

こぎ深さを「**深く**」したいときは，センサケースを矢印の《**深**》方向へ移動します。こぎ深さを「**浅く**」したいときは《**浅**》方向へ移動します。

・調整後はノブを確実に締めます。



3．こぎ深さ自動制御が使えない条件

・つぎの状態ではこぎ深さ自動スイッチを「**切**」(ランプ消灯)にし，手動スイッチでこぎ深さを調整します。

○倒伏角45°以上の倒伏作物

○くされ状態の作物

○雑草が多いとき

○作物の長さが極端に変動するとき

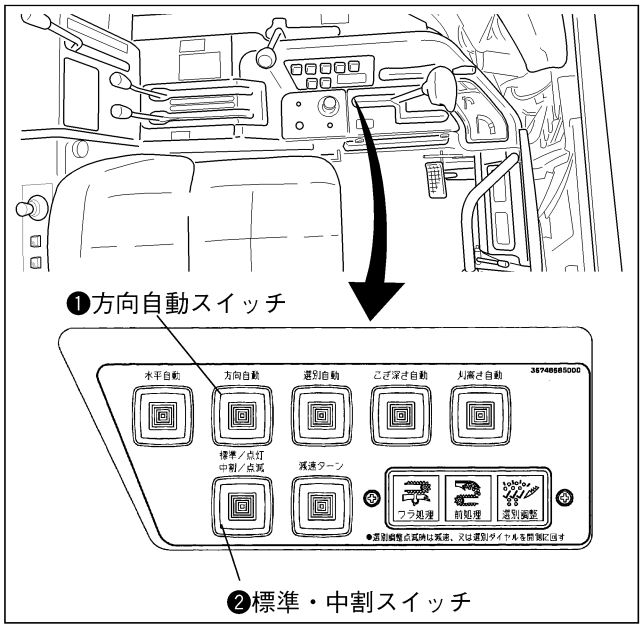
2. 方向自動制御［A，S仕様］

方向自動は，刈取部に取付けた方向センサで条の曲がりを感知し，条列に沿って自動操行します。またマルチステアリングレバーを操作すると自動制御は「**解除**」され，手動操作優先となります。

⚠注意

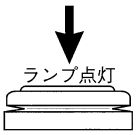
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしするときは方向自動スイッチを「切」にしてください。

1．運転装置



❶　方向自動スイッチ

・「**入**」……押すとランプが点灯し，方向自動スイッチが「**入**」の状態であることを表示します。



・「**切**」……「**入**」の状態から再び押すとランプが消え，方向自動制御は作動しません。

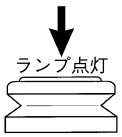


❷　標準・中割スイッチ

条刈り作業と中割作業を切替えるスイッチです。

・切替えは，方向自動スイッチが「**入**」の状態で行います。

「**標準**」……条刈り，横刈り作業のときはランプ「**点灯**」で使用します。



「**中割**」……ランプ「**点灯**」の状態から再び押すとランプが「**点滅**」します。中割り作業に使用します。



取扱いのポイント

● **方向自動スイッチ内のランプが点灯しても方向自動が作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。**

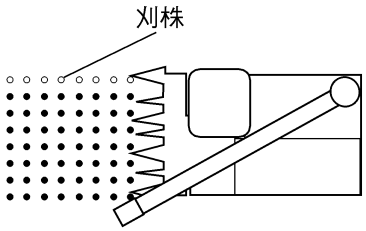
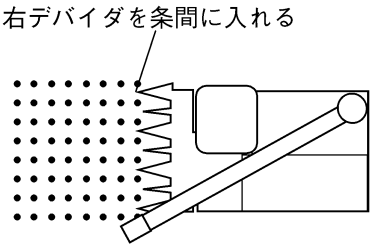
2．作業のしかた

❶ スイッチの操作・条合わせのしかた

(1) 方向自動スイッチを「**入**」(ランプ点灯) にします。

(2) 標準・中割スイッチを作業状態に合わせます。

(3) 機械が条列に真っ直ぐになるようにマルチステアリングレバーの操作で条合わせをします。

	標準・中割スイッチ	条合わせのしかた
条刈り	スイッチのランプを「**点灯**」にする	
中割り	スイッチのランプを「**点滅**」にする	

❷ 刈取り作業中の手動操作

方向自動制御中でも，マルチステアリングレバー，ジャストディレクタを手動操作すると，「**手動優先**」で進路をかえることができます。

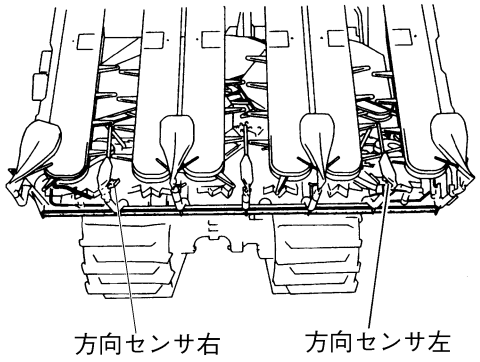
❸ 旋回時の操作

旋回する時は，マルチステアリングレバーで手動操作します。

この時に方向自動スイッチを「**切**」にする必要はありません。

取扱いのポイント

- **中割り作業時左１条目の刈跡が大きく乱れるような時は，方向自動スイッチを「切」（ランプ消灯）にし，マルチステアリングレバーで手動操作してください。**
- **方向センサ（左・右）にワラや雑草がからんだり，泥が詰まっていると，適正な制御が行われないことがありますので，必ず取除いてください。**



- **条に対して斜めに入ると，修正量が不足して条ズレを起こすことがありますので，マルチステアリングレバーで刈始めの条合わせを正しく行なってください。**
- **軟湿田，雑草の多いほ場，条間25cm以下株間20cm以上のほ場では，条ズレすることがあります。**
- **あぜぎわでの刈取り作業では，方向自動制御を使用しないでください。**
- **横刈時は，方向自動スイッチを「切」にして作業してください。**
- **コンバインを水洗いする場合は，スイッチ・パネル・コントローラ付近に水がかからないように注意してください。**

3．方向自動制御の使えない条件

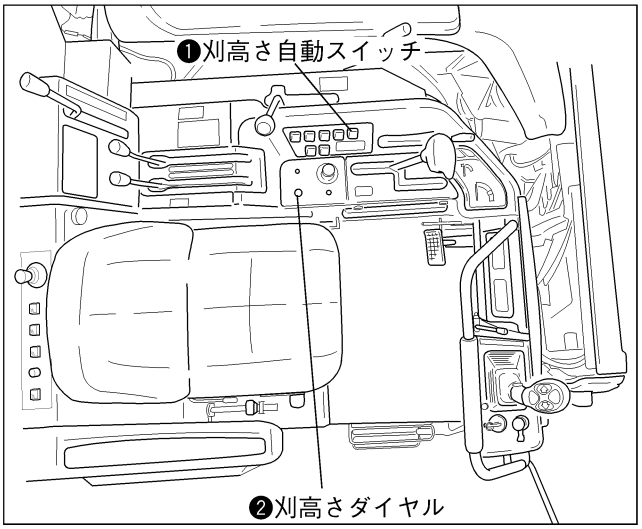
つぎの条件では方向自動スイッチを「**切**」にして，マルチステアリングレバーで手動操作します。

・斜め刈り
・あぜぎわ刈り
・横刈り
・雑草が多いとき
・バラまきほ場
・湿田
・条間および株間が極度に乱れているとき
・稈量が少ないとき
・欠株が多いとき
・植付条間が25㎝以下の場合
・植付条間が33㎝以上の場合
・株間20㎝以上の場合
・倒伏材は**3，刈取手順**（51～53ページ）を参照

3．刈高さ自動制御［A，S仕様］

刈高さダイヤルにより，シートに座ったまま手元操作で刈取部の高さを調節することができます。

1．運転装置



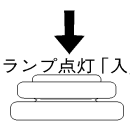
❶　刈高さ自動スイッチ

刈高さ自動スイッチを押すとランプが点灯し，刈高さ自動制御が作動状態になります。

・「**切**」……ランプ点灯時に，刈高さ自動スイッチを押すとランプが消灯し，刈高さ自動制御は作動しません。但し，このときには刈高さポジションコントロールが作動状態となります。

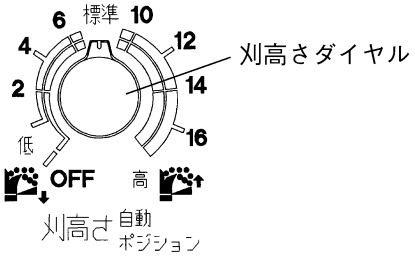


・「**入**」……再度，刈高さ自動スイッチを押すとランプが点灯し，刈高さ自動制御が作動状態となります。



❷ 刈高さダイヤル

・刈高さの調節は刈高さダイヤルの操作によって，希望する「**刈高さ位置**」を設定することができます。



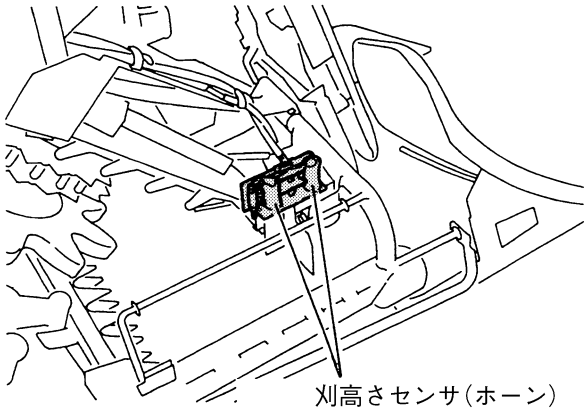
・刈高さダイヤルは通常，《**標準**》位置で使用します。

❸ ヒューズ

取扱いは28～31ページを参照します。

取扱いのポイント

- **刈高さ自動制御を使用しないときは刈高さ自動スイッチを押してランプを消灯してください。**
- **ほ場の凹凸が多い場合にはマルチステアリングレバーで手動操作してください。**
- **刈高さダイヤルをどの位置にセットしても刈高さ自動が設定できないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。**
- **刈高さセンサにワラや雑草がからんだり，泥が詰まっていると，適正な制御が行われないことがありますので，必ず取除いてください。**
- **刈高さセンサ（ホーン）内側に泥や水がついていると，適正な制御が行われないことがありますので，必ず軟らかい布などでふき取ってください。**


刈高さセンサ（ホーン）

- **刈高さダイヤルを「低」にセットすると，刈取部は地面接地状態になります。**
- **刈高さダイヤルを低くしすぎると，クイックアップデバイダが感知して上下動を繰返す場合があります。刈高さダイヤルを調節してください。**
- **刈取部の高さを調節する方法としては，下記の表の方法があります。**

高さ調節方法 ＼ 作動条件	刈高さ自動	クイックアップ	刈高さポジション	手動
刈高さ自動スイッチ	ON	ON	OFF	OFF
刈高さダイヤル	＊1	－	＊2	OFF
作業機クラッチ	ON	ON	ON	－
刈取クラッチ	ON	ON	－	－

＊１：全範囲にて設定可能

＊２：《**OFF**》位置以外にて設定可能

－　：関係なし

2．自動での作業のしかた

❶　乾田での標準刈高さセット

ほ場・作物条件にあわせて，低く刈取るときは《**低**》の方向に，高く刈取るときは《**高**》の方向にダイヤルをセットします。

⑴　**刈高さ自動スイッチ「入」（ランプ点灯）**を確認します。

⑵　刈高さダイヤルを《**標準**》位置にセットします。

⑶　マルチステアリングレバーを《**下げ**》に操作して刈取部を下げます。刈取部が停止した位置が刈高さ設定位置です。

❷　刈高さが高すぎる場合

⑴　刈高さダイヤルを少し《**低**》側へ回します。

⑵　刈取部が下がり，停止した位置が新しい刈高さ設定位置です。

❸　刈高さが低すぎる場合

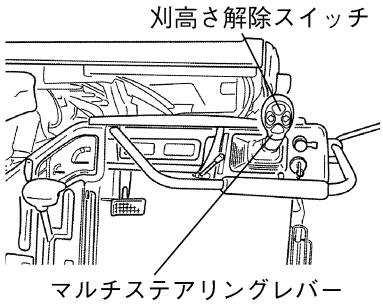
⑴　刈高さダイヤルを少し《**高**》側へ回します。

⑵　刈取部が上がり，停止した位置が新しい刈高さ設定位置です。

取扱いのポイント

- **刈高さ自動スイッチ内のランプが点灯しているときは，マルチステアリングレバーを《下げ》に操作しても刈高さセット位置以下には下がりません。**
- **刈高さ自動制御中に，マルチステアリングレバーを《上げ》操作すると，刈高さ自動が解除されます。**
- **再度刈高さ自動制御状態にしたいときは，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。**
- **バラ植えのほ場で刈幅いっぱいに作物がかかった場合，刈高さが高くなりすぎることがあります。**
- **ランプが点灯していても，刈取クラッチレバー《切》の状態では，刈高さ自動制御は作動しません。**
- **雑草等の影響で刈高さが大きく変化する場合には，刈高さ自動を「切」にして，刈高さポジションコントロールで作業してください。**
- **コンバインを水洗いする場合は，センサスイッチ・パネル・コントローラ付近に水がかからないように注意してください。**

❹　刈高さ解除スイッチの使用



⑴　刈高さセット位置よりもさらに刈取部を下げたいときは，刈高さ解除スイッチを押しながらマルチステアリングレバーを下げ操作します。但し刈取部の下限ストッパが作用する高さ以下には下がりません。

⑵　刈高さ解除スイッチの操作をやめると約１秒後に元の刈高さダイヤルの設定位置に戻ります。

取扱いのポイント

- **刈高さ自動スイッチのランプが消灯している時は，上記⑴～⑵の機能は働きません。**

3．手動での作業のしかた

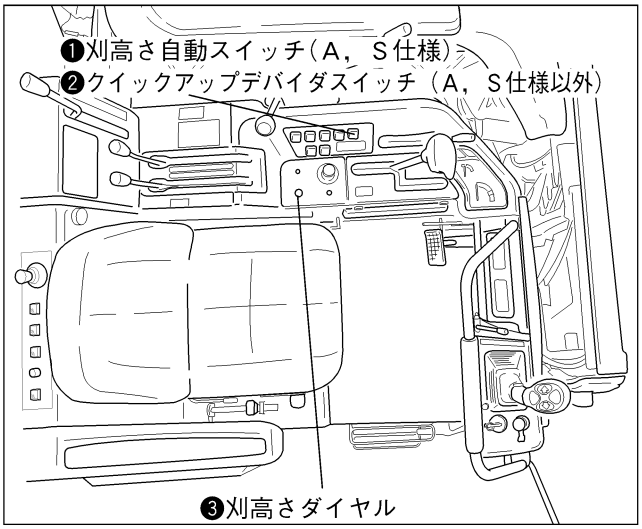
刈高さ自動スイッチを押してランプを「**消灯**」状態とし，刈高さダイヤルを《**OFF**》位置にすると，刈高さ自動及び刈高さポジションコントロールは作動しません。

マルチステアリングレバー操作によって刈取部の高さを任意の位置に合わせることができます。

4．刈高さポジションコントロール

刈高さのコントロールダイヤルにより，シートに座ったまま手元操作で刈取部の高さを調節することができます。

1．運転装置



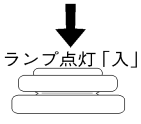
❶　刈高さ自動スイッチ［A，S仕様］

刈高さ自動スイッチを《**切**》操作すると，ランプが消灯し，刈高さポジションコントロールが作動状態になります。

・「**切**」……ランプ点灯時に，刈高さ自動スイッチを押すとランプが消灯し，刈高さポジションコントロールが作動状態となります。



・「**入**」……再度，刈高さ自動スイッチを押すとランプが点灯し，刈高さポジションコントロールは作動しません。但し，このときは刈高さ自動が作動状態となります。



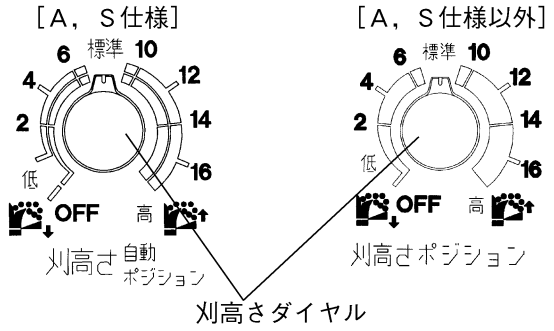
❷　クイックアップデバイダスイッチ［A，S仕様以外］

スイッチの「**入**」「**切**」（ランプの点灯，消灯）に関係なく刈高さポジションコントロールが作動します。

❸　刈高さダイヤル

・刈高さの調節は刈高さダイヤルの操作によって，希望する「**刈高さポジション**」を設定することができます。

・《**OFF**》位置では刈高さポジションコントロールは作動しません。



・刈高さダイヤルは通常，《**標準**》位置で使用します。

・「**乾田**」……《**標準**》の位置

・「**湿田**」……《**標準**》と《**高**》の間の位置

❹　ヒューズ

取扱いは28～31ページを参照します。

取扱いのポイント

- **刈高さポジションコントロールを使用しないときは刈高さダイヤルを《OFF》位置にしてください。**
- **ほ場の軟弱さによって刈高さ位置が変化します。デバイダが土中に突っ込まないように刈高さダイヤルで合わせてください。**
- **ほ場の凹凸が極端に多く，刈高さを頻繁に調整する必要があるときは，刈高さダイヤルを《OFF》位置とし，マルチステアリングレバーで手動操作してください。**
- **刈高さダイヤルをどの位置にセットしても刈高さポジションが設定できないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。**

●刈取部の高さを調節する方法としては，下記の表の方法があります。

［A，S仕様］

高さ調節方法 ＼ 作動条件	刈高さ自動	クイックアップ	刈高さポジション	手動
刈高さ自動スイッチ	ON	ON	OFF	OFF
刈高さダイヤル	＊1	－	＊2	OFF
作業機クラッチ	ON	ON	ON	－
刈取クラッチ	ON	ON	－	－

［A，S仕様以外］

高さ調節方法 ＼ 作動条件	クイックアップ	刈高さポジション	手動
クイックアップスイッチ	ON	－	OFF
刈高さダイヤル	－	＊2	OFF
作業機クラッチ	ON	ON	－
刈取クラッチ	ON	－	－

＊1：全範囲にて設定可能

＊2：《OFF》位置以外にて設定可能

－　：関係なし

2. ポジションコントロールでの作業のしかた

❶ 乾田での標準刈高さセット

ほ場・作物条件にあわせて，低く刈取るときは《低》の方向に，高く刈取るときは《高》の方向にダイヤルをセットします。

(1) 刈高さ自動スイッチ「切」（ランプ消灯）を確認します。［A，S仕様］

(2) 刈高さダイヤルを《標準》位置にセットします。

(3) マルチステアリングレバーを《下げ》に操作して刈取部を下げます。刈取部が停止した位置が刈高さポジション設定位置です。

❷ 刈高さが高すぎる場合

(1) 刈高さダイヤルを少し《低》側へ回します。

(2) 刈取部が下がり，停止した位置が新しい刈高さ設定位置です。

❸ 刈高さが低すぎる場合

(1) 刈高さダイヤルを少し《高》側へ回します。

(2) 刈取部が上がり，停止した位置が新しい刈高さ設定位置です。

取扱いのポイント

●刈高さポジションコントロール中（ランプ消灯［A，S仕様］，ダイヤルが《OFF》位置以外）は，マルチステアリングレバーを《下げ》に操作しても刈高さセット位置以下には下がりません。

●刈高さポジションコントロール中に，マルチステアリングレバーを《上げ》操作すると，ポジションコントロールが解除されます。

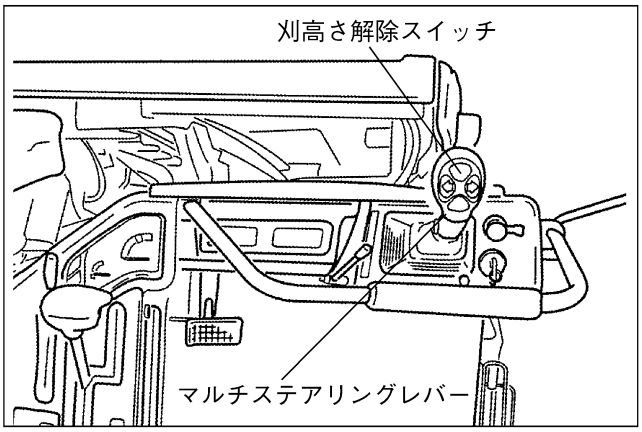
●再度刈高さポジションコントロール状態にしたいときは，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。

●ランプが消灯［A，S仕様］，ダイヤル《OFF》位置以外であっても，作業機クラッチレバー

《切》の状態では，刈高さポジションコントロールは作動しません。

●コンバインを水洗いする場合は，センサスイッチ・パネル・コントローラ付近に水がかからないように注意してください。

❹ 刈高さ解除スイッチの使用



⑴ 刈高さセット位置よりもさらに刈取部を下げたいときは，刈高さ解除スイッチを押しながらマルチステアリングレバーを下げ操作します。但し刈取部の下限ストッパが作用する高さ以下には下がりません。

⑵ 刈高さ解除スイッチの操作をやめると約１秒後に元の刈高さダイヤルの設定位置に戻ります。

取扱いのポイント

●刈高さダイヤルが《OFF》位置の時は，上記⑴～⑵の機能は働きません。

３．手動での作業のしかた

・［A，S仕様］は，刈高さ自動スイッチを押してランプを「消灯」状態にします。

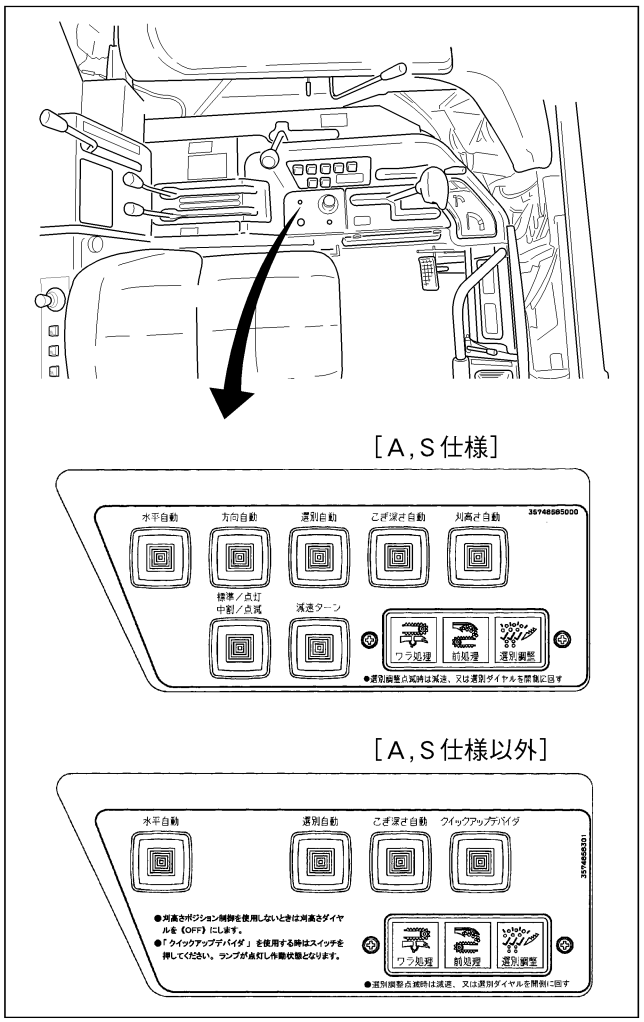
・刈高さダイヤルを《OFF》位置にすると，刈高さポジションコントロールは作動しません。

・マルチステアリングレバー操作によって刈取部の高さを任意の位置に合わせることができます。

5．クイックアップデバイダ

右端のデバイダはクイックアップデバイダとなっています。その機能は刈取部が地面にもぐりそうな状況のとき，クイックアップデバイダ装置が感知し，刈取部を上昇させる働きをします。

1．運転装置

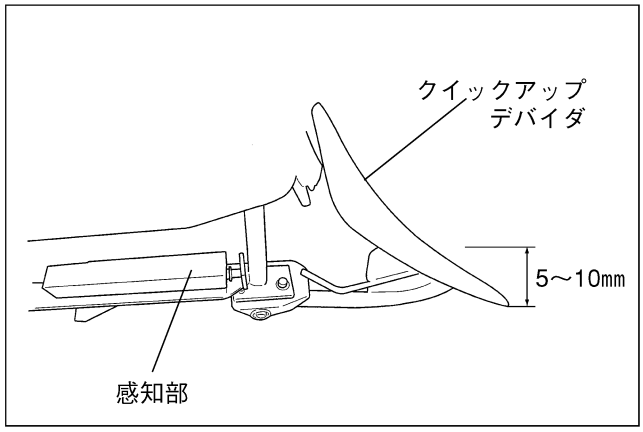


・［A,S仕様］は刈高さ自動スイッチを押して刈高さ自動制御を作動させるとクイックアップデバイダも作動します。

・［A,S仕様以外］はクイックアップデバイダスイッチを押してランプが点灯したら作動状態となります。

2．作動

❶ クイックアップデバイダが地面にもぐりそうになると感知部を押します。（クイックアップデバイダ先端が5～10㎜押し上げられた状態になると，感知部を押します。）



❷ 感知部はマイコンに刈取部上昇の信号を出します。

❸ 刈取部が上昇します。

取扱いのポイント

- **クイックアップデバイダの感知部にワラや雑草がからんだり泥が詰まっていると，適正な制御が行われないことがありますので，必ず取除いてください。**
- **あぜ際などの地面の起伏がはげしい状況では，クイックアップデバイダの作業が，間に合わない場合がありますので注意してください。**
- **ランプが点灯していても，刈取クラッチレバーが《切》の状態ではクイックアップは作動しません。**

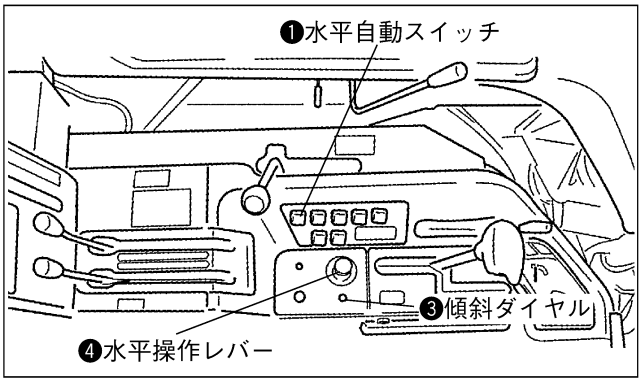
6．水平自動制御
（ジャストマチック）

・水平自動は湿田などで機体が傾斜した場合，自動的に機体を水平に修正します。「**水平操作レバー**」で機体全体を持上げることもできます。
・あぜぎわや溝のある麦刈り作業時および傾斜地での作業では，ほ場条件に合わせ傾斜ダイヤルで一定の角度に傾斜させて作業ができます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし，こく粒の排出時は，水平自動スイッチを「切」にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げて行なってください。

1．運転装置



❶ 水平自動スイッチ

・「**入**」……押すとランプが点灯し，水平自動スイッチが「**入**」の状態であることを表示します。



・「**切**」……「**入**」の状態から再び押すとランプが消え，水平自動制御は作動しません。



取扱いのポイント

●**水平自動スイッチ内のランプが点灯しても，水平自動が作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。**

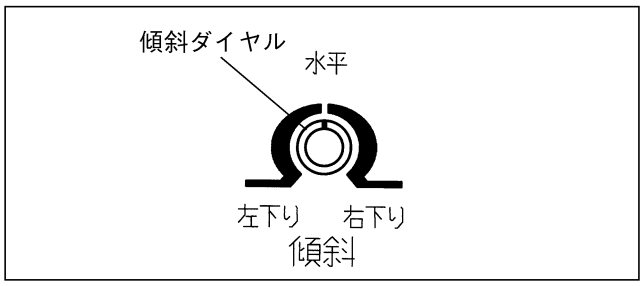
❷ ヒューズ

取扱い方は28～31ページを参照します。

❸ 傾斜ダイヤル

傾斜ダイヤルの操作によって，機体を一定の角度に傾斜させた制御をすることができます。

・ダイヤルを《**右下り**》の方向に回すと，機体は右下がりになります。
・ダイヤルを《**左下り**》の方向に回すと，機体は左下がりになります。



❹ 水平操作レバー

取扱い方は26ページを参照します。

2．作業のしかた

❶ 作業前

傾斜ダイヤルで，機体を希望の角度に調整します。

❷ 刈取り作業

作業機クラッチレバー《**入**》で水平自動制御が作動します。

作業機クラッチレバー《**切**》のときには水平自動制御は作動しません。

❸ 作業終了時

作業が終了したら，水平自動スイッチを「**切**」にして，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。

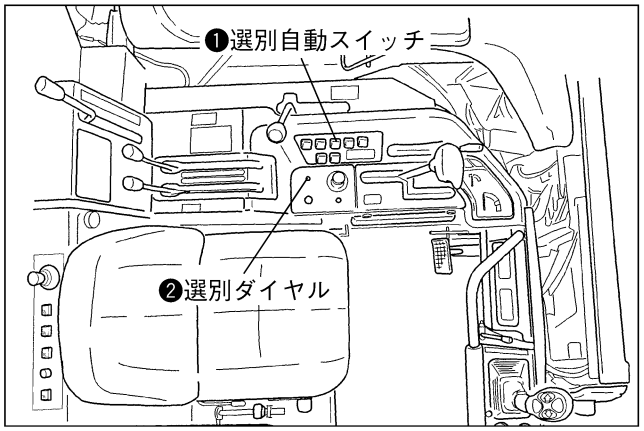
取扱いのポイント

●**水平自動スイッチが「入」でも水平操作レバーを操作すると「手動優先」で機体の高さ，傾斜角を変えることができます。**
但し，水平操作レバーをはなすと傾斜角は傾斜ダイヤル設定位置に戻ります。
●**自動制御中，機体の高さを変えたいときは水平操作レバーを操作してください。**

7．選別自動制御

選別自動は，選別風の風量に応じて自動的に調整し，刈取り条件に合ったきめ細かい選別となるように自動的に調整します。

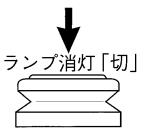
1．運転装置



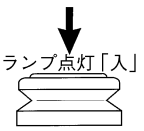
❶　選別自動スイッチ

スタータスイッチを《 入》位置にするとランプが点灯し，選別自動が作動状態になります。

・「切」……ランプが点灯時に選別自動スイッチを押すとランプが消灯し選別自動は作動しません。

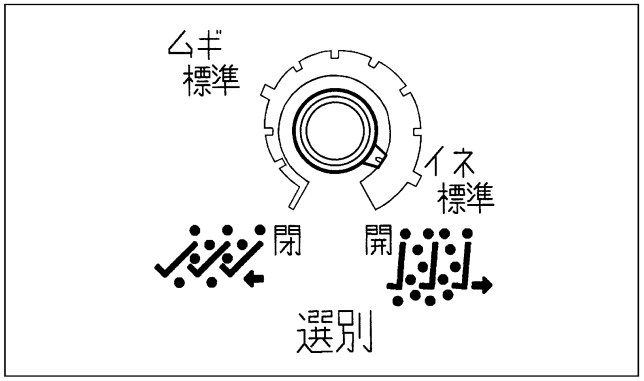


・「入」……再度，選別自動スイッチを押すとランプが点灯し，選別自動が作動状態となります。



❷　選別ダイヤル

刈取る作物に合わせて選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。



⑴　**稲刈り作業**

・選別ダイヤルは，通常の稲刈り作業では《**イネ標準**》にセットします。

・選別が悪いときには，選別ダイヤルを《**閉**》側に回します。

・高収量材料又は脱こく負荷が大きいときには，選別ダイヤルを《**開**》側に回します。

⑴　**麦刈り作業**

・選別ダイヤルは，通常の麦刈り作業では《**ムギ標準**》にセットします。

・選別が悪いときには，選別ダイヤルを《**閉**》側に回します。

・高収量材料又は脱こく負荷が大きいときには，選別ダイヤルを《**開**》側に回します。

❸　ヒューズ

取扱い方は28～31ページを参照します。

取扱いのポイント

- **選別自動スイッチ「入」（ランプ点灯）状態で作業すると刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。**
- **選別自動スイッチ「切」（ランプ消灯）状態で作業するときも選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。**
- **選別自動スイッチは「切」（ランプ消灯）の状態でも作業に支障はありませんが良好な選別状態を得られない場合があります。**
- **スタータスイッチを《 入》にして，ランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。**

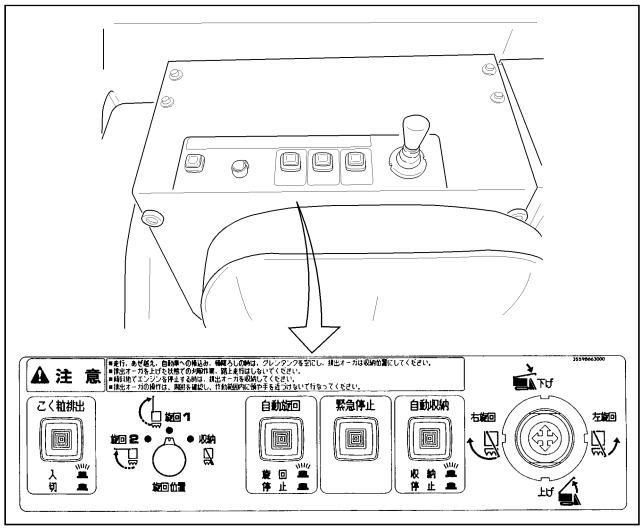
8．排出オーガ自動制御

・自動旋回スイッチの操作により，排出オーガが自動的に収納位置から排出位置まで動きます。
・自動収納スイッチの操作により，排出オーガが自動的に排出位置から収納位置まで動きます。

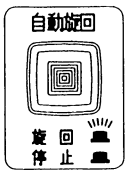
⚠警告 傷害事故防止のために

◆排出オーガの運転操作は運転席から，後方を向いて周囲を確認して行なってください。
◆排出オーガの作動範囲に頭や手を近づけないでください。
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし，を行う時はグレンタンク内のこく粒を排出してください。
◆傾斜地でのこく粒の排出作業はしないでください。
◆こく粒の排出作業をするときは，駐車ブレーキをかけて行なってください。
◆排出オーガ先端部にたまったこく粒を取除く場合は，こく粒排出スイッチを《切》にしエンジンを停止してください。
◆排出オーガ自動収納（又は自動旋回）中に緊急停止する場合は，排出オーガ緊急停止スイッチを押して止めてください。
旋回範囲近くに障害物がある場合は自動収納（又は自動旋回）を使用しないで，排出オーガ操作レバーで排出オーガを操作してください。
◆［キャビン仕様］は，キャビンの窓から頭や手を出して排出オーガの操作をしないでください。
◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングで固定してから行なってください。
◆水平自動スイッチを「切」にして，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げてから排出作業をしてください。

1．運転装置



❶ 排出オーガ自動旋回スイッチ



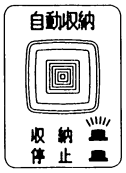
・「**入**」……押すとランプが点灯し，排出オーガは自動的に上昇後旋回位置セットダイヤルのセット位置まで旋回します。



・「**切**」……「**入**」の状態から再び押すとランプが消え，排出オーガは停止します。



❷ 排出オーガ自動収納スイッチ



・「**入**」……押すとランプが点灯し，排出オーガは排出位置から自動的に上昇後旋回収納します。

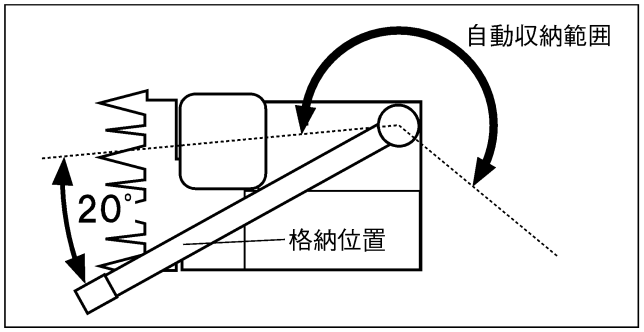


・「**切**」……「**入**」の状態から再び押すとランプが消え，排出オーガは停止します。



取扱いのポイント

- **自動収納は排出オーガが下図の範囲にある時だけ作動します。**

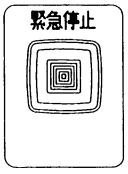


- **自動旋回は排出オーガが収納位置にある時にだけ作動します。自動旋回スイッチの操作は排出オーガの固定リングを外してから行なってください。**
- **スイッチを「入」にして，ランプが点灯しない時は，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。**
- **自動旋回及び収納が作動しない時は排出オーガ操作レバーによって，手動で操作してください。**

❸ ヒューズ

取扱い方は28～31ページを参照します。

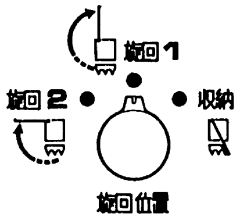
❹ 排出オーガ緊急停止スイッチ



・排出オーガが自動旋回及び自動収納途中での排出オーガ停止に使用します。

❺ 旋回位置セットダイヤル

旋回位置セットダイヤルの操作によって，2個所の《**排出位置**》を設定することができます。



・ダイヤルを《**旋回1**》の位置に合わすと，排出オーガは，機械に対して後方まで旋回します。
・ダイヤルを《**旋回2**》の位置に合わすと，排出オーガは，機械に対して右横まで旋回します。
・ダイヤルを《**収納**》の位置に合わすと，排出オーガ自動旋回スイッチを「入」にしても，排出オーガは作動しません。

取扱いのポイント

- **旋回位置セットダイヤルを2個所の表示セット位置以外にセットすると自動旋回スイッチを押しても排出オーガは作動しません。**
- **自動旋回を使用しない時は旋回位置セットダイヤルを《収納》位置に合わせてください。**

9．強制かき込み

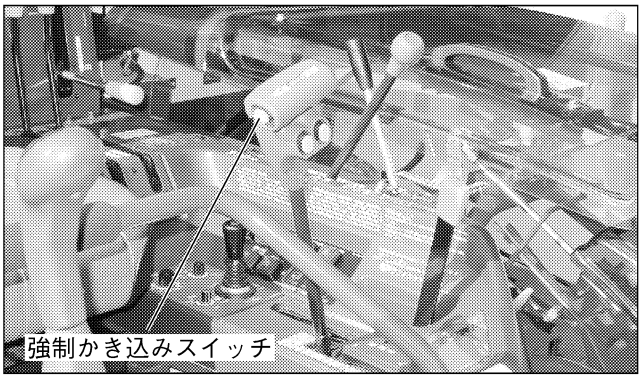
・副変速を《N》にしなくても，強制かき込みスイッチを押すことで，機体停止状態で搬送のみ駆動して前処理部に残る穀稈を処理することができます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆強制かき込み使用時に，主変速レバーを急操作すると機械が急発進することがあります。主変速レバーはゆっくり操作してください。

◆強制かき込みスイッチを傾斜地やアユミの上で操作すると機械が暴走するおそれがあるので平坦な所以外では操作しないでください。

1．運転装置



❶ 強制かき込みスイッチ

・強制かき込みスイッチを押したままにすることで，強制かき込み機能が作動状態となります。

・強制かき込みスイッチを離すことで強制かき込み機能は停止します。

❷ ヒューズ

・取扱い方は28～31ページを参照します。

2．作業のしかた

❶ 作業機クラッチ・刈取クラッチを《**入**》のまま，主変速レバーを《**中立**》にします。

❷ 強制かき込みスイッチを《**押す**》とホーン単音を発し，機能が有効となります。スイッチはそのまま押し続けます。

❸ 刈取部が穀稈をかき込むまで主変速レバーを前進側へゆっくり《倒します》。

❹ かき込み作業が終ったら主変速レバーを《**中立**》に戻します。

❺ 強制かき込みスイッチを《**離す**》とホーン単音を発し，強制かき込み機能を解除します。

取扱いのポイント

- **強制かき込みスイッチは，エンジン回転が《回転計の作業範囲内》で使用してください。**
- **主変速レバーを中立とし，機体が完全に停止した状態でないと強制かき込みスイッチを押しても強制かき込み機能は作動しません。また主変速レバーを中立に戻さないと，強制かき込みスイッチを離しても機能は解除されません。**
- **強制かき込み機能が使用できないときはエンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。**

10．マイコン（マイクロコンピュータ）

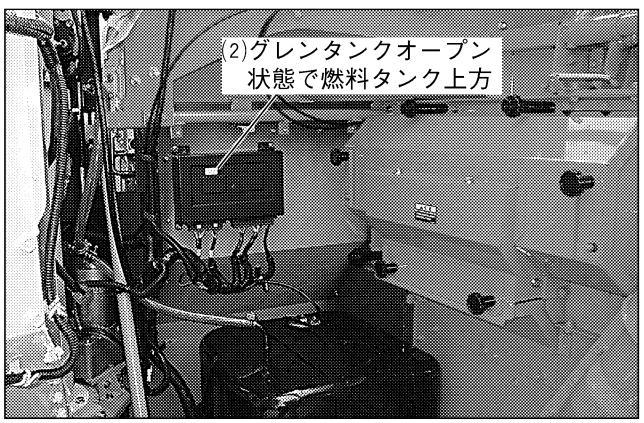
高性能マイクロコンピュータが搭載されています。これにより下記の制御が集中コントロールされ，オペレータの作業が軽減されます。

❶　マイコンによる制御機能

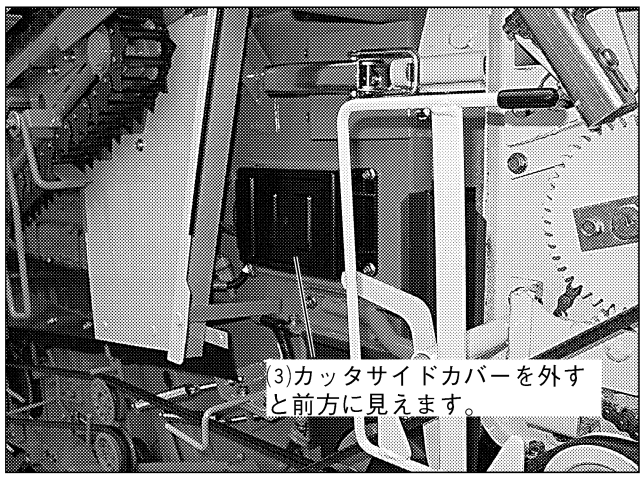
・こぎ深さ自動
・方向自動［A，S仕様］
・刈高さ自動［A，S仕様］
・刈高さポジションコントロール
・水平自動
・選別自動
・ツインハーモニー
・ホーン・モミ警報・その他各種警報
・マルチステアリングレバー
・排出オーガ
・エンジン停止制御
・減速ターン［S仕様］
・クイックアップデバイダ
・強制かき込み

❷マイコンの位置





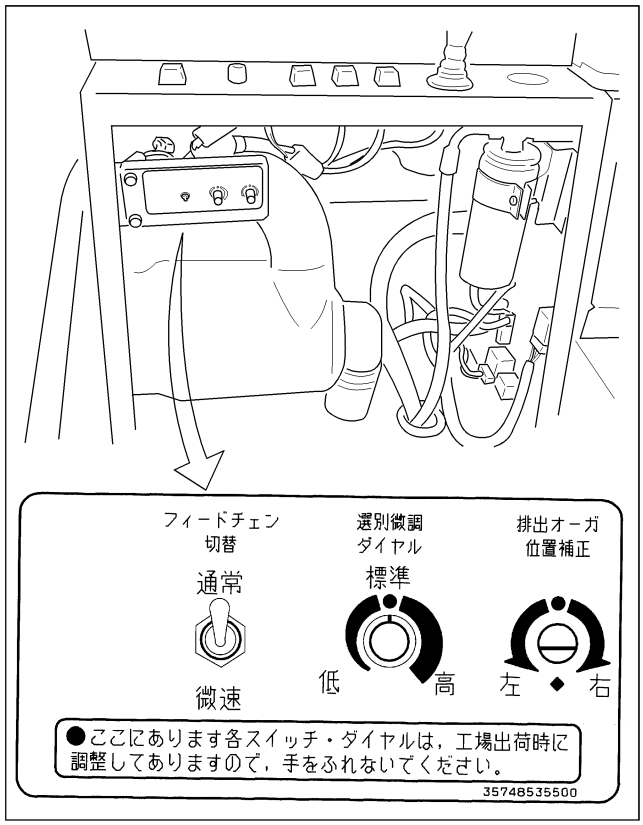
❸　マックエアセンサ



❹　ヒューズ

「**マイコン**」の10Aヒューズが溶断しているときは，マイコンによる各制御機能が停止状態となります。(28～31ページ参照)

❺　特殊スイッチ



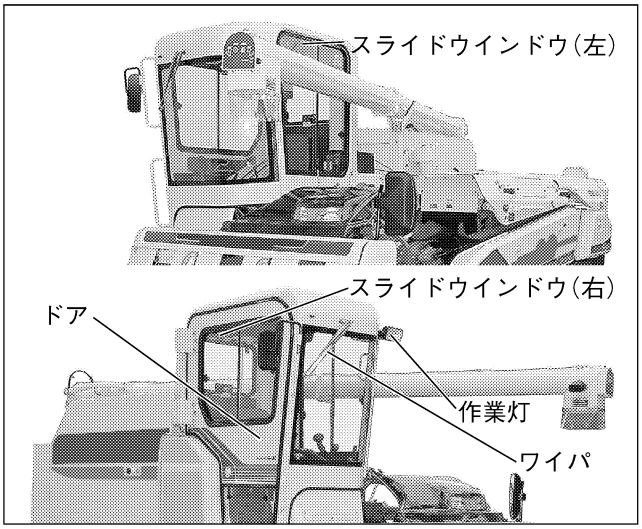
このスイッチ，ダイヤルは工場出荷時に調整してあります。

このスイッチ類に手をふれて，設定を変えると正常な作業に支障をきたすことがあります。

キャビンについて［キャビン仕様］

1．各部の取扱い

1．ドア・ウインドウの開閉のしかた



❶ ドア

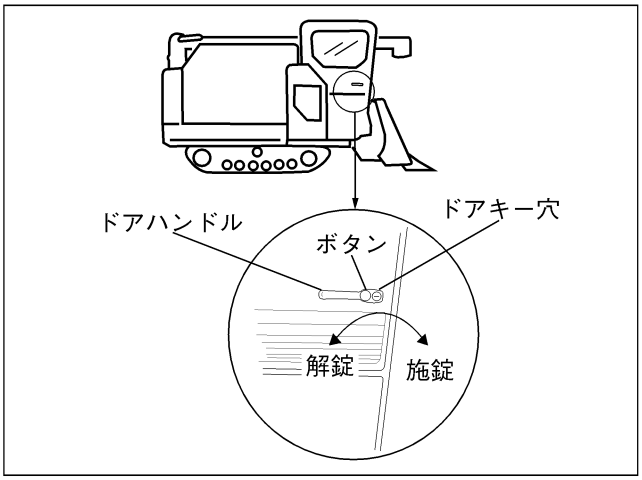
> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆半ドアの状態で運転すると，急にドアが開いて事故になることがあります。
> 走行前にドアが完全に閉じていることを確認してください。

(1) **ドアの施錠・解錠**

ドアキーを差込み，右方向に回すと施錠・左方向に回すと解錠になります。

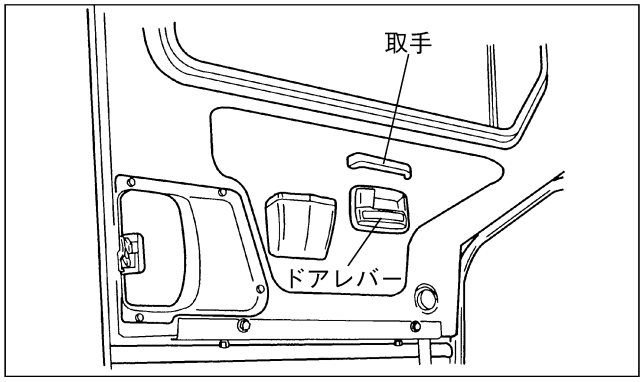
(2) **車外からの開けかた**

ドアハンドルのボタンを押すと，ドアが開きます。



(3) **車内からの開けかた**

ドアレバーを引くと，ドアが開きます。
閉じるときは取手を持ってドアを閉じます。



❷ **スライドウインドウ（右）・（左）**

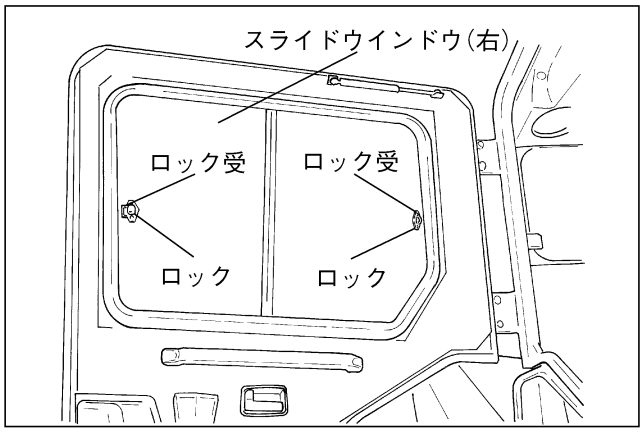
スライドウインドウ（右）・（左）はキャビンの中側から開閉ができます。

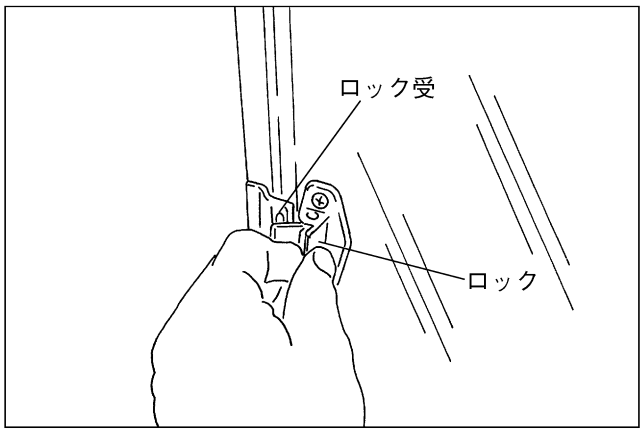
・開けかた

ロックをつまんでウインドウを開けます。

・閉じかた

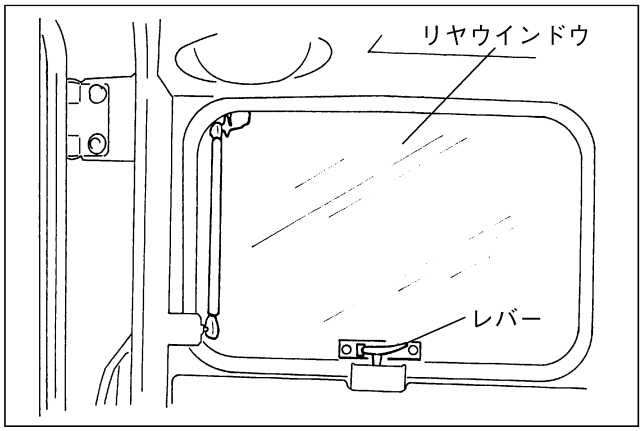
ロックを押してウインドウをスライドさせ，ロックがロック受に入るまでスライドさせてウインドウを閉じます。

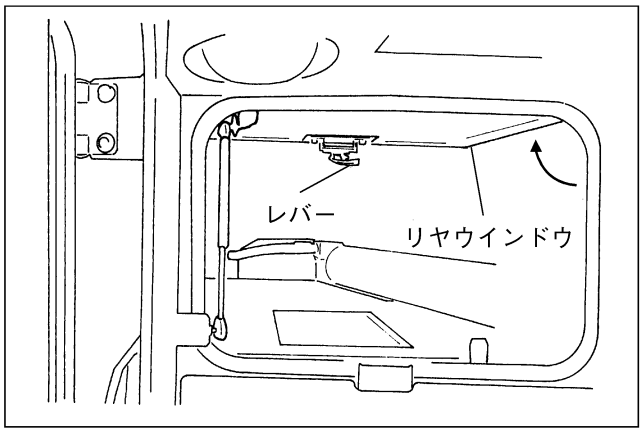




❸ リヤウインドウ

リヤウインドウは，跳上げ式です。





・開けかた

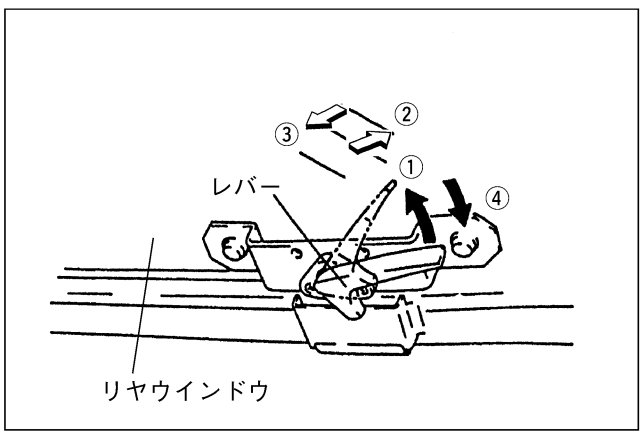
① レバーを左に回します。

② レバーを外側に押出して開けます。

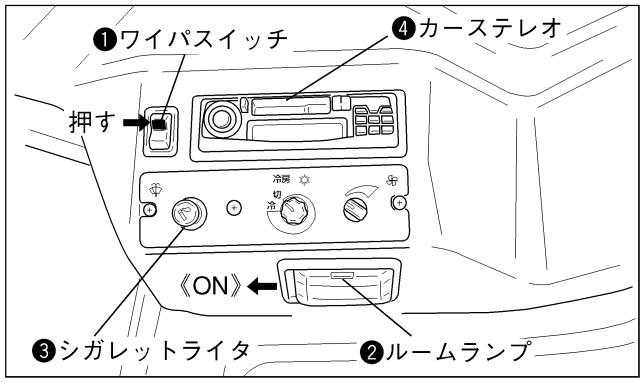
・閉じかた

③ レバーを手前に引き，リヤウインドウを閉じます。

④ レバーを手前に引きながら右に回し，確実に固定します。



2．スイッチ類の取扱い

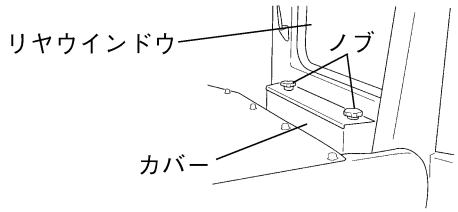


❶ ワイパスイッチ

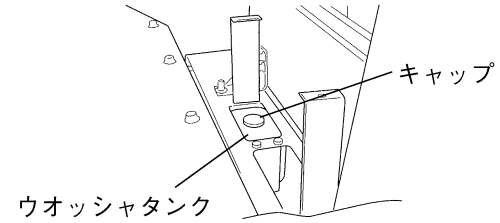
スタータスイッチを《 ⟳ 入》にして，ワイパスイッチ上側を押してワイパスイッチを「入」にするとワイパが作動し，さらに押すとウォッシャ液が噴出します。

ウォッシャタンクはキャビンの後側のカバー内にあります。ウォッシャ液がなくなったら市販のウォッシャ液を補充してください。

①リヤウインドウを開けて，ノブをゆるめ，カバーを上に持ち上げ外します。

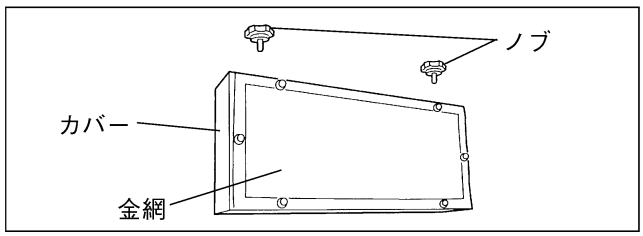


②キャップを開けてウォッシャ液を補充してください。



取扱いのポイント

● カバーを取付ける時は金網のある側をキャビン本体側（前側）に向けて取付けてください。



❷ ルームランプ

ルームランプのカバーがスイッチになっています。

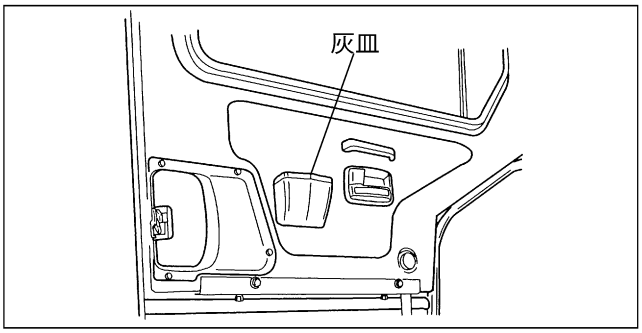
ルームランプを《ＯＮ》側に動かすとルームランプが点灯します。

❸ シガレットライタ

⚠警告 火災防止のために

◆キャビン内で喫煙する時は，備付けの灰皿を使用してください。又灰皿の中に可燃物を入れないでください。

エンジン始動状態でノブを押込むと下側金属部が熱くなり，ノブが元の位置に戻ります。その後，引抜いて使用します。



❹ カーステレオ

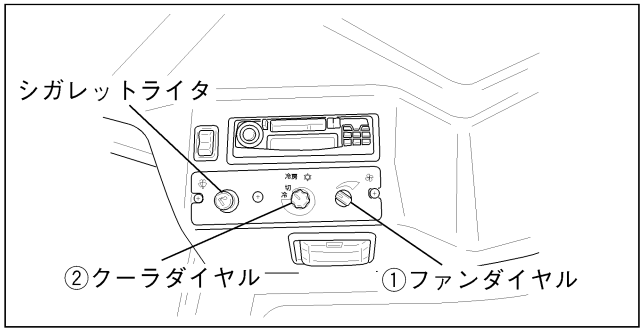
別添のカーステレオ用の取扱説明書を参照してください。

３．クーラの取扱い

⚠注意

◆冷風を直接身体に当てて長時間使用しないでください。

❶ 操作部



① ファンダイヤル

風量の調整をします。右に回すと強く，左に回すと弱くなります。

② クーラダイヤル

クーラの能力を調整します。《切》に回すとクーラは作動しません。《冷》側に回すにしたがって冷風の温度が下がります。

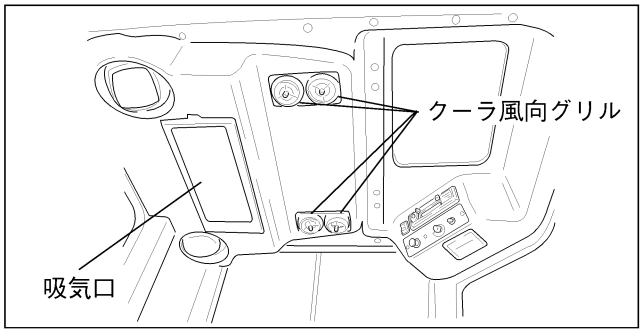
❷ 操作方法

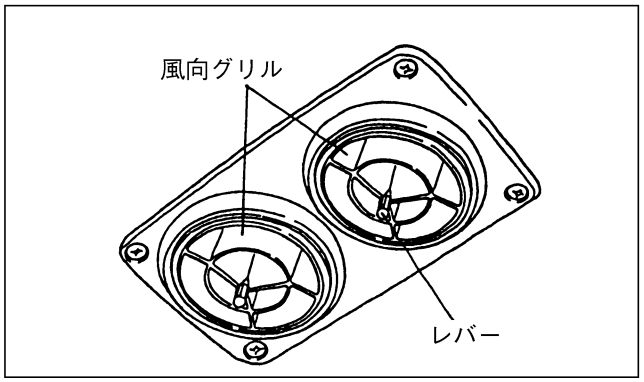
⑴ エンジンを始動します。

⑵ ファンダイヤル，クーラダイヤルをいっぱい右に回します。

⑶ 涼しくなったら各ダイヤルを快適な温度になるように調節します。

⑷ 風向グリルで風向きを調整します。





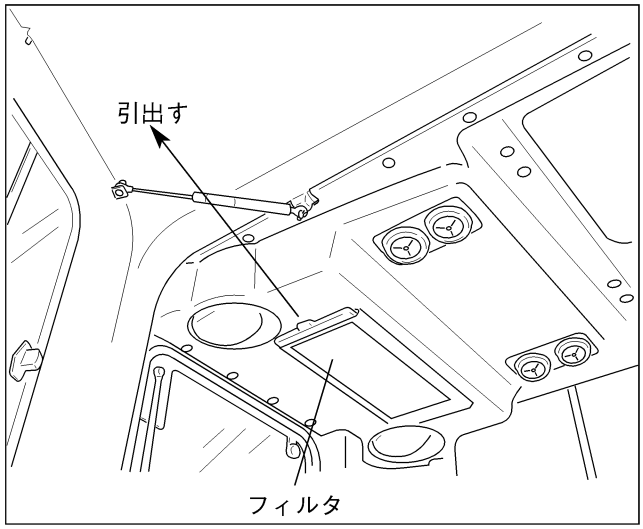
取扱いのポイント

- 炎天下で駐車中の室内は，60℃～70℃にも達しますので，クーラを作動する前には左右の窓ガラスを開けて外気並に冷やしてから使用してください。
- 直ちに走行する場合は，左右の窓ガラスを開けたまま走り始め，室内の暑い空気と外気を入換えてから，窓を閉めて使用してください。
- 暑いときや乗車してすぐに涼しくなりたいときは，風向グリルで直接身体に当たるようにし，涼しくなったら身体に当てず室内に冷風が循環するように方向を変えてください。
- クーラダイヤルを《冷》(強冷）で長く使用すると，風向グリルに水滴が発生しますので，クーラダイヤル《冷》(強冷）で長時間使用しないでください。

❸ 吸気口の掃除

キャビン内部のクーラ吸気口にはほこりやごみがたまりますので定期的に掃除します。

中のフィルタを引出し掃除機でほこりやごみを取除きます。



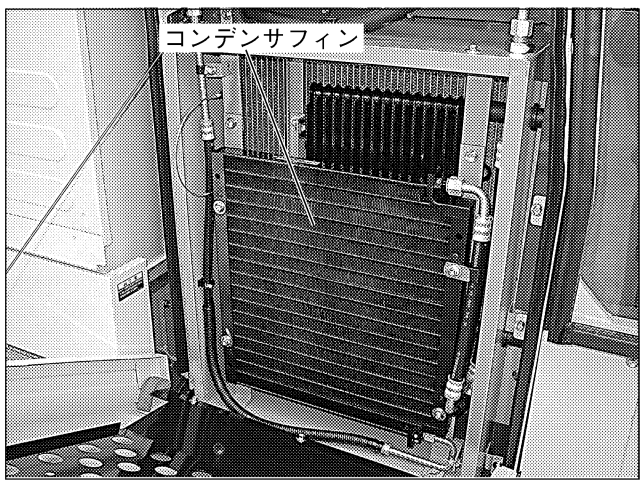
❹ コンデンサフィンの掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆スチーム洗浄はしないでください。冷媒の圧力が上昇して破裂の恐れがあります。

⑴ エンジンカバーを開きます。(座席シートの右に固定レバーがあります。)

⑵ コンデンサフィンの表面にほこりやごみ，異物が付着して汚れているとクーラの冷えが悪くなります。(掃除については115ページを参照します。)



4．格納のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

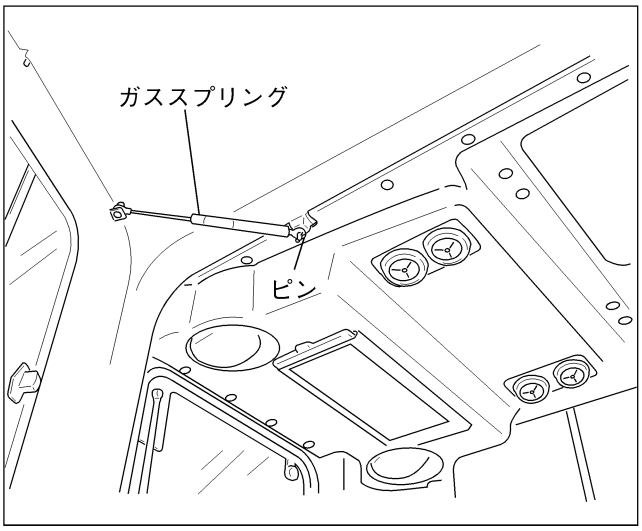
◆移動中及び作業中にはドアをフルオープン状態で使用しないでください。

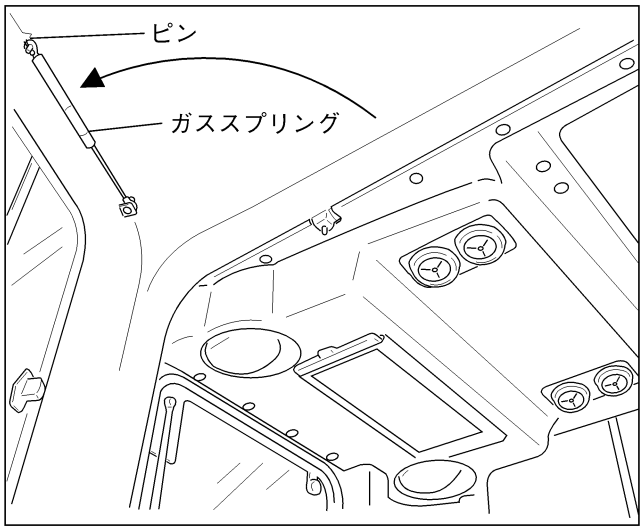
❶　クーラ・ワイパ・室内灯・作業灯などの電装品のスイッチは，「ＯＦＦ」または「切」位置にしてから格納します。

❷　コンプレッサ各部のオイルが切れないようにするため，１カ月に１度ぐらい低速回転で15～20分間運転します。クーラダイヤル，ファンダイヤルを低めに設定してコンプレッサを運転します。

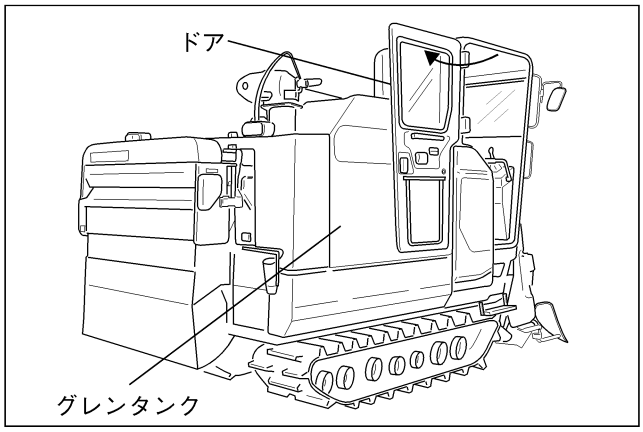
❸　コンバインの格納庫が狭く，ドアの開閉が困難な場合には，ドアをフルオープン状態にして格納することができます。

⑴　ドアのガススプリングを取付けているルーム側のピンを外し，ドア側のブラケットにガススプリングを付替えてピンで取付け，ドアをフルオープンします。





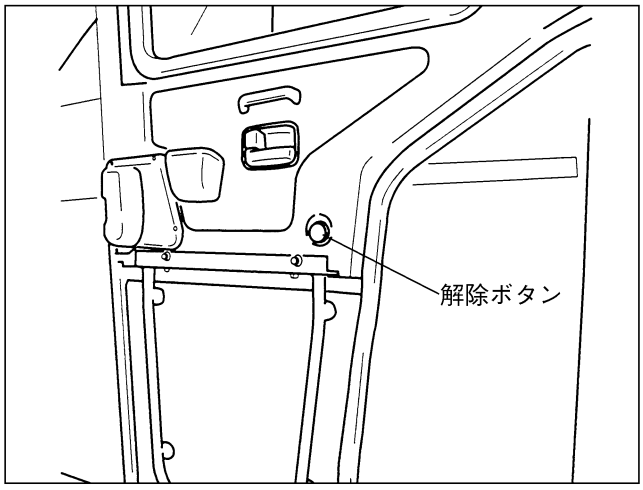
⑵　ドアをいっぱいに開くとグレンタンクにドアが固定されます。



取扱いのポイント

●ドアをフルオープンしたままで排出オーガを旋回させないでください。

⑶　ドアの固定を解除するには解除ボタンを押します。



手入れのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除する時は平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。
◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

- エンジンオイル等の油脂類および不凍液を交換して廃却するときは，廃却設備のある所で廃却処理してください。
- 部品（バッテリ等）または機械を廃却する時は，「お買いあげ先」にご相談ください。

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**に従って定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。
「定期点検整備表」（点検・補給・掃除・調整・グリスアップ○，交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）															格納時	備考	参照ページ
			シーズン前	始業前	25	50	100	150	250	350	450 (400)	500 (550)	600 (650)	700 (750)	800 (850)	900 (950)	1000 (1050)			
エンジン部	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	○		●		●	●	●	●	● (550)	● (650)	● (750)	● (850)	● (950)	● (1050)			98～99
	エンジンオイルフィルタ	交換				●		●		●		● (550)		● (750)		● (950)				100
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・交換		○														●		101～102
	エアクリーナエレメント	点検・掃除・交換	○	○					●			●		● (750)		● (950)				116
	燃料フィルタ	点検・交換	○										●		●		●			117
	燃料フィルタポット部	点検・掃除（水抜き）	○	○																117
	燃料ポンプ内蔵フィルタ	点検・掃除・交換	○						●			●		● (750)			●			117～118
	ラジエータ前金網	点検・掃除	○	○														○		115
	ラジエータオイルクーラ	点検・掃除	○	○														○		115
	エンジンファンベルト	点検・調整・交換	○			○				●				●			● (1050)			165
	オルタネータベルト	点検・調整・交換	○			○				●				●			● (1050)			164
	燃料ホース	点検・交換	○	●（２年ごと）														○	燃料もれ点検	155
	クーラコンデンサ（キャビン仕様）	点検・掃除	○	○																115
	ウインドウォッシャ液（キャビン仕様）	点検・調整・抜取り	○	○														抜取り		111
電装関係	バッテリ液	点検・補給	○																	119～122
	電気配線（配線・接続部のゆるみ，損傷）	点検・修理	○	○															損傷の場合交換	119
	計器，スイッチ類	点検	○	○																9～18
走行・運転操作部	油圧作動油（オイルタンク）	点検・補給・交換	○				●				●					●				104～105
	油圧ホース	点検・交換	○													●			油もれ点検	155
	油圧オイルフィルタ	交換					●				●					●				106
	ＨＳＴオイルフィルタエレメント	交換					●				●					●				106～107
	駐車ブレーキ	点検・調整	○																	160
	トランスミッションケースオイル	点検・補給・交換	○				●				●				●					103
	走行ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			166
	走行クラッチペダル	点検・調整	○	○		○		○	○	○	○	○ (550)	○ (650)	○ (750)	○ (850)	○ (950)	○ (1050)			160
	マルチステアリングレバー	点検・調整	○	○	○															159
	作業機クラッチレバー	点検・調整	○		○															161
	刈取クラッチレバー	点検・調整	○		○															161
	クローラ	点検・調整	○	○																179
	水平制御リフトアーム軸受部	グリスアップ	○																	112
	クーラガス	点検	○																	―

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）														格納時	備考	参照ページ
			シーズン前	始業前	25	50	100	150	250	350	450 (400)	500 (550)	600 (650)	700 (750)	800 (850)	900 (950)	1000 (1050)			
刈取部	引起こしチェン，爪	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			● (1050)			172
	かき込みベルト	点検・調整・交換	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	●	○	○	● (1050)			170
	上部搬送チェン（右，左，中，後），爪	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			● (1050)			172〜173
	下部搬送チェン（右，左，中）	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			● (1050)			173〜174
	縦搬送チェン	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			● (1050)			174
	補助搬送チェン，爪	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			● (1050)			174
	受継搬送チェン	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			● (1050)			175
	刈刃	点検・調整・交換	○	○	○				●			●		● (750)			●	○		178
	集中注油タンク	点検・補給	○	○																113
	刈取ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			161，163
	リフトシャットレバー	点検・調整	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			163
脱こく部	脱こくギヤケースオイル	点検・補給	○																	107
	こぎ胴ギヤケースオイル	点検・補給	○																	108
	脱こくフィードチェンギヤケースオイル	点検・補給	○																	109〜110
	脱こく入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			197
	こぎ胴伝動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			167
	こぎ胴ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			167
	脱こくフィードチェン駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			168
	１番ラセン駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			169
	選別ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			170
	排ワラ駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			171
	排ワラチェン	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			176
	穂先排ワラチェン，爪	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			176
	揚こくラセンタッチ部	点検・掃除	○															○		114，130
	こぎ歯	点検・増締め・交換	○		○									● (750)						158
	ワラ切カマ	点検・交換	○						●			●					●			156〜158
	脱こく受網	点検・掃除・交換	○									●					●	○		128〜129
	脱こく底板・こぎ室揺動選別部	点検・掃除	○															○		130〜131
	２番ラセンタッチ部	点検・掃除	○															○		114
グレンタンク部	オーガ回動支点部	点検・補給	○															○		112
	グレン入力ギヤケース	点検・補給	○																	110
	グレンタンク	点検・掃除	○															○		122〜123
	グレンタンク駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			197
	グレン入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			171
	縦ラセン筒上・下	点検・掃除	○															○		140〜141
カッタ部	カッタ排ワラ切替レバー	点検・調整	○		○															162
	カッタ刃	点検・交換	○										●			●				144〜154
	拡散装置駆動チェン	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			177
	カッタベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			169

2. 給油・注油・給水のしかた

・オイルの点検・交換は，「**運転まえの点検表**」（32～33ページ）及び「**定期点検整備表**」（91～94ページ）に従って行います。
・オイルの点検・交換は機械を平坦な場所に駐車して行います。

取扱いのポイント

- **各給油個所には指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを注油すると，故障の原因となりますので使用しないでください。**
- **容量は燃料タンク・集中注油タンクを除き，そのほかの個所は工場出荷時の容量です。**
  交換時は，残油量がありますので，レベルゲージまたは検油栓により容量を確認してください。但し，レベルゲージまたは検油栓のない個所は全量交換してください。排油栓のない個所は補充してください。
- **交換したオイルを，廃却する時は，廃却設備のある所で廃却処理してください。**
- **使用オイルの詳細は「潤滑油について」の項（202ページ）を参照してください。**

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は給油・注油しないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料もれがあると火災の原因となります。
◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検する時は，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。
◆回転部・摺動部から異音が発生する時はエンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。
◆エンジンカバーを開いて点検等を行なった後は，エンジンカバーを閉じて固定レバーで固定してください。

「給油・注油・給水表」

No	個所	種類	種類 API サービス分類	種類 SAE 粘度番号	容量（L）	備考
①	燃料タンク	ディーゼル軽油	－	－	80	JIS 2 号（－7.5℃まで） JIS 3 号（－20℃まで）
②	エンジンクランクケース	ディーゼルエンジンオイル	CD級以上	10W－30	8.6	［マルチSTOUオイル］
③	ラジエータ（補助タンク 1 L 含む）	冷却水（不凍液40～45%含む）	－	－	11.3	北海道は不凍液割合45～50%
④	トランスミッションケース	ギヤオイル	GL－5	90	20.8	［S 仕様］以外
					19.7	［S 仕様］
⑤	油圧オイルタンク	油圧作動油	GL－4	10W－30	24.2	
⑥	脱こくギヤケース	ギヤオイル	GL－5	90	0.4	

No.	個　所	種　類	種　類		容　量（L）	備　考
			API サービス分類	SAE 粘度番号		
⑦	こぎ胴ギヤケース	ギヤオイル	GL－5	90	0.7	
⑧	脱こくフィードチェンギヤケース	ギヤオイル	GL－5	90	0.8	
⑨	グレン入力ギヤケース	ギヤオイル	GL－5	90	1.4	
⑩	集中注油タンク	エンジンオイル	－	30	4.0	
⑪	ウォッシャタンク	ウォッシャ液	－	－	1.0	ウォッシャ液0.35Ｌ，水0.65Ｌ［キャビン仕様］

指定オイル

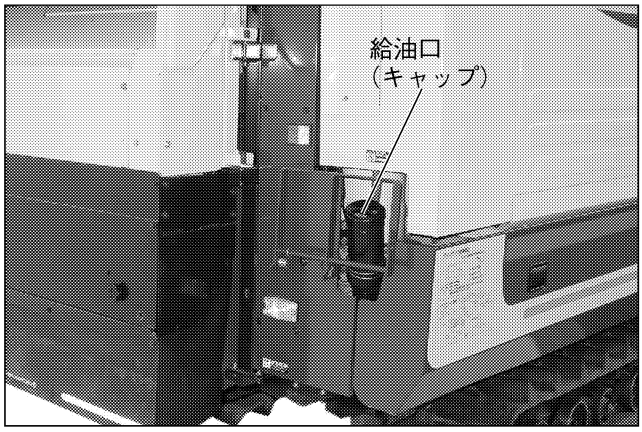
・ディーゼルエンジンオイル……ディーゼルエンジン用オイルAPI・CD級以上，SAE・10W－30

・油圧作動油……「潤滑油について」（202ページ）の指定オイル

1．燃料の補給

⚠注意

◆収納式スタンドに乗らないでください。



・給油口のキャップを外して，補給します。

・燃料……ディーゼル軽油

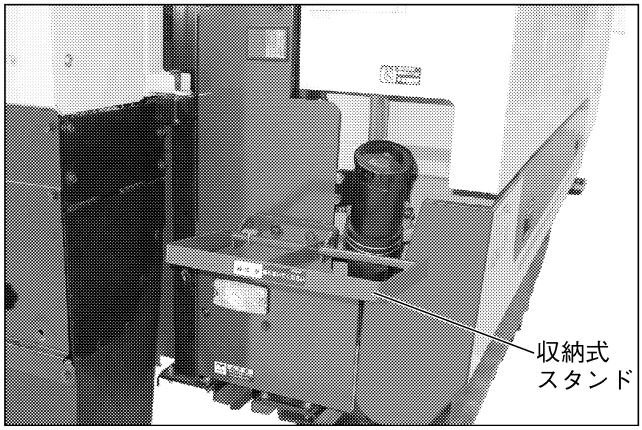
JIS 2 号（－7.5℃まで）

JIS 3 号（－20℃まで）

・タンク容量……80 L

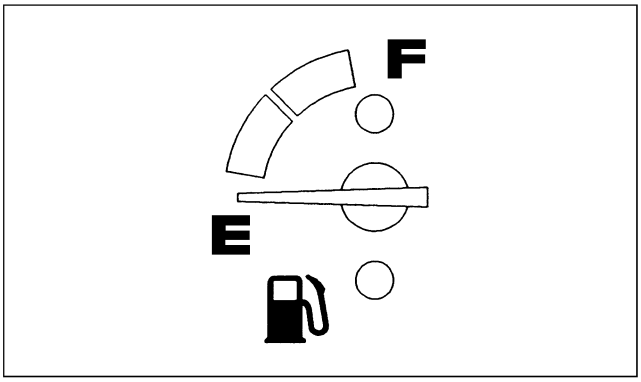
取扱いのポイント

●給油口近くに備付けてある収納式スタンドを手前に引いて，その上に燃料の入った缶，ポリタンクを置いて給油します。



●燃料はフィルタを通してゴミや水が混入しないように補給してください。
運転途中（作業途中）で燃料切れにならないように燃料の残量を燃料計で確認し，早めに補給してください。

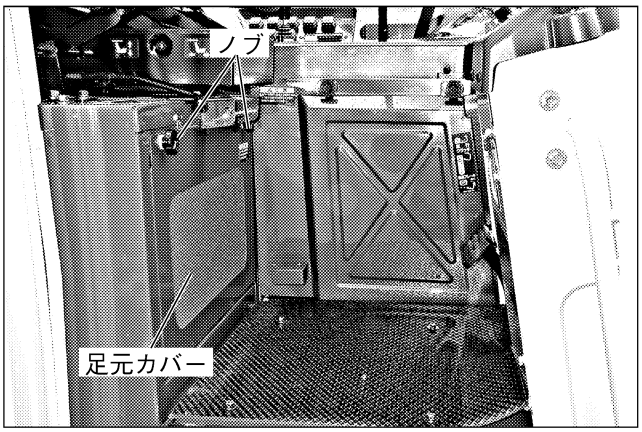
●運転途中での燃料切れ，燃料フィルタの掃除や交換時は燃料のエア抜きを行なってください。
（118ページ参照）



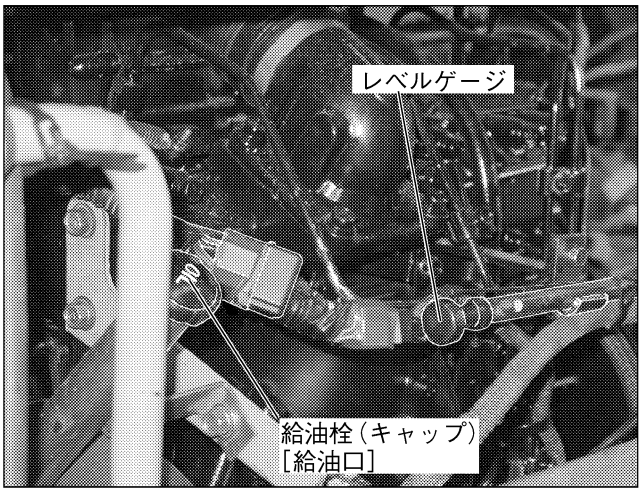
2．エンジンオイルの点検・交換

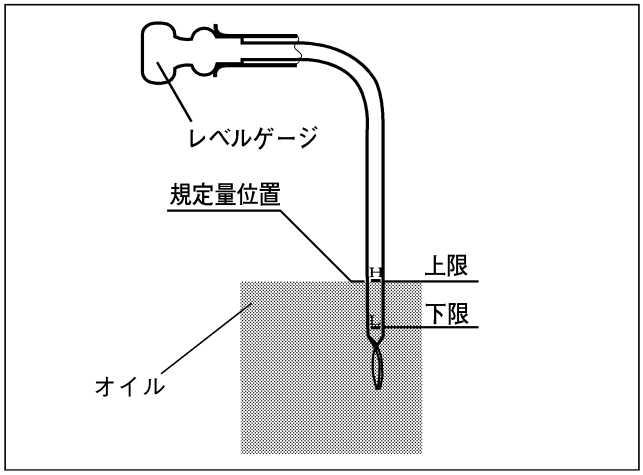
❶ エンジンオイルの点検

(1) 足元カバーのノブ（2個）を外して，足元カバーを外します。



(2) レベルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度いっぱいに差込んでから抜出し，ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足している時は，給油口より規定量位置まで入れます。多い時は排油口より規定量になるまで抜きます。さらに，油もれのないことも調べます。





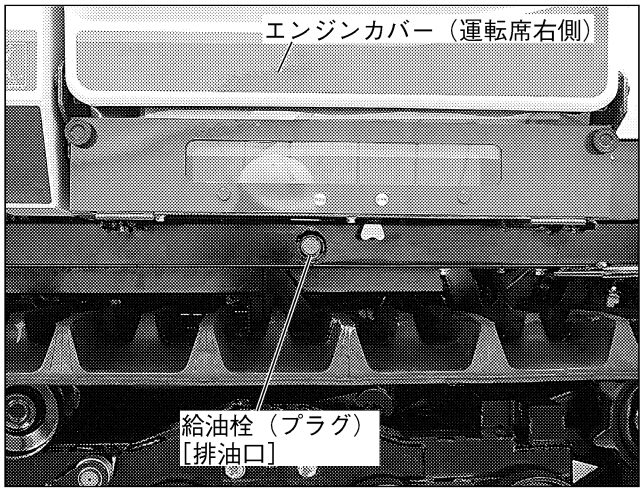
取扱いのポイント

- **オイルの量は，エンジンが冷えている時に確認してください。**
- **給油口からワラクズ等が入らないよう事前に周囲を掃除してください。**
- **排油栓，給油栓，レベルゲージは確実にセットされていることを確認してください。**

❷ エンジンオイルの交換

(1) 足元カバーのノブ（2個）を外して足元カバーを外します。

(2) エンジンの給油栓と排油栓を取外し，オイルを抜きます。



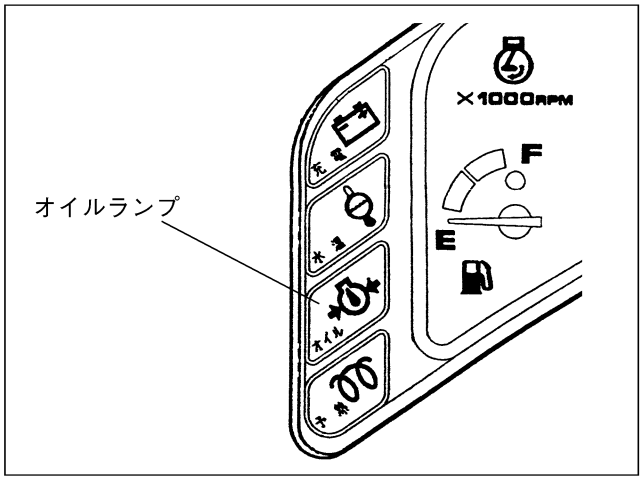
取扱いのポイント

- **オイルを抜く時は，オイルがこぼれないようになるべく開口部の大きなオイル受けを使用してください。**
- **低温時はオイルが抜けにくい場合がありますので，あらかじめエンジンを暖機運転してから行ってください。**

(3) オイルを抜き終わったら排油栓を締め，新しい「**純正エンジンオイル**」をレベルゲージの規定量位置まで給油します。

- **ディーゼルエンジン用オイル**
  API・CD級以上，SAE・10W−30
- **オイル量……8.6 L**

(4) 交換後，エンジンを始動してオイルランプが消えるまで低回転で運転します。

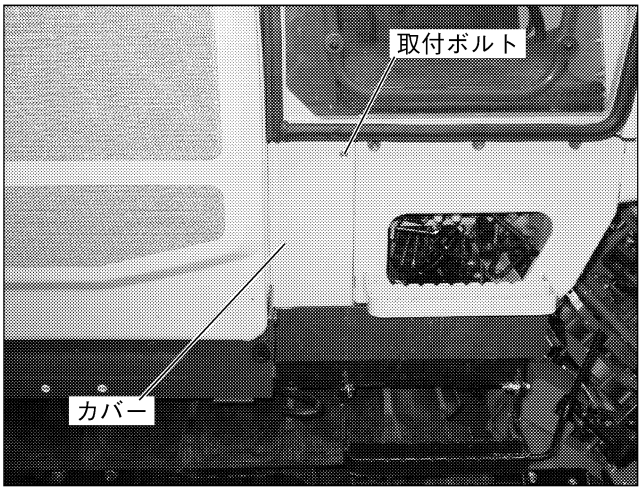


3．エンジンオイルフィルタの交換

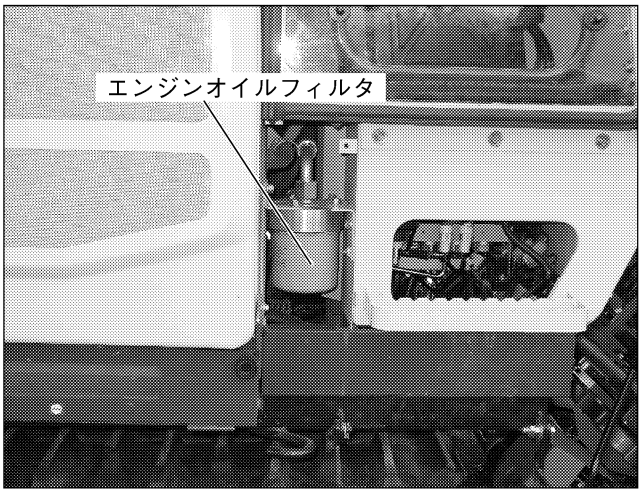
・エンジンオイルフィルタは「お買いあげ先」で交換します。

❶ エンジンオイルフィルタの取外し

(1) 運転席下のカバーの取付ボルトを外してカバーを外します。



(2) カバーを取外すとエンジンオイルフィルタが見えます。



(3) オイルフィルタは「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，購入のうえ交換します。

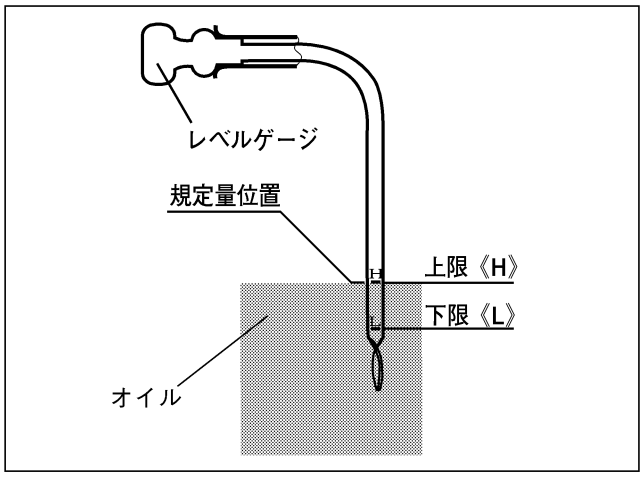
(4) オイルフィルタの交換は取外すための専用工具が必要です。「**お買いあげ先**」へお申しつけください。

❷ エンジンオイルフィルタの取付け

(1) フィルタ取付け面をきれいに掃除をして，フィルタのパッキン面にオイルを薄くぬり，滑りを良くして取付けます。

(2) 締付けは手で行い取付け面にパッキンが当たってから2／3～3／4回転します。

(3) エンジンオイルフィルタを交換した時は，オイル量がフィルタの容量分多く入るので，レベルゲージでオイル量を確認し，不足の時は規定量位置まで補給します。



取扱いのポイント

- **エンジンオイルフィルタ取付け面からオイルのもれ，にじみがないか点検してください。**
- **給油口の周辺をあらかじめ掃除をして，ゴミ等が入らないようにしてください。**
- **エンジンオイルフィルタ交換時は，エンジンオイルが抜取ってあることを確認してください。**

4．ラジエータ冷却水の点検・交換

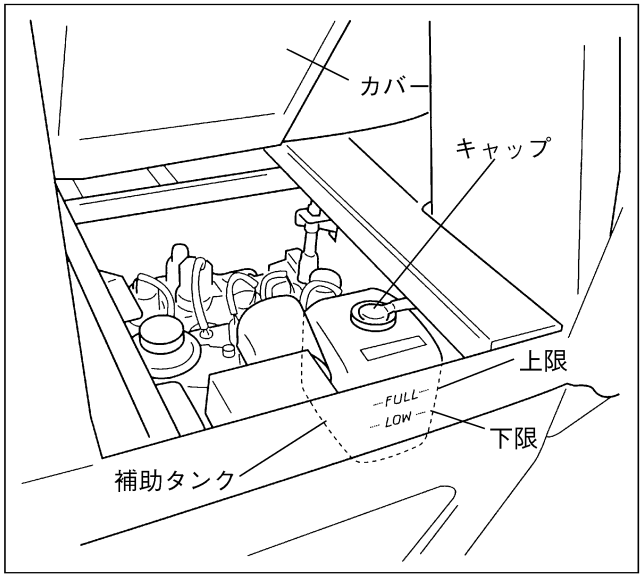
⚠警告　ヤケド防止のために

◆運転中およびエンジン停止直後はラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹出し「ヤケド」をすることがあります。冷えてからゆっくり開けてください。

ラジエータには補助タンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，補助タンクから自動的に補給される構造になっています。

❶　始業前の点検

・エンジンが冷えている時，ステップ下にある補助タンク内の冷却水が**「給水レベルの上限と下限の間」**にあるか点検します。不足の時は補助タンクに冷却水を補給します。補給する時は足元のカバーをオープンし補助タンクのキャップを外し，補給します。



❷　補助タンクの水を切らした時

・ラジエータキャップを外して冷却水を口元まで注水し，キャップを閉めます。

・補助タンクの給水レベルの上限と下限の間位置まで給水します。

・冷却水……清水（水道水）

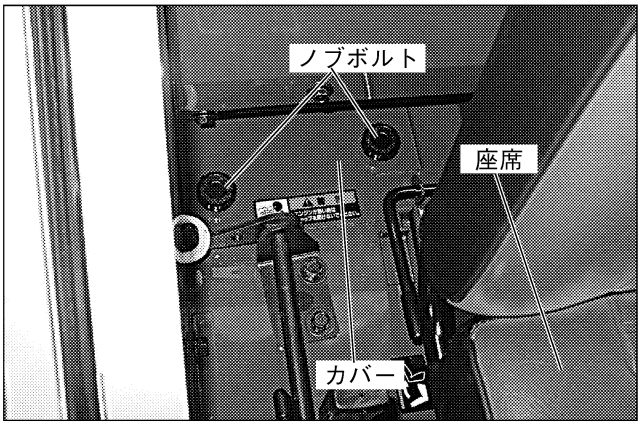
取扱いのポイント

- **シーズン前には，ラジエータ内の冷却水の量を点検してください。**
- **補助タンク内の冷却水を始業前に点検し，冷却水が給水レベル下限より下にある時は，補給してください。**
- **補助タンクには「給水レベル上限」以上入れないでください。運転中冷却水があふれ出ます。**

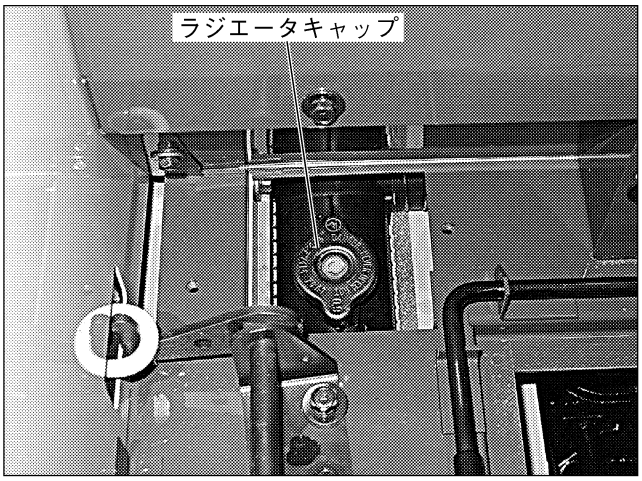
❸　ラジエータ冷却水の交換

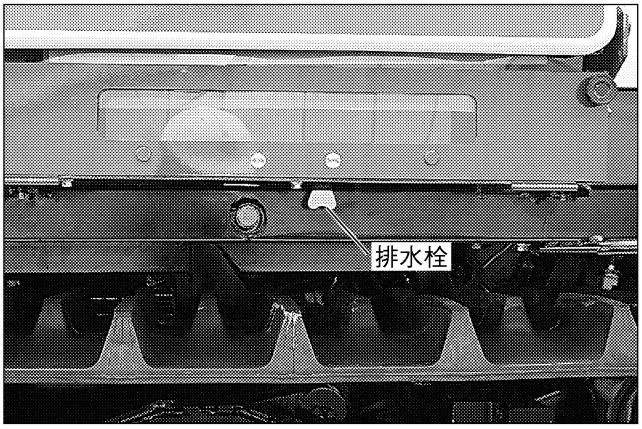
(1)　座席右側後部のノブボルト（2個）を外してカバーを取り外します。

カバーの下にラジエータキャップがあります。



(2) ラジエータキャップを外し，ラジエータ下部の排水栓から排水します。





(3) ラジエータ内の水がきれいになるまで水の入替えを繰返し，内部を洗浄します。

・市販の洗浄剤を使用すると効果的です。

(4) 排水が終わったら排水栓を閉めます。

(5) **不凍液の注入**

工場出荷の時は不凍液が注入され**「外気温度－25℃」**の凍結を防止する濃度になっていますが，１年以上経過すると効力が低下しますので，１年ごとに冷却水を抜き**「不凍液濃度基準」**を参考に入替えます。

「不凍液濃度基準」

外気温度 ℃	－5	－10	－15	－20	－25	－30
不凍液濃度 %	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50

・不凍液は「ロングライフクーラント」(PT) を使用します。

(6) ラジエータ給水口の口元いっぱいまで冷却水を給水したのちラジエータキャップを閉めます。

(7) 補助タンクの《**給水レベルの上限と下限の間**》の位置まで給水します。

・エンジン冷却水系統内部の腐食を防止するため，冷却水に市販の防錆剤を添加して使用されるようおすすめします。

冷却水量……11.3Ｌ（補助タンク１Ｌ含む）

取扱いのポイント

- **冷却水を交換した時は，エンジンを始動し冷却水を循環させて，再度水量をチェックしてください。**
- **不凍液を入替え直後に長期保管される時は，冷却水の循環が確認できるまで「低速で空運転」を行なってください。**

5．ミッションケースのオイル点検・交換

・ミッションケースのオイル点検，交換は「お買いあげ先」で行います。

❶　点検

・ミッションケース横の検油栓を外して油量を調べます。

・不足している時はキャップを外し給油口より補給します。

❷　交換

・ミッションケース下部の排油栓を外し，抜取ります。

・給油するときは，検油栓まで給油します。

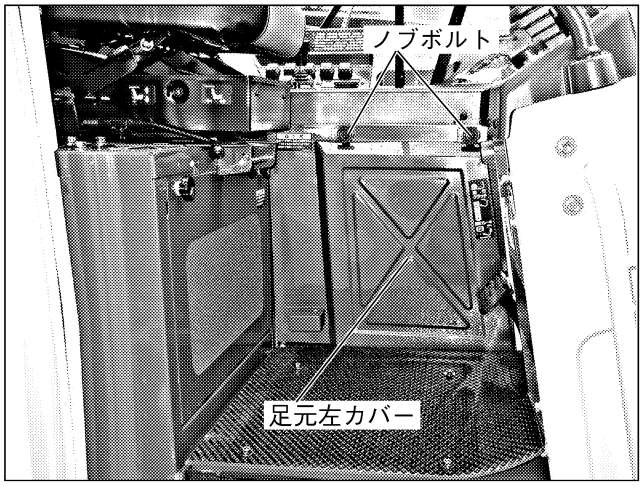
・ギヤオイル……API・GL－5

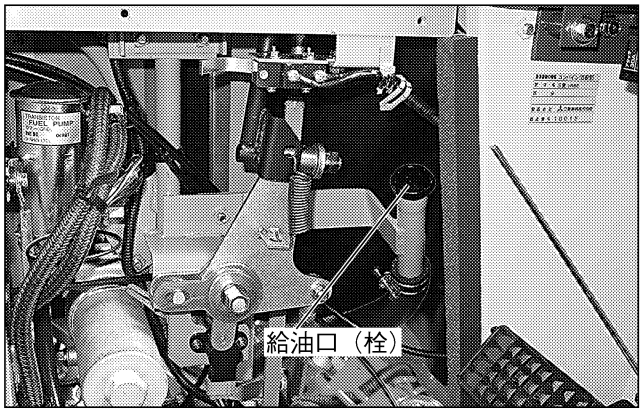
SAE・90

・オイル量……20.8 L［S 仕様］以外

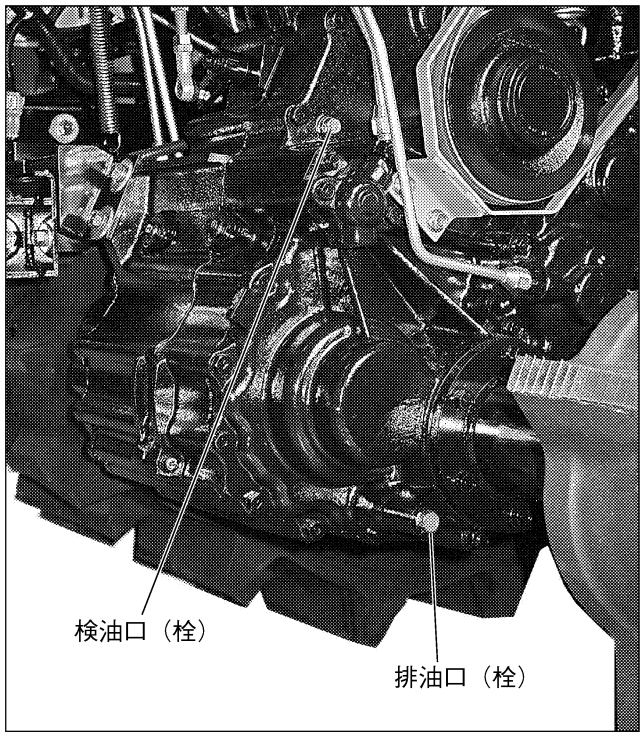
19.7 L［S 仕様］

・給油口は，足元左カバーを外すと，見ることができます。足元カバーのノブボルト（2 個）を外し，カバーを取外します。





［トランスミッション左側面］



取扱いのポイント

● オイルを抜取る時は，ミッションケースの排油栓の真下に開口部の大きなオイル受けを置いてオイルをこぼさないように排油栓を外します。

6．油圧作動油の点検・交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆油圧作動油を抜く時は，機体を下げ刈取部を下げ，排出オーガを収納状態にして行います。機械が下がるなどして人身事故の原因になることがあります。

この機械は多くの油圧装置を採用しており，油圧作動油の保守管理を誤ると不調の原因となりますので，オイル，フィルタは「**お買いあげ先**」で交換してください。

❶ 点検

・油圧オイルタンク前側の検油栓を外してオイルが出てくれば適正量です。

・不足している時は給油口より補給します。

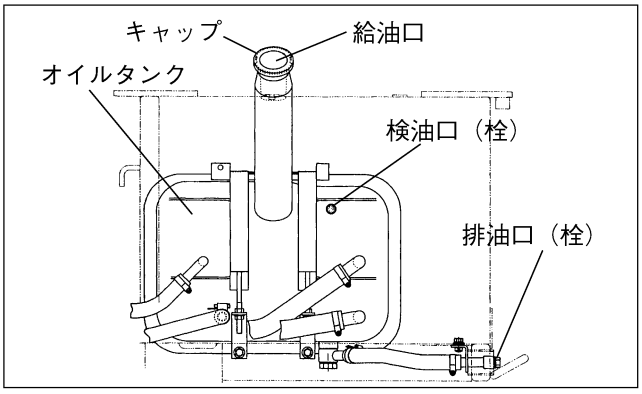
❷ 交換

・油圧作動油の交換と同時に，油圧オイルフィルタの交換を行います。

・油圧作動油……API・GL－4，SAE・10W－30

・オイル量……24.2 L

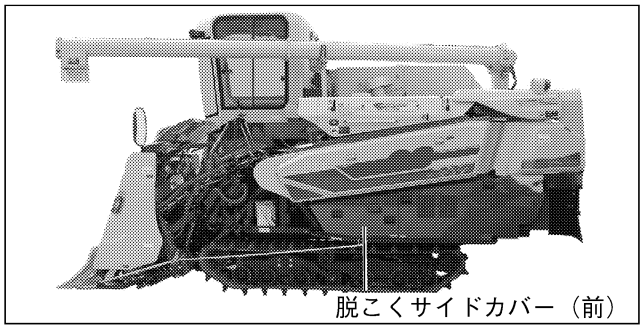
（10分運転後，補充分含む）



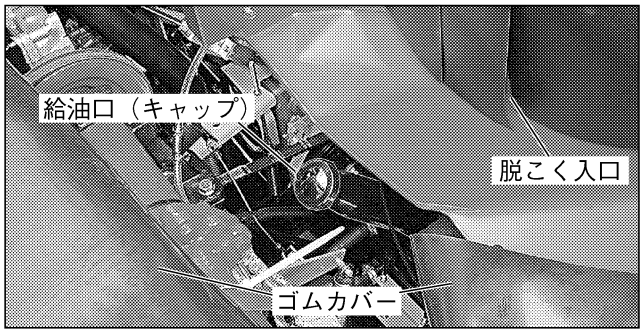
❸ 油圧作動油の抜取り

(1) エンジンを始動し，機体を下げ，刈取部を下げ，排出オーガを収納状態にしてエンジンを停止します。

(2) 脱こくサイドカバー（前）を外します。

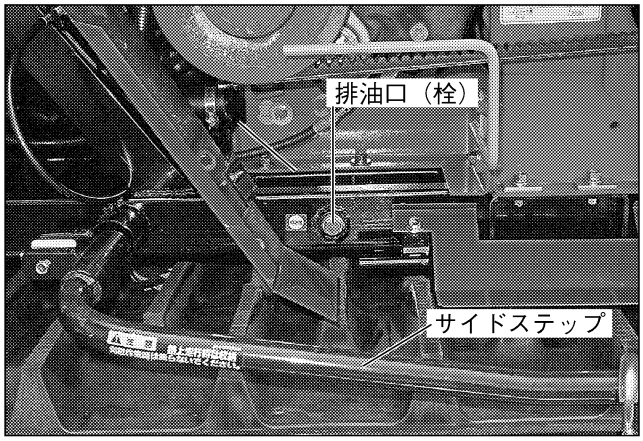


(3) 脱こく入口のゴムカバーをめくると，給油口が見えますので，キャップを外します。



(4) サイドステップ取付部の近くにある排油栓を外して，油圧作動油を抜きます。

(5) オイルを抜き終わったら，排油栓を締めます。



取扱いのポイント

● オイルを抜取る時は，排油栓の真下に開口部の大きなオイル受けを置いてオイルをこぼさないように排油栓を外します。

❹ 油圧作動油の給油

⑴ 給油口のキャップを外します。
⑵ 検油栓を外します。
⑶ 給油口より，タンク前側の検油口からオイルが出るまで給油します。
⑷ 検油栓とキャップを取付けます。
⑸ エンジンを始動し，アイドリング回転で10分間程度運転します。
⑹ エンジンを停止して，オイル量を点検します。
⑺ オイルが減少している場合は検油口からオイルが出るまで補充します。
⑻ 検油栓と給油口のキャップを取付けます。
⑼ オイルがこぼれていないか点検し，こぼれている場合はふきとります。
⑽ 取外した，脱こくサイドカバー（前）を取付けます。
⑾ 脱こく入口のゴムカバーを元に戻します。

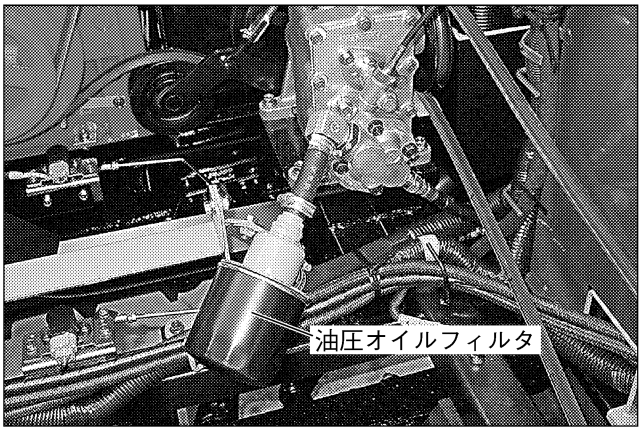
7．油圧オイルフィルタの交換

❶ 油圧作動油の交換と同時に，油圧オイルフィルタの交換を行います。

❷ 油圧オイルフィルタの取外し

(1) 油圧作動油を抜取ります。

(2) グレンタンクを回動（オープン）します。



(3) 油圧作動油のオイルフィルタは「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，購入のうえ交換します。

(4) 油圧オイルフィルタの交換は取外すための専用工具が必要です。「**お買いあげ先**」へお申しつけください。

❸ 油圧オイルフィルタの取付け

(1) フィルタ取付け面をきれいに掃除をして，フィルタのパッキン面にオイルを薄くぬり，滑りを良くして取付けます。

(2) 締付けは手で行い取付け面にパッキンが当たってから2／3～3／4回転します。

(3) 前ページ **6．油圧作動油の点検・交換** の **❹油圧作動油の給油**の手順に従い給油します。

取扱いのポイント

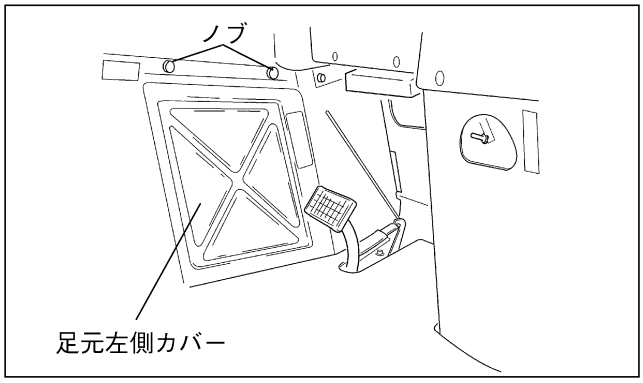
- **フィルタ取付け面からオイルのもれ，にじみがないか点検してください。**
- **給油口の周辺をあらかじめ掃除をして，ゴミ等が入らないようにしてください。**
- **油圧オイルフィルタ交換時は，油圧オイルタンクにオイルが入っていないことを確認してください。**

8．HSTオイルフィルタエレメントの交換

❶ フィルタエレメントは初回100時間，2回目450時間，3回目800時間を目安に交換します。

❷ フィルタエレメントの交換手順

(1) ノブ2個をゆるめて外し，足元左側カバーを取外します。



(2) フィルタ周辺を掃除します。

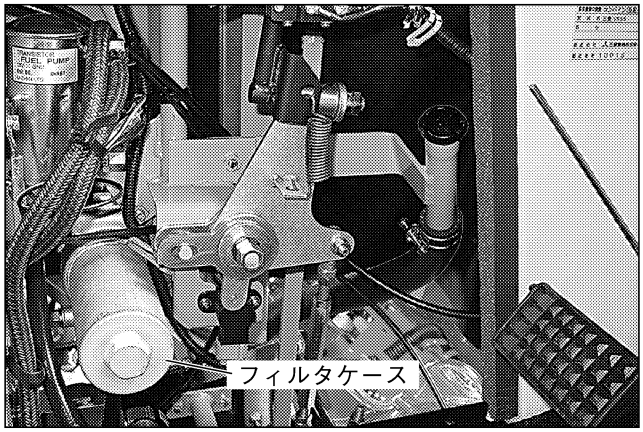
(3) オイルが出ますので，フィルタ下部にオイル受皿，又は布等を敷き詰めます。

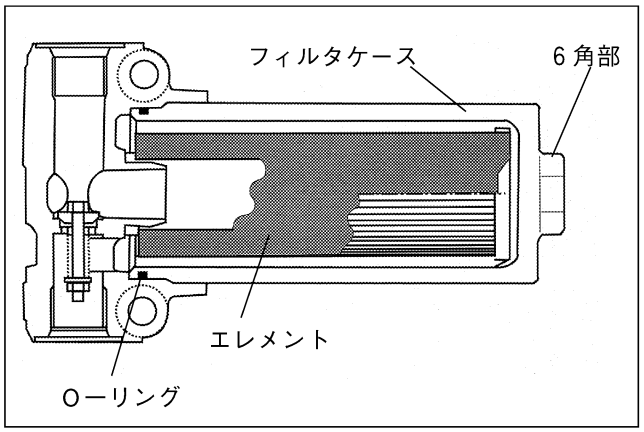
(4) フィルタケース頭部の6角部にメガネレンチ（対辺27㎜）を掛けて左回転でケースを取外します。

(5) 汚れたエレメントを手前に抜取り，フィルタケース内側を洗浄した後，フィルタケースのO－リングに損耗，劣化等がないか確認します。

(6) 取付時は，フィルタケースのO－リングを挟み込まないよう注意し，手で右回転させてネジ込みます。

(7) 手でいっぱいネジ込んだら，フィルタケース頭部の6角部にメガネレンチを掛け，締付けトルク（75～85N・m）で締付けます。

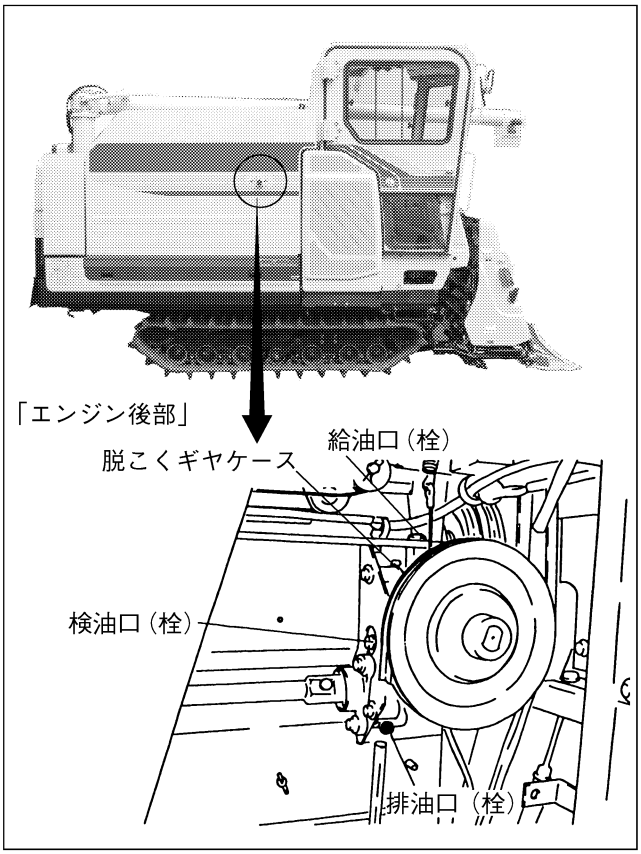




取扱いのポイント

- フィルタケース取付部及び配管部よりオイルの漏れにじみがないか点検してください。
- 給油口の周辺をあらかじめ掃除して，ゴミ等が入らない様にしてください。
- HSTオイルフィルタエレメントを交換した時はオイルが不足していますので副変速レバー《N》位置でエンジンを始動し，エンジン回転低回転で主変速（無段変速）レバーを数回「前進」,「後進」に動かしてからエンジンを停止します。
  その後，オイルタンクの検油口よりオイルがあふれるまで給油し，検油栓を取付けます。
- 走行中，足元左側のHSTオイルフィルタ付近で異音が発生した場合はHSTオイルフィルタエレメントを交換してください。交換しても異音がおさまらない場合は「お買いあげ先」で点検を受けてください。

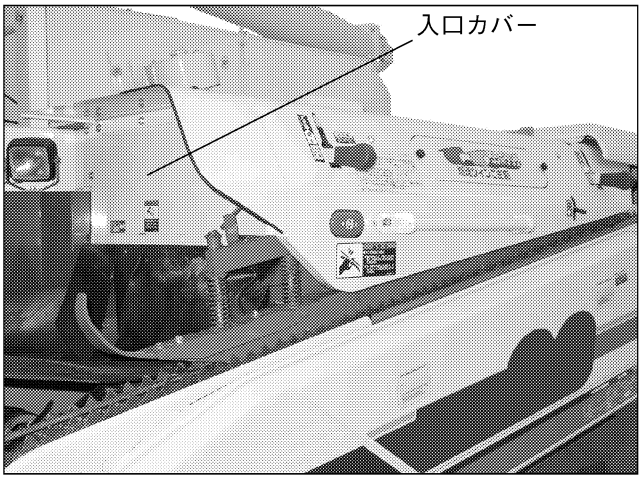
9．脱こくギヤケース



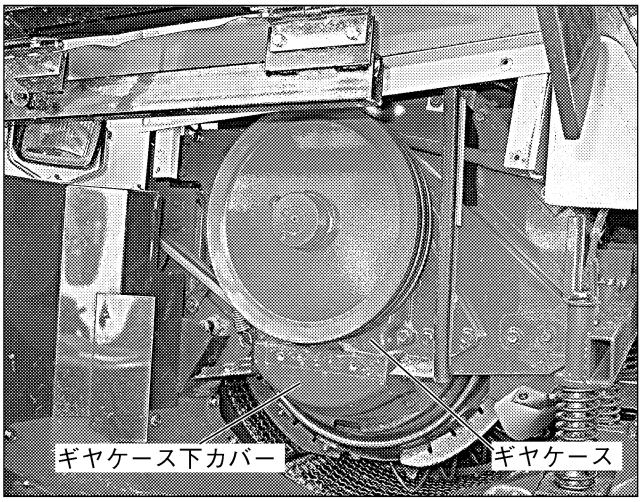
・グレンタンクを回動（オープン）します。
・検油栓まで給油します。
・ギヤオイル…API・GL－5級，
SAE・90
・オイル量……0.4 L

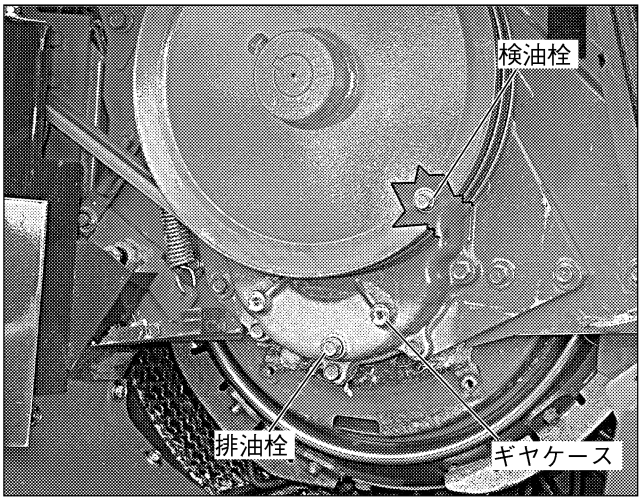
10．こぎ胴ギヤケース

(1)　入口カバーを外します。



(2)　ギヤケース下カバーを外します。

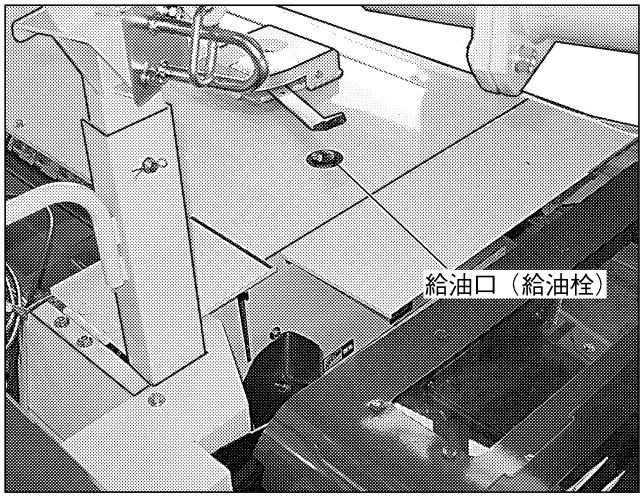




❶　**点検**…検油栓を外して，検油口までオイルがあるか点検します。

・不足の場合は補充します。

❷　**交換**…検油栓，排油栓を外してオイルを全量抜いた後，排油栓を取付け，給油口より検油口まで注油します。

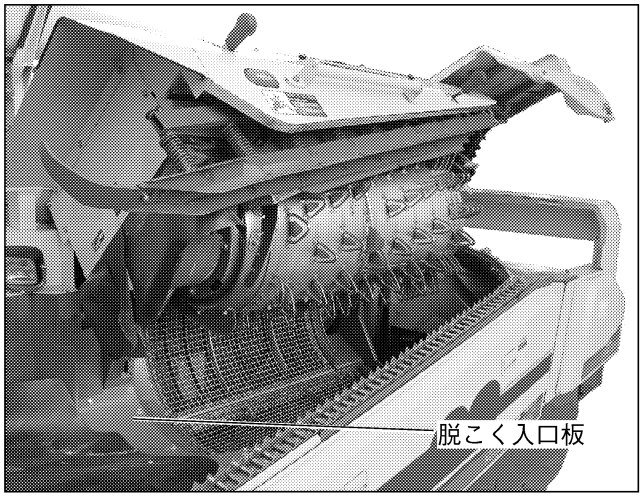


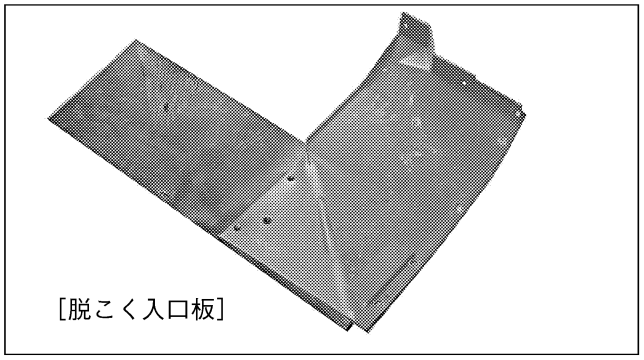
・ギヤオイル…API・GL－5級，
SAE・90
・オイル量……0.7 L

❸　点検，交換後は栓，カバーを確実に取付けます。

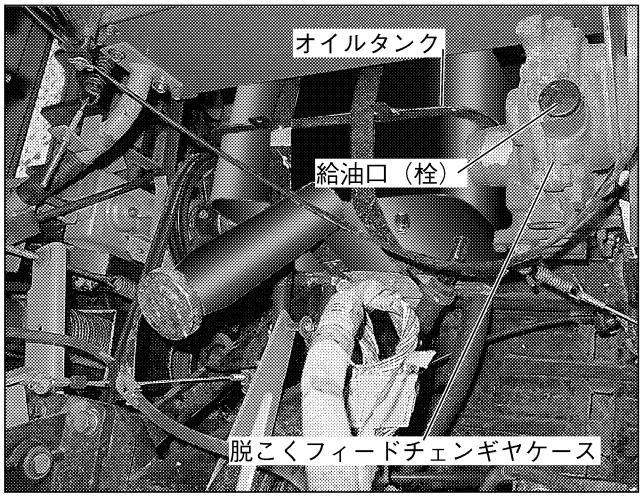
11. 脱こくフィードチェンギヤケース

(1) 脱こく入口板を外します。

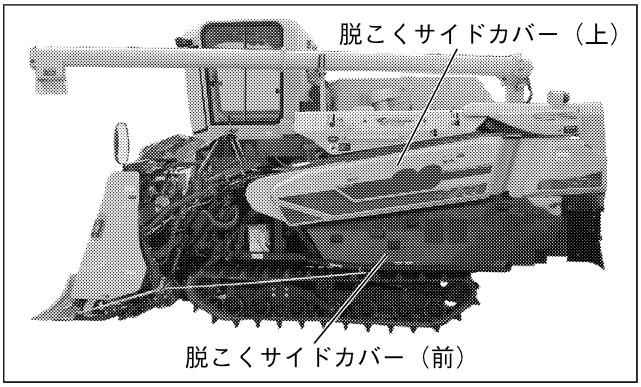



［脱こく入口板］

(2) 脱こく入口板の下に脱こくフィードチェンギヤケースがあります。



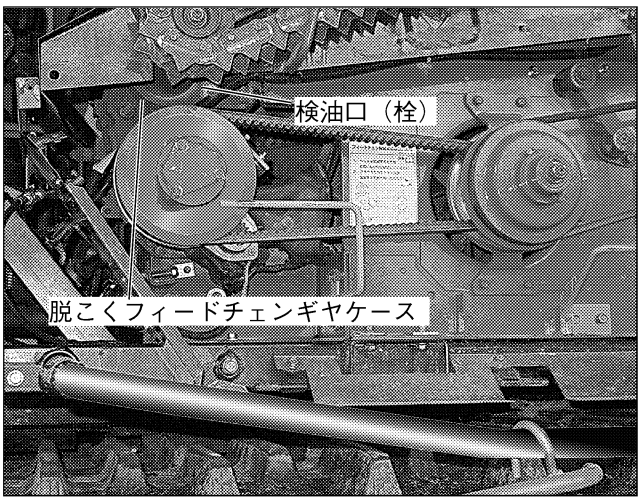
(3) 脱こくサイドカバー（上），（前）を外します。



❶ **点検**…検油栓を外して，検油口までオイルがあるか点検します。

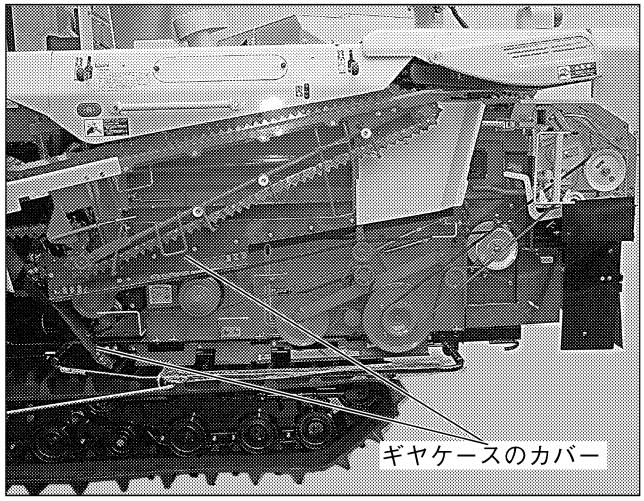
・不足している場合は補充します。

❷ **交換**…検油栓，排油栓を外してオイルを全量抜いた後，排油栓を取付け，給油口より検油口まで注油します。

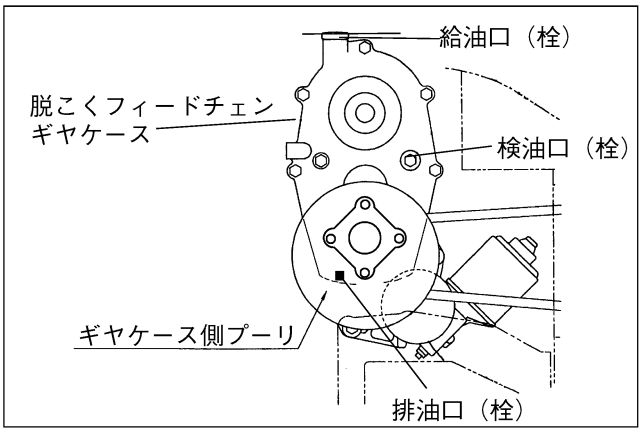




・写真は，説明を容易にする為にギヤケースのカバーを外してあります。



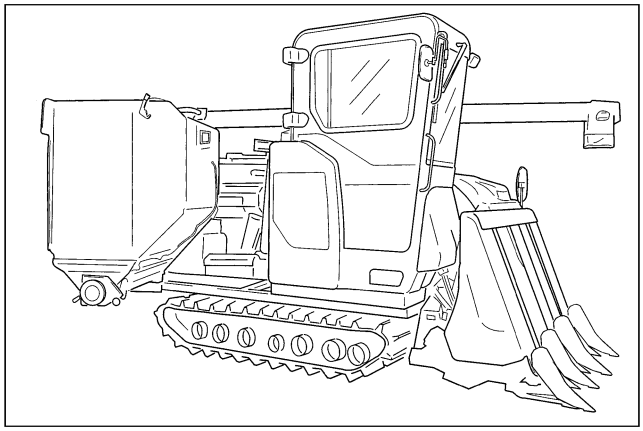
❸　点検，調整後は取外した栓，カバーを確実に取付けます。



・ギヤオイル…API・GL－5級，
SAE・90
・オイル量……0.8 L

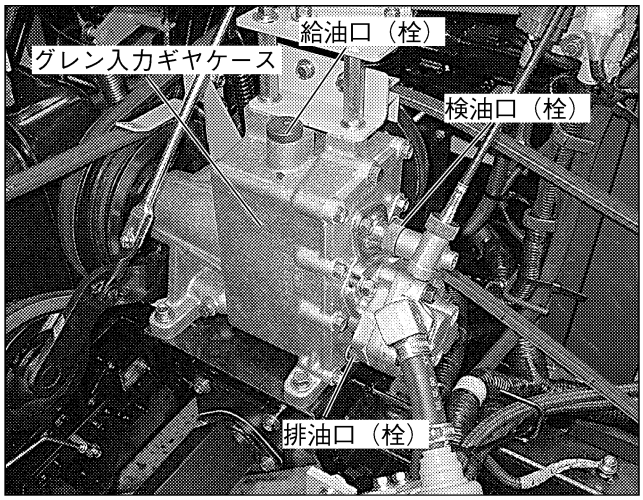
12．グレン入力ギヤケース

・グレンタンクを回動（オープン）します。（121～122ページ参照）



❶　**点検**…検油栓を外して，検油口までオイルがあるか点検します。
・不足している場合は補充します。

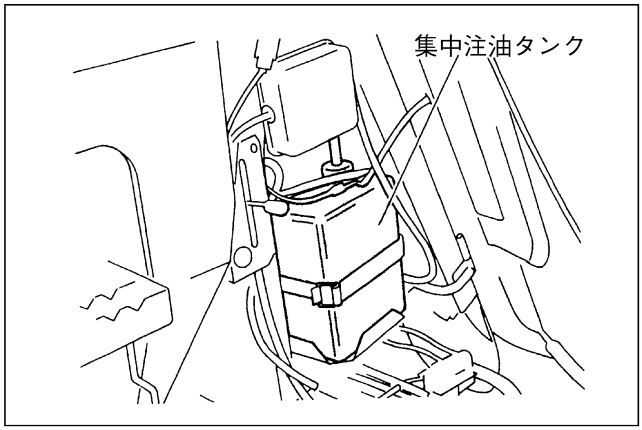
❷　**交換**…給油栓，排油栓を外してオイルを全量抜いた後，排油栓を取付け，給油口より検油口まで注油します。



・ギヤオイル…API・GL－5級，
SAE・90
・オイル量……1.4 L

❸　点検，調整後は，取外した栓を取付け，グレンタンクを収納します。

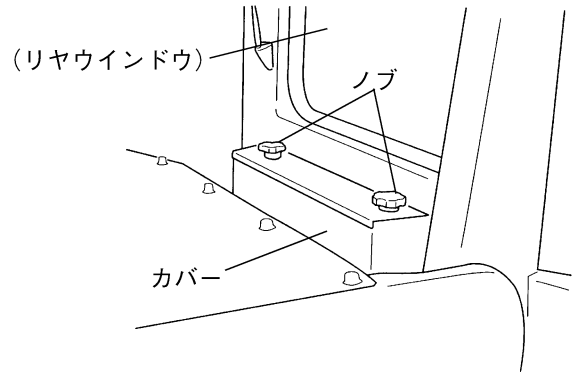
13．集中注油タンク



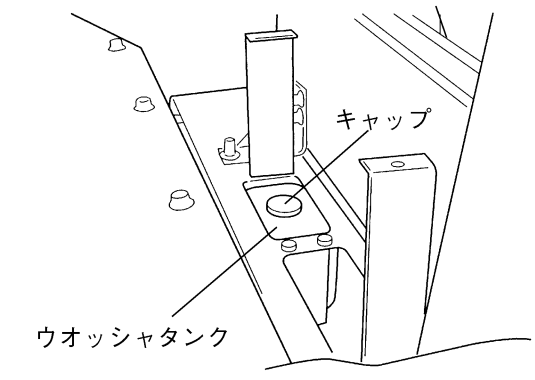
・刈取部サイドカバー（右）をオープン又は外して給油します。
・エンジンオイル
・オイル量……4Ｌ

14．ウォッシャタンク［キャビン仕様］

①リヤウインドウを開けて，ノブをゆるめ，カバーを上に持ち上げ外します。



②キャップを開けてウォッシャ液を補充してください。



❶点検

(1) キャビンのリヤウインドウをオープンし，真下に見えるノブ（２ケ）をゆるめカバーを持ち上げて外します。
(2) キャップを外し，ウォッシャ液量を点検します。

❷給水

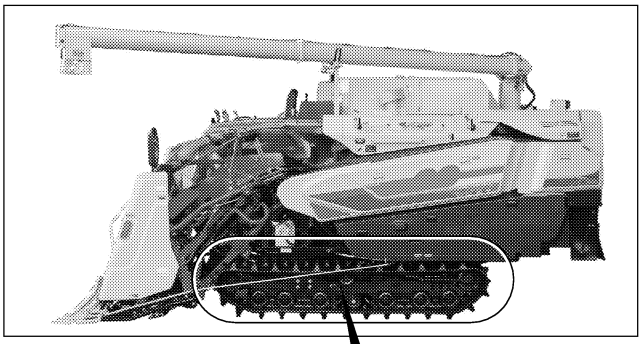
(1) 給水口よりウォッシャ液を給水します。
(2) 給水口よりあふれないようにします。

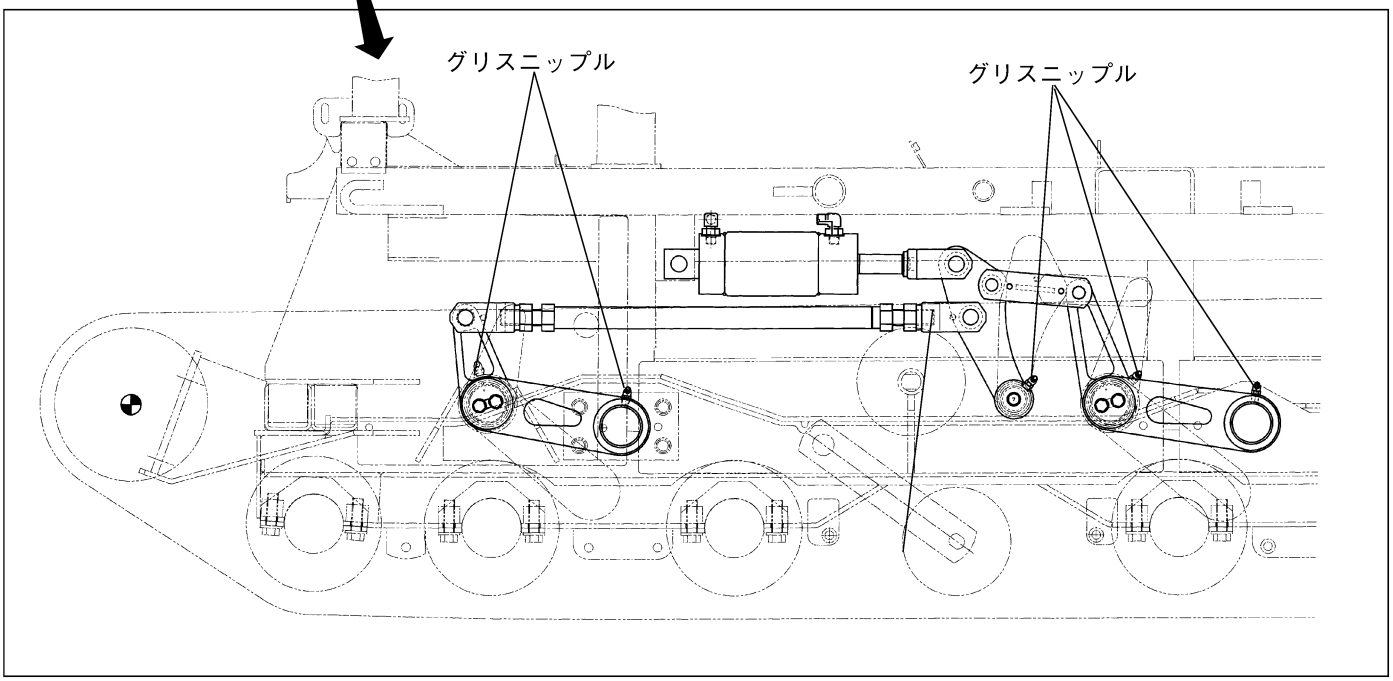
取扱いのポイント

- タンクの満量は１Ｌです。
- ウォッシャ液の濃度は水0.65Ｌに対し，ウォッシャ液0.35Ｌです。

15．給脂個所

❶水平リンク



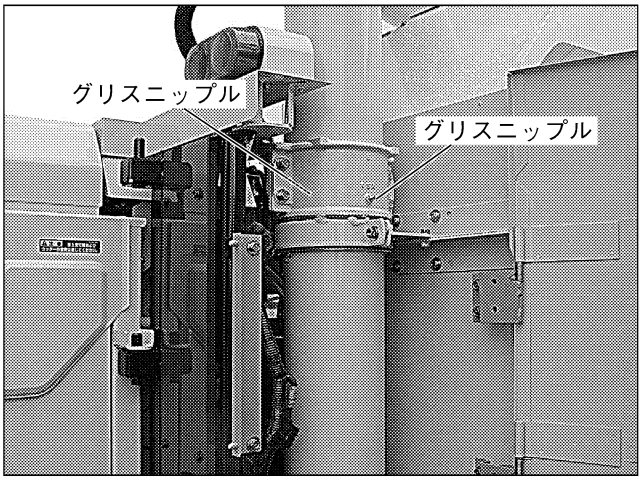


(1) 水平リンクのグリスニップル（片側5個所，両側10個所）にグリスガンで給脂します。

❷ オーガ旋回部への給脂

(1) グレンタンクをオープンし，ストッパで固定します。

(2) 縦パイプにグリスニップルがついています。（表裏 2 個所）グリスガンで給脂してください。



16．集中注油装置の使いかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆平坦な場所に機械を静置してください。傾斜地では機械が動き出し，傷害事故の原因となります。
・クローラに歯止めをかけてください。

◆刈取部・脱こく部を運転しますので機械の周囲に人を近づけないでください。

❶ エンジンを始動させます。

❷ 機体，刈取部をいっぱい下げます。

❸ 副変速レバーを「N」にします。

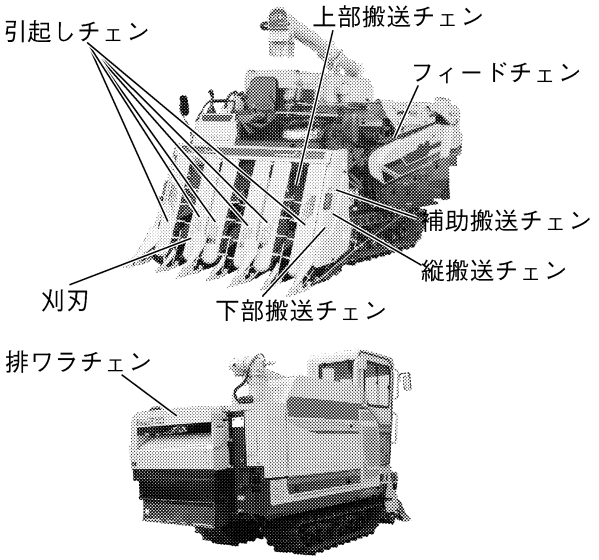
❹ 刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《入》にします。

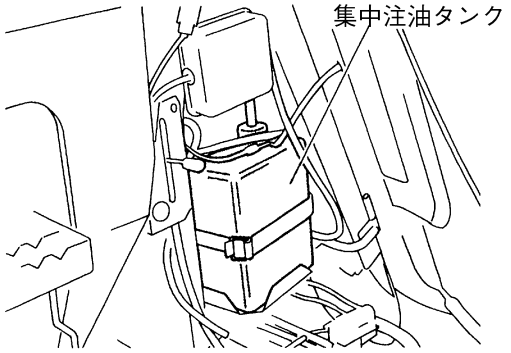
❺ エンジン回転を低回転に下げます。

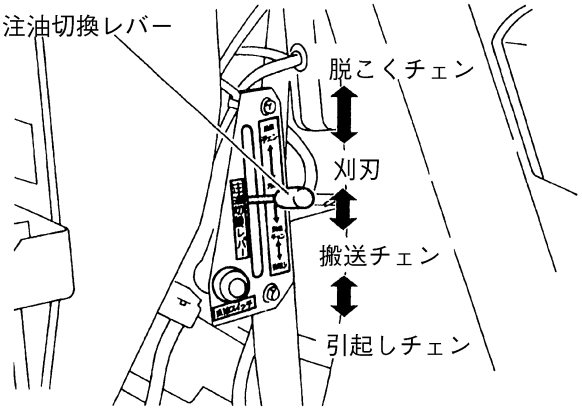
❻ 主変速レバーを《標準刈取》位置にして刈取部を回転させます。

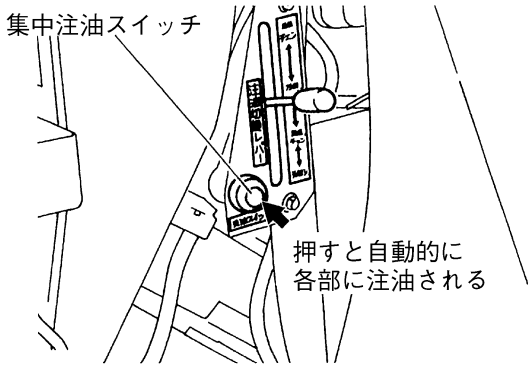
❼ 集中注油スイッチを押している間，自動的に注油されます。また，注油切換レバーにより以下の切換えができます。(切替中にスイッチを押さないでください。)

・刈取チェン部（上部・下部・縦搬送，補助搬送）
・引起しチェン部
・脱こくチェン部(フィードチェン,排ワラチェン,穂先排ワラチェン)
・刈刃部









取扱いのポイント

- 注油中にオイルが流れて落ちることがありますので，注油場所を選んで行い，こぼれたオイルはふき取ってください。
- 刈刃用ノズルが詰まると注油の妨げとなりますので針などで詰まりを除去してください。(刈刃用ノズルは刈刃の上に溜まった土で詰まりやすいのでひんぱんに確認してください。)
- 湿田作業で刈刃の上に溜まった土を掃除する時に，ノズル・ノズル取付プレート・注油ホースをカマ等で損傷しないようにしてください。
- 注油ホースの継ぎ部等からオイルもれがないか，点検確認してください。
- 注油切替レバーは，注油位置マークの指示位置に確実に切替えてください。

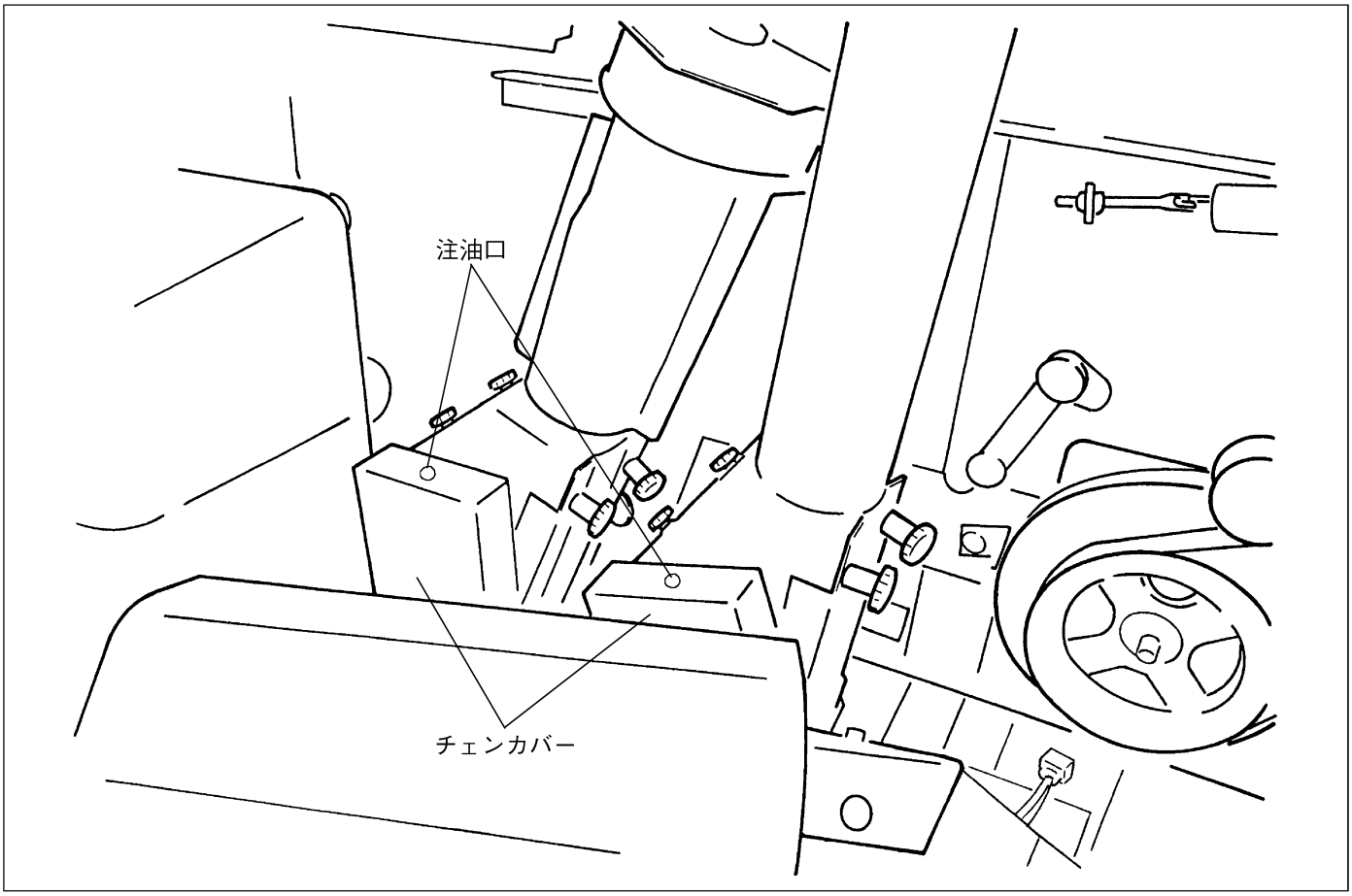
17．各部の注油，給脂

各部への注油は，始業前および刈取り面積に応じ適宜行います。注油は「**油差し**」で注油します。

❶　1番ラセン駆動チェン，2番ラセン駆動チェンへの注油

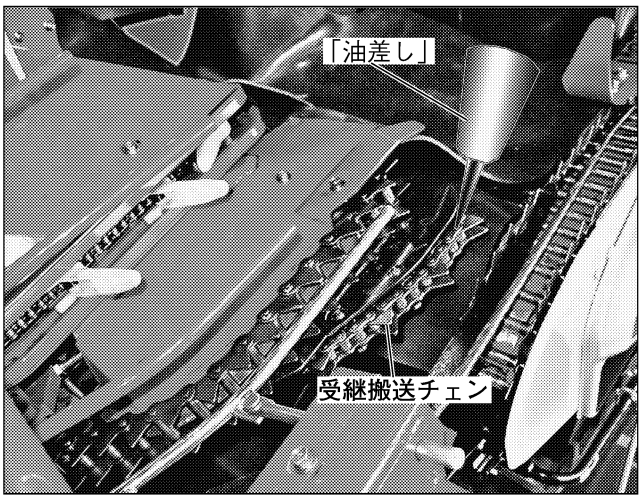
・グレンタンクを回動（オープン）し，ストッパで固定します。

・チェンカバーの上面に各々注油口がついています。



❷　受継搬送チェン

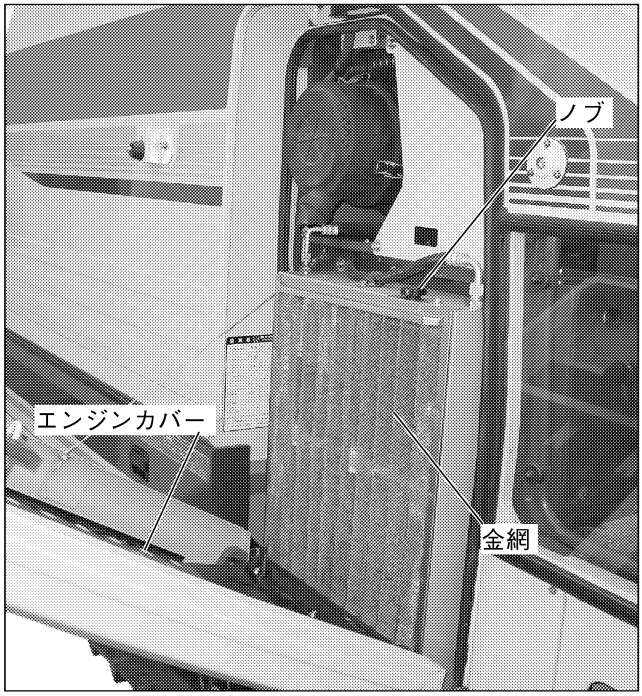
・チェンに直接「**油差し**」で注油します。



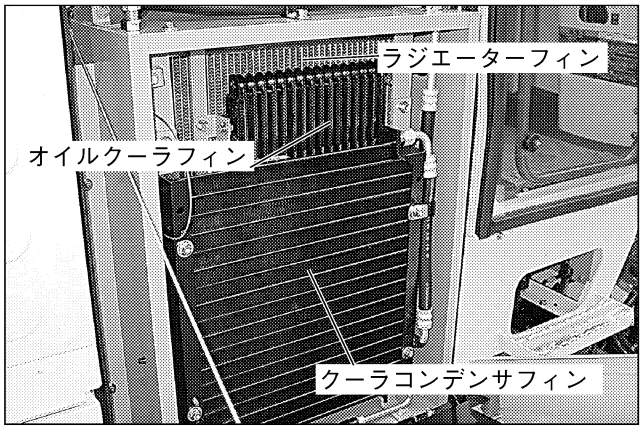
3．各部の点検と掃除のしかた

1．ラジエータ吸気部の掃除

エンジンカバーおよび金網，ラジエータフィン，オイルクーラフィン，クーラコンデンサフィン［キャビン仕様］にゴミ等が目詰まりすると冷却風の通りが悪くなり，エンジンが**「オーバーヒート」**する原因となります。

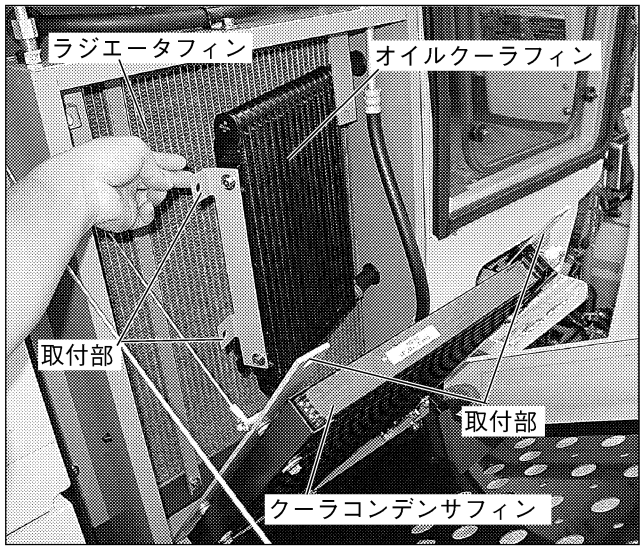


❶　エンジンカバーの表面のゴミを取除きます。
❷　エンジンカバーを開き，ノブをゆるめて外し金網を上に持上げて取出し，ゴミを取除きます。
❸　金網は表面をやわらかいブラシなどで掃き落とすか，コンプレッサでエアを吹きつけてゴミを取除きます。



❹　HSTオイルクーラ，クーラコンデンサ［**キャビン仕様**］に**「ゴミ詰まり」**を生じたときは，つぎの方法で取除きます。

各々の取付ボルト（２ケ）を外してオープンします。



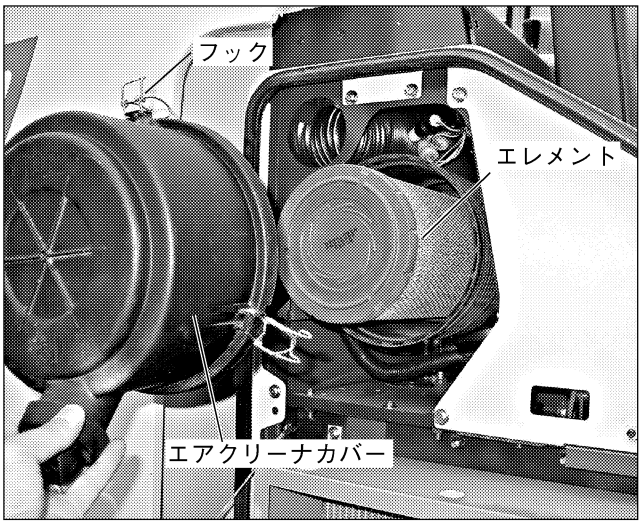
電気掃除機（小口径のノズル）でゴミを吸取るか，コンプレッサのエアを吹きつけてゴミを取除きます。ノズルを強く押当てないでください。強く押当てるとフィンが変形する恐れがあります。

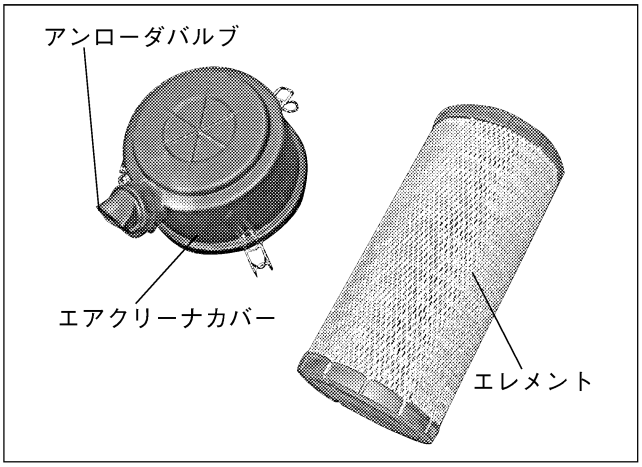
2．エアクリーナの掃除

・エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると，エンジンの内部損耗や出力低下をまねきます。

❶ エアクリーナカバーのフック（3個所）を外し，エレメントを取出します。

❷ エレメントは軽くたたくか，コンプレッサでエレメントの内側よりエアを吹きつけて掃除をします。





❸ 取付けは，アンローダバルブが下向きになるようにセットして取付けます。



取扱いのポイント

- コンプレッサでエアを吹きつける場合は，空気圧「590kPa｛6 kg f ／㎠｝以下」で行なってください。

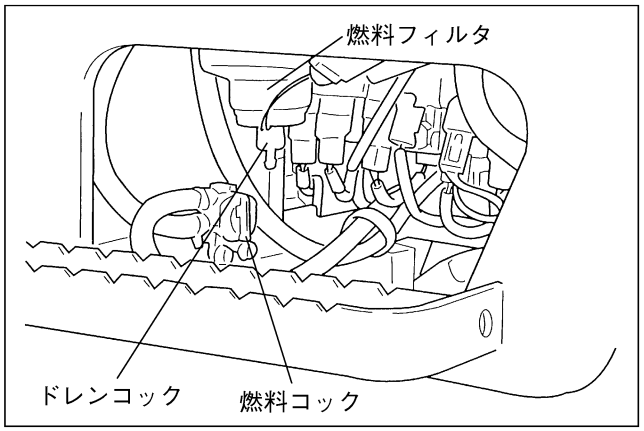
3．燃料フィルタの水抜き・交換

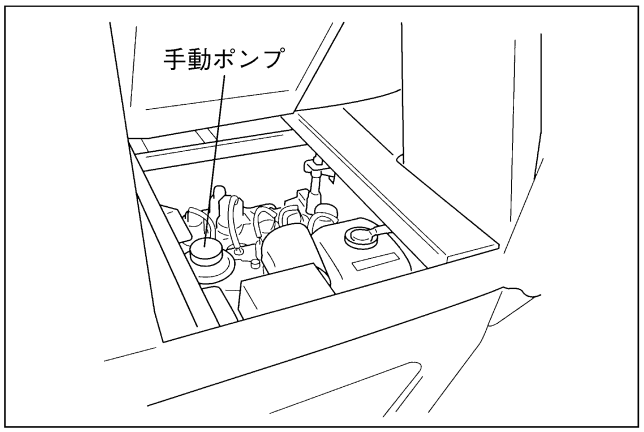
⚠危険 火災防止のために

◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料がもれている場合は，火災の原因となることがありますので交換してください。

燃料フィルタは燃料内に含まれるゴミや水をフィルタにて取除きます。

❶ 燃料フィルタモニタが点灯した時は，ドレンコックをゆるめて，手動ポンプを「**5回～10回**」上下操作し，中にたまった水を抜きます。



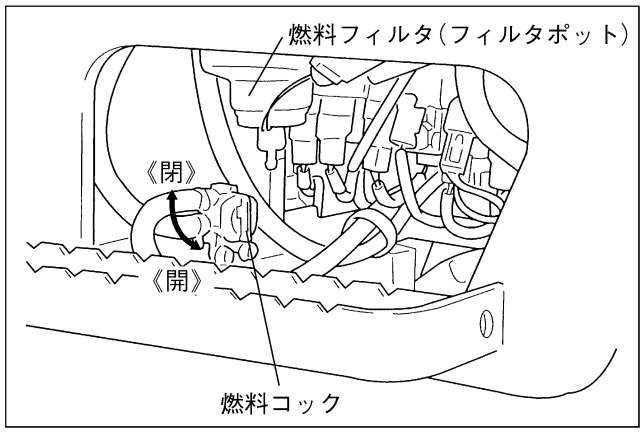


・ドレンコックをしめた後，燃料回路のエア抜きをします。(118ページ参照)

❷ 燃料フィルタは「**カートリッジタイプ**」を使用していますので「**定期点検整備表**」(91～94ページ参照）に従って，購入のうえ交換します。

「燃料フィルタ交換手順」

(1) 燃料コックを《**閉**》位置にします。



(2) 燃料フィルタのフィルタポットをゆるめ，フィルタポット，フィルタを外して交換します。

(3) 組付けは取外しと逆の手順で行います。

(4) 燃料コックを《**開**》位置にします。

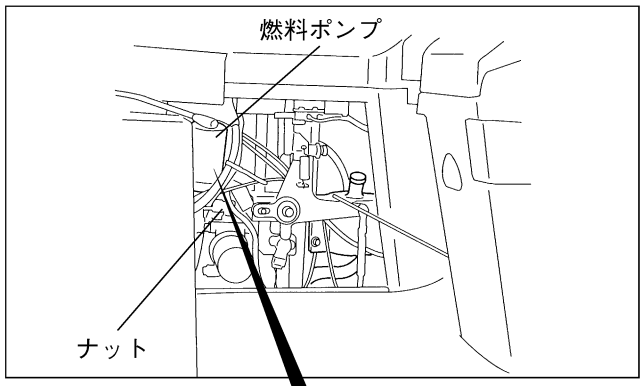
(5) 燃料回路のエア抜きを行います。

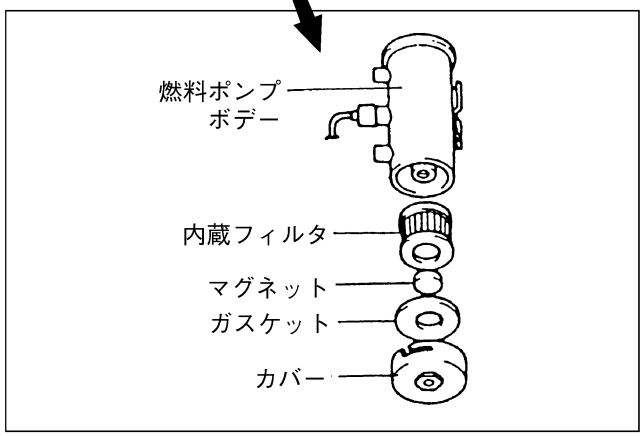
4．燃料ポンプ内蔵フィルタの掃除・交換

燃料ポンプ内蔵フィルタの掃除，交換は「**定期点検整備表**」に従って行います。

❶ 燃料コックを《**閉**》位置にします。

❷ 足元左側カバーを開け，燃料ポンプ下側のナット部を回して内蔵フィルタを取外します。





❸　取外した内蔵フィルタを軽油で洗浄後，コンプレッサで圧縮空気を吹きつけてゴミを掃出します。

❹　燃料ポンプ内のゴミや汚れをきれいに掃除します。

❺　組付け後，燃料コックを《**開**》にし，燃料回路のエア抜きを行います。

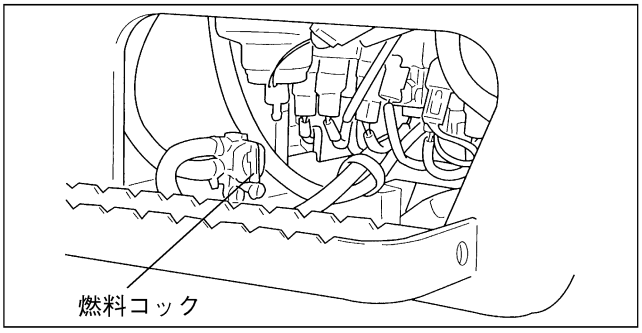
5．燃料のエア抜きのしかた

運転途中での燃料切れや，燃料フィルタの水抜き，燃料ポンプ内蔵フィルタ，燃料フィルタの掃除や交換時は次の手順でエア抜きを行います。

❶　燃料タンク給油口のフィルタをとおして，燃料（ディーゼル軽油）を給油します。

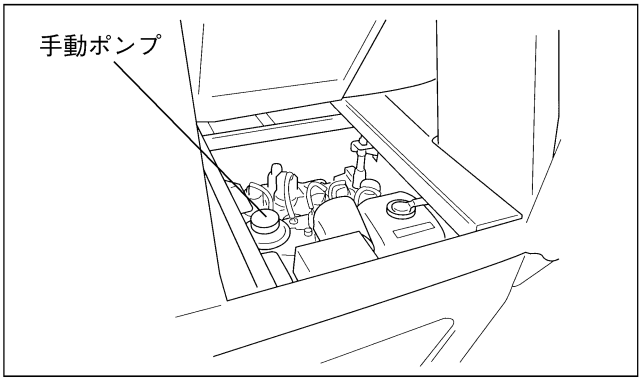
・燃料は……JIS 2 号（−7.5℃まで）
JIS 3 号（−20℃まで）

❷　燃料コックが《**開**》位置であることを確認します。



❸　スタータスイッチを《**入** ➿ 》位置にし，「**約2分**」程度待ちます。

❹　スタータスイッチを《**入** ➿ 》位置のまま，燃料フィルタの手動ポンプを，「**40回程度**」上下操作を行います。



❺　スタータスイッチを《 **始動**》に回し，エンジンを始動します。

・10秒程度セルモータを回してもエンジンが**始動**しない場合は，もう一度❹項からの操作を行います。

取扱いのポイント

- **燃料の中に，水やゴミ等が混入しますとエンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがありますので，給油口のフィルタを通して給油してください。**
- **燃料コックを《閉》にしたままだとエンジンの始動ができません。**

6．電気配線の点検と掃除

⚠警告 ヤケドや火災防止のために

◆電気配線の点検時には，スタータスイッチを《 切》位置にし，バッテリコードのアース側㊀端子を外してください。

◆電気配線およびバッテリ㊉コードが損傷していると，ショートや漏電で火災や損傷の原因となりますので交換してください。

◆エンジン，バッテリ，電気配線回りのワラクズ等を取除いてください。火災の原因になることがあります。

❶ 電気配線の点検

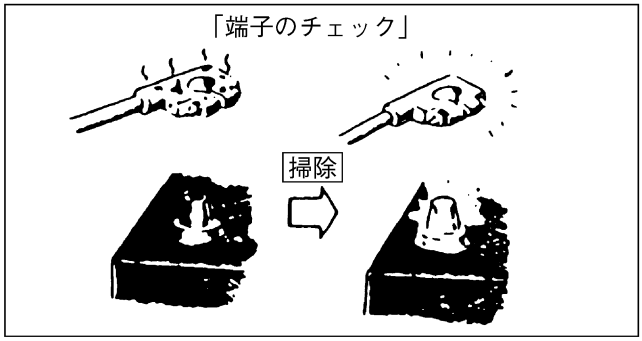
配線の端子部の「**緩み**」や「**接続不良**」または配線が「**損傷**」していると電気部品の性能を損なうだけでなく「**ショート（短絡）**」等することがあります。

傷んだ配線は，交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

(1) エンジン，バッテリ，電気配線部にたまっている「**ワラやゴミ**」などは「**火災**」の原因になりますので取除きます。

(2) バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が「**腐食**」することがあります。バッテリ端子が腐食すると，「**接触抵抗**」が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，「**定期的**」に汚れや腐食をサンドペーパやブラシで取除きます。腐食防止のためにグリスを塗ります。



7．バッテリの点検と充電

バッテリの残存容量と液量を確認します。

指定バッテリ……95D31R

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

◆ブースタケーブルを使用する時は接続前にエンジンを停止してください。

◆ブースタケーブルは100A以上の仕様のものを使用してください。
容量の小さいケーブルを使用するとケーブルが焼損し火災の原因となることがあります。

◆バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」するときは，エンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。

◆㊉端子と㊀端子を間違えないようにしてください。逆接すると，電装品が焼損します。また，「スパーク」による電気火花で負傷をすることがあります。

◆㊉端子が機械に接触しないようにしてください。

◆バッテリを充電するときは，液口栓をすべて取外してください。

◆バッテリは，充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」を近づけたり，「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。

◆㊀端子を取付けたままで充電すると発電器や電気配線を焼損することがあります。

◆「水素ガス」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をしてください。

◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇毒物ですのでこぼさないようにしてください。ヤケドをすることがあります。

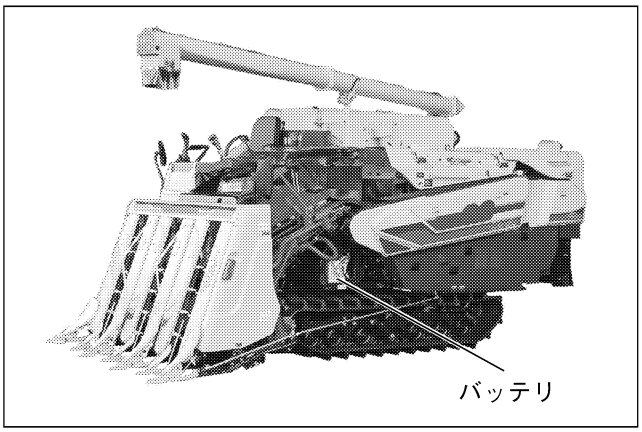
◆充電のとき「バッテリ液」が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにしてください。

◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。

◆衣服についたときは水洗いし，弱アルカリ性石けんで硫酸分を洗い流してください。

◆バッテリの液量が側面に表示されている「下限」（LOWER LEVEL）以下になったまま使用、又は充電するとバッテリーの破裂（爆発）の原因となることがあります。

❶ バッテリの位置



❷ バッテリ取付金具の点検

バッテリの取付けがゆるいと上下左右に動き，振動で電解槽やフタ等が摩耗したり亀裂を起こすことがあります。

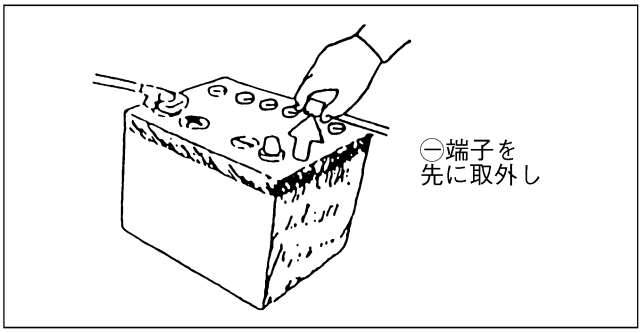
取付金具でしっかり固定します。

取付金具等が腐食していれば修理または取替えます。

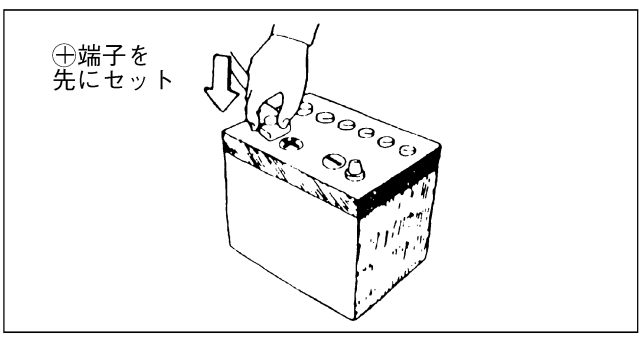
❸ バッテリ着脱時の注意

(1) バッテリを「**着脱**」したり充電器で「**充電**」するときは，エンジンを停止し，「**キー**」を抜取ります。

(2) バッテリコードを端子から取外すときは「**アース側㊀端子**」を先に外します。



(3) バッテリコードを端子に**セットするときは**「**プラス側㊉端子**」を先に取付けます。



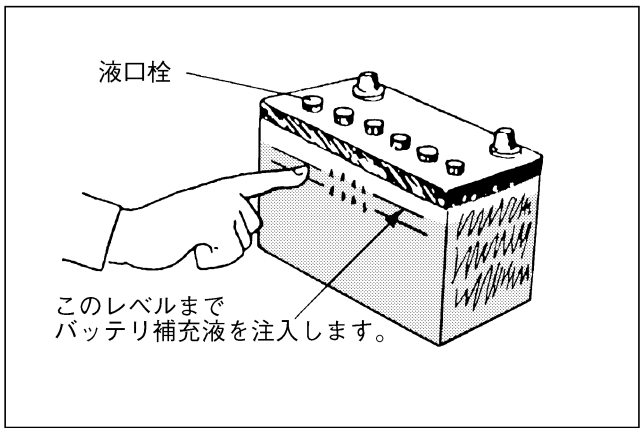
❹ 残存容量の確認

バッテリ液の「**比重**」を測定する方法と，「**バッテリテスタ**」で測定する方法があります。「**お買いあげ先**」にて点検を受けてください。

❺ バッテリ液量の確認

バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。

減っていれば，バッテリ補充液を「**UPPER LEVEL**」（上限）まで補給します。



❻ ブースタケーブルを使用してエンジンを始動する方法

(1) **ブースタケーブルの使いかた**

バッテリが放電し，エンジンが始動できない時，他車（12V仕様車）の良好なバッテリを電源として始動するため，ブースタケーブルを使用します。このときは次の手順を守って行います。

(2) **ブースタケーブルの接続のしかた**

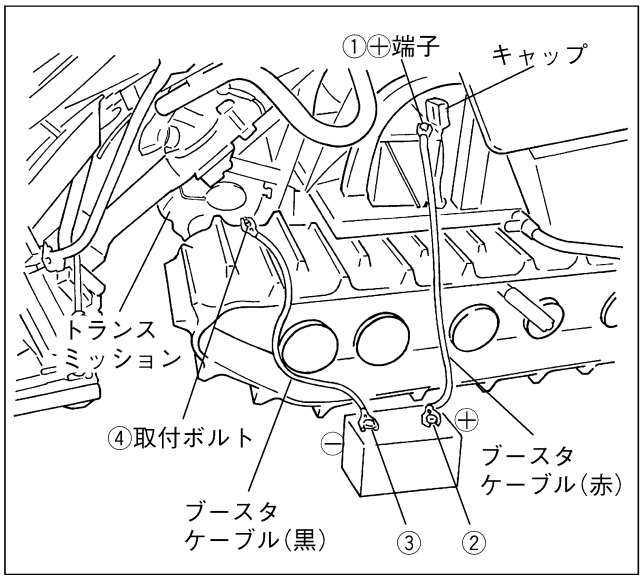
1．正常車のエンジンを停止して，図の①～④の順序でブースタケーブルを接続します。

① 放電バッテリ㊉端子のキャップを外しブースタケーブル（赤）のクリップを接続します。

② ブースタケーブル（赤）のクリップを正常車のバッテリ㊉端子に接続します。

③ ブースタケーブル（黒）のクリップを正常車のバッテリ㊀端子に接続します。

④ ブースタケーブル（黒）のクリップをコンバインのトランスミッション下方の取付ボルトに接続します。



2．放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくい時は正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

(3) **ブースタケーブルの取外し方**

1．接続の手順と逆の手順で行います。④→③→②→①

取扱いのポイント

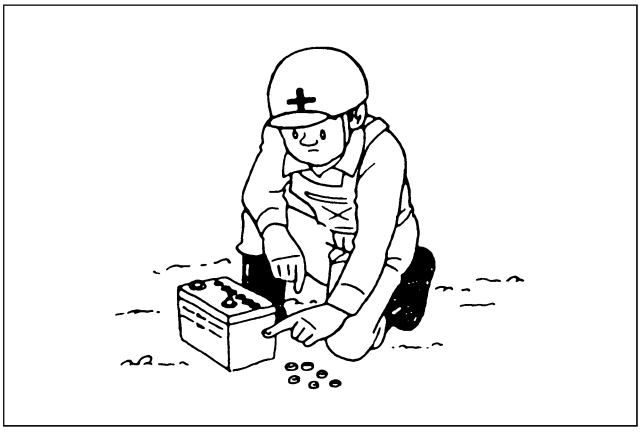
- **指示と異なるボルトにクリップを接続しないでください。**

❼ バッテリの充電（コンバインからバッテリを外した状態）

(1) 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し，**「キー」**を抜取ります。

(2) 機械からバッテリを取外します。

(3) **「液口栓」**をすべて取外します。

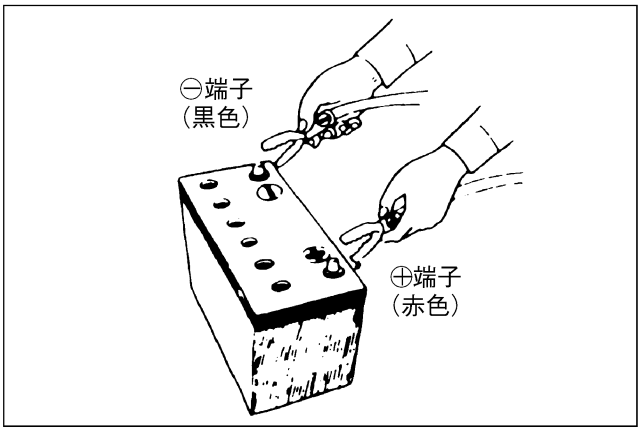


(4) 急速充電はできるだけ避け，普通充電をし，液温が**「45℃」**を超えないようにします。

(5) **「水素ガス」**が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をします。

(6) **「火気」**を近づけたり**「スパーク」**による電気火花が発生しないようにします。

(7) 充電器のクリップを着脱するときは，充電器のスイッチを**「切」**にし，⊕端子（赤色）・⊖端子（黒色）を確実に取付けます。



⑻ 充電の時「バッテリ液」が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにします。

取扱いのポイント

- **各端子は「ゆるみ」がないように締付けてください。**
- **取付けの時，バッテリ端子部は布などで油等をふき取ってください。取付け後バッテリ端子部には，腐食防止のためグリスを塗布してください。**
- **バッテリ⊕端子のゴムブーツは，取付けてください。**
- **厳寒時は，機械を格納する時にバッテリを取外して暖かい所に保管してください。**
- **亀裂や変形のあるバッテリは新品と取替えてください。汚れていれば清水で洗浄してください。洗浄後は水分を拭きとってください。**
- **化学繊維製布による拭きとりは，静電気が発生する恐れがありますのでさけてください。**

8．グレンタンクの回動のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆グレンタンクを回動する時は，平坦な場所で行い，各クラッチを切り，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

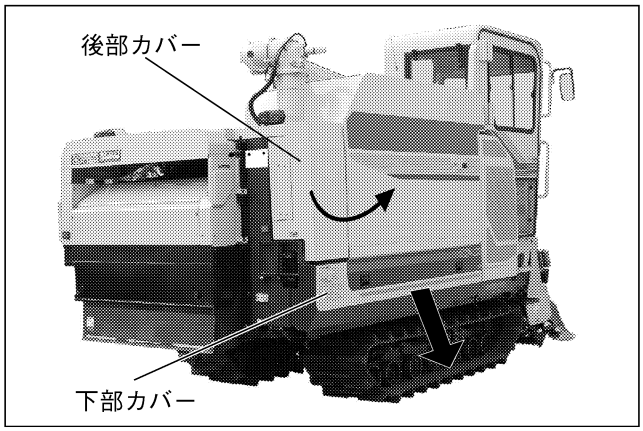
◆グレンタンク内にこく粒が入っていないことを確認してから行います。
タンク内にこく粒が入った状態で回動させると故障の原因となります。

◆グレンタンクを収納したら，固定レバーでタンクを固定してください。

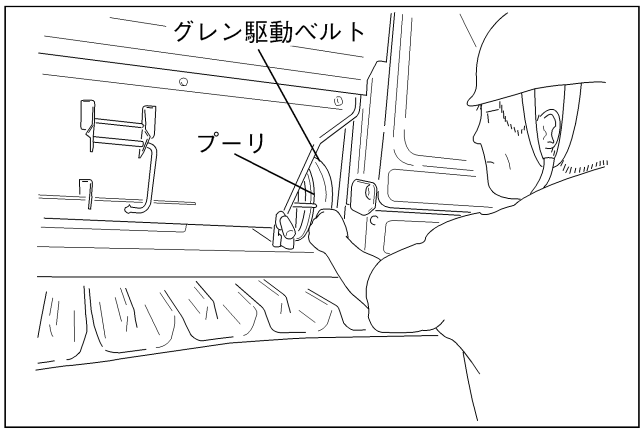
エンジンおよびベルトの点検・整備や脱こく部の掃除・点検をする時はグレンタンクを回動して行います。

❶ タンク下部カバーを取外します。

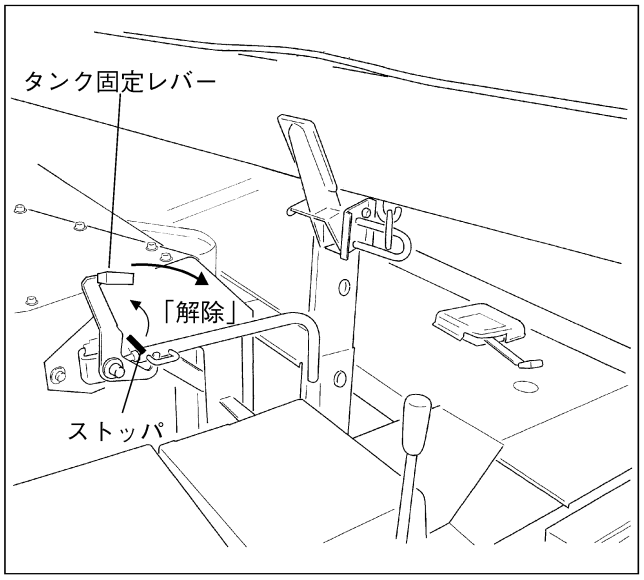
❷ タンク後部カバーを開きます。



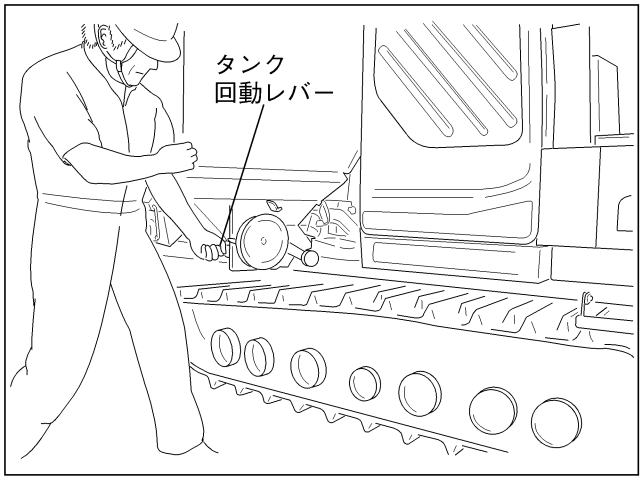
❸ グレン駆動ベルトをプーリより外します。



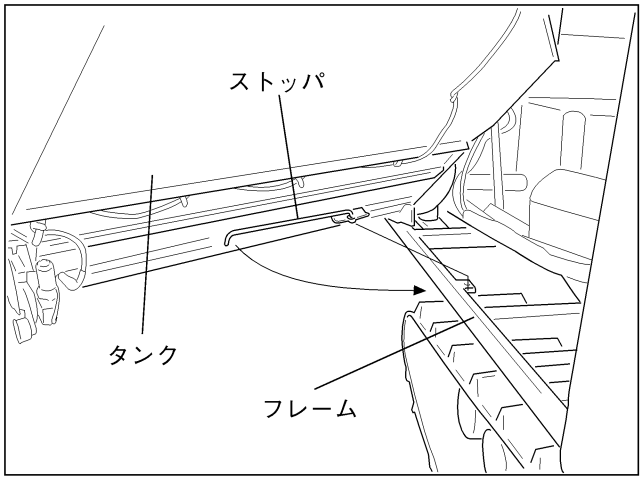
❹　タンク固定レバーのストッパを上げてタンク固定レバーを「**解除**」方向に倒します。



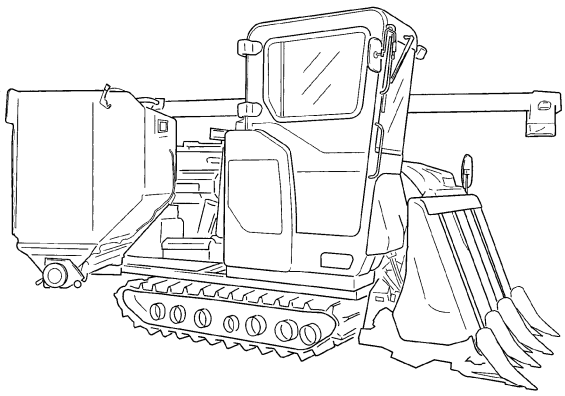
❺　タンク回動レバーを持上げながら，手前に引きタンクを回動します。



❻　タンクとフレームにストッパをかけます。



［グレンタンク開（オープン）］



❼　収納は逆の手順で行います。

❽　タンク収納途中でタンク回動レバーのピンがフレームに当たり回動しなくなります。タンク回動レバーを持上げながらタンク回動レバーのピンがフレームの穴に入るまでタンクを押込みます。

取扱いのポイント

- **グレンタンクの回動（オープン）は，グレンタンク内のこく粒を排出してから行なってください。**
- **収納後はベルトの掛けかたが間違っていないか，再度確認してください。（197ページのⒻを参照します。）**

9．こぎ胴部の開閉のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

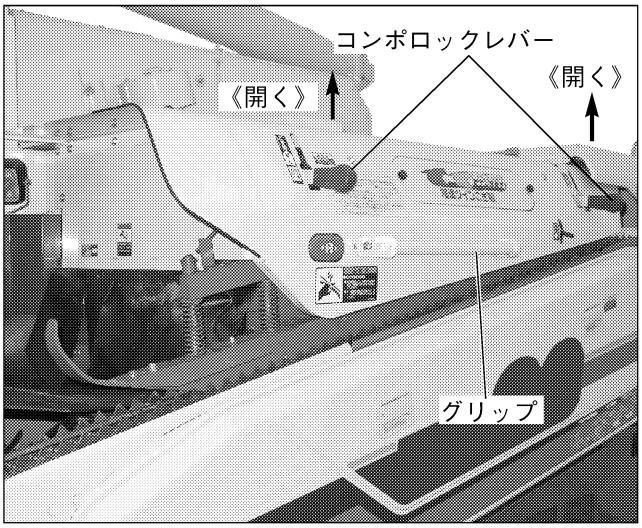
◆こぎ胴部を開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆こぎ胴部を開くときは，グリップでこぎ胴を持ち上げ，「カチッ」という自動ロックの作動音を確認してからゆっくりと手を離してください。
◆《自動ロック解除レバー》を操作する時は，アームまたはシリンダカバー端部を支えて行なってください。この時は，回動範囲内には手や体を入れないでください。
◆サイドステップは2人以上乗らないでください。また足元がすべらないために，ぬれたり，泥のついた靴では乗らないでください。

❶ サイドステップを引出し，乗った状態でこぎ胴の開閉を行うと容易に行えます。

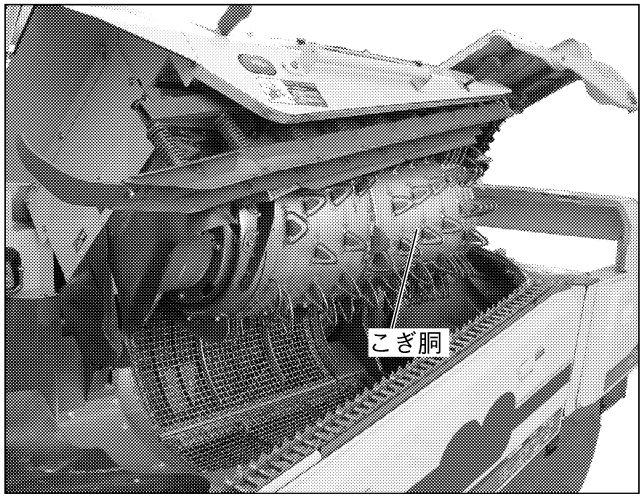
❷ こぎ胴部を開く時は

⑴ ２本のコンポロックレバーを左右同時に《**開く**》の方向に上げ，固定を解除します。

⑵ グリップでこぎ胴を持ち上げ『**カチッ**』という音を確認して，ゆっくり手をはなします。

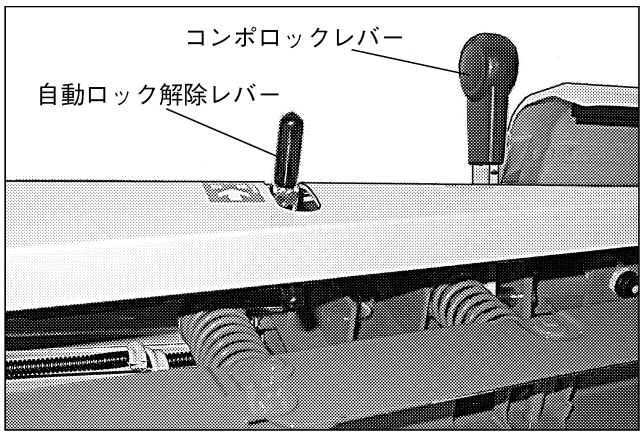


［こぎ胴部開（コンポアップ）状態］

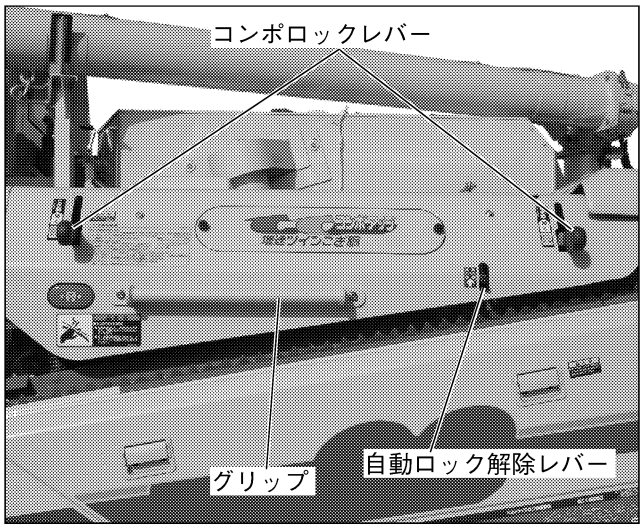


❸ こぎ胴部を閉める時は

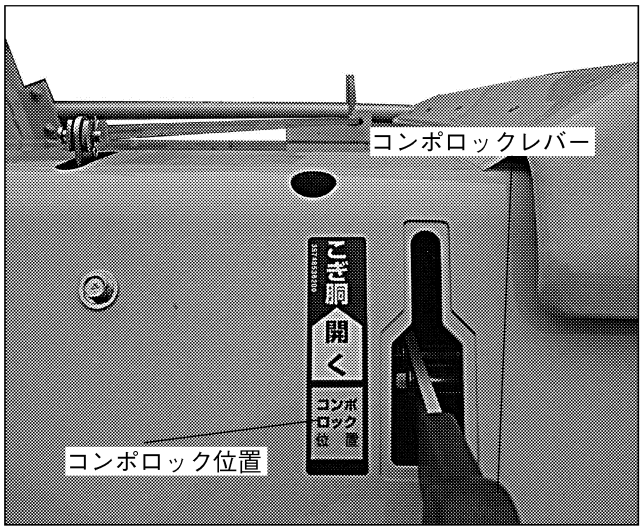
⑴ グリップでこぎ胴を一杯持ち上げ，自動ロック解除レバーを押し上げたままこぎ胴を下げます。



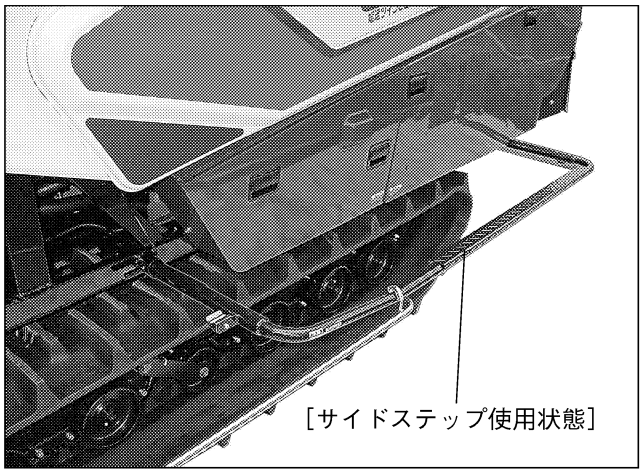
⑵ グリップでこぎ胴をおろすと自動固定します。（コンポロックレバーを持って，こぎ胴を上げ下げしないでください。）

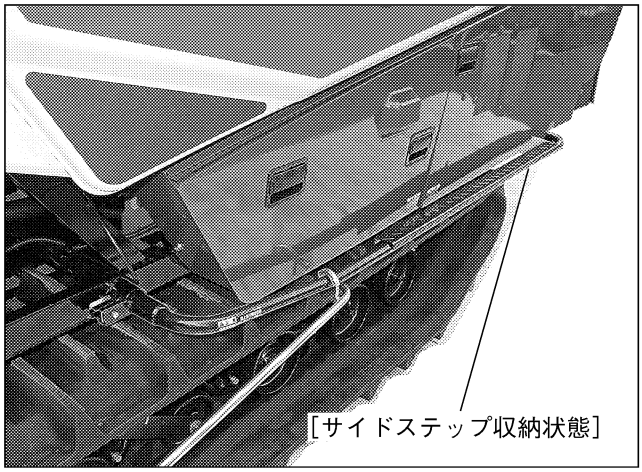


⑶コンポロックレバー（２ヶ所）を必ず下にさげてコンポロック位置にあることを確認します。
⑷コンポロックレバーがコンポロック位置にない場合は開く・閉めるの動作を繰り返して，コンポロック位置にレバーを下げる様にします。



❹サイドステップを使用した場合は収納します。





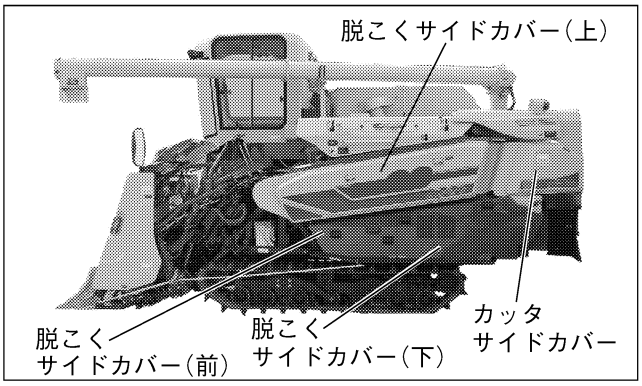
10．脱こくファンケースの取外しかた

⚠警告 傷害事故防止のために

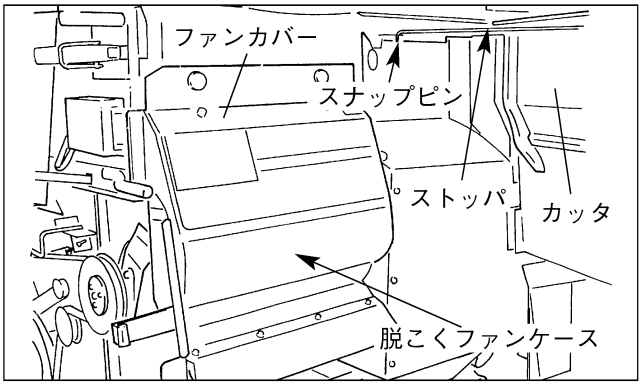
◆脱こくファンケースを取外す時は，平坦な場所でエンジンを停止して行なってください。

◆カッタはいっぱい開いて，ストッパをかけてください。

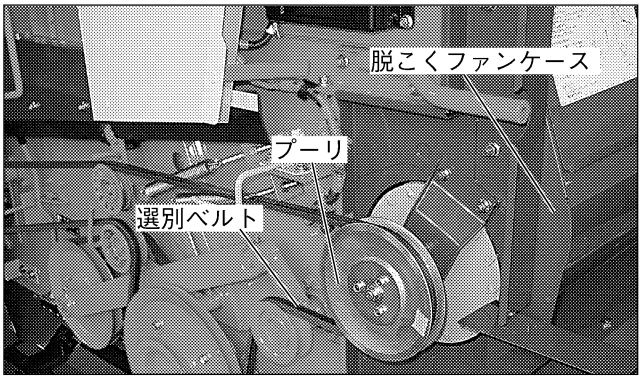
(1) 脱こくサイドカバー（上），（下）およびカッタサイドカバーを外します。



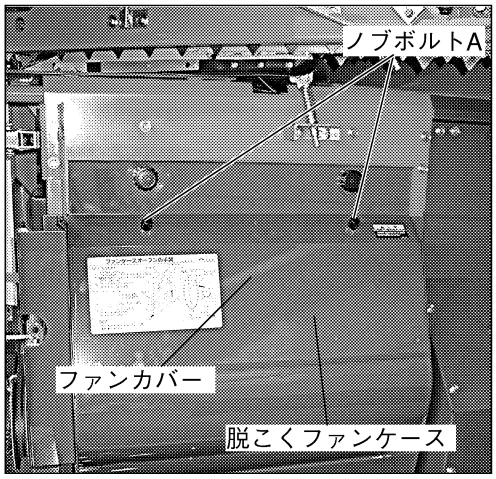
(2) カッタをいっぱい開きストッパをかけ，スナップピンで固定します。(141～142ページ参照)



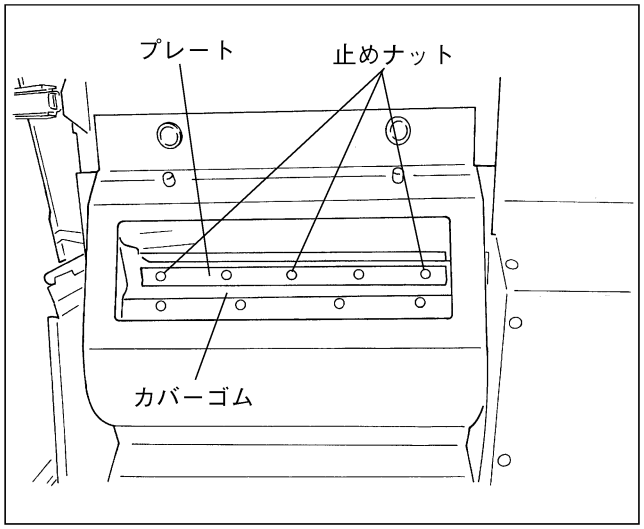
(3) 脱こくファンケースのプーリから選別ベルトを外します。



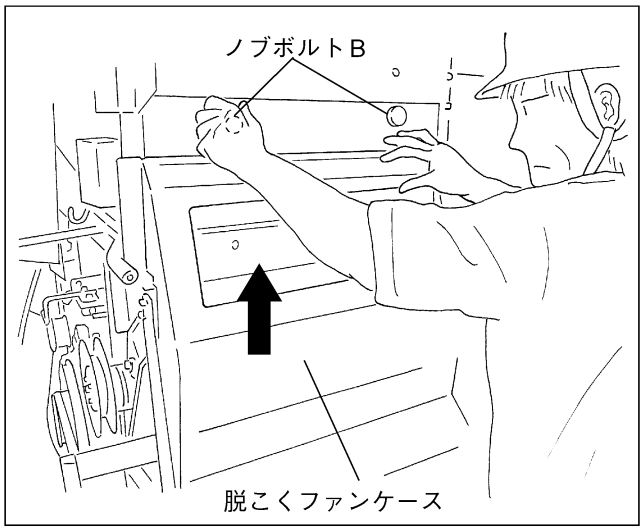
(4) ノブボルトAを外し，ファンカバーを外してください。

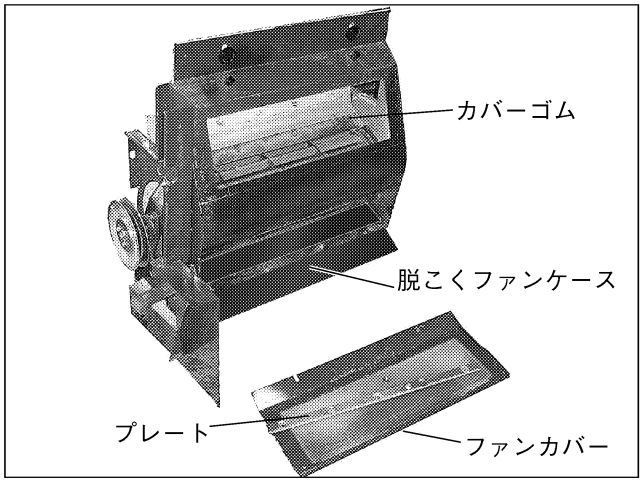


(5) 止めナット（3ケ）およびプレートを外しカバーゴムを揺動流板から外します。



(6) ノブボルトBをはずし脱こくファンケースを矢印の方向へ上げて外します。





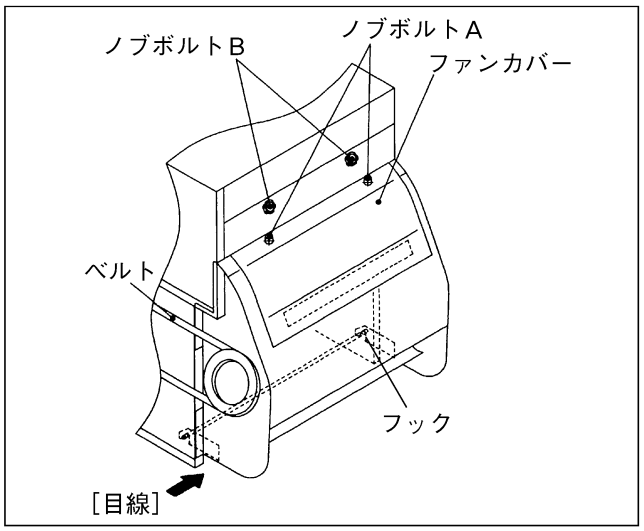
(7) 脱こくファンケースをもとに戻す時は……

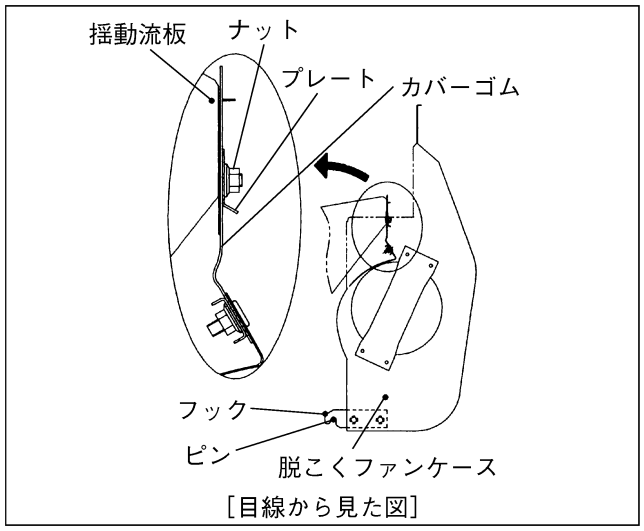
1．脱こくファンケース下側のフックをピンに確実にかけたことを確認後，ノブボルトBを締めてください。

2．カバーゴムを揺動流板先端にプレートで固定しナットを締めてください。

3．ファンカバーを脱こくファンケースに取付けノブボルトAを締めてください。

4．ベルトをセットしてください。





(8) 外した脱こくサイドカバー（上），（下）およびカッタサイドカバーを取付けます。

取扱いのポイント

- **脱こくファンケースを取付けた時，カバーゴムの取付ナットの締め忘れがないか確認してください。**
- **カバーゴムがセットされていないとファンが詰まり，刈取り作業ができません。**
  またファン破損の原因となります。

11．脱こく内部の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆脱こく部の各部を掃除するときはエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆２人以上で作業する場合，とくに回転部を動かすときは互いに声をかけあい，確認してから行なってください。
◆こぎ胴部を開くときは，グリップでこぎ胴を持ち上げ，「カチッ」という自動ロックの作動音を確認してからゆっくり手を離してください。
◆グレンタンクを回動（オープン）するとマフラが近くにあります。ヤケド防止の為，触れないでください。

⚠注意

◆作業が終わったら，外したカバー類は全て元の位置に取付けてください。

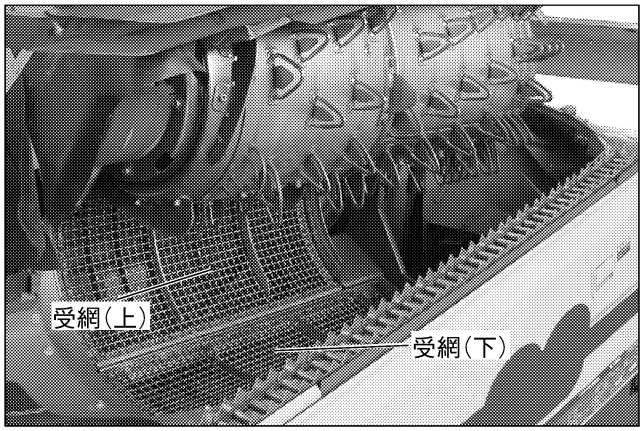
品種の混合や稲・麦の混合を防ぐため，また長期格納の際の脱こく内部のワラクズや残粒を取除くために，各掃除口を開けてきれいに掃除します。

取扱いのポイント

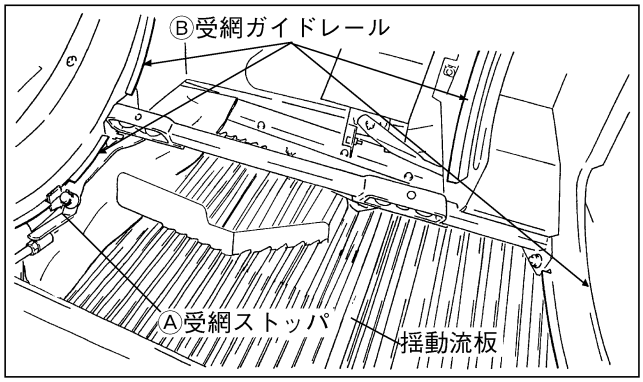
●脱こく内部などの掃除にはブロアを使用すると容易にできます。

❶ 「脱こく受網（上）・（下）の着脱」

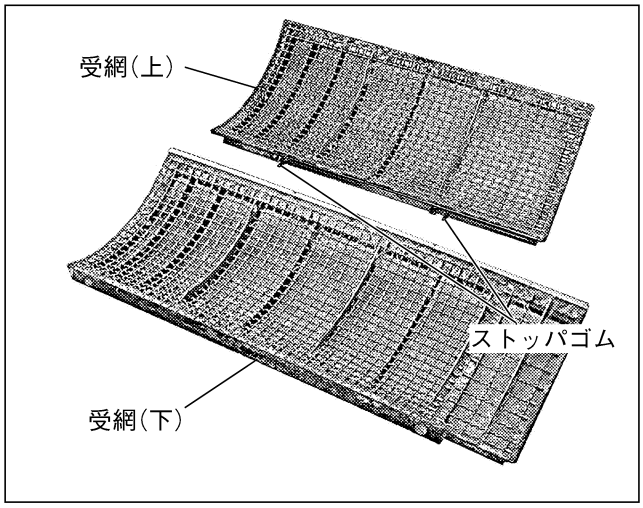
⑴ こぎ胴部をいっぱい持ち上げると受網を固定しているロック装置は自動的に解除されます。
⑵ 受網（下）を外します。
⑶ 受網（上）を外します。



⑷ 受網（上）・（下）を取付ける前にⒶ部受網ストッパおよびⒷ部受網ガイドレール（４個所）のクズを取除きます。



⑸ 脱こく受網の取付けは逆の順序で取付けます。
⑹ 受網（上）はストッパゴムがフレームに当たるまで押し込みます。



⑺ こぎ胴を閉めると受網は自動的にロックされますが，受網が完全に入っていないときはロックできませんので受網が完全に入っていることを確認します。

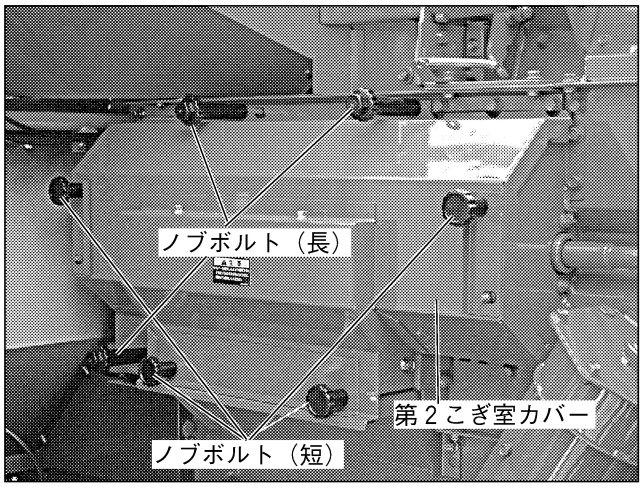
取扱いのポイント

- **長期格納前には，受網（上），（下）は取外して掃除をしてください。**
- **受網ストッパおよび受網ガイドレール（４個所）にこく粒やクズがたまったまま受網をセットするとこぎ歯に当たる場合がありますので掃除してください。**

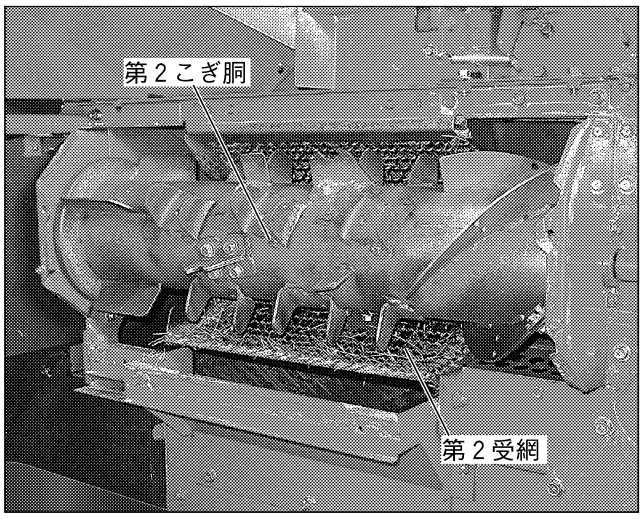
❷ 第２こぎ室の掃除

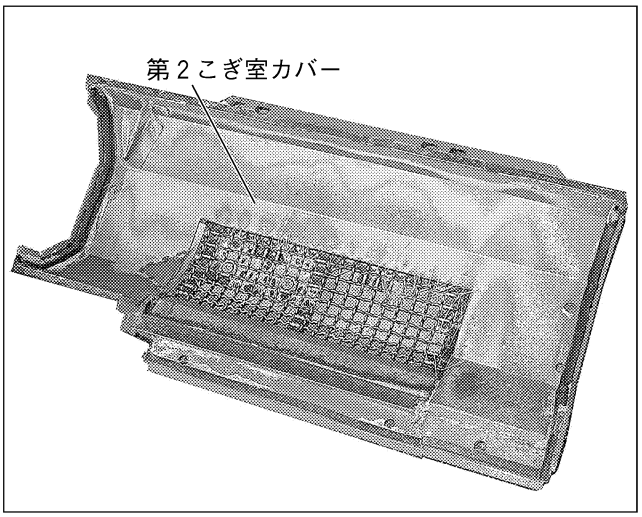
⑴ グレンタンクを回動し，ストッパを掛けます。（122～123ページ参照）

⑵ 第２こぎ室カバーのノブボルト（長3個，短4個）を外し，カバーを取り外します。



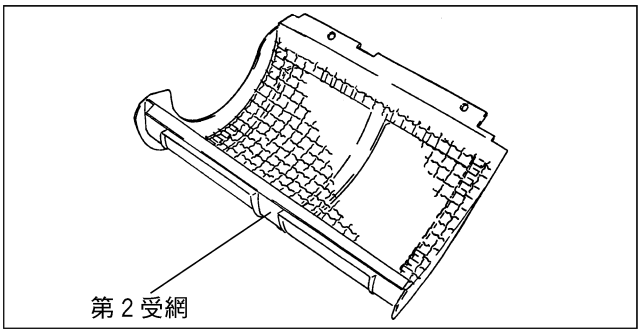
⑶ 第２こぎ室内部に残ったクズを掃除します。又カバー内側も掃除します。





⑷ 第２受網は，受網の上側から第２こぎ胴を回すようにして，取外します。

⑸ 第２受網の取付けは，逆の手順で取付けます。



取扱いのポイント

- **長期格納前には，第２受網を取外して掃除をしてください。**

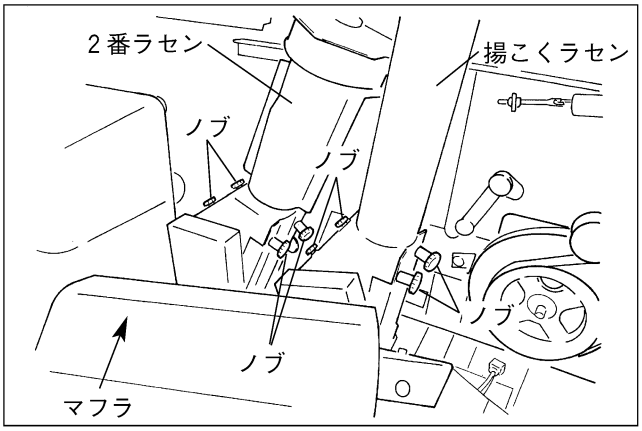
❸ 揚こくラセン部の掃除

(1) グレンタンクを回動し，ストッパを掛けて行います。(122～123ページ参照)

(2) ノブを外し掃除フタを取外して，内部にたまっているこく粒を掃除し，掃除フタをノブで取付けます。

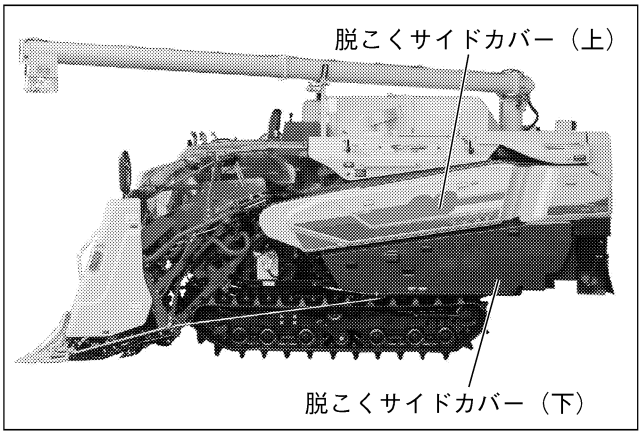
❹ 2番ラセン部の掃除

ノブを外し掃除フタを取外して，内部にたまっているこく粒を掃除し，掃除フタをノブで取付けます。

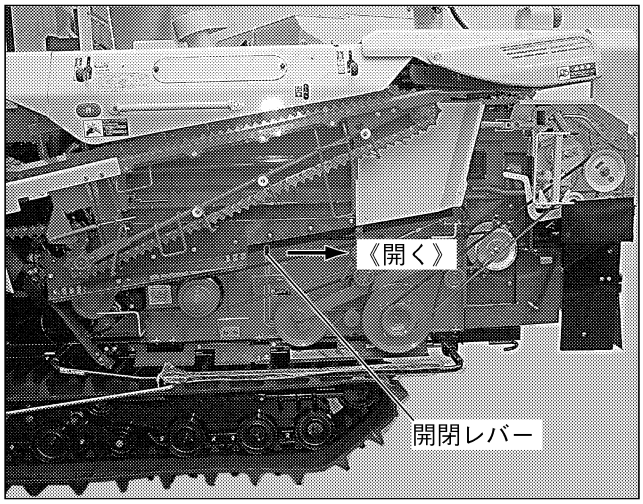


❺ 1番ラセン底板，2番ラセン底板の掃除

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下）を取外します。

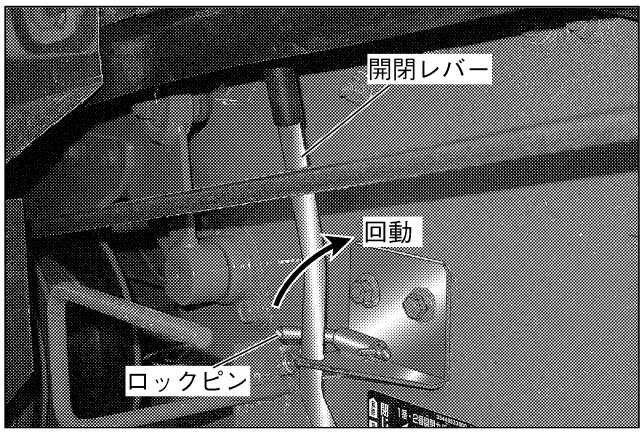


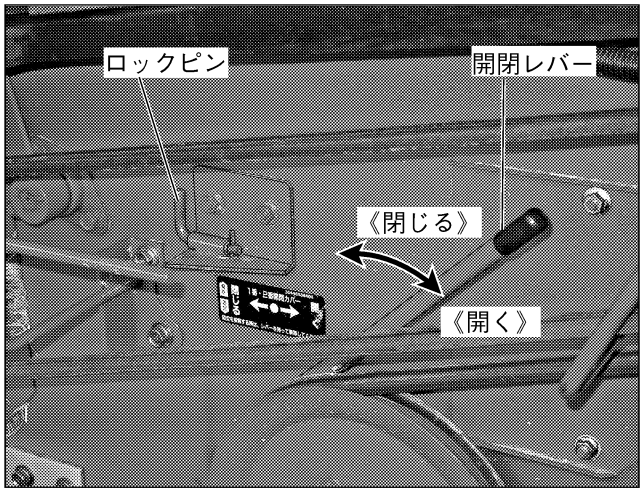
(2) 開閉レバーを《開く》方向に操作すると底板が開き，機械の後方下側から掃除ができます。



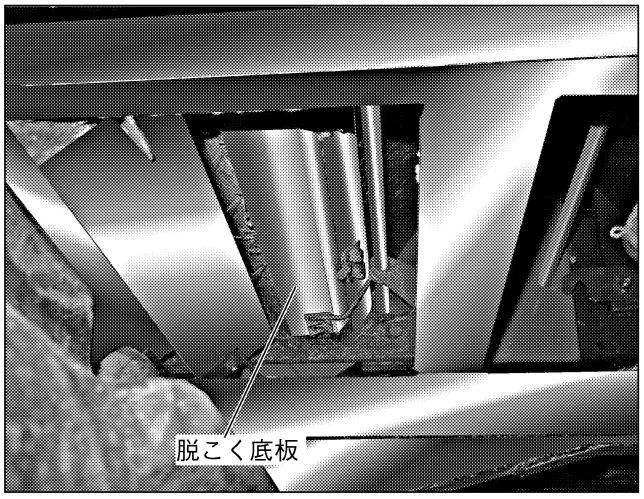
取扱いのポイント

- **開閉レバーはロックピンで固定してあります。開閉レバーを《開く》位置に動かす前に，このロックピンを上方に回動して，開閉レバーの固定を解除する必要があります。**

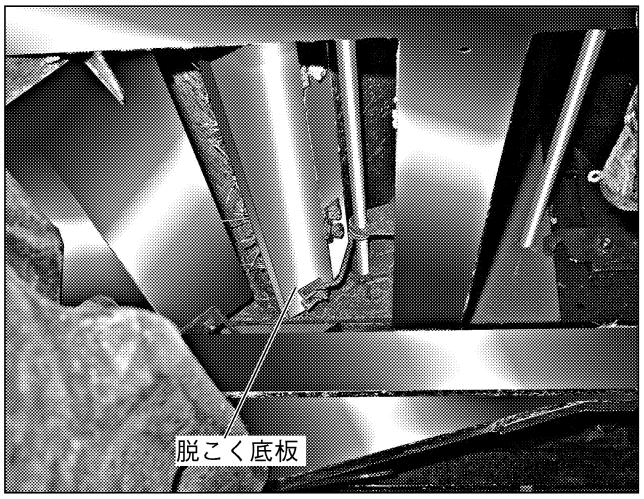




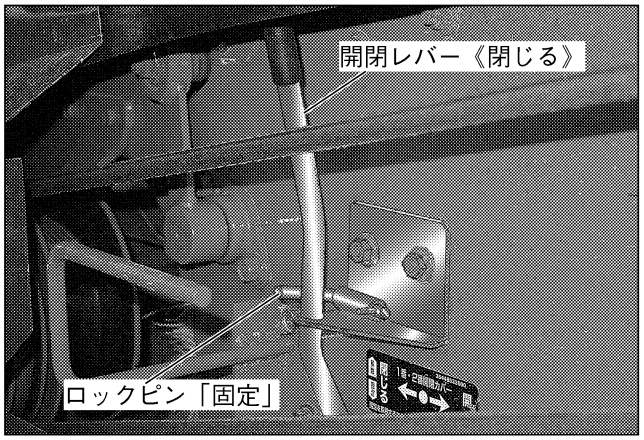
［脱こく底板「閉」状態］



［脱こく底板「開」状態］



⑶　掃除後は開閉レバーを《閉じる》位置に戻し，ロックピンで固定します。



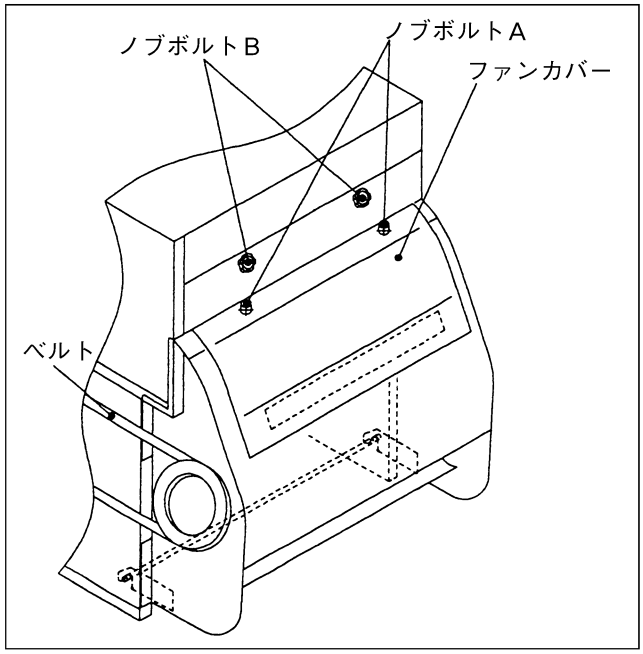
取扱いのポイント

●掃除後は底板が確実に閉じていることを確認してください。開いているとこく粒がもれます。

❻　排じん室の掃除

⑴　カッタをストッパがかかるまでいっぱい開きます。

⑵　ノブボルトＡをゆるめて外し，ファンカバーを外し，排じん室のワラクズ等を掃除します。（125～126ページ参照）



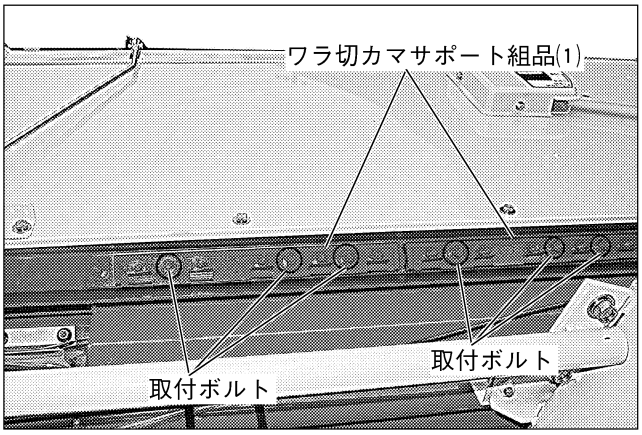
❼　ワラ切カマの掃除

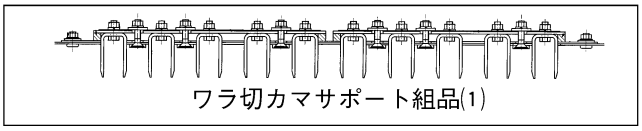
⚠注意

◆ワラ切カマの脱着作業は手袋をして行なってください。
◆刃部に手をかけないでください。

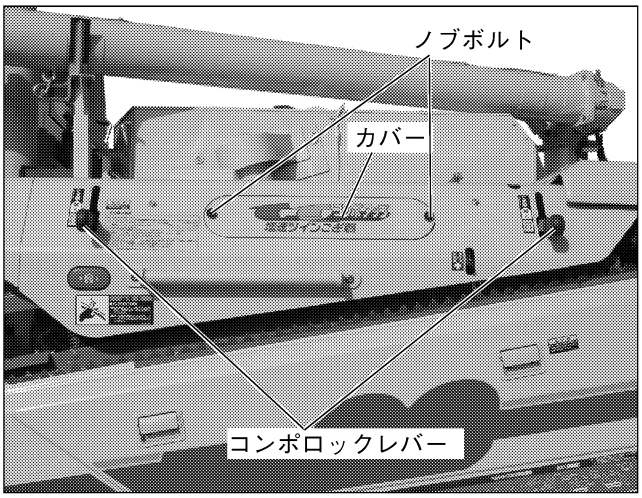
２個所のワラ切カマサポート組品を取外し，ワラ切カマに付着しているワラクズ等を掃除します。（ワラ切カマの取外しは156～158ページを参照）

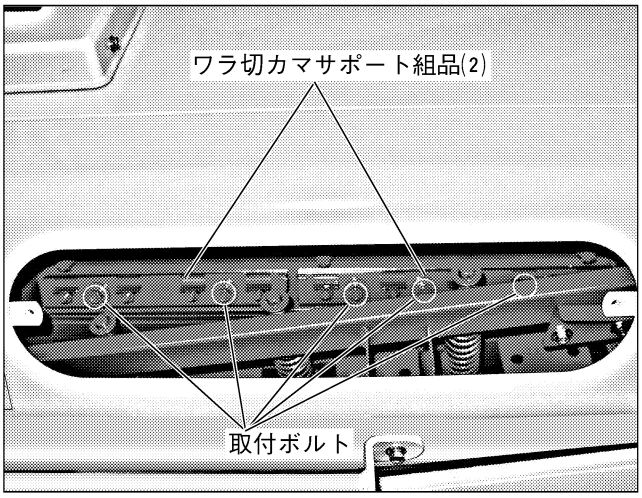
⑴　１個所は脱こく天板とグレンタンク部の境界部にあります。（運転席から後を見ると，見付けることができます。）

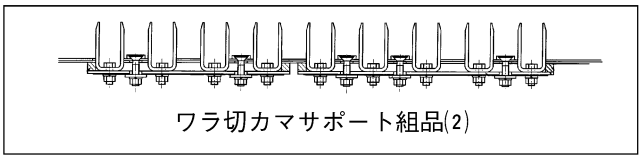




(2)　2個所目は，コンポロックレバー近くのノブボルト（2個）を外してカバーを外すと見ることができます。

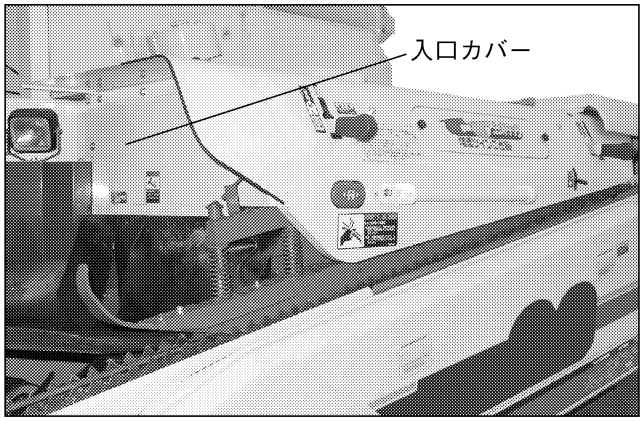




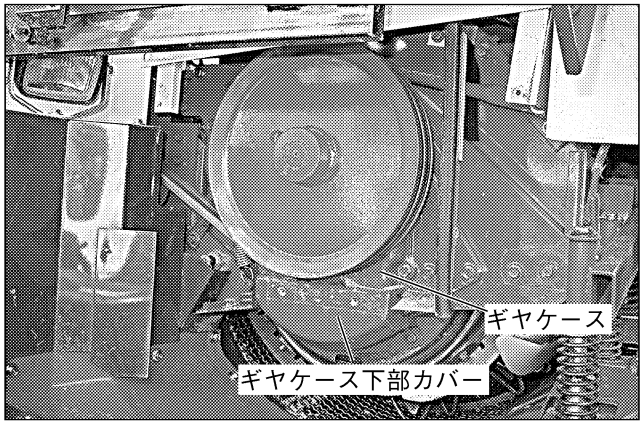


❽　こぎ胴ギヤケース部の掃除

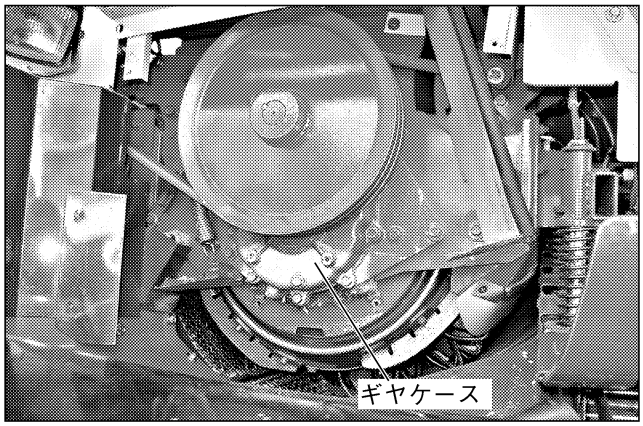
(1)　入口カバーを外します。

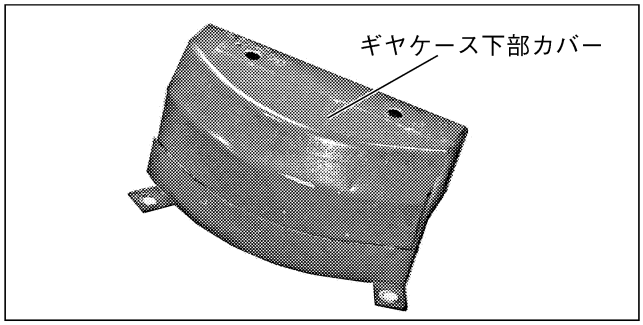


(2)　ギヤケース下部カバーを外します。



(3)　カバー内の掃除とギヤケース下部の掃除を行います。

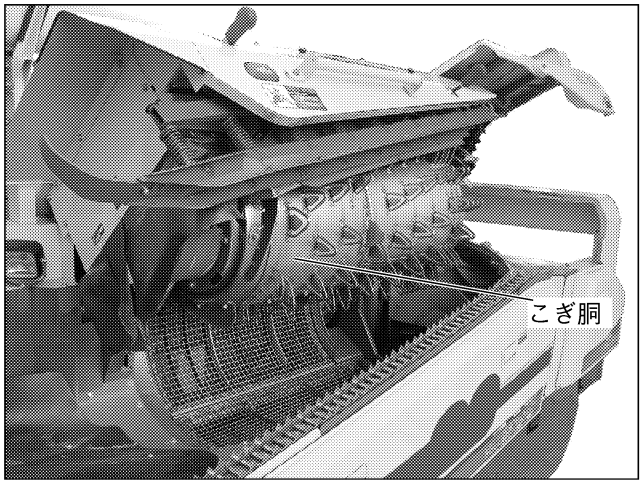




❾ 脱こくこぎ室の掃除

こぎ胴をオープンします。

こぎ室を掃除します。



12．揺動流板の掃除

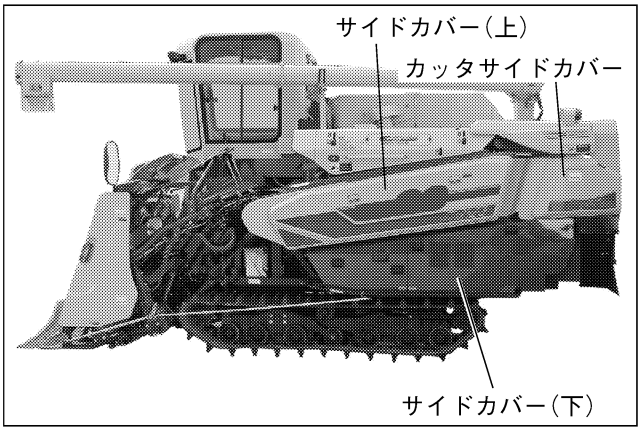
❶ 揺動流板の取外しかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆揺動流板を取外す時は，平坦な場所でエンジンを停止して行なってください。

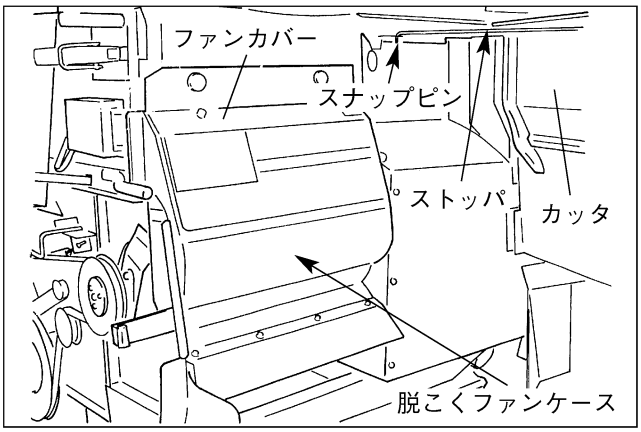
◆カッタはいっぱい開いて，ストッパをかけてください。

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下）およびカッタサイドカバーを外します。



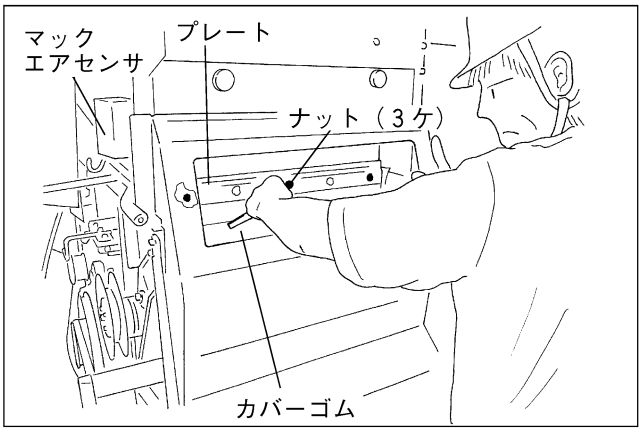
(2) カッタをいっぱい開きストッパをかけ，スナップピンで固定します。(142～143ページ参照)

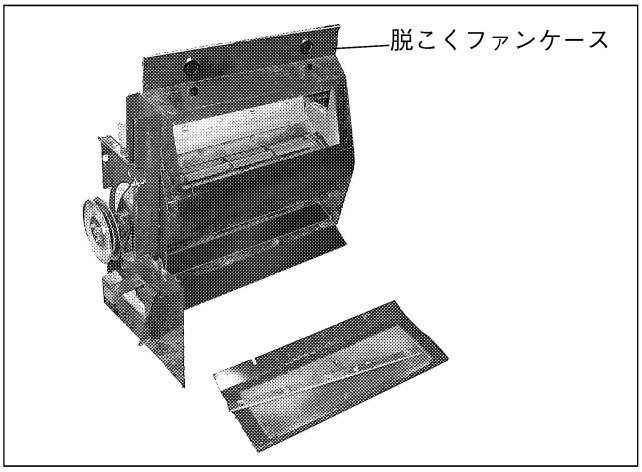
(3) 脱こくファンケースを取外します。(126～127ページ参照)



取扱いのポイント

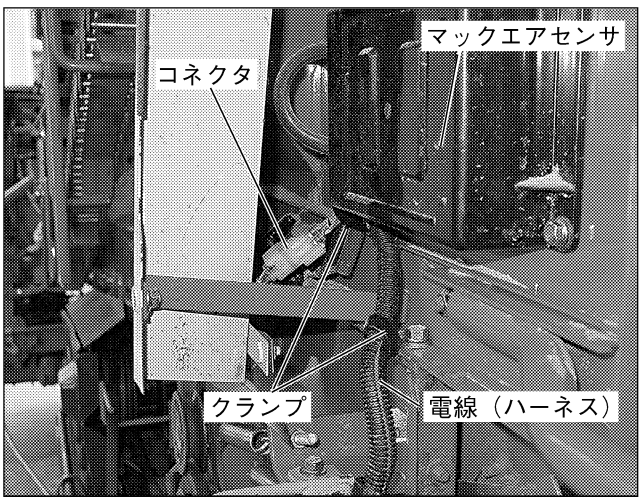
●脱こくファンケースは揺動流板先端部をプレートとカバーゴムで止めてありますので，ファンのカバーを外し，取外してください。



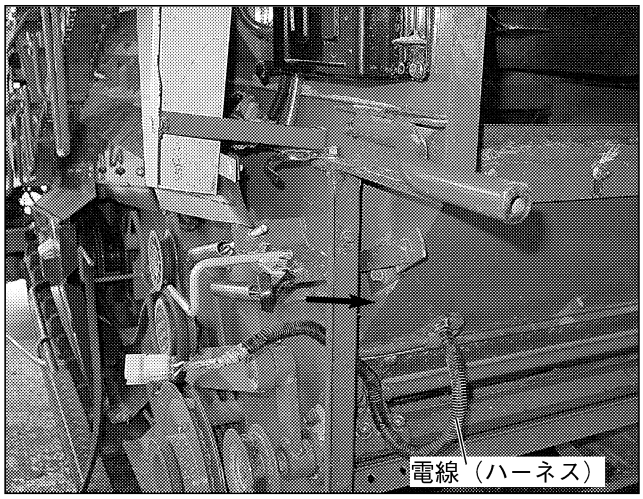


(4) マックエアセンサ近くに固定してあるコネクタを分離します。

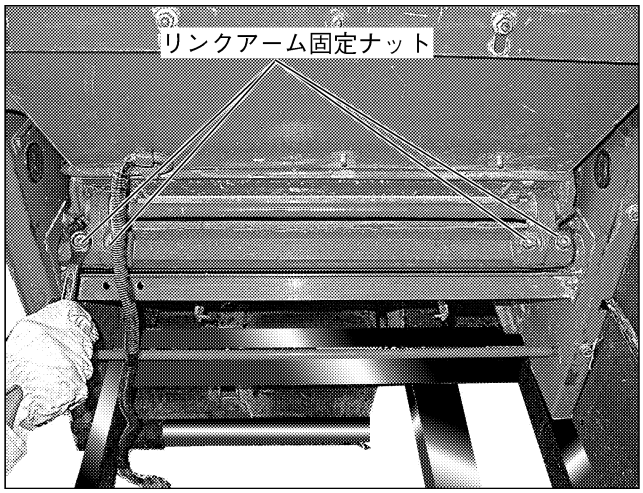
(5) 電線（ハーネス）を固定しているクランプから電線（ハーネス）を外します。



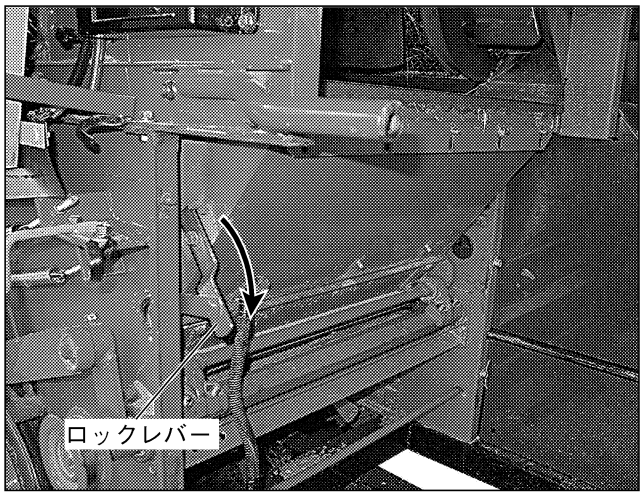
(6) 電線（ハーネス）を揺動流板側に抜き取ります。



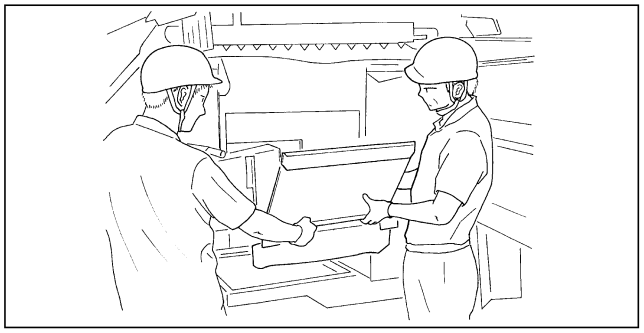
(7) 揺動流板後部のリンクアーム固定ナット左右各2個を外します。



(8) 揺動流板後方左側のロックレバーを矢印の方向へ回動させます。(解除方向)

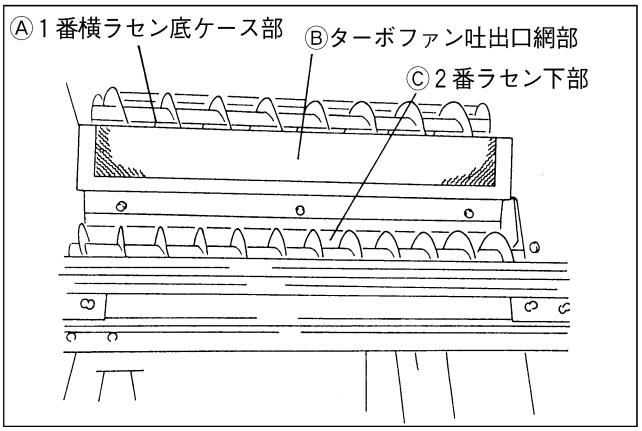


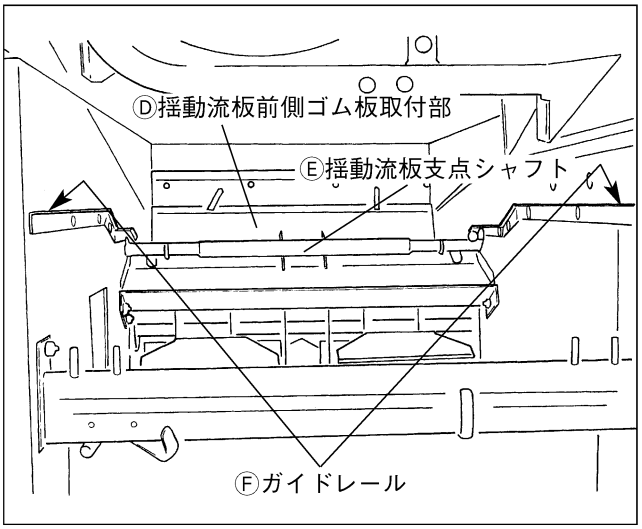
(9) 揺動流板の左右を支えながら少し浮かせた状態で後方へゆっくりと抜出します。(２人作業)

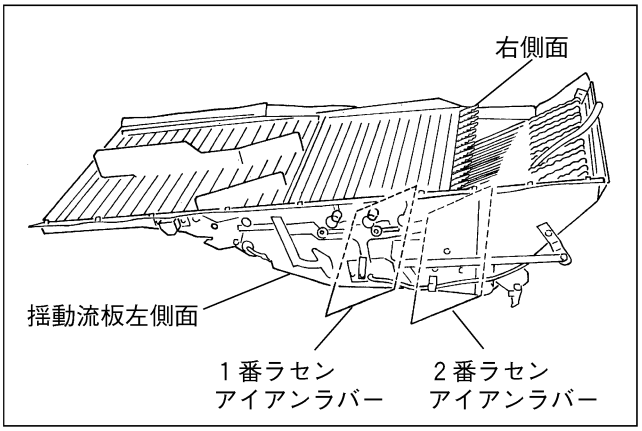


❷ 揺動流板の掃除のしかた

揺動流板を外した後の脱こく内部Ⓐ～Ⓕと揺動流板上面及び左右側面を掃除します。

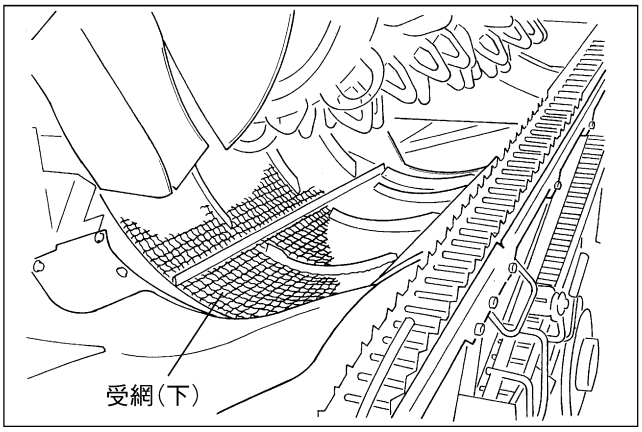




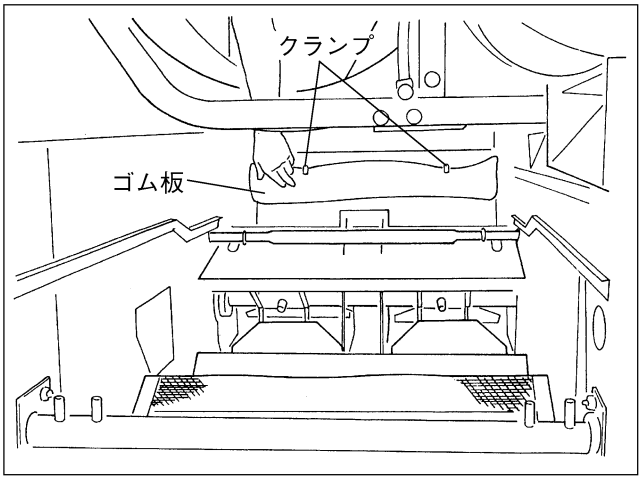


❸ 揺動流板の取付けかた

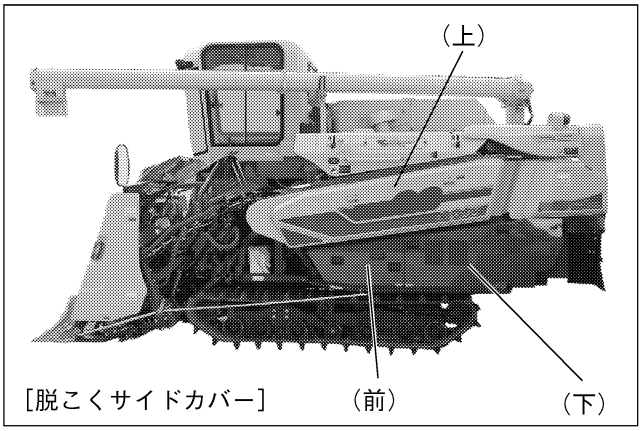
(1) こぎ胴部を開いた状態にし，受網（下）を外します。



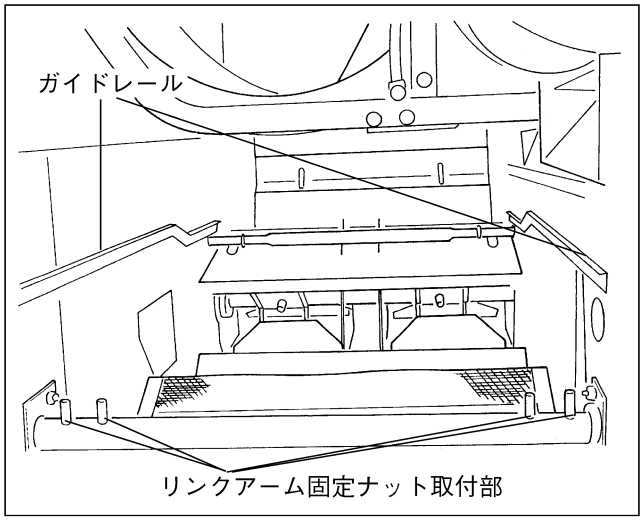
(2) 揺動流板先端のゴム板を持上げてゴム板の穴にクランプを通して固定します。(揺動流板のかみ込みを防ぐため)



(3) 脱こくサイドカバー（上，下，前）を外します。

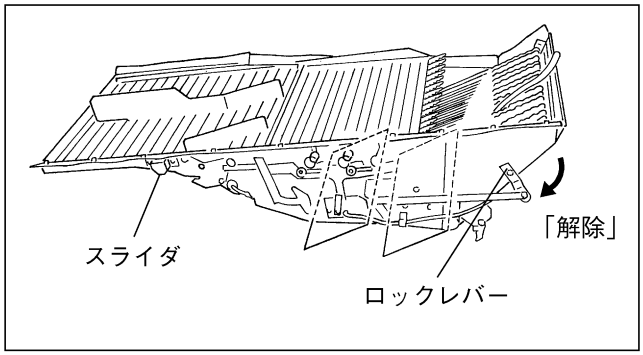


(4) リンクアーム固定ナット取付部が真上に向く様に一番ラセン軸のプーリを回します。

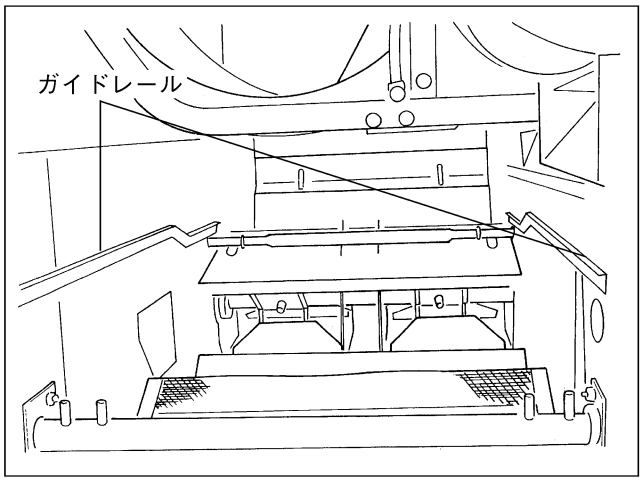




(5) 揺動流板後方左側のロックレバーを「**解除**」します。



(6) 脱こく内部側面の左右のガイドレールに揺動流板先端のスライダをのせ，少しずつ押込んでいきます。（2人作業）



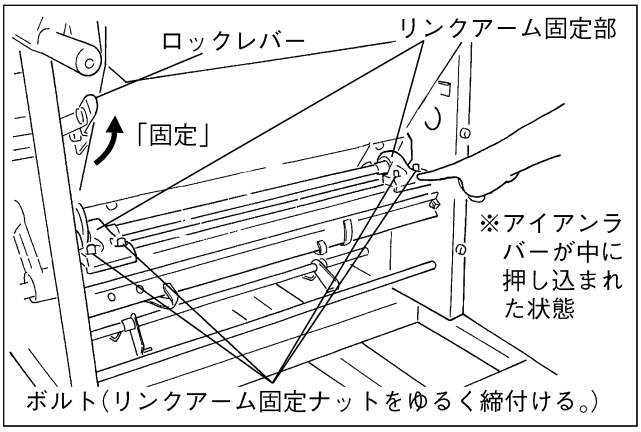
取扱いのポイント

- **揺動流板はロックレバーを「解除」方向に押さえながら押込んでください。（ロックレバーは揺動流板側面のストッパに当たるまで押付けてください。）**
- **揺動流板を押込む時に2番ラセンアイアンラバーも確実に押込まれているか，確認してください。**



(7) リンクアーム固定部をボルトにはめ込み，リンクアーム固定ナットをゆるく締付けます。

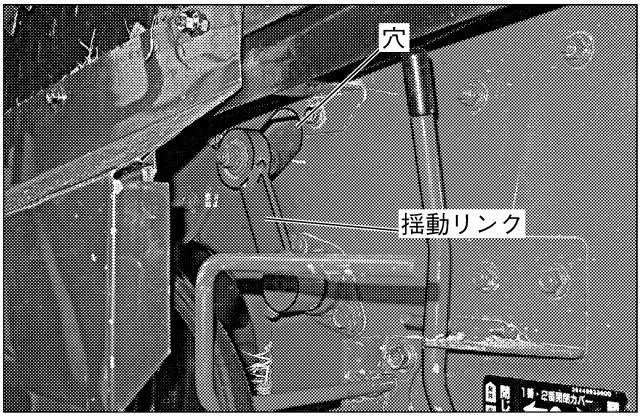
(8) ロックレバーを**「固定」**位置にします。



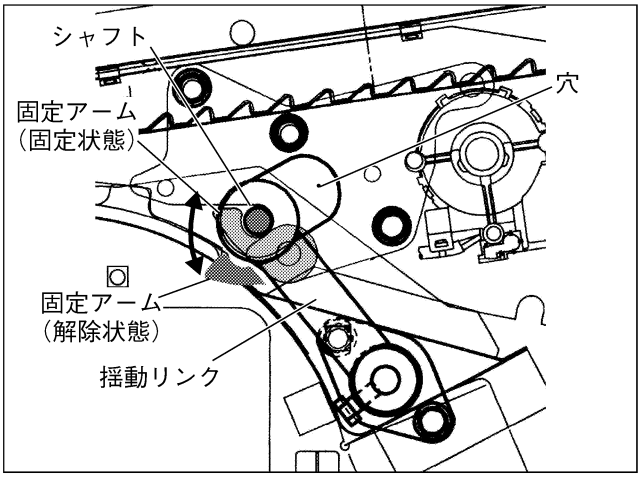
取扱いのポイント

- **揺動流板が確実に固定されていない時は，ロックレバーを「固定」位置にしても，レバーにあそびがあり，レバー位置が固定できません。この状態の時は再度セットし直してください。**((5)から)

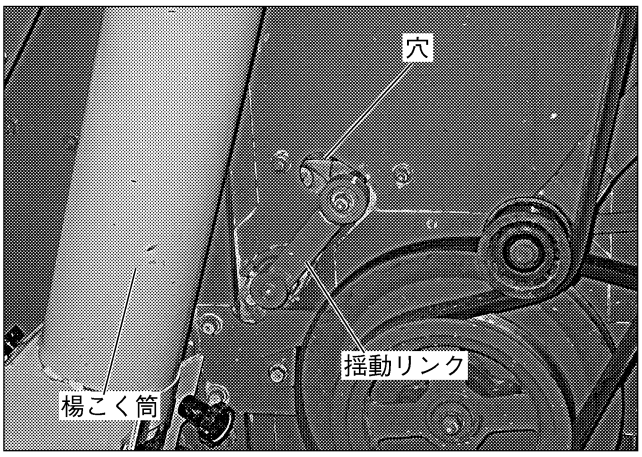
(9) 揺動リンクの穴から内部をのぞきます。
（揺動流板のロック部が見えます。）



(10) 固定アームがシャフトにかかっていること（固定状態）を確認します。



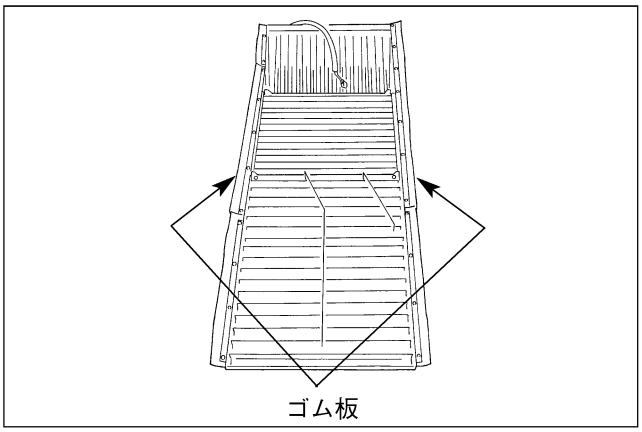
⑾　右側面についても同様に固定アームがシャフトにかかっていることを確認します。(グレンタンクをオープンし，確認します。)



取扱いのポイント

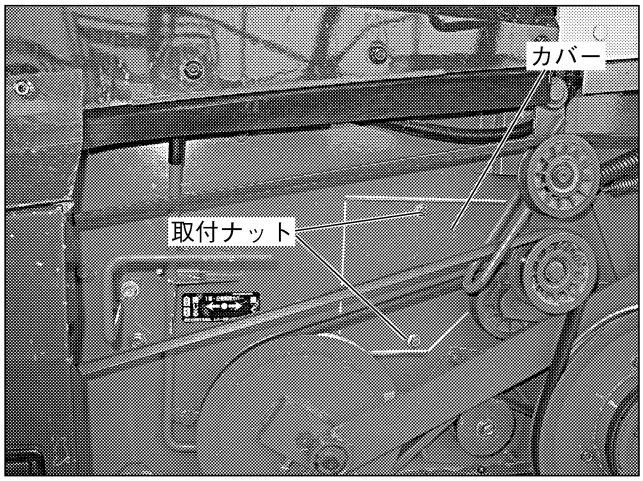
- **固定アームがシャフトから外れている場合又は確実に固定されていない場合は再度セットし直してください。(⑸から)**
- **揺動流板が正常にセットされていないと機械の破損の原因となります。揺動流板は確実に奥まで押込んでロックレバーを確実に「固定」してください。**

⑿　揺動流板側面のゴム板がかみこんで折曲がっていないことを確認します。

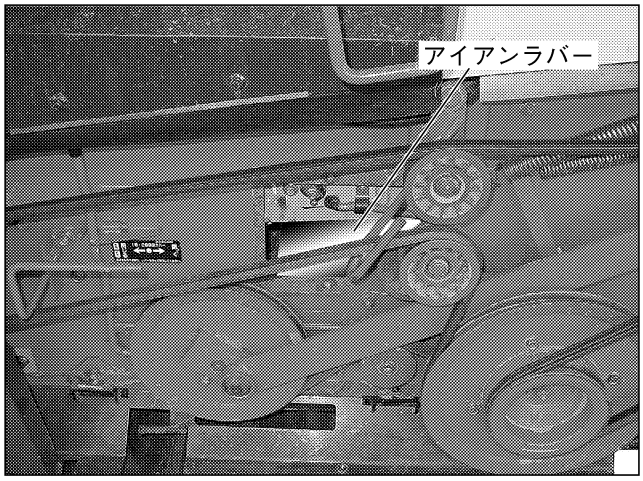


⒀　揺動流板下部の１番ラセンアイアンラバーが折曲がっていないことを確認します。

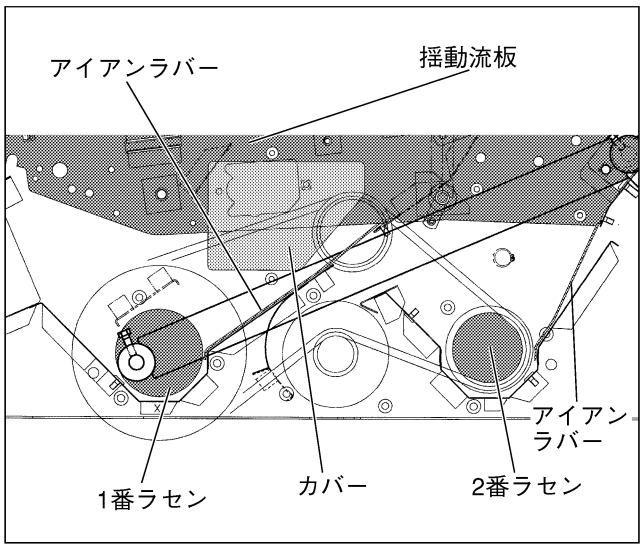
１．確認用のカバーを外します。



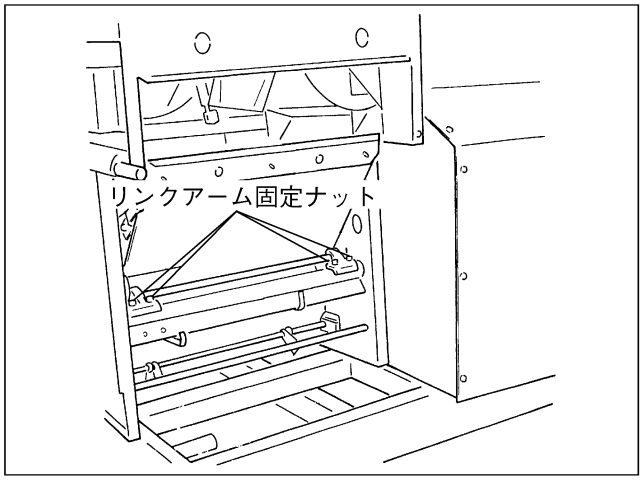
２．目視でアイアンラバーが曲がっていないか確認し，曲がっていたらドライバなどで直します。



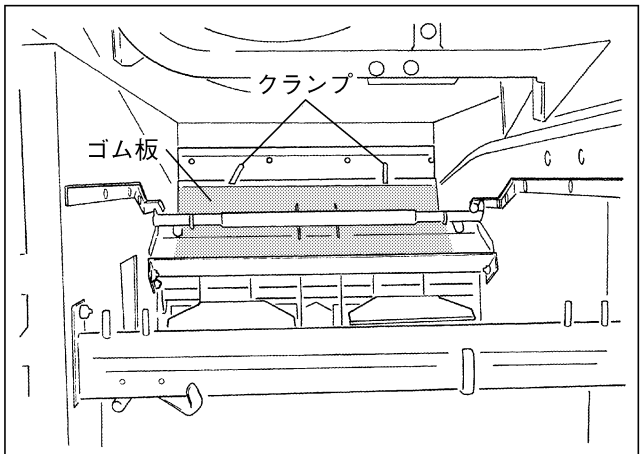
３．１番ラセンの斜面部分に収まっているか確認します。



⑭ 揺動流板後部のリンクアーム固定ナット左右各２ケを確実に締付けます。

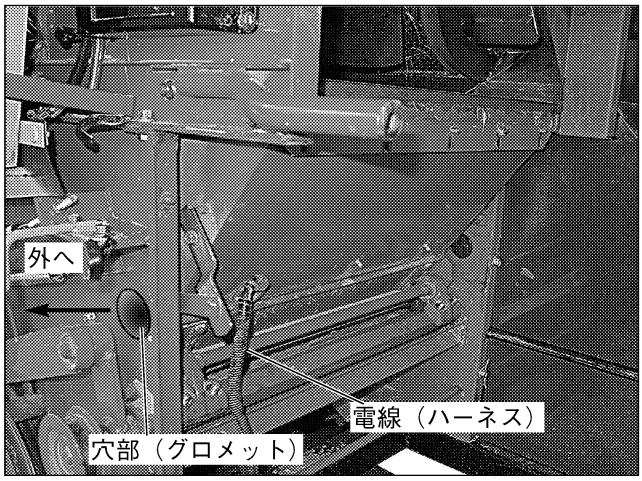


⑮ (2)で固定したゴム板をクランプから外し，揺動流板の上にたらします。

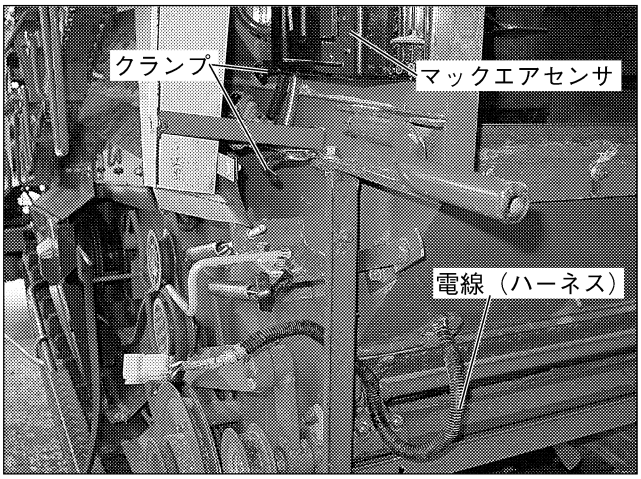


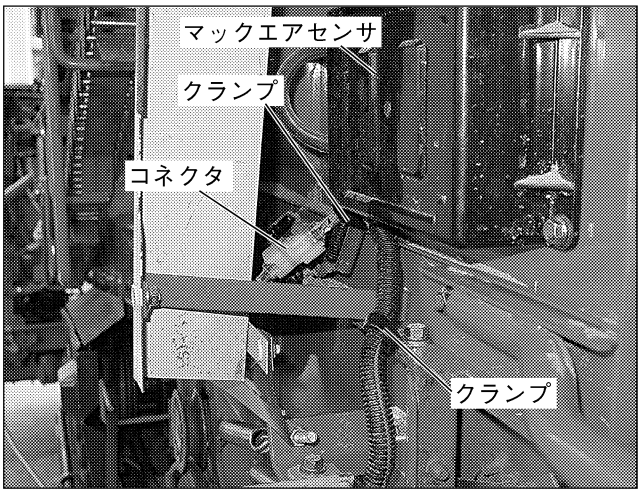
※このイラストは説明のため，揺動流板を外しています。

⑯ 電線（ハーネス）をゴムの付いた穴部（グロメット）を通して外に出します。

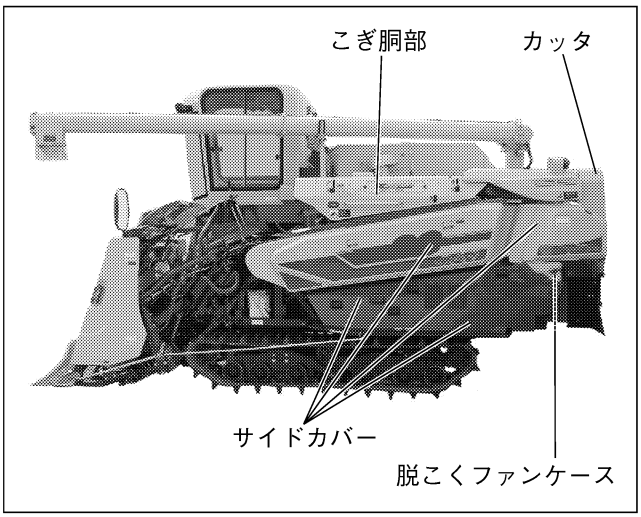


⑰ 電線（ハーネス）をクランプで固定し，マックエアセンサとコネクタを結合します。





⑱ 脱こくファンケースを取付け，カッタを閉じ，サイドカバー類を取付け，こぎ胴部を閉めます。



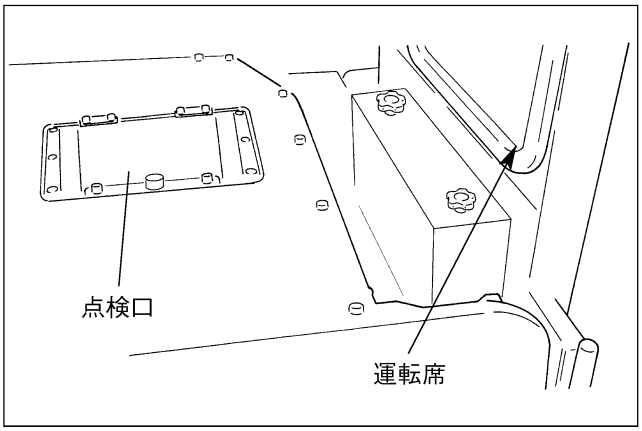
13．グレンタンク部の掃除

⚠警告　傷害事故防止のために

◆グレンタンクの掃除をする時は平坦な場所でエンジンを停止し，駐車ブレーキをかけ各部の動きが止まってから行なってください。

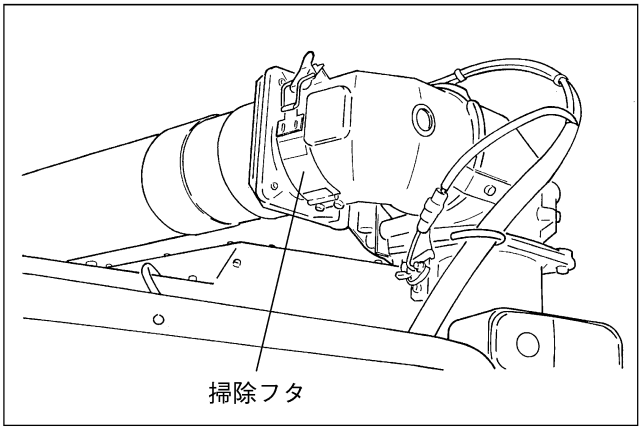
❶　グレンタンク内の掃除

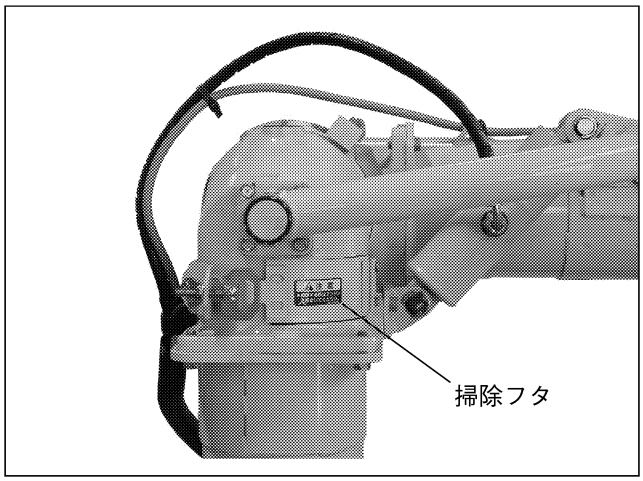
グレンタンク上部の点検口より確認し，必要により，ホウキ，ブロワ等で掃除し，取出しはグレンタンク横ラセンカバーを開いて行います。



❷　縦ラセン筒上部の掃除

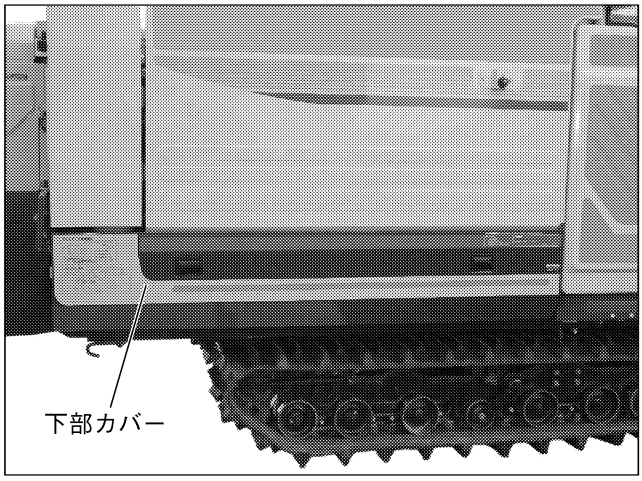
排出オーガを上げ，上部ラセン掃除フタを開いて掃除をします。



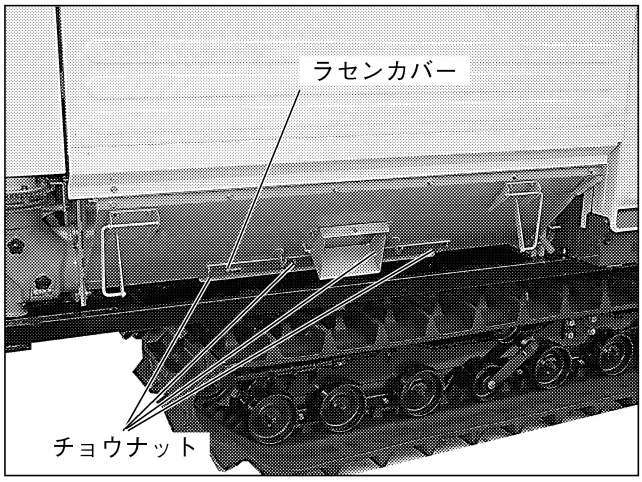


❸ 横ラセン部の掃除

(1) グレンタンクの下部カバーを取外します。



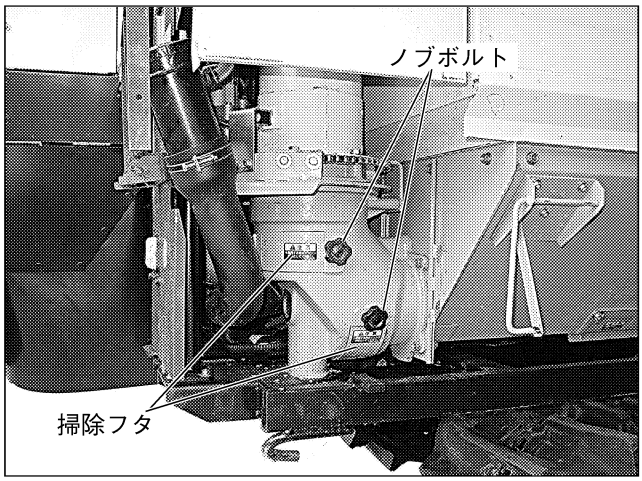
(2) チョウナットをゆるめて外し，ラセンカバーを開いて，掃除します。



❹ 縦ラセン筒下部の掃除

(1) グレンタンクの下部カバーを取外します。

(2) 縦ラセン下部のノブボルトをゆるめて外し，掃除フタを開いて，掃除します。



取扱いのポイント

- 各掃除フタ（カバー）はモミのかみ込み等によるスキマがないことを確認して，確実に締めてください。

14．カッタの開閉のしかた

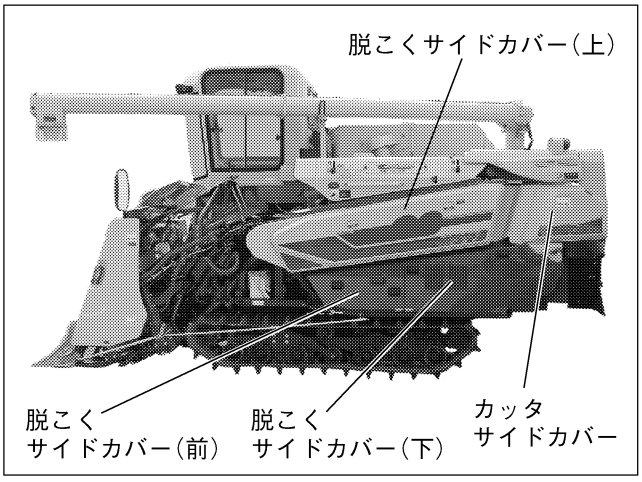
⚠警告 傷害事故防止のために

◆カッタをオープンするときは，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。

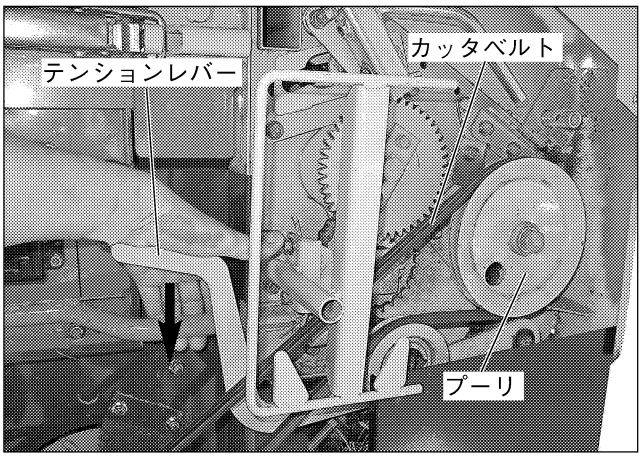
◆カッタをオープンして点検作業等をするときは，ストッパをかけてください。
ストッパをロック状態にしないとカッタが回動して傷害事故を起こすことがあります。

◆カッタをオープンしたときはカッタ刃に触れないようにしてください。

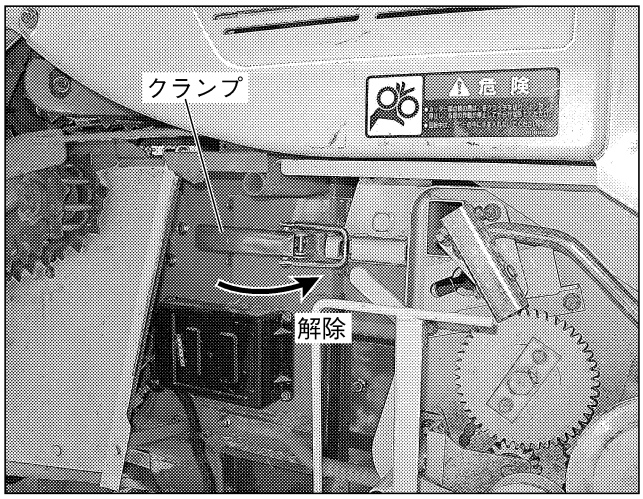
❶ 脱こくサイドカバー（上）・（下）およびカッタサイドカバーを取外します。



❷ テンションレバーを下方に押し下げカッタベルトをゆるめ，カッタベルトをプーリより取り外します。



❸ クランプを解除します。

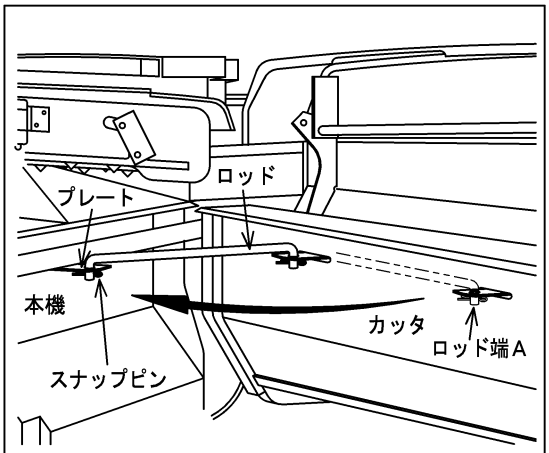


❹ カッタを少し上方へ持ち上げながら，後方へオープンします。

❺ カッタのロッド端Aについているスナップピンを抜き，ロッドを上方へ持ち上げ，矢印の方向へ回動させます。

❻ ロッドをプレートの穴に入れ，スナップピンを差込み固定（ロック）状態にします。

ロッド取扱要領 （カッタのオープン時）

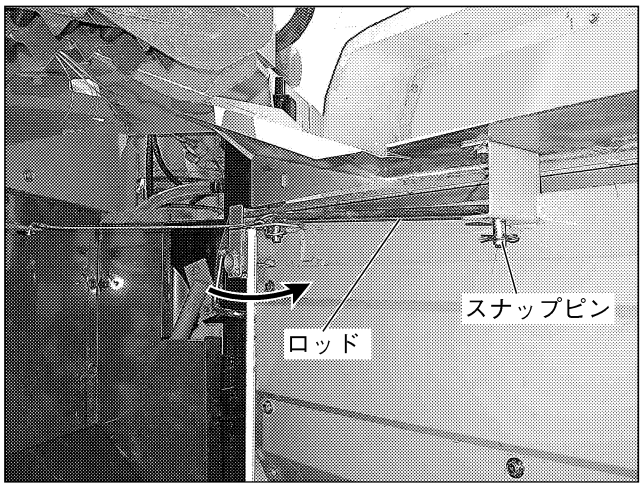


■ カッタをオープンにし、ロッド端Aを本機側のプレートの穴に、付け替えてください。

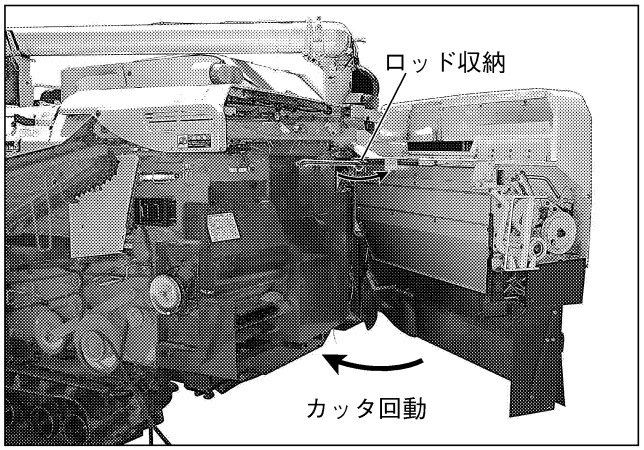
その際、ロッドのスナップピンは、確実にセットしてください。

3829 1108 000

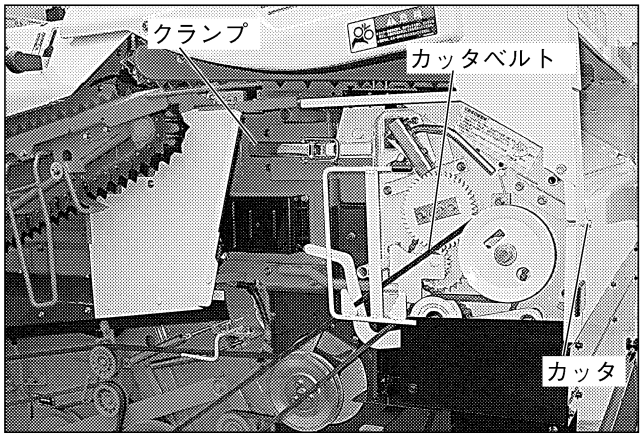
❼　カッタを閉じる時は，ロッドの先端のスナップピンを外し，プレートの穴からロッド先端を外し，カッタ側の固定穴に入れ，スナップピンで固定（ロック）します。



❽　カッタ下方を手で支えながら，コンバイン側に回動します。



❾　クランプでカッタを固定（ロック）し，カッタベルトをかけます。



❿　取外したカバーを全て取付けます。

4．各部の点検と部品交換のしかた

1．カッタ刃組品の取外しと分解

⚠警告 傷害事故防止のために

◆カッタをオープンしてカッタ刃組品の取外し，分解をする時はストッパをロック状態にして行なってください。又、エンジンを停止し，平坦な場所に機械を静置してください。

◆刃の交換作業は，厚手の手袋を着用して２人作業で合図をし合って行なってください。

◆ノコ刃を交換する時は，刃に「あて布」を被せてください。

◆ノコ刃軸，スターホイル軸のナットをゆるめる時は，メガネレンチ等で確実に固定してください。

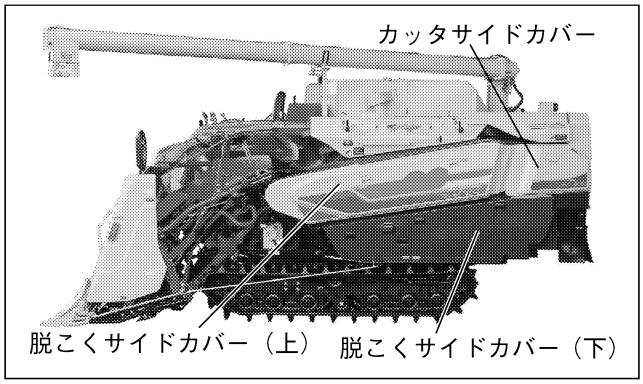
⚠注意

◆各部の点検と調整で外したカバー類は，全て元の位置に取付けてください。

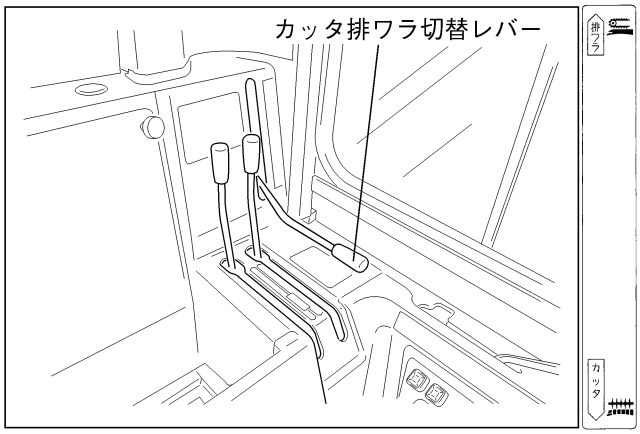
❶ カッタ刃組品（ノコ刃，スターホイル刃）の交換方法

- **ノコ刃軸はカッタをオープンせず後側より取外します。**
- **スターホイル軸はカッタをオープンして前側より取外します。**
- **以下の(1)～(3)の手順は，ノコ刃軸，スターホイル軸いずれの場合の交換でも行います。**

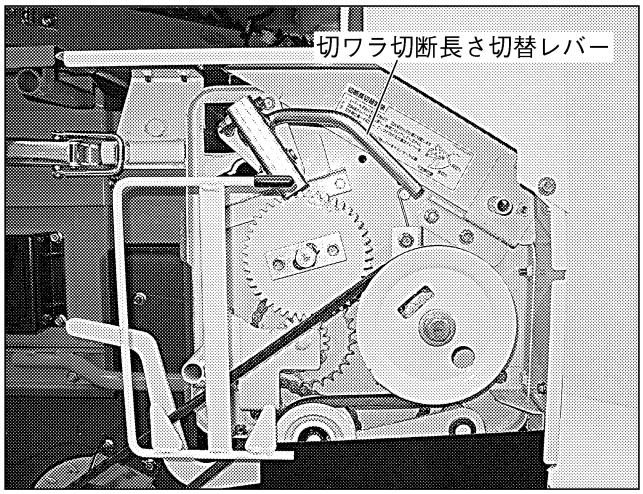
(1) カッタサイドカバー，脱こくサイドカバー（上），（下）を外します。

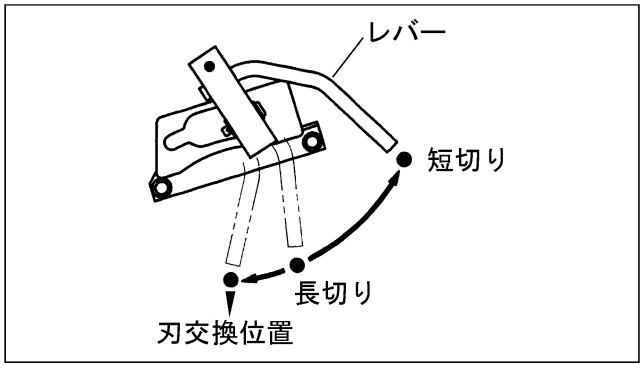


(2) カッタ刃の交換は，カッタ排ワラ切替レバーを《**カッタ**》位置にして行ってください。



(3) 刃交換位置への切換は，ロックが外れる位置まで切ワラ切断長さ切替レバーを引き回動します。



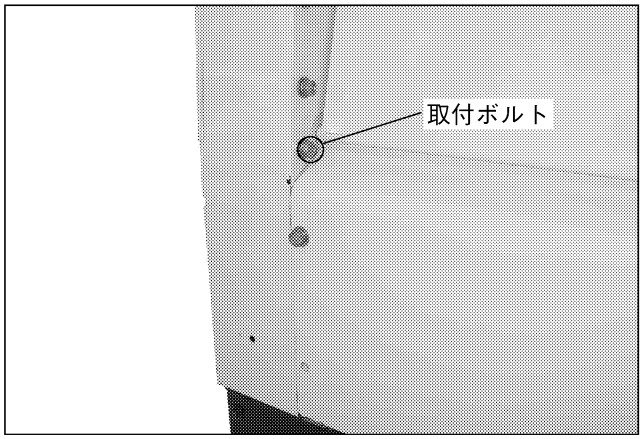


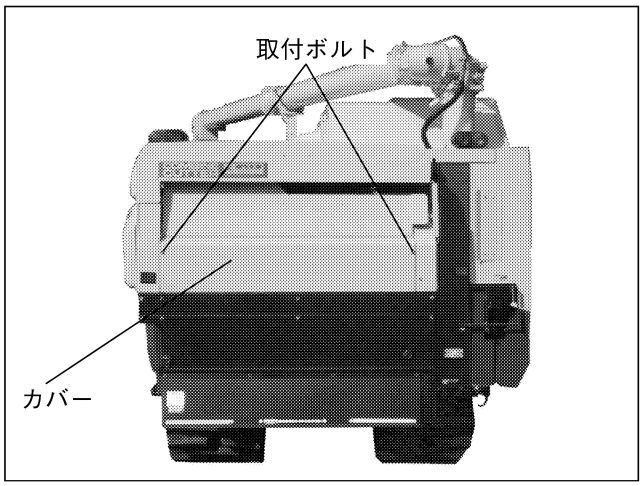
❷ ノコ刃軸の交換

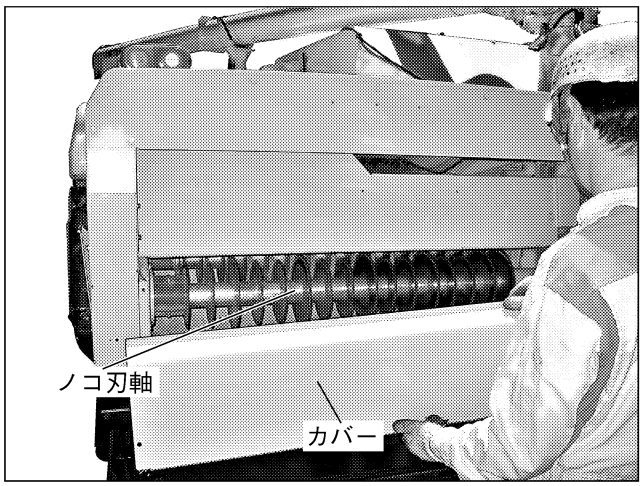
(1) サイドカバーを取外し，カッタ排ワラ切替レバーを《**カッタ**》位置にし，切ワラ切断長さ切替レバーを引き，刃交換位置にします。

(2) カッタ後面のカバーを外します。

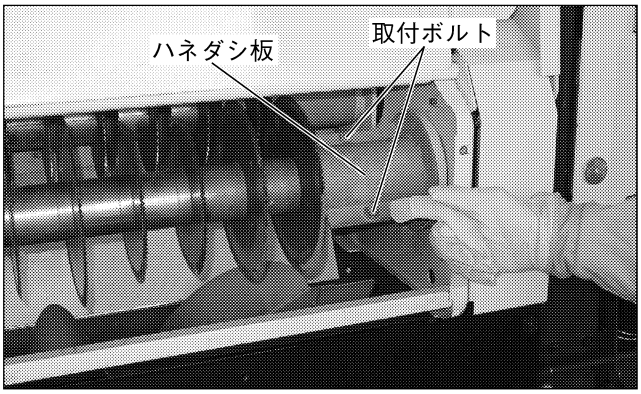
・カバーの取付ボルトは下記3個です。このボルトを取外してカバーを外します。

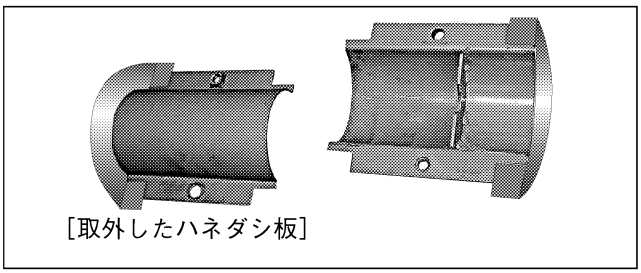




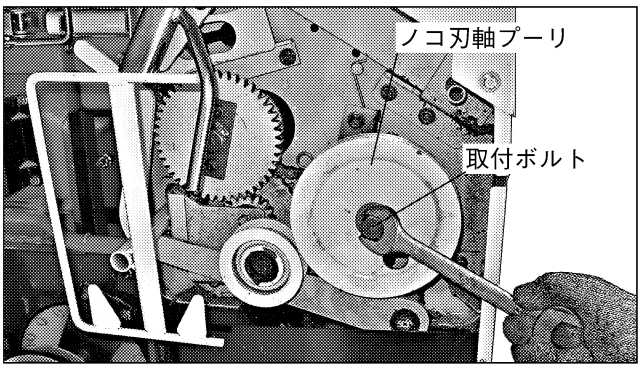


(3) ハネダシ板の取付ボルト（2個）を外して，ハネダシ板を取外します。



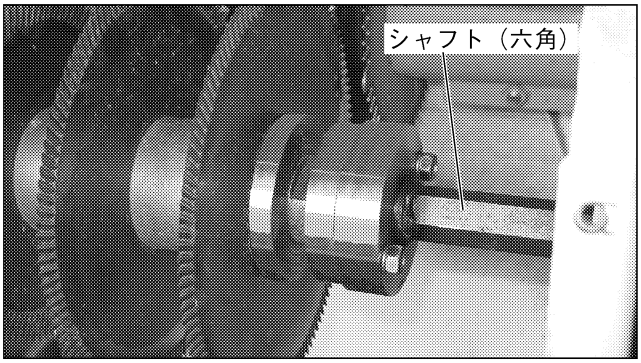


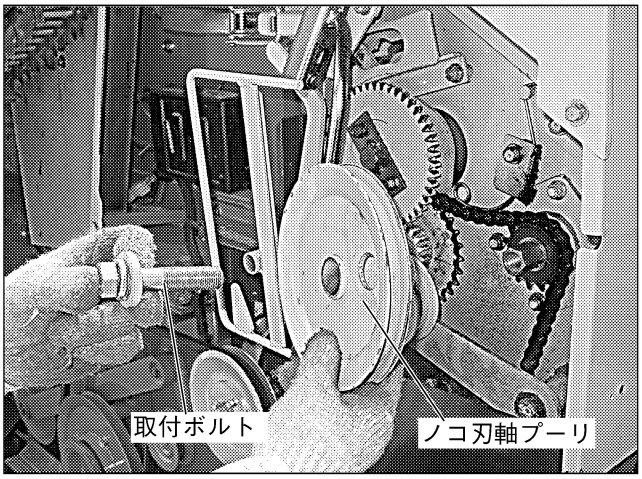
(4) ノコ刃軸プーリの取付ボルトを外します。



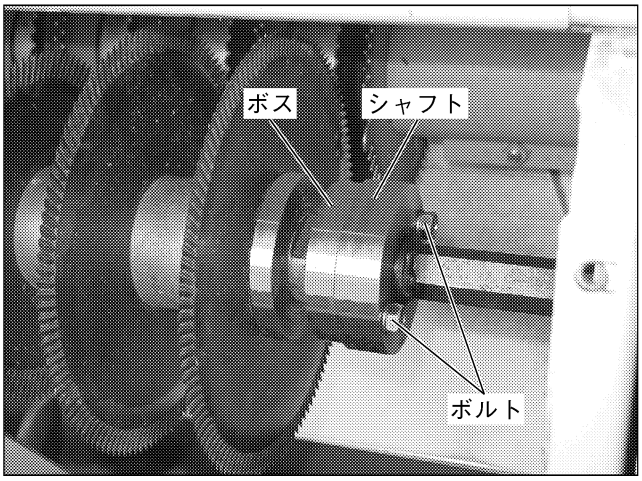
取扱いのポイント

●スパナで取付ボルトを回すと，ノコ刃軸ごと回転してボルトがゆるみません。ノコ刃軸を固定するには，ハネダシ板の中のシャフト（六角）をスパナで固定して行うと容易に外れます。



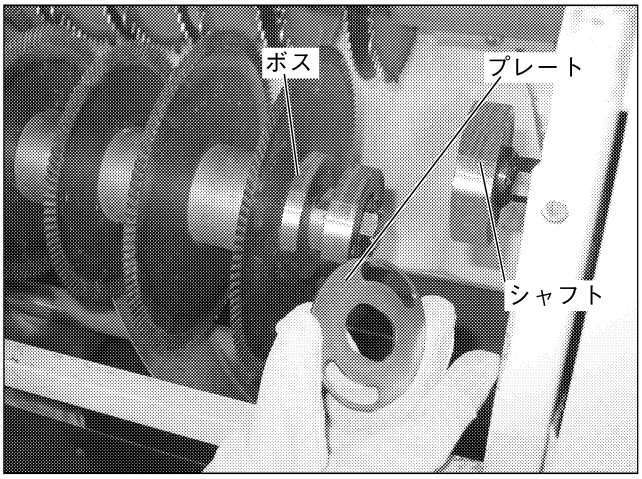


(5) シャフトとボスを固定しているボルト（２個）を外して，シャフトとボスを分離します。

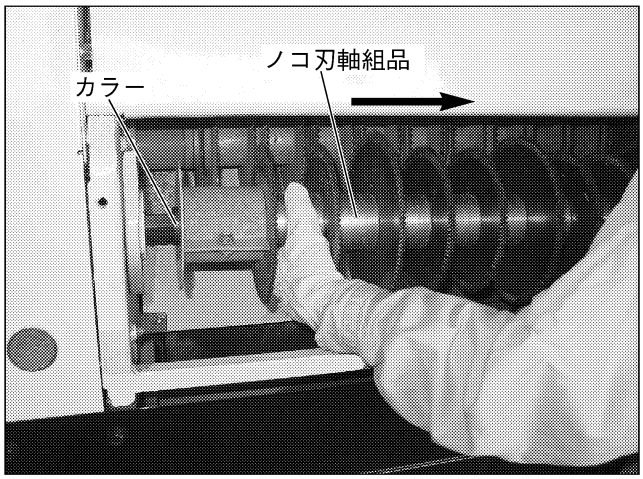


取扱いのポイント

●ボスとシャフトの間にプレートが入っています。落とさない様注意してください。又、組立時に，忘れずに取付けてください。



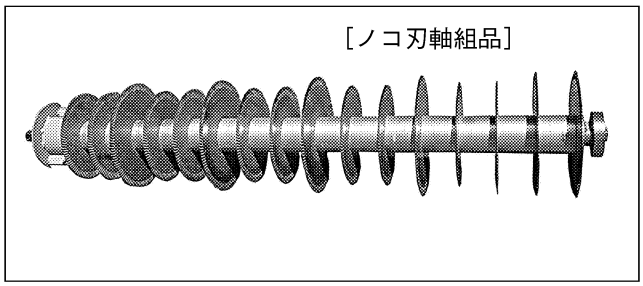
(6) 矢印の方向にノコ刃軸組品をずらしながら外します。



取扱いのポイント

●ノコ刃軸組品のシャフト部にカラーが入っています。落とさない様注意してください。又，組立時に忘れずに取付けてください。





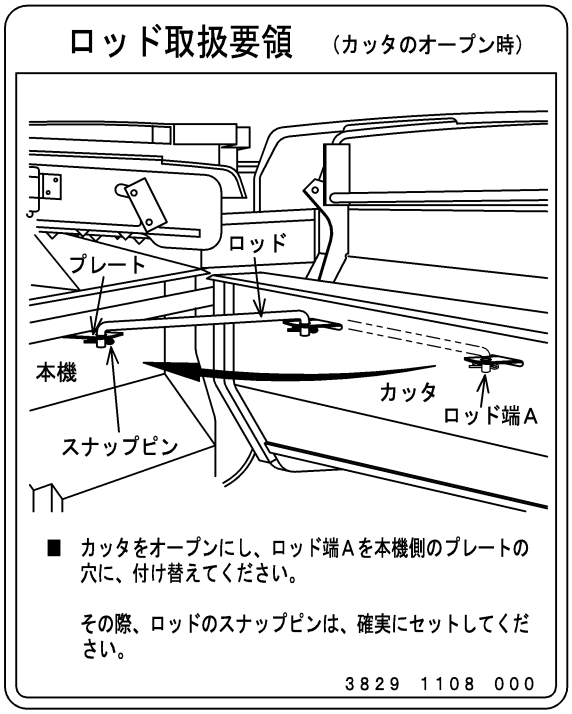
取扱いのポイント

●ノコ刃軸組品を組付ける時は取外しの逆の手順で行なってください。

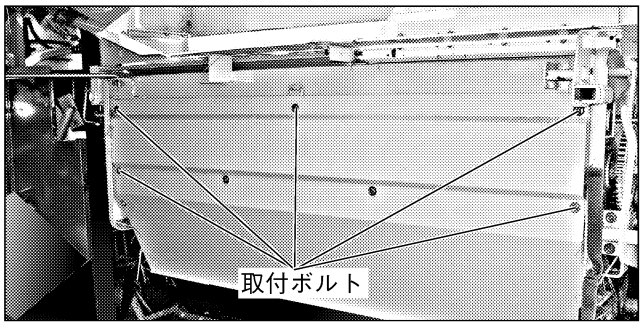
❸ スターホイル軸の交換

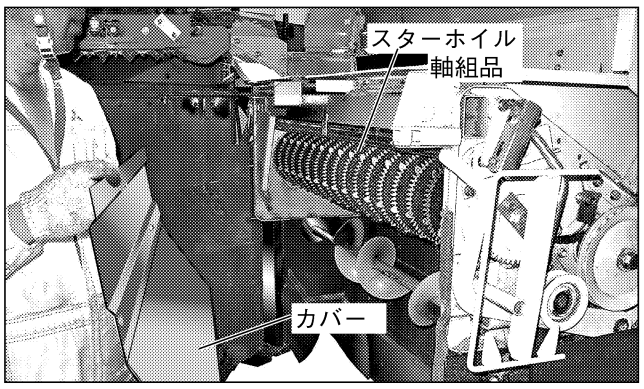
(1) サイドカバーを取外し，カッタ排ワラ切替レバーを《**カッタ**》位置にし，切ワラ切断長さ切替レバーを引き，刃交換位置にします。

(2) カッタをオープンし，ロッドで固定します。

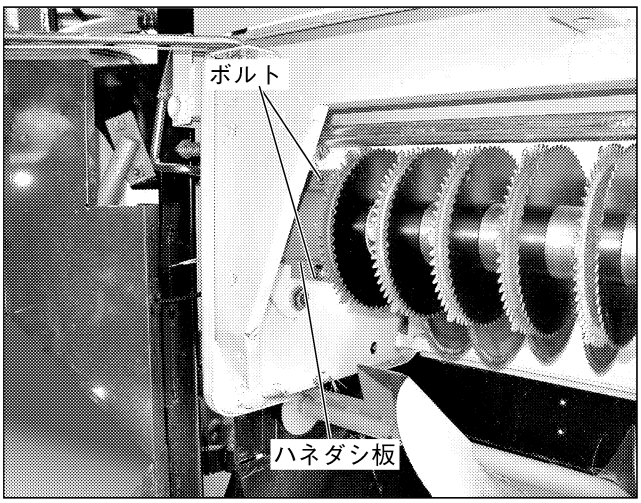


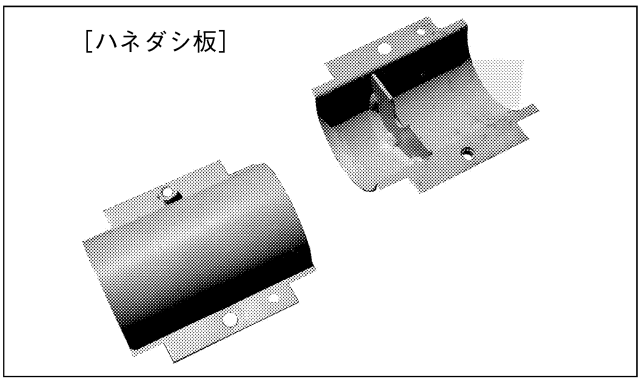
(3) カッタのカバーを外します。(取付ボルト５個)



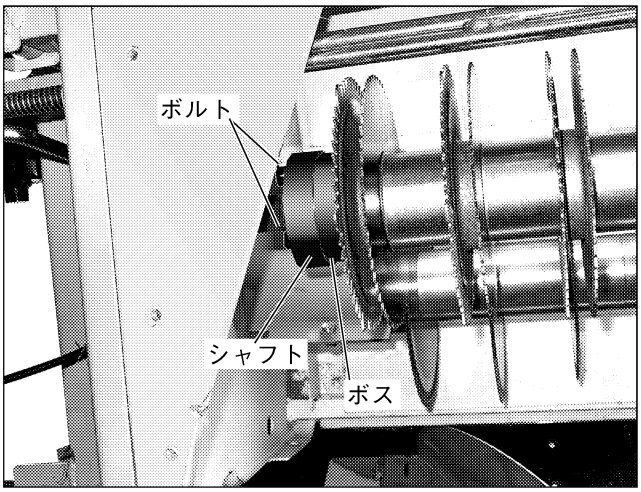


(4) ボルト（２個）を外してハネダシ板を外します。

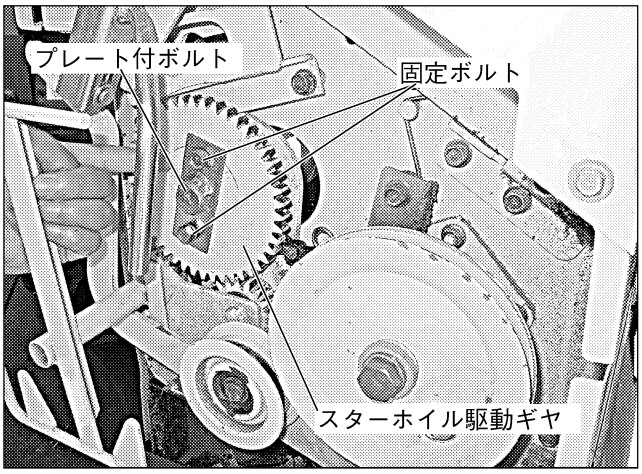




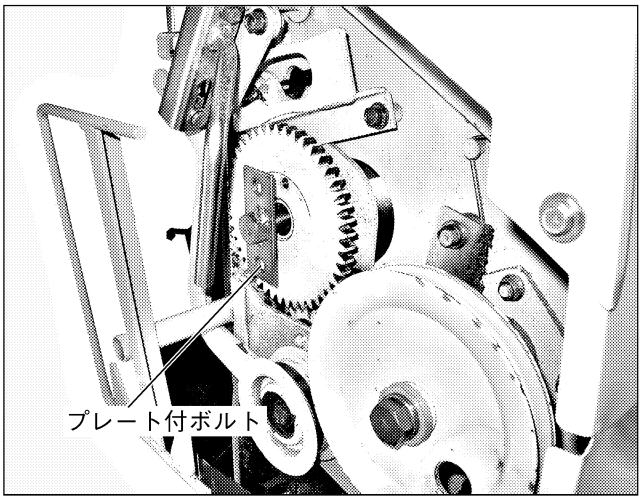
(5) シャフトとボスを固定しているボルト（２個）をゆるめます。



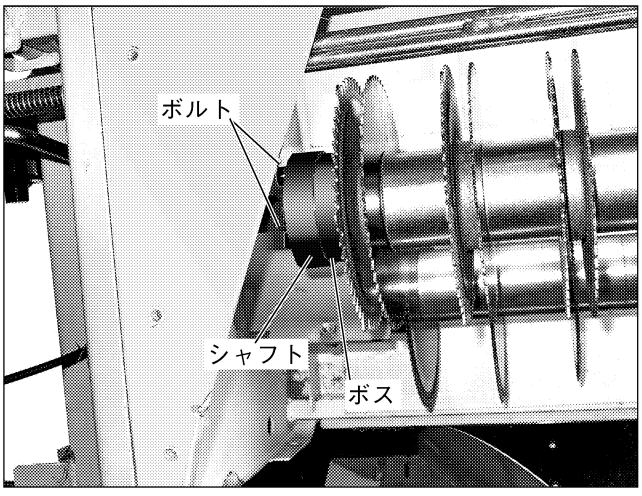
(6) スターホイル駆動ギヤを固定しているプレート付ボルトの固定ボルト（2個）を外します。



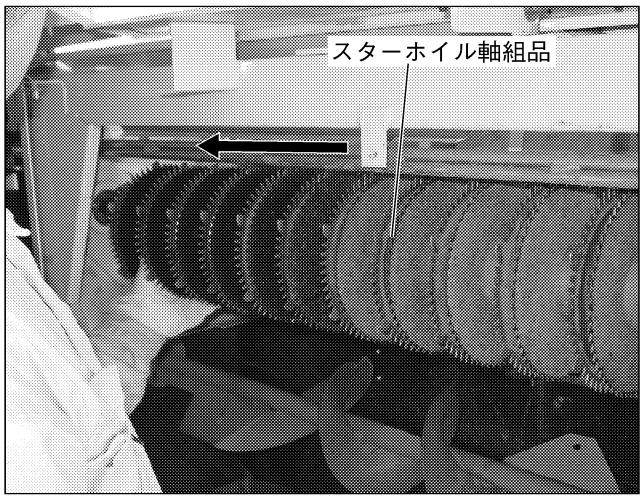
(7) プレート付ボルトを外します。



(8) シャフトとボスを固定しているボルト（2個）を外してシャフトとボスを分離します。

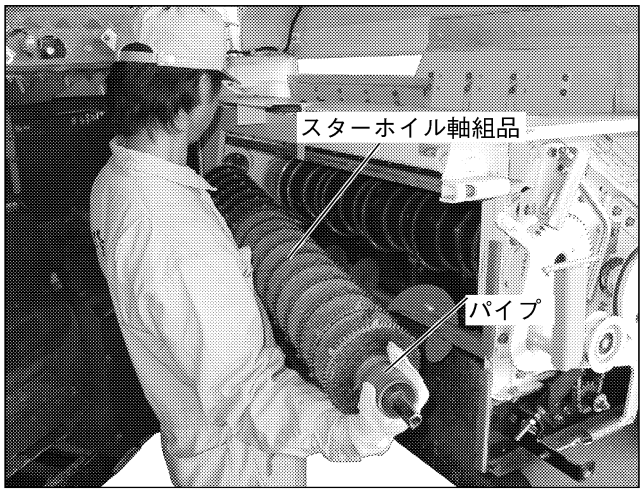


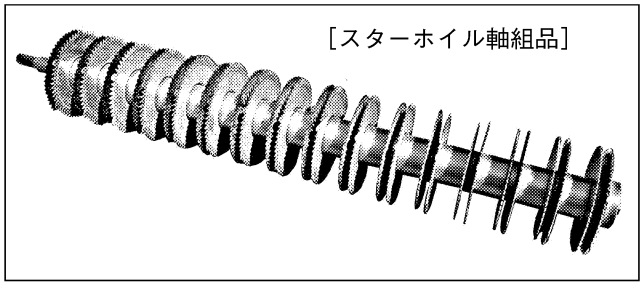
(9) 矢印の方向にずらしながら，スターホイル軸組品を外します。



取扱いのポイント

●スターホイル軸組品のシャフトにパイプが付いています。落とさない様注意してください。又，組立時に忘れずに取付けてください。





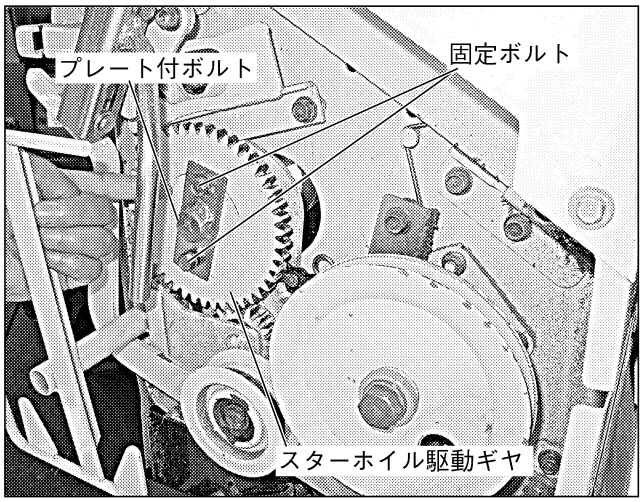
取扱いのポイント

●スターホイル軸組品を組付ける時は取外しの逆の手順で行なってください。

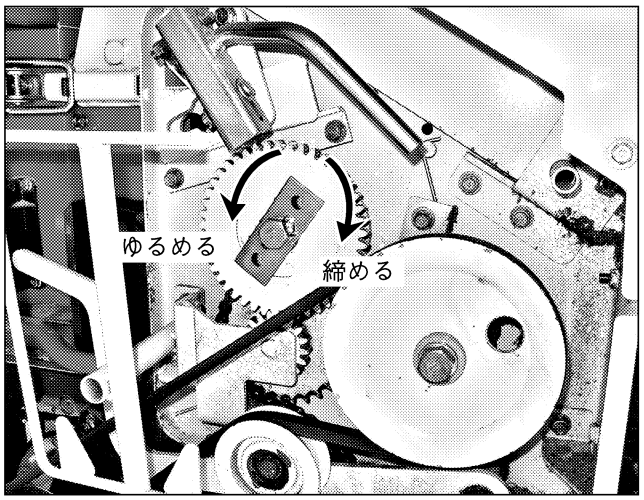
❹ ノコ刃とスターホイルのスキマ調整

(1) カッタをオープンし，ロッドで固定します。

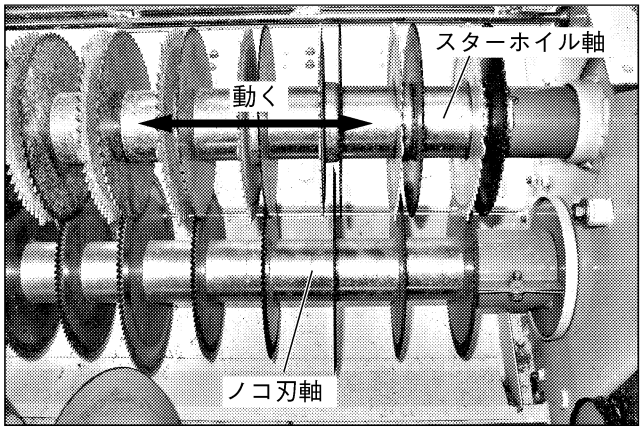
(2) スターホイル駆動ギヤを固定しているプレート付ボルトの固定ボルト（２個）を外します。



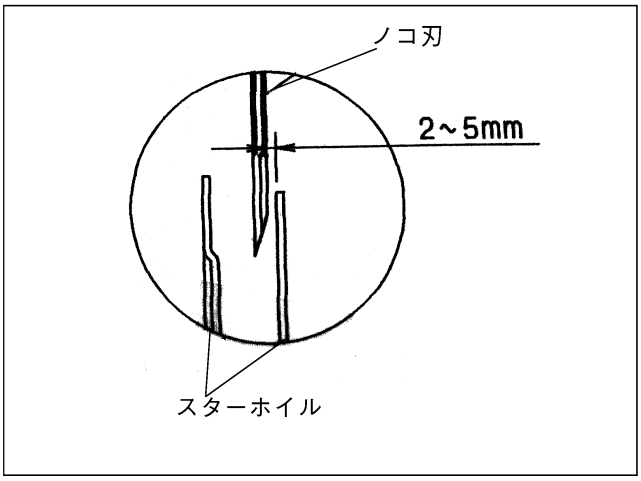
(3) プレート付ボルトを締め込むと（あるいはゆるめると），スターホイル軸が少しずつ動きます。



(4) カッタのカバーを外した状態で，下から目視でスキマを確認します。



(5) ノコ刃とスターホイルのスキマが「２～５mm」になる様にプレート付ボルトを回して，調整終了後は固定ボルトで固定します。



(6) カッタのカバーを取付け，カッタを閉めます。

(7) 切ワラ切断長さ切替レバーを「**長切り**」又は「**短切り**」位置にします。

(8) 取外したカバーを全て取付けます。

❺ 刃の交換のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆刃の交換作業は２人作業で行なってください。

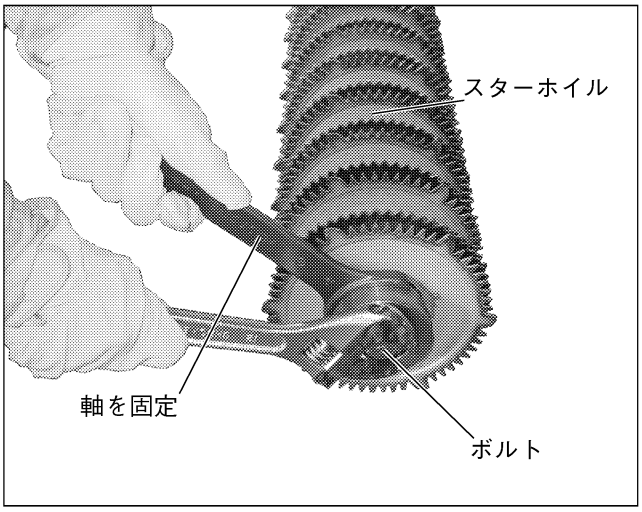
◆刃の交換のときは厚手の手袋を着用し，刃先に手が触れないようにしてください。

(1) 刃先を傷付けないよう板又は布を下に敷いてください。

(2) ノコ刃は片方のスパナで軸を固定し，先端のボルトを外します。

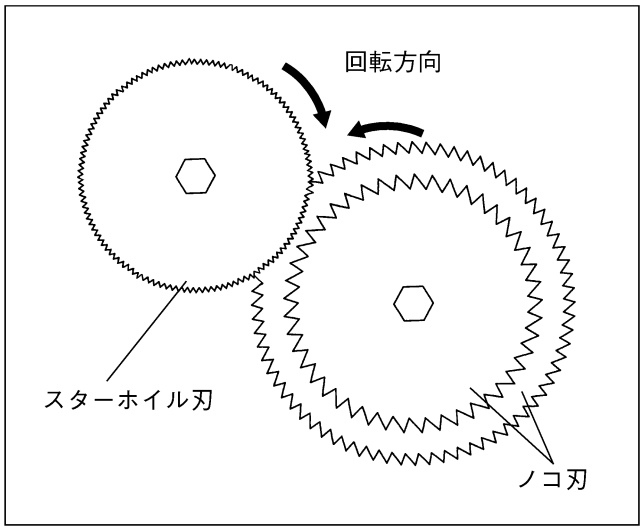
(3) 軸にそって部品を取外します。

(4) スターホイルも同様にボルトを外すだけで分解できます。



● カッタはギヤ側が，組立て基準になっています。刃の交換後，スターホイル刃とノコ刃の接触がないことを，確かめてください。刃のスキマは２～５㎜が最適です。

● ノコ刃，スターホイル刃の取付けのときは刃の方向を間違えないように，元通りに組付けます。



DMR85型マルチカッタ ノコ刃軸，スターホイル軸 組　み　立　て　要　領

取扱いのポイント

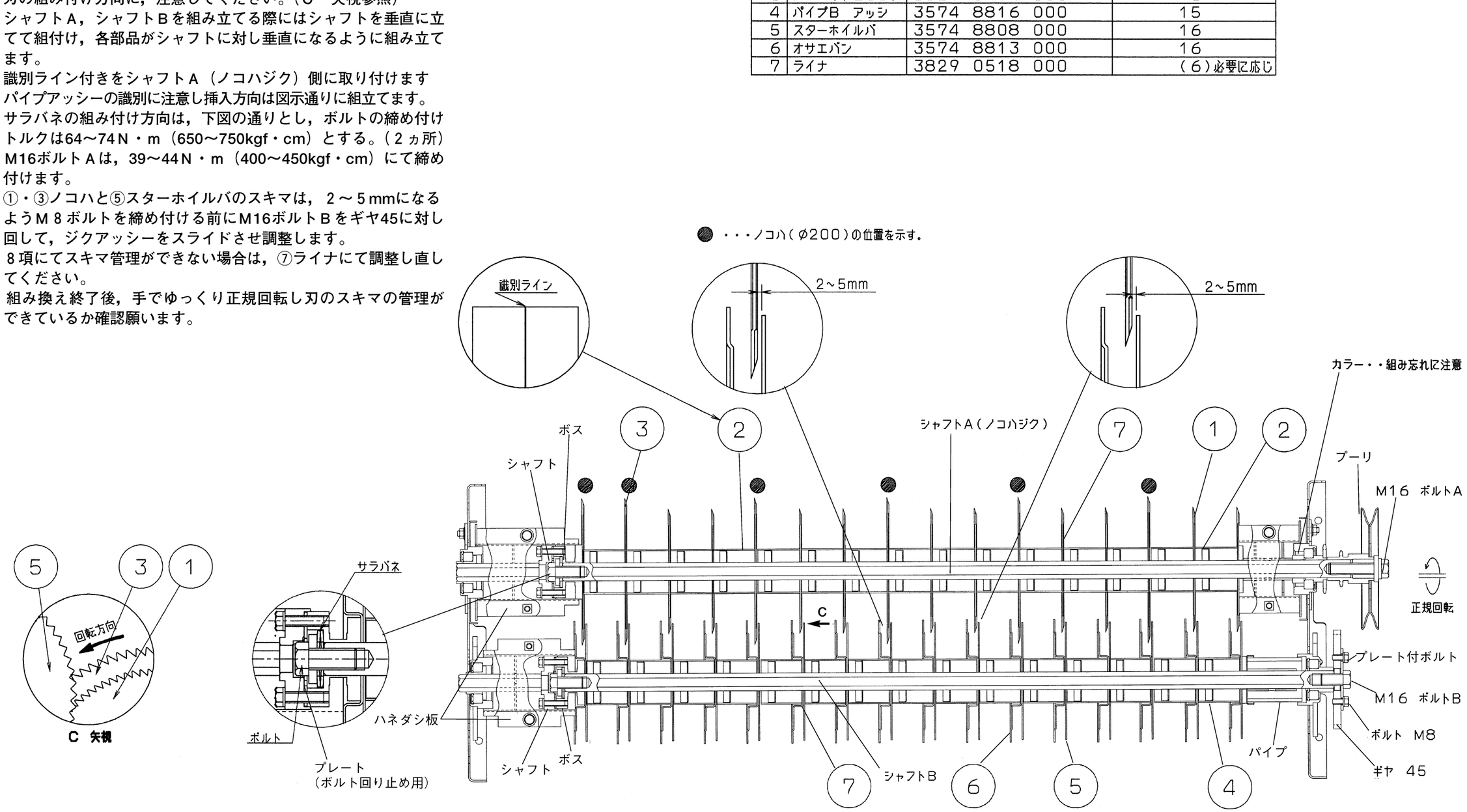
- 分解・組立ては図の通りに行います。
- 組立ては分解した逆の順序で組付けていきます。順序を違えるとスターホイル刃とノコ刃が合わなくなります。

取付要領

1．《カッタのオープンの仕方》を参照し，カッタをオープンします。
2．《カッタ刃組品の取り外しと分解》を参照し，組付けてください。
3．刃の組み付け方向に，注意してください。（C　矢視参照）
4．シャフトA，シャフトBを組み立てる際にはシャフトを垂直に立てて組付け，各部品がシャフトに対し垂直になるように組み立てます。
　識別ライン付きをシャフトA（ノコハジク）側に取り付けます
5．パイプアッシーの識別に注意し挿入方向は図示通りに組立てます。
6．サラバネの組み付け方向は，下図の通りとし，ボルトの締め付けトルクは64～74N・m（650～750kgf・cm）とする。（2ヵ所）
7．M16ボルトAは，39～44N・m（400～450kgf・cm）にて締め付けます。
8．①・③ノコハと⑤スターホイルバのスキマは，2～5mmになるようM8ボルトを締め付ける前にM16ボルトBをギヤ45に対し回して，ジクアッシーをスライドさせ調整します。
9．8項にてスキマ管理ができない場合は，⑦ライナにて調整し直してください。
10．組み換え終了後，手でゆっくり正規回転し刃のスキマの管理ができているか確認願います。

番号	部　品　名　称	部　品　番　号	16枚刃の総個数
1	ノコハ（φ170）	3574　8785　000	10
2	パイプA　アッシ	3574　8786　000	15
3	ノコハ（φ200）	3829　0414　000	6
4	パイプB　アッシ	3574　8816　000	15
5	スターホイルバ	3574　8808　000	16
6	オサエバン	3574　8813　000	16
7	ライナ	3829　0518　000	（6）必要に応じ

● ・・・ノコハ（φ200）の位置を示す。



DMR85S型マルチカッタ ノコ刃軸，スターホイル軸 組　み　立　て　要　領

取扱いのポイント

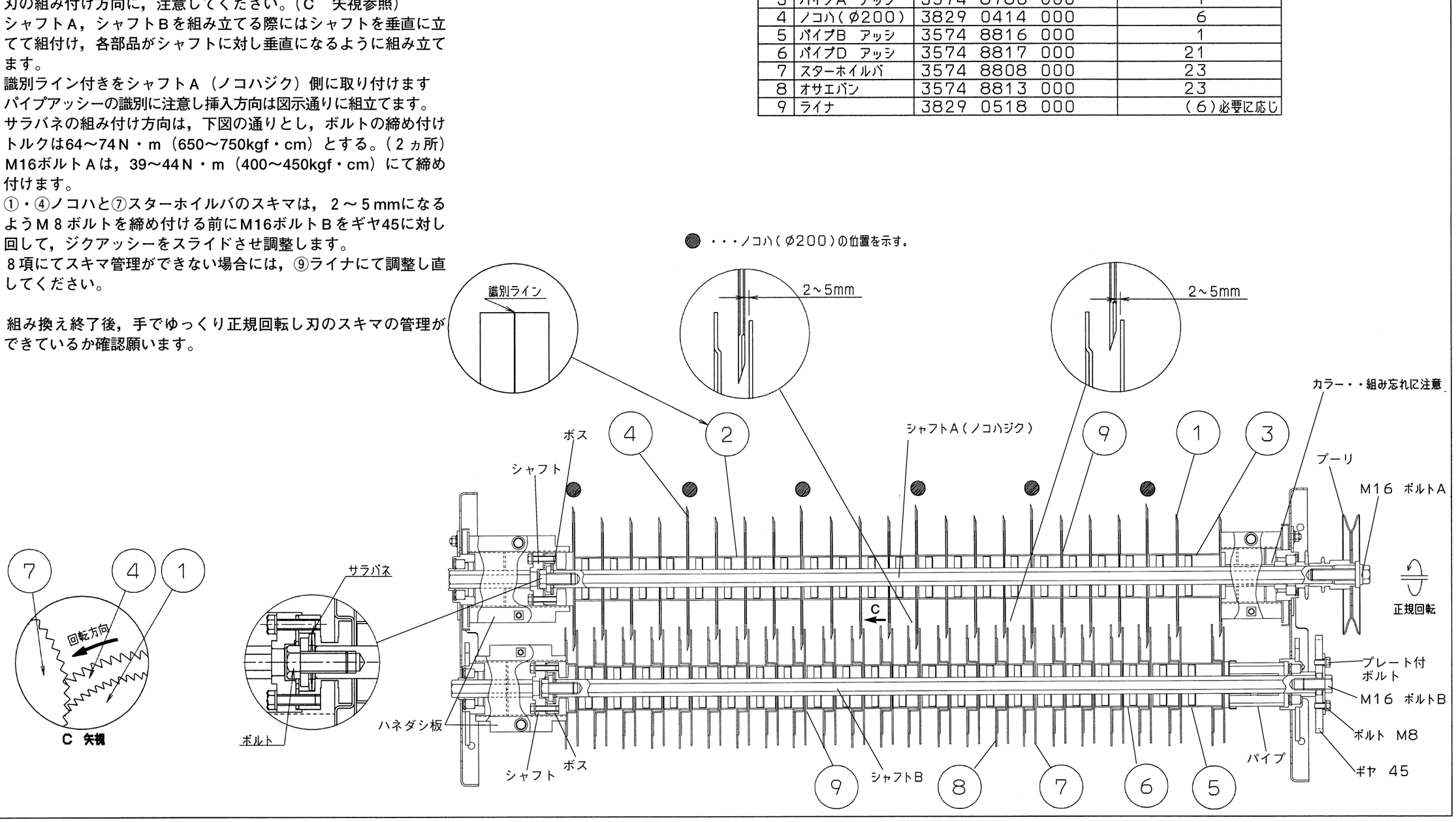
- 分解・組立ては図の通りに行います。
- 組立ては分解した逆の順序で組付けていきます。順序を違えるとスターホイル刃とノコ刃が合わなくなります。

取付要領

1．《カッタのオープンの仕方》を参照し，カッタをオープンします。
2．《カッタ刃組品の取り外しと分解》を参照し，組付けてください。
3．刃の組み付け方向に，注意してください。（C　矢視参照）
4．シャフトA，シャフトBを組み立てる際にはシャフトを垂直に立てて組付け，各部品がシャフトに対し垂直になるように組み立てます。
識別ライン付きをシャフトA（ノコハジク）側に取り付けます
5．パイプアッシーの識別に注意し挿入方向は図示通りに組立てます。
6．サラバネの組み付け方向は，下図の通りとし，ボルトの締め付けトルクは64～74N・m（650～750kgf・cm）とする。（2ヵ所）
7．M16ボルトAは，39～44N・m（400～450kgf・cm）にて締め付けます。
8．①・④ノコハと⑦スターホイルバのスキマは，2～5mmになるようM8ボルトを締め付ける前にM16ボルトBをギヤ45に対し回して，ジクアッシーをスライドさせ調整します。
9．8項にてスキマ管理ができない場合には，⑨ライナにて調整し直してください。

10．組み換え終了後，手でゆっくり正規回転し刃のスキマの管理ができているか確認願います。

番号	部　品　名　称	部　品　番　号	23枚刃の総個数
1	ノコハ（φ170）	3574　8785　000	17
2	パイプC　アッシ	3574　8784　000	21
3	パイプA　アッシ	3574　8786　000	1
4	ノコハ（φ200）	3829　0414　000	6
5	パイプB　アッシ	3574　8816　000	1
6	パイプD　アッシ	3574　8817　000	21
7	スターホイルバ	3574　8808　000	23
8	オサエバン	3574　8813　000	23
9	ライナ	3829　0518　000	（6）必要に応じ



2．ホース類の点検と交換

⚠警告 ヤケドや火災防止のために

◆燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれてないか確認し，損傷したりもれている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出しヤケドをする場合があります。

燃料ホース，ラジエータホース等の燃料もれ，水もれがないかを点検します。また，締付けているバンドや油圧ホースの継ぎ部がゆるんでいないかを点検します。

取扱いのポイント

- **燃料ホースは定期交換部品ですので 2 年ごとに交換してください。**
- **燃料ホースを交換したときは，燃料のエア抜きをしてください。（118ページ参照）**

3．ワラ切カマの手入れ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆こぎ胴部を開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆こぎ胴部を開く時は，自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持ち上げ，ゆっくりと手を離します。
◆こぎ胴部を開くときは，グリップでこぎ胴をもちあげ，「カチッ」という音を確認して，ゆっくり手を離してください。
◆《自動ロック解除レバー》を操作する時は，アームを支えて行なってください。この時は，回動範囲内には手や体を入れないでください。

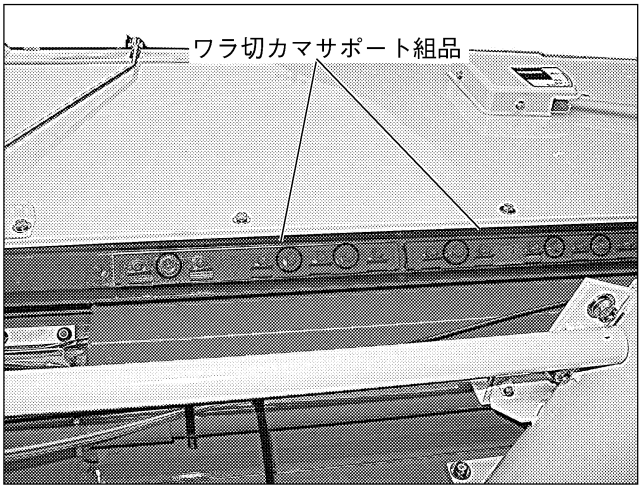
⚠注意

◆ワラ切カマの着脱作業は，手袋をして行なってください。
◆刃部に手をかけないでください。

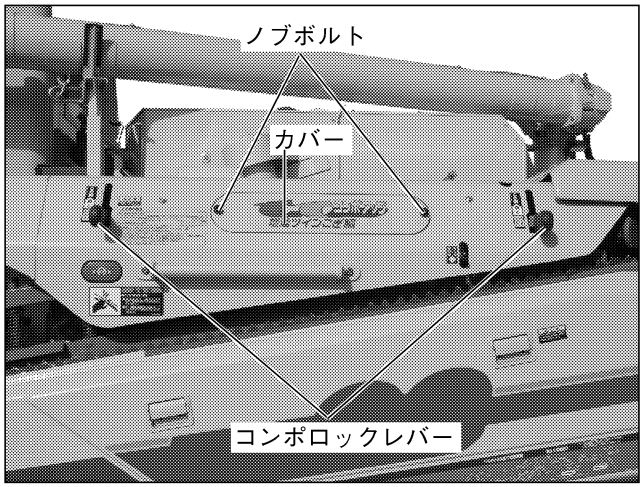
❶ ワラ切カマの位置

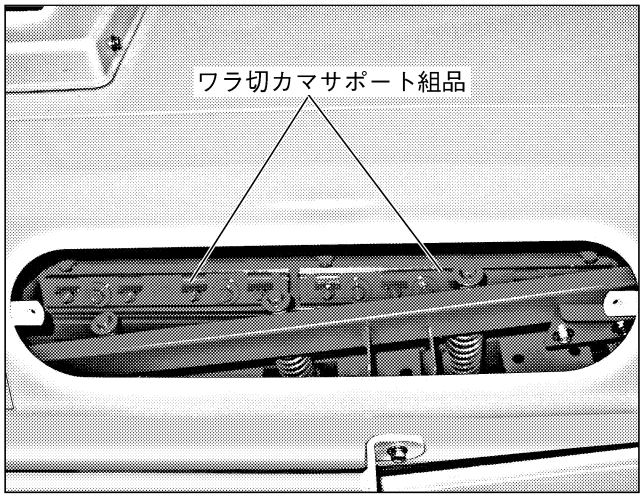
ワラ切カマは２個所にあります。

⑴ １個所は脱こく天板とグレンタンク部の境界部にあります。（運転席から後を見ると，見付けることができます。）



⑵ ２個所目は，コンポロックレバー近くのノブボルト（２個）を外してカバーを外すと見ることができます。



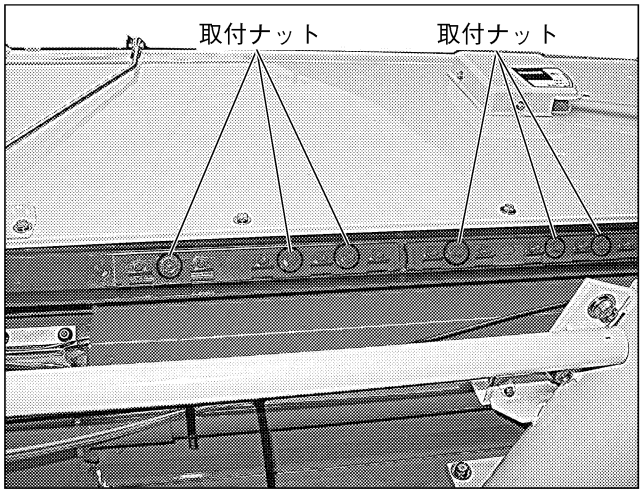


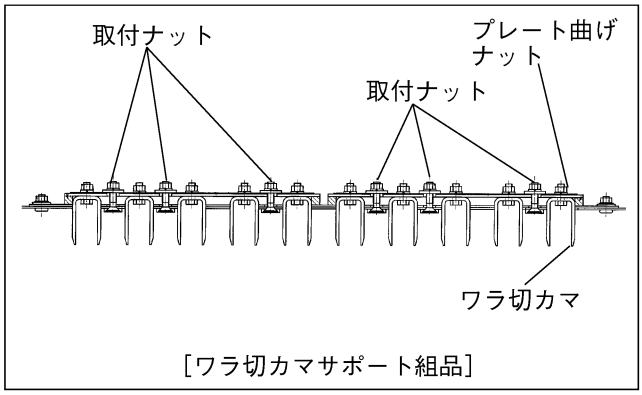
❷ ワラ切カマの取外し

⑴ 脱こく天板側のワラ切カマ

１．グレンタンクを開きストッパを掛けます。（122～123ページ参照）

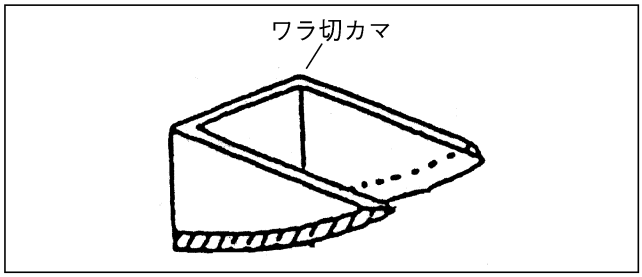
2．ワラ切カマサポート組品で取外します。





［ワラ切カマサポート組品］

3．ワラ切カマをサポートから取外します。



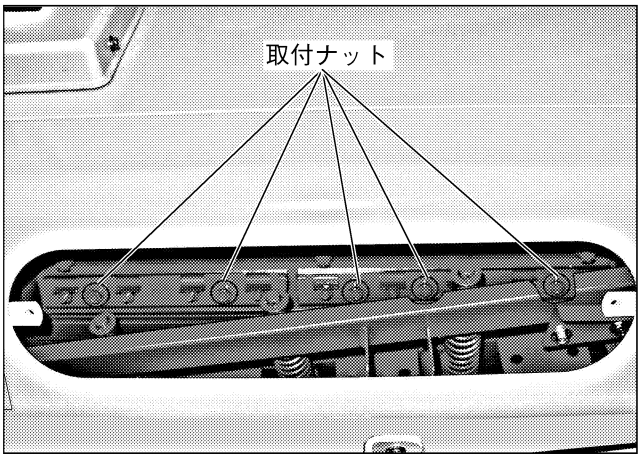
取扱いのポイント

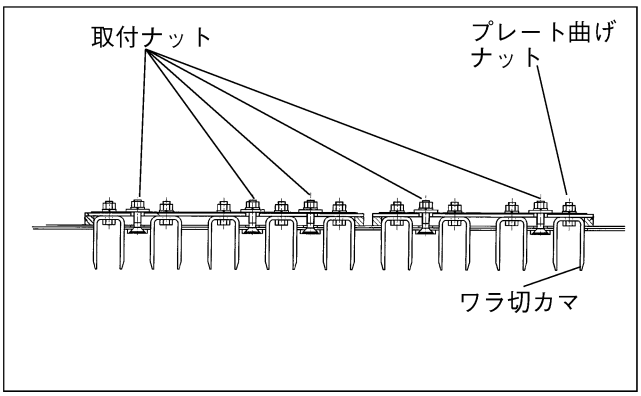
●ワラ切カマサポート取付ナットは６個（Ｍ８）です。プレート曲げナット（10個）は外さないでください。ワラ切カマが落下します。

(2) コンポロックレバー付近のワラ切カマ

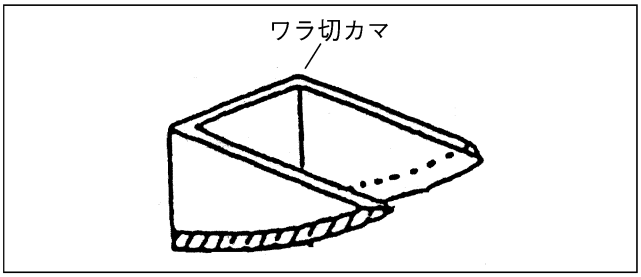
1．カバーを外します。

2．ワラ切カマサポート組品で取外します。





3．ワラ切カマをサポートから取外します。

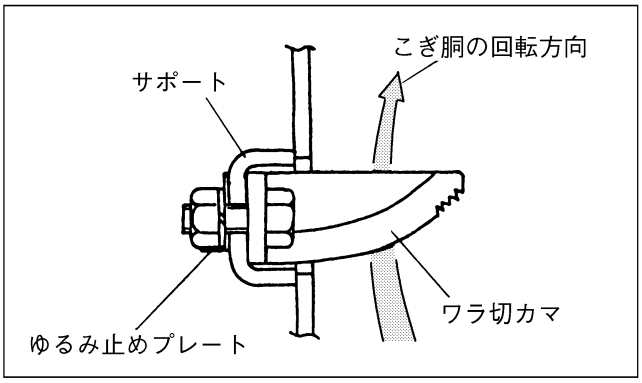


取扱いのポイント

●ワラ切カマサポート取付ナットは５個（Ｍ８）です。プレート曲げナット（９個）は外さないでください。ワラ切カマが落下します。

❸　ワラ切カマの取付け

ワラ切カマの組付け方向を確認して真っ直ぐに締付けます。



取扱いのポイント

- ワラ切カマが摩耗するとワラクズの切断性能が低下し脱こく能率が低下します。ワラ切カマを交換してください。
- こぎ歯の中央にワラ切カマがくるように取付けてください。

4．こぎ歯の点検と交換

⚠警告　傷害事故防止のために

- ◆こぎ胴部を開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
- ◆こぎ胴部を開く時は，自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持ち上げ，ゆっくりと手を離します。
- ◆こぎ胴部を開くときは，グリップでこぎ胴をもちあげ，「カチッ」という音を確認して，ゆっくり手を離してください。
- ◆《自動ロック解除レバー》を操作する時は，アームを支えて行なってください。この時は，回動範囲内には手や体を入れないでください。

❶　こぎ胴部を開きます。



❷　こぎ歯を点検します。

摩耗のはげしいものは交換します。こぎ歯の締付けが緩んでいるものは，取付ナットを締込みます。

こぎ歯の交換および取付ナットの締込みは，点検穴プレートを外して行います。

取扱いのポイント

- こぎ胴の点検穴プレートの取付ボルトの頭が摩耗すると外せなくなりますので取付ボルトが摩耗し始めた時も取付ボルトの交換が必要です。

5．各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い，損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

◆調整後は，異常なく作動することを試運転で確認してください。

⚠注意

◆各部の点検と調整で外したカバー類は全て，元の位置に取付けてください。

「レバー・ペダルの点検・調整」

1．マルチステアリングレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

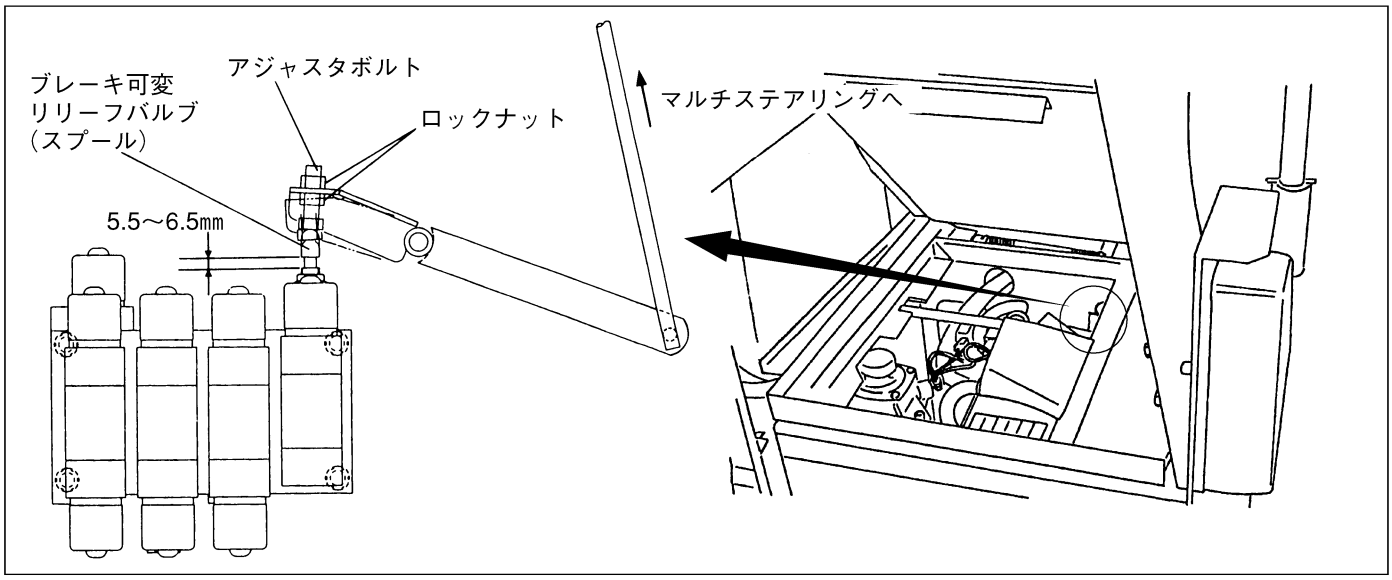
◆マルチステアリングレバーのアジャスタボルトの調整が適正でないと旋回が悪くなり，事故を引起こす原因となることがあります。

❶ 点検

エンジン停止直後レバーを動かさずに中立状態でブレーキ可変リリーフバルブのスキマが 5.5～6.5㎜ になっていますか。(スプールをいっぱいに引出せますか。)

❷ 調整

運転席のステップカバーを開き，ロックナットをゆるめ，アジャスタボルトで調整します。



2. 走行クラッチペダル・駐車ブレーキ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルやブレーキロッドの遊びが大きいとクラッチの切れやブレーキのききが悪くなり，事故を引起こす原因となることがあります。

❶ 点検

(1) 走行クラッチペダル先端の遊びⒶが 50～60㎜ になっていますか。

(2) 坂道（17°）で，駐車ブレーキをかけたときに機械が停止していますか。

❷ 調整

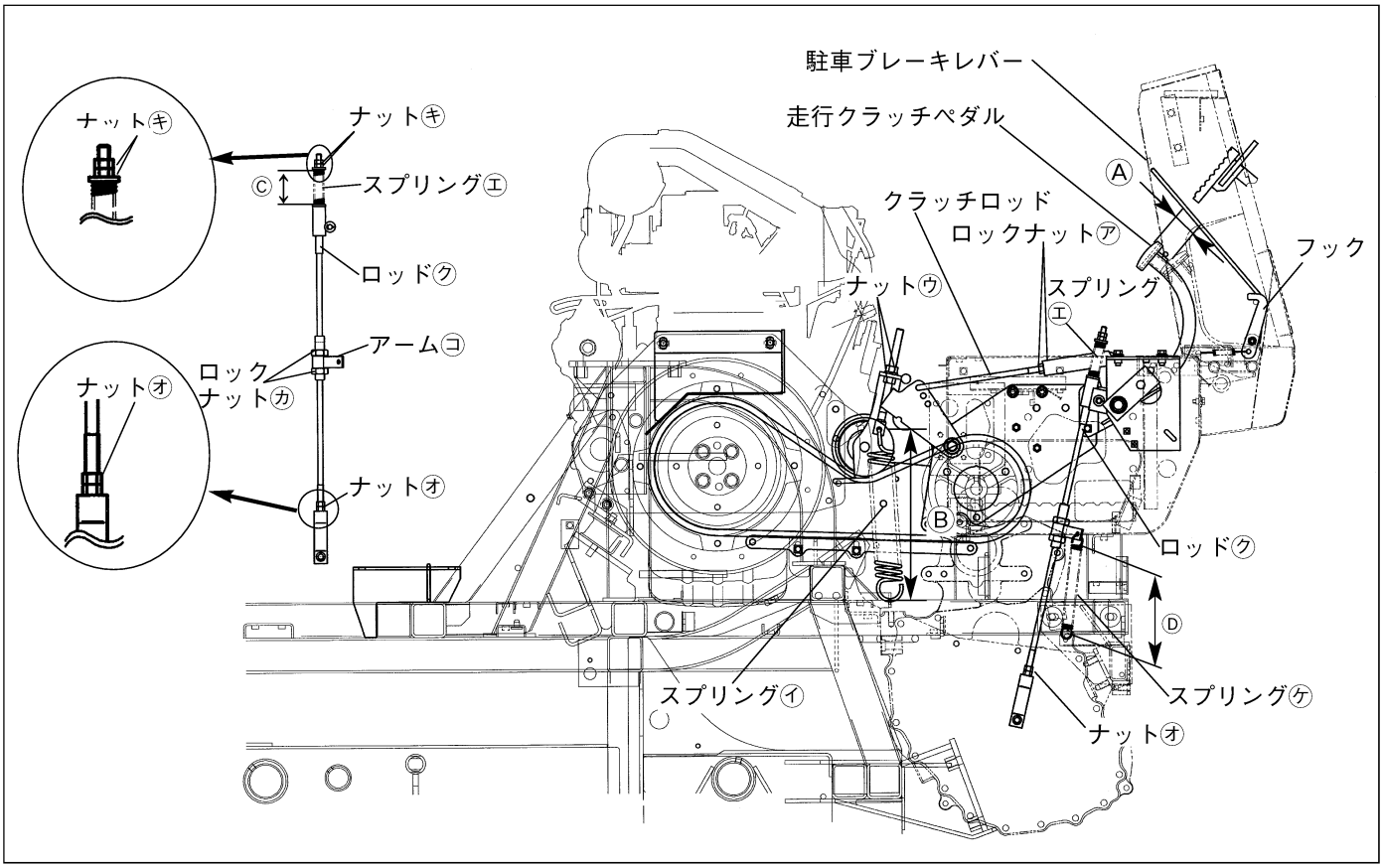
(1) クラッチロッドのロックナットㇰをゆるめて，ペダル先端の遊びⒶを 50～60㎜ に調整します。調整後，ロックナットㇰを締付けます。

(2) スプリングㇲはセット長さⒷ＝ 284～286㎜ に調整してナットㇴで確実にロックします。

(3) 走行クラッチペダルを踏まない状態でスプリングㇾのセット長さⒸ＝ 59～61㎜ であることを確認します。

(4) ナットㇹナットㇵをあらかじめゆるめておき，駐車ブレーキレバーのフックをかけた状態でスプリングㇾのセット長さⒸ＝ 57～58㎜ になるようにナットㇺ（ダブルナット状態のままで）を回してロッドㇰを調整します。調整後はナットㇹを確実にロックします。

(5) スプリングㇶのセット長さⒹ＝ 174～176㎜ になるようにアームㇿ両端のナットㇵで調整し，調整後はナットㇵを確実にロックします。



3. 刈取クラッチレバー・作業機クラッチレバー

「刈取クラッチレバー」

❶ 点検

刈取部をいっぱい下げた状態で，刈取クラッチレバーが《**入**》のとき，スプリングのⒶ寸法が **193～197㎜** になっていますか。

❷ 調整

タイトアーム側のロックナット㋐をゆるめて刈取クラッチワイヤのアジャスタ部で調整します。

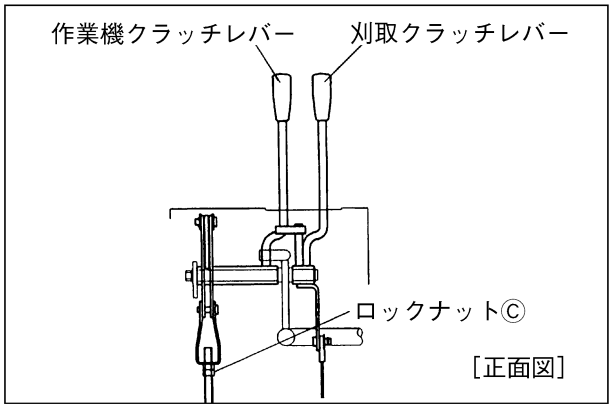
「作業機クラッチレバー」

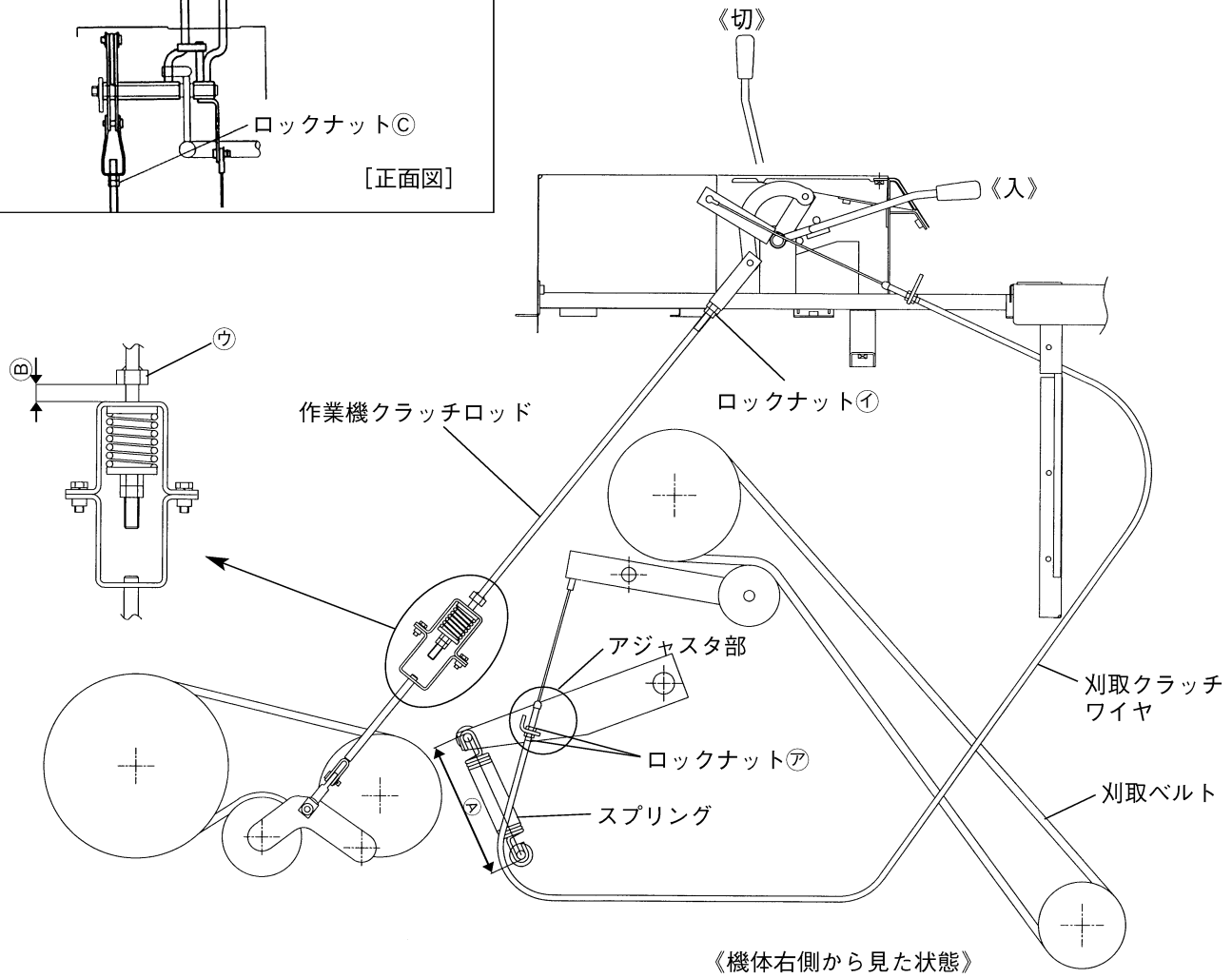
❶ 点検

作業機クラッチレバー《**入**》のとき，Ⓑ部スキマが **11～13㎜** になっていますか。

❷ 調整

ロックナット㋑をゆるめて㋒部にスパナをかけて，ロッド長さを調整します。





《機体右側から見た状態》

4．カッタ排ワラ切替レバー

❶ 点検

(1) 切替レバーを《**カッタ**》にしたとき，レールの寸法Ⓐが **20〜30㎜** になっていますか。

(2) 切替レバーを《**カッタ**》または《**排ワラ**》にしたとき，スプリングㇰの寸法Ⓑが **142〜144㎜** になっていますか。

(3) ブラケットㇲが垂直の状態でワイヤがⒸ部で **3〜4㎜** 遊んでいますか。

(4) 切替レバーが《排ワラ》の時，ワイヤがⒹ部で **2〜3㎜** 遊んでいますか。

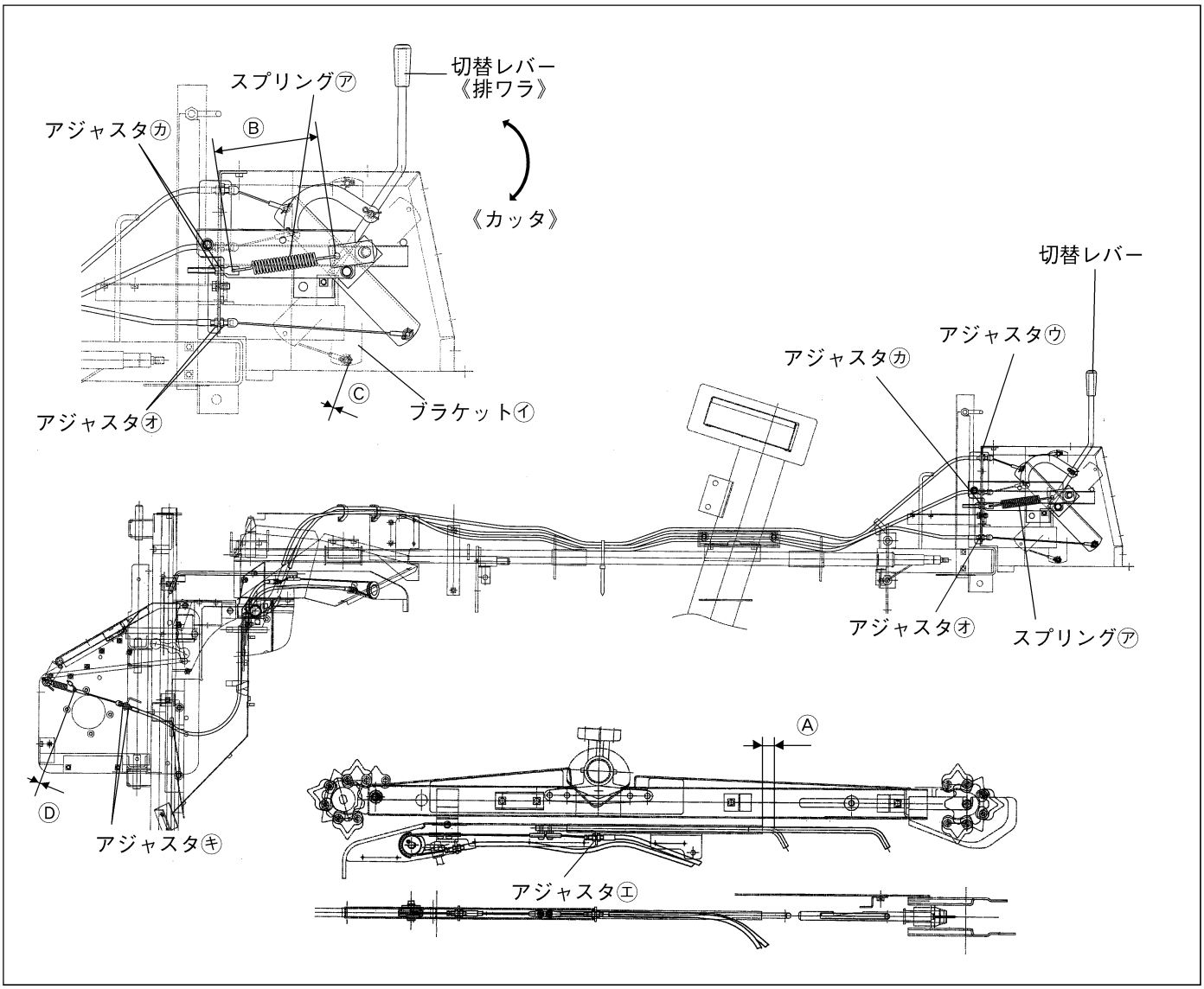
❷ 調整

(1) Ⓐ寸法が **20㎜〜30㎜** になる様にアジャスタㇴ，ㇵ，ㇷで調整します。

(2) Ⓑ寸法が **142㎜〜144㎜** になる様にアジャスタㇺで調整します。

(3) Ⓒ寸法が **3㎜〜4㎜** になる様にアジャスタㇷで調整します。

(4) Ⓓ寸法が **2㎜〜3㎜** になる様にアジャスタㇻで調整します。



5. リフトシャットレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・調整は機械を平坦な場所に置き駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

◆調整後は，異常なく作動することを試運転で確認してください。

❶ 点検

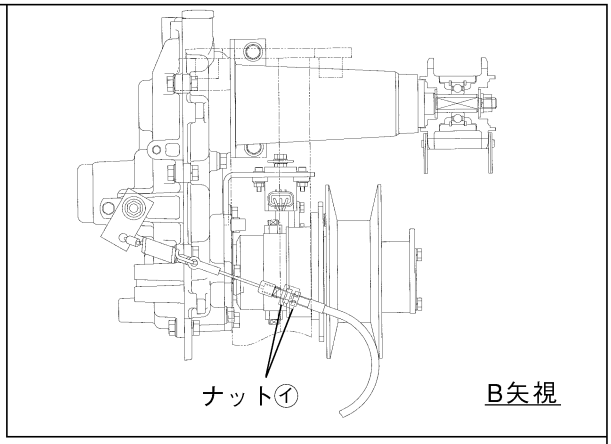
(1) リフトシャットレバーが《**切**》の時カムとローラのスキマⒶが 5～7㎜ になっていますか。

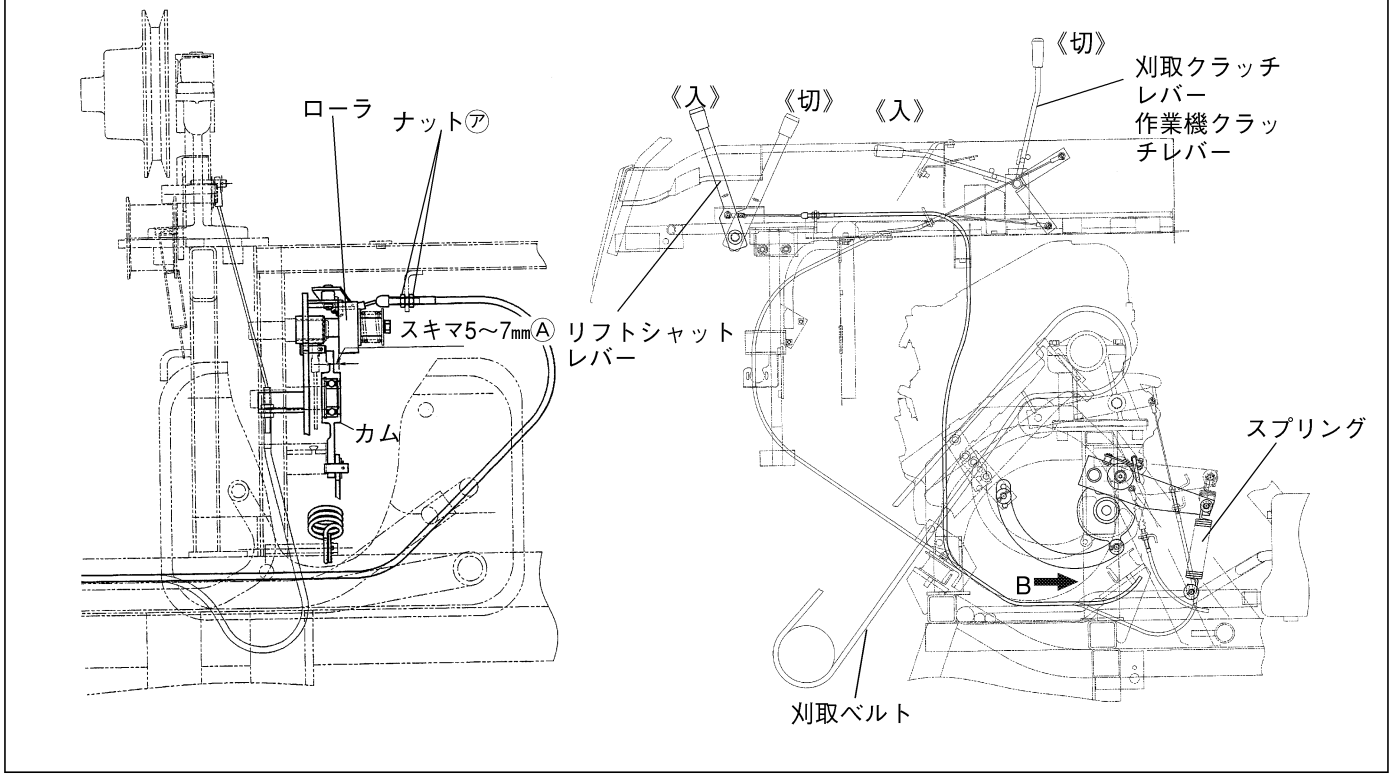
(2) エンジンを始動し，リフトシャットレバーを《**入**》の状態で刈取クラッチレバーと，作業機クラッチレバーを《**入**》の時，刈取部を上昇させ，刈取部が停止すると同時に脱こくフィードチェンも停止しますか。

❷ 調整

(1) リフトシャットレバーが《**切**》の状態でカムとローラのスキマがⒶ 5～7㎜ になるようにワイヤのナット㋐で調節します。(但し,刈取部を降ろした状態。)

(2) エンジンを始動し，リフトシャットレバーを《**入**》の状態で刈取クラッチレバーと作業機クラッチレバーを《**入**》の時，刈取部を上昇させ，刈取部が停止すると同時に脱こくフィードチェンが停止するようナット㋑で調整します。





「ベルトの点検・調整」

6．オルタネータベルト

⚠警告 ヤケド防止のために

◆オルタネータベルトの点検・調節はエンジンが冷えてから行ってください。

❶ 点検

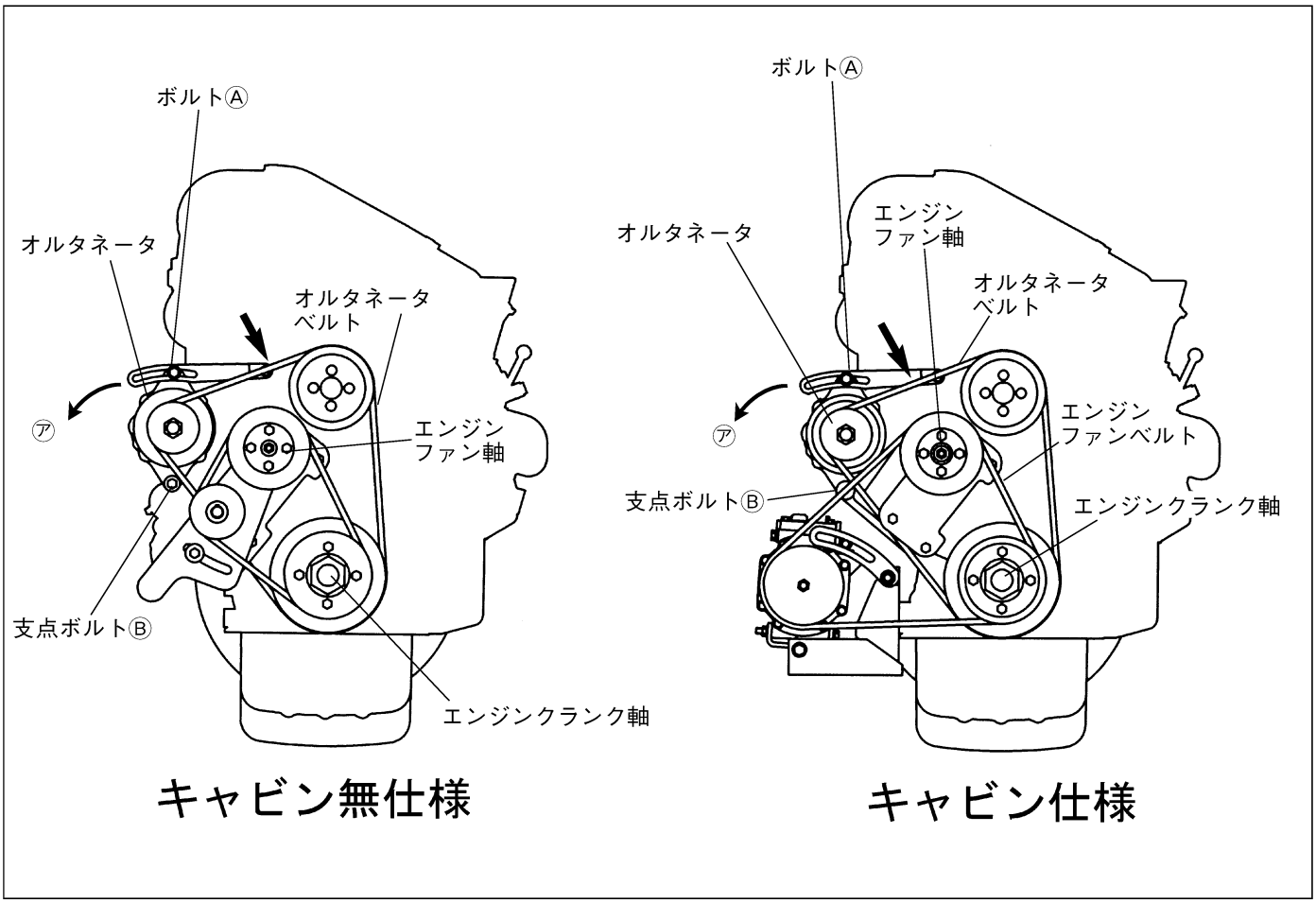
各ベルトの長い部分の中央部を指で押し，(→部) タワミ量が，12mm となっていますか。

❷ 調整

(1) オルタネータのボルトⒶと支点ボルトⒷ，をゆるめて→㋐の方向に動かし，オルタネータベルトを張ります。

取扱いのポイント

- 調整ができなくなったら新しいベルトと交換してください。ベルトを新しいものに交換した時は，各スプリングの寸法やベルトガイド等を正規の寸法に調整してください。
- ゆるめたボルトを確実にしめ込みます。



7. エンジンファンベルト

⚠警告 ヤケド防止のために

◆ファンベルトの点検・調節はエンジンが冷えてから行なってください。

・キャビン仕様機はエンジンファンベルトがエアコンのコンプレッサも駆動しています。
・エンジンの後カバーを外します。

❶ 点検

各ベルトの長い部分の中央部を指で押し，(→部) タワミ量がキャビン無仕様で，5～8㎜，キャビン仕様で7～10㎜となっていますか。

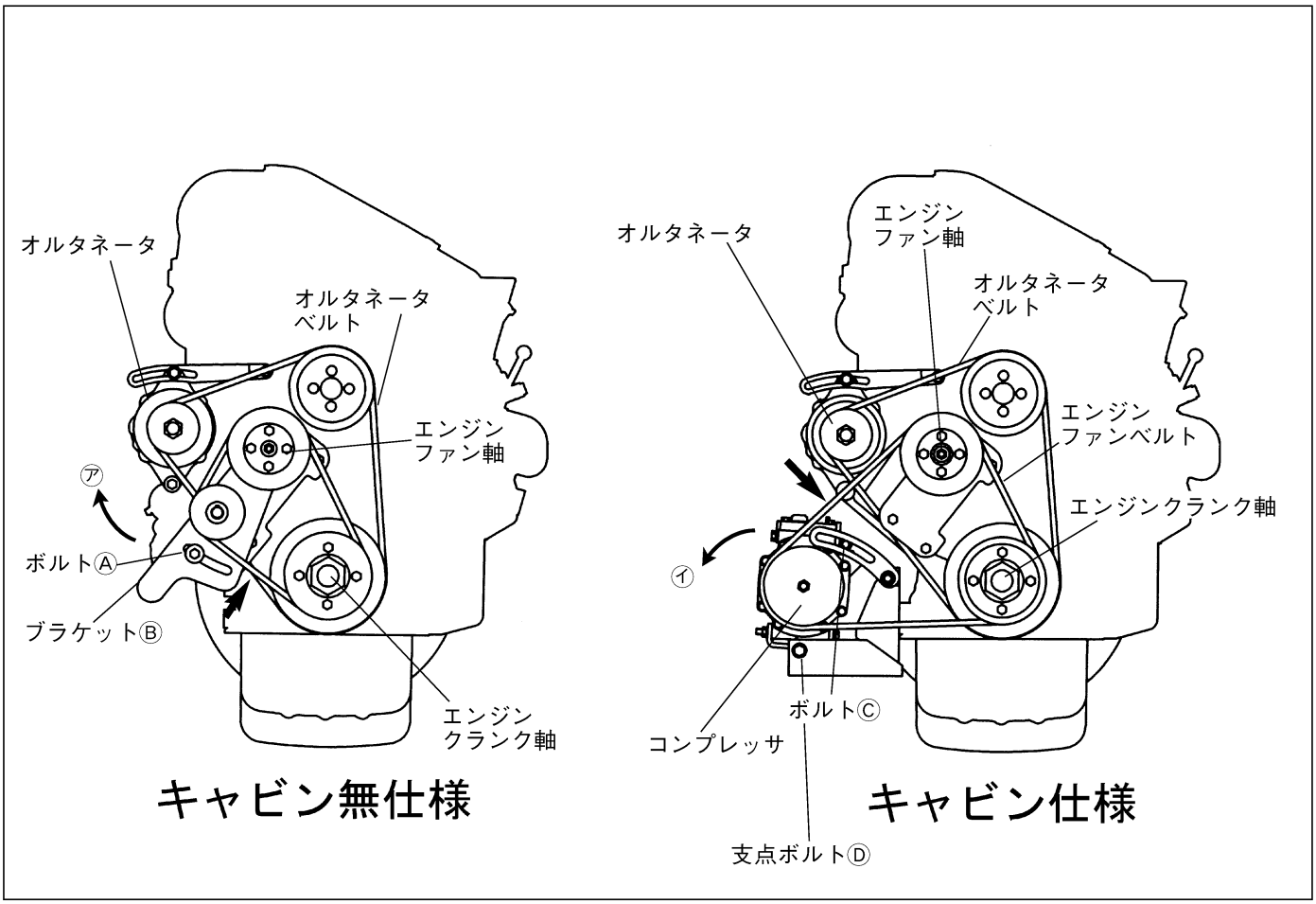
❷ 調整

(1) エンジンファンベルト（キャビン無仕様）
ボルトⒶをゆるめて，ブラケットⒷを→㋐の方向に動かし，エンジンファンベルトを張ります。

(2) エンジンファンベルト（キャビン仕様）
ボルトⒸ（2ヶ所），支点ボルトⒹ（2ヶ所）をゆるめて，コンプレッサを→㋑の方向に動かし，エンジンファンベルトを張ります。

取扱いのポイント

- **調整ができなくなったら新しいベルトと交換してください。ベルトを新しいものに交換した時は，各スプリングの寸法やベルトガイド等を正規の寸法に調整してください。**
- **ゆるめたボルトを確実にしめ込みます。**



8. 走行ベルト

❶ 点検

(1) ベルトガイド㋐と走行ベルトのスキマⒶ（3個所）が **3～5mm** ですか。

(2) ベルトガイド㋑と走行ベルトのスキマⒷ（2個所）が **3～5mm** ですか。

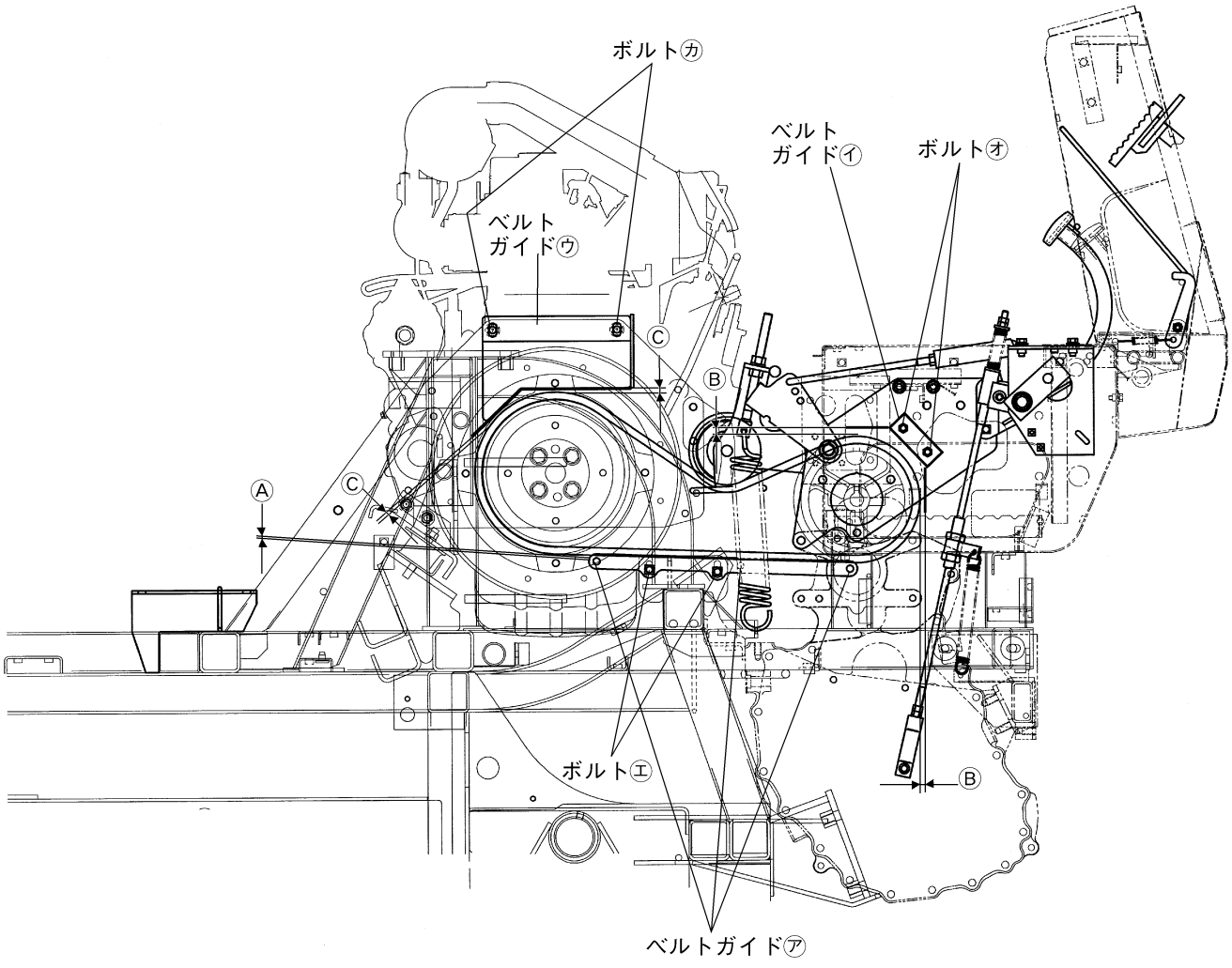
(3) ベルトガイド㋒と走行ベルトのスキマⒸ（2個所）が **5～6mm** ですか。

❷ 調整

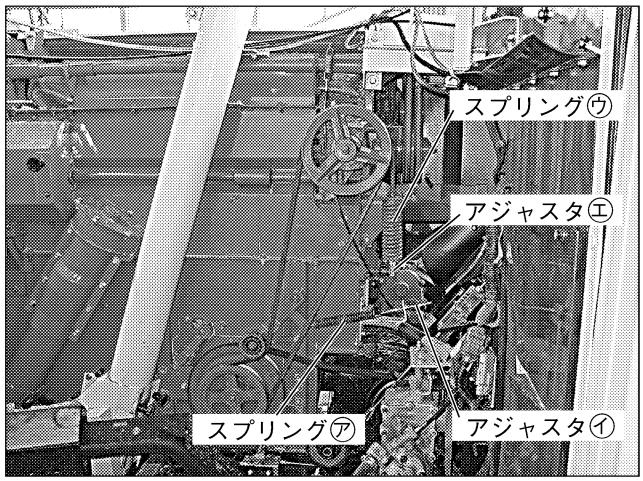
(1) ボルト㋓をゆるめ，ベルトガイド㋐を調整します。

(2) ボルト㋔をゆるめ，ベルトガイド㋑を調整します。

(3) ボルト㋕をゆるめ，ベルトガイド㋒を調整します。



9. こぎ胴伝動ベルト



❶ 点検

スプリング ㋐長さが 196～200mm になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動し，ストッパを掛けます。

(2) アジャスタ㋑のロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

10. こぎ胴ベルト

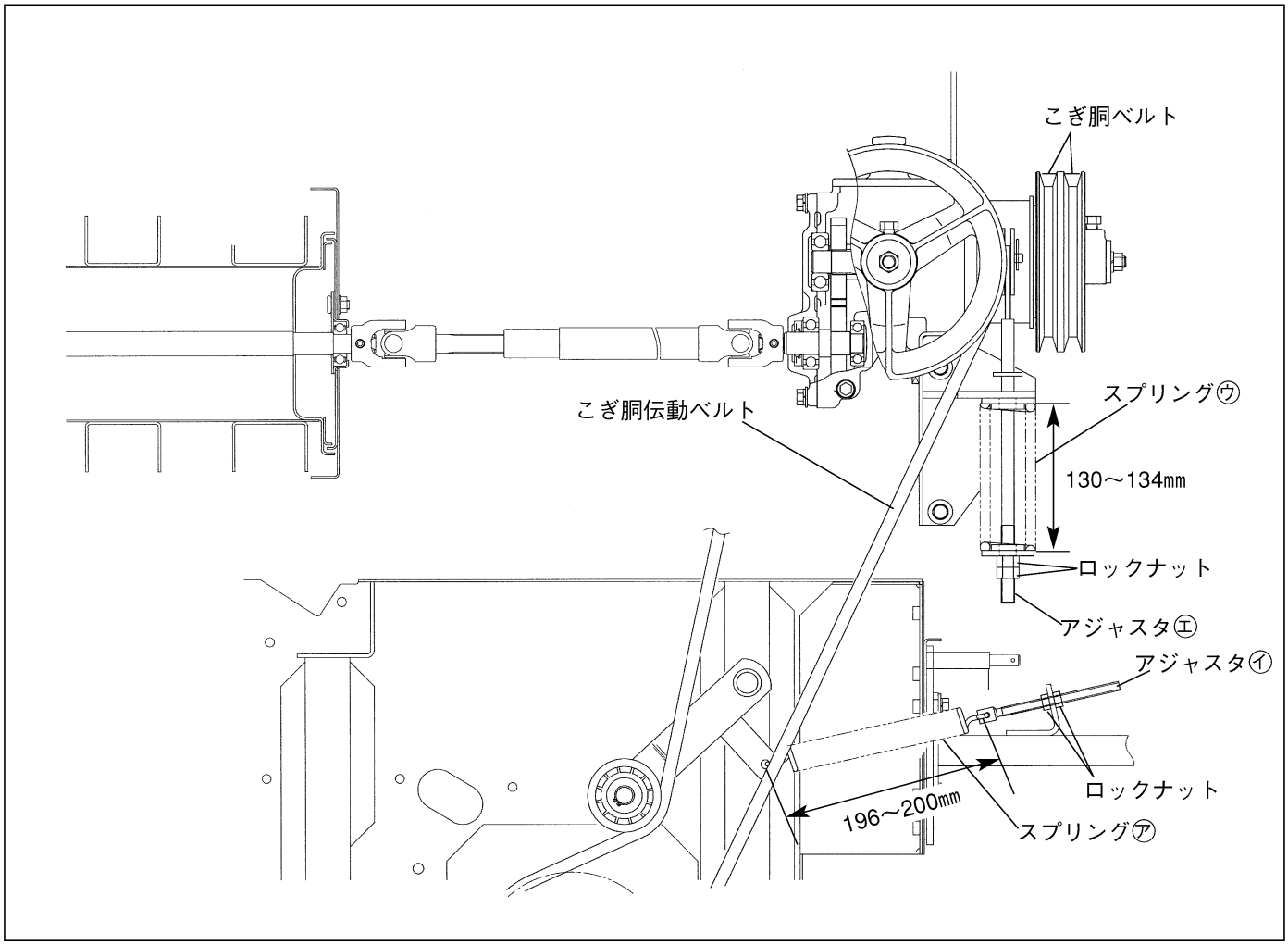
❶ 点検

スプリング ㋒ のセット寸法が 130～134mm になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動し，ストッパを掛けます。

(2) アジャスタ㋓のロックナットをゆるめて，スプリングのセット長さを調整します。



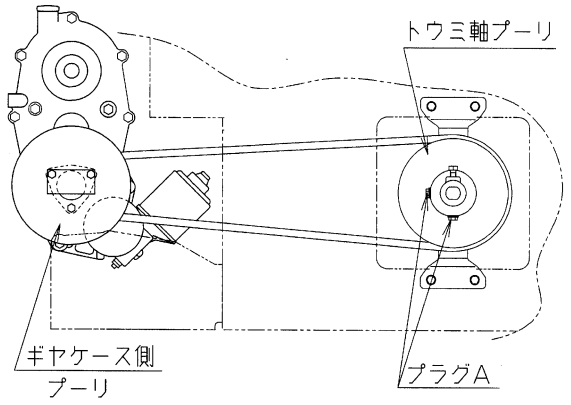
11．脱こくフィードチェン駆動ベルト

取扱いのポイント

- **このベルトは，調整に高度な技術が必要ですので「お買いあげ先」で点検，調整を受けてください。ベルト交換も「お買いあげ先」で行なってください。**

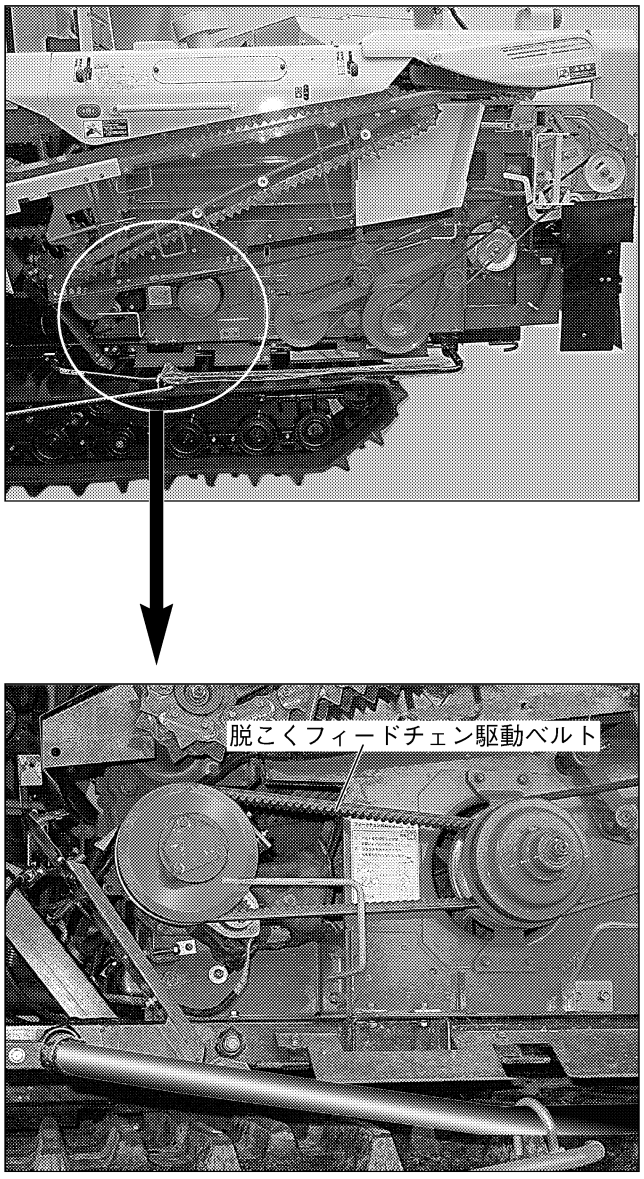
詳細

1．ベルトを交換するときは、
　お買いあげ先に相談してください。
2．プラグAを外すとオイルが
　出ますので外さないでください。



❶ ベルトの位置

(1) 脱こくサイドカバーを外します。



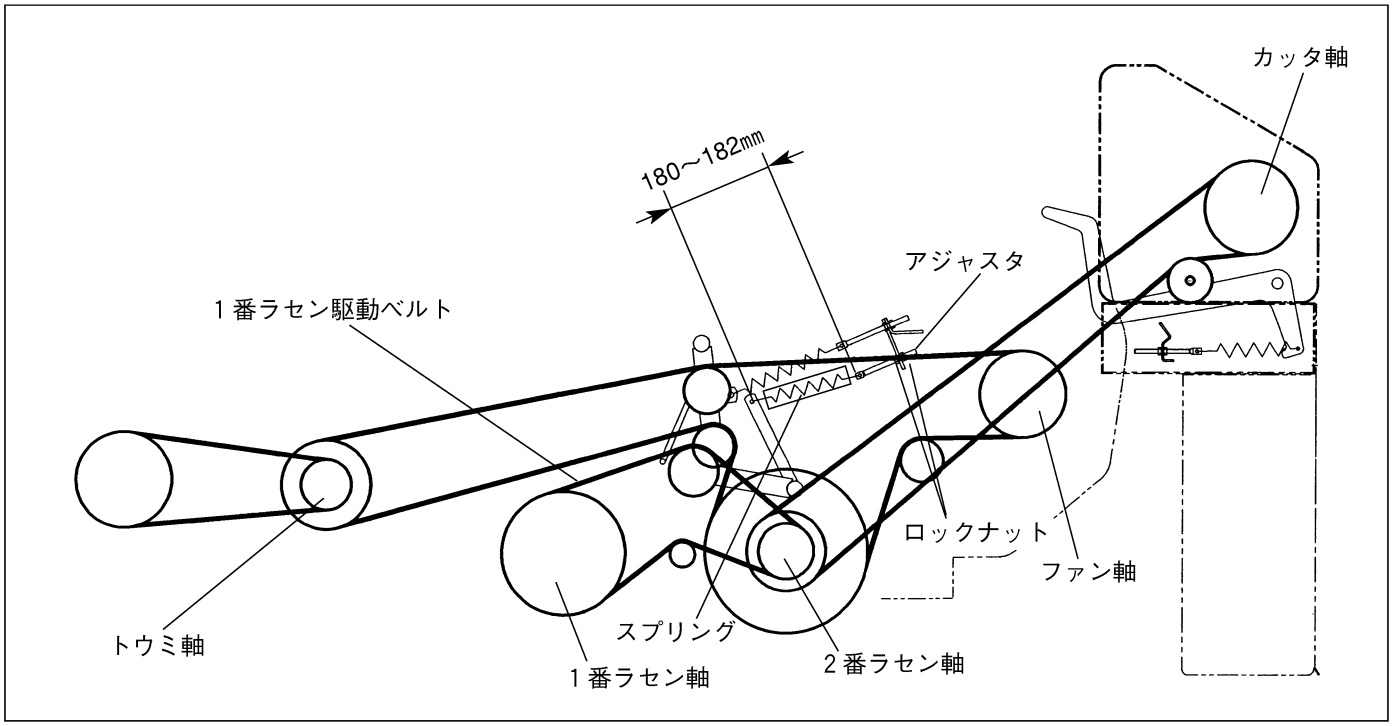
12．１番ラセン駆動ベルト

❶ 点検

スプリング長さが 180～182㎜ になっていますか。

❷ 調整

脱こくサイドカバー（上），（下），（前）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。



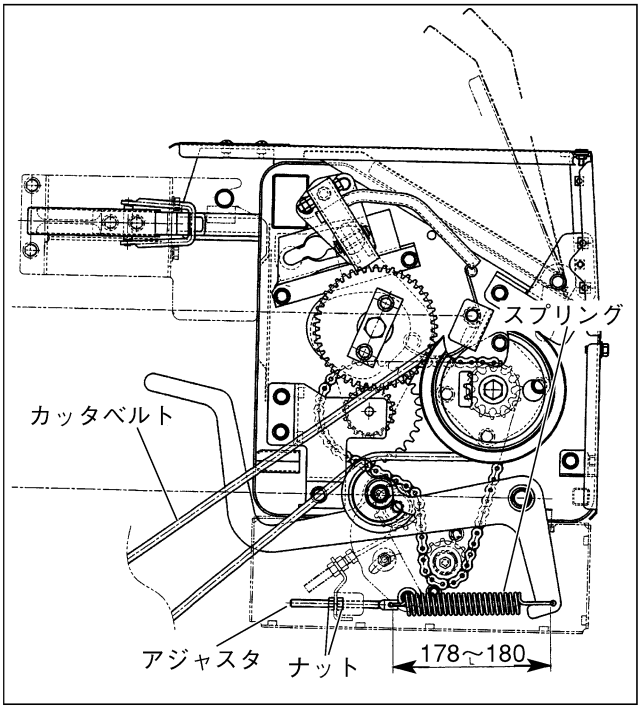
13．カッタベルト

❶ 点検

カッタのサイドカバーを外します。
スプリングの寸法が 178～180㎜ になっていますか。

❷ 調整

ナットをゆるめて，アジャスタを調整します。



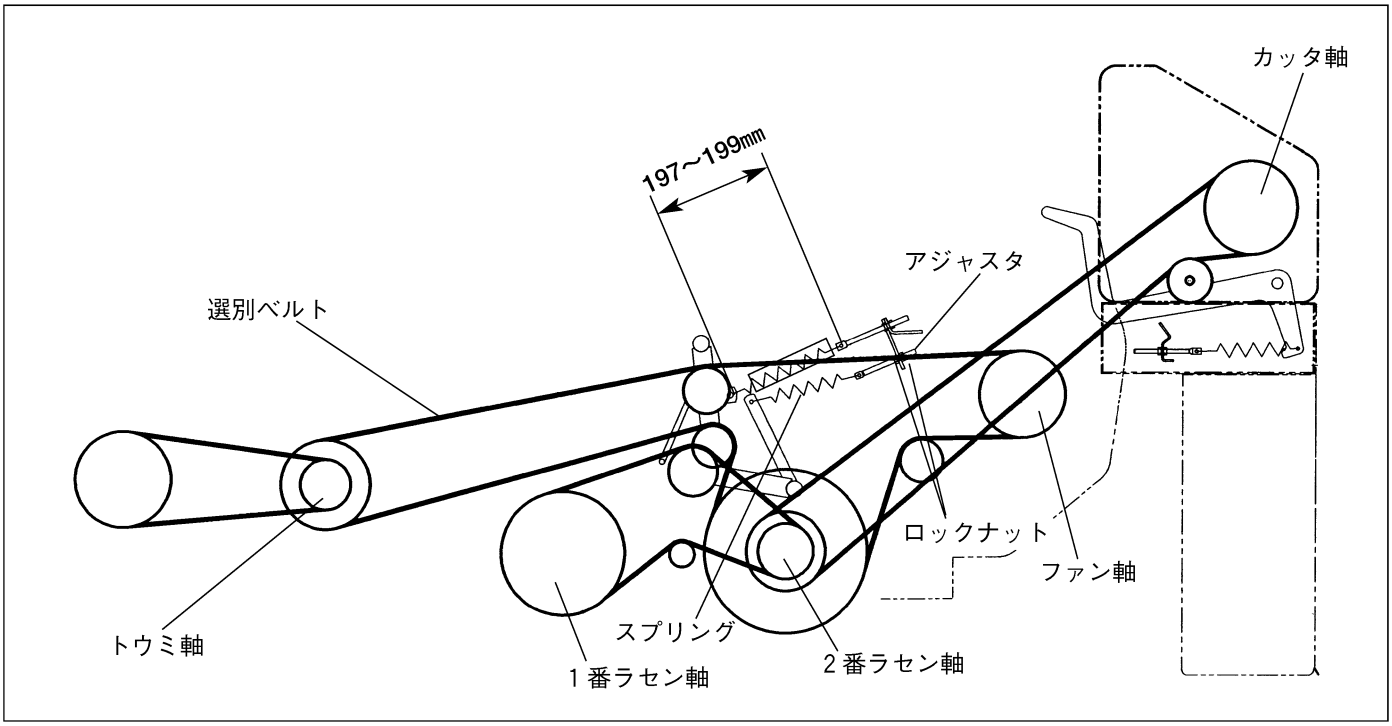
14．選別ベルト

❶ 点検

スプリング長さが 197～199㎜ になっていますか。

❷ 調整

脱こくサイドカバー（上），（下），（前）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。



15．かき込みベルト（刈取部）

❶ 点検

ベルトの搬送側中央部を押さえた時，タワミ量が 15～20㎜ になるように調節します。

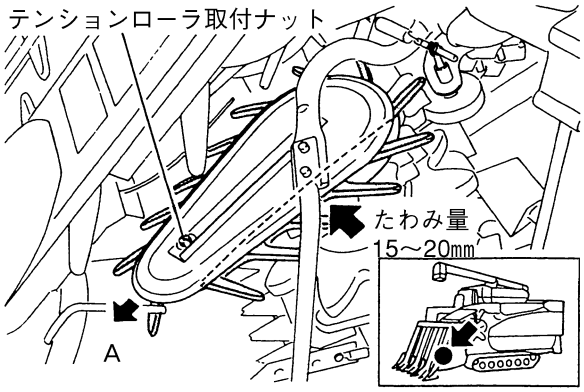
❷ 調整

① 刈取部のカバーを外します。

② テンションローラ取付ナットをゆるめます。

③ 矢印Aの方向にテンションローラを引っ張り，ベルトを張ります。

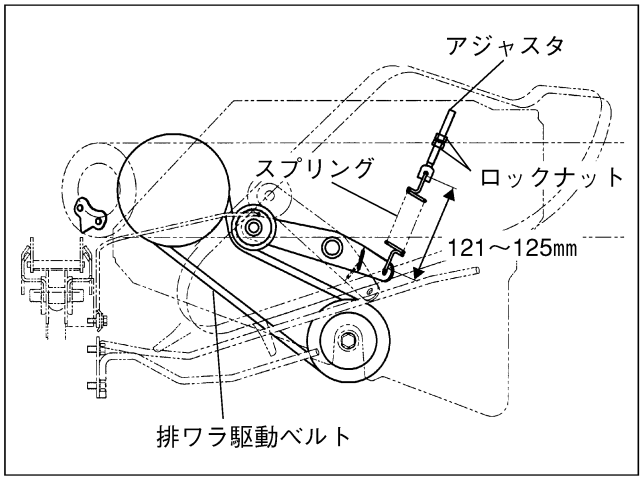
④ テンションローラ取付ナットで固定します。



16．排ワラ駆動ベルト

❶ 点検

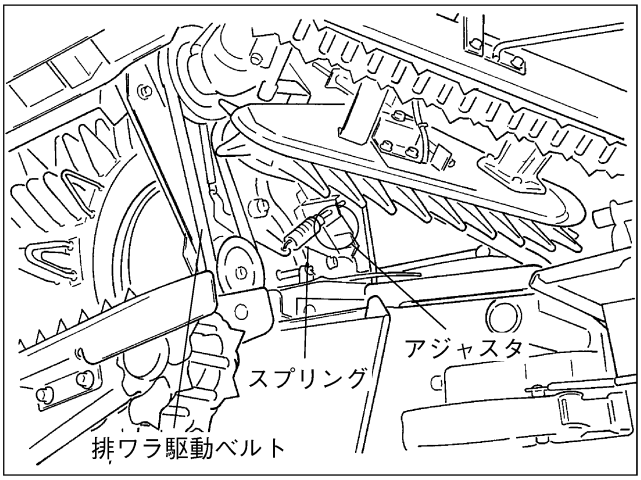
スプリング長さが 121～125㎜ になっていますか。



❷ 調整

(1) こぎ胴部を開き，自動ロックをかけます。

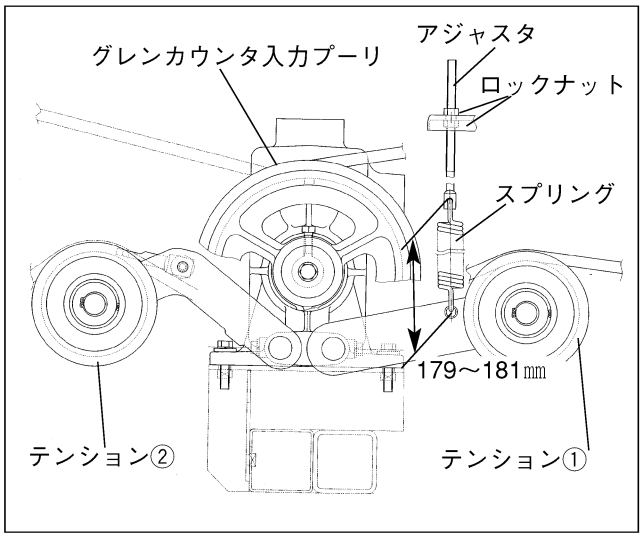
(2) アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。



17．グレン入力ベルト

❶ 点検

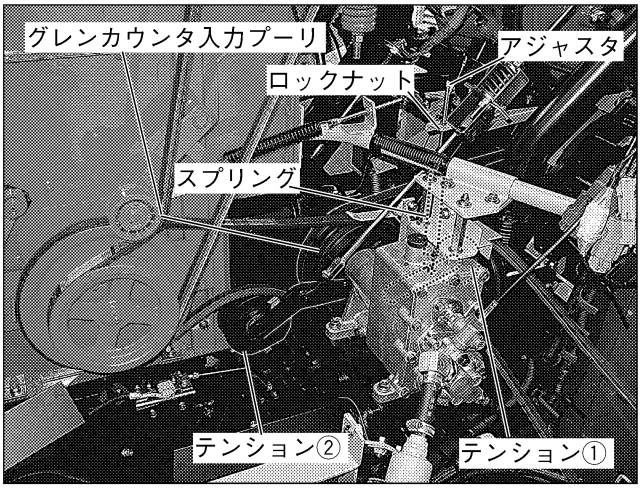
スプリング長さが 179～181㎜ になっていますか。



❷ 調整

(1) グレンタンクを回動し，ストッパを掛けます。

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。



「チェンの点検・調整」

取扱いのポイント

●調整ができなくなったら新しいチェンに交換してください。チェンを新しいものに交換した場合はスプリングの寸法を正規な寸法に調整してください。

18．引起こしチェン

❶ 点検

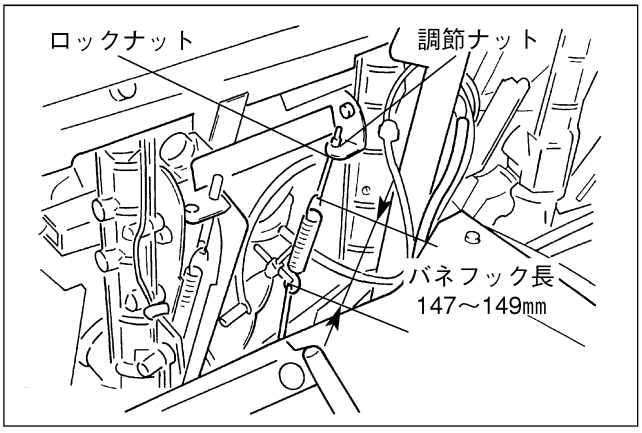
テンションバネのフック長は 147～149㎜ ですか。（テンションピンとテンションストッパのAスキマを2～3㎜にします。）

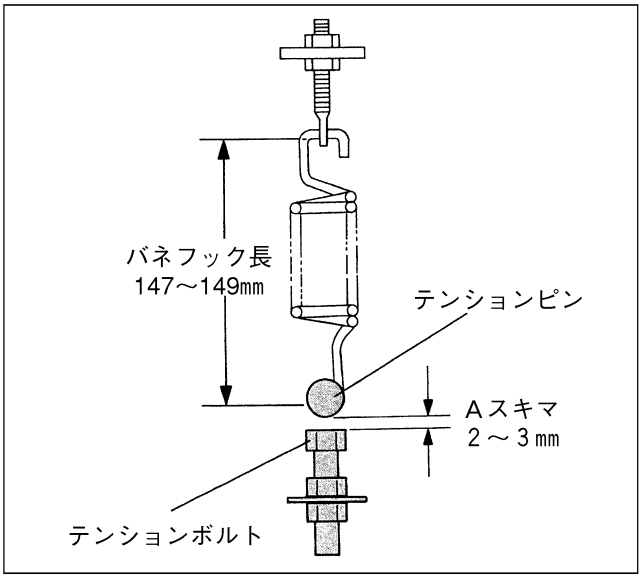
❷ 調節

① 刈取部のカバーを外します。

② ロックナットをゆるめ，調節ナットを回し，バネフック長を調節します。

③ ロックナットで固定します。





19．上部搬送チェン

❶ 点検

Aスキマは 2～3㎜ ですか。

❷ 調節

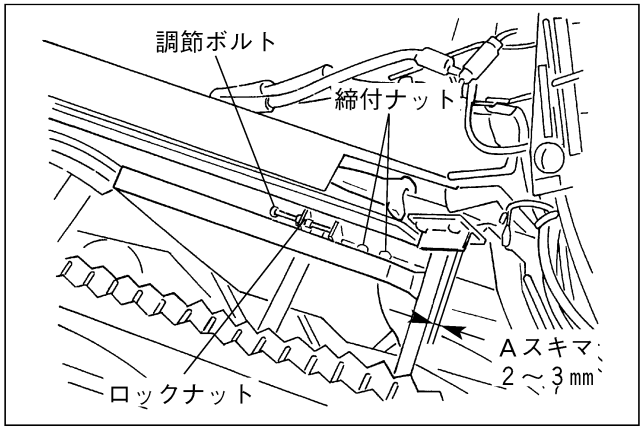
① 刈取部のカバーを外します。

② 締付ナットをゆるめます。

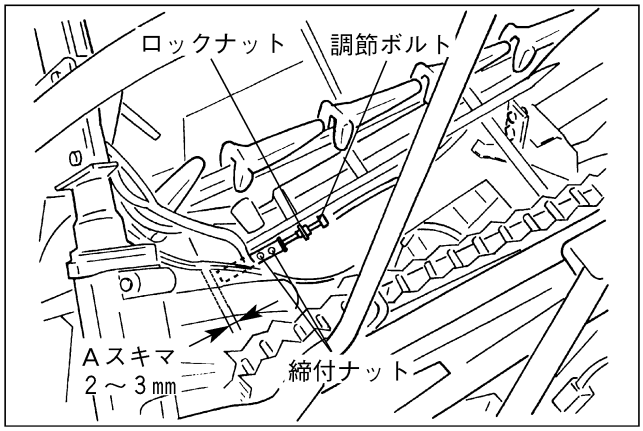
③ ロックナットをゆるめ，調節ボルトを回し，Aスキマを調節します。

④ ロックナットと締付ナットで固定します。

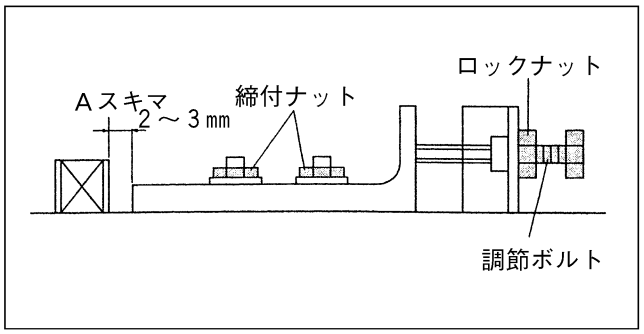
右側



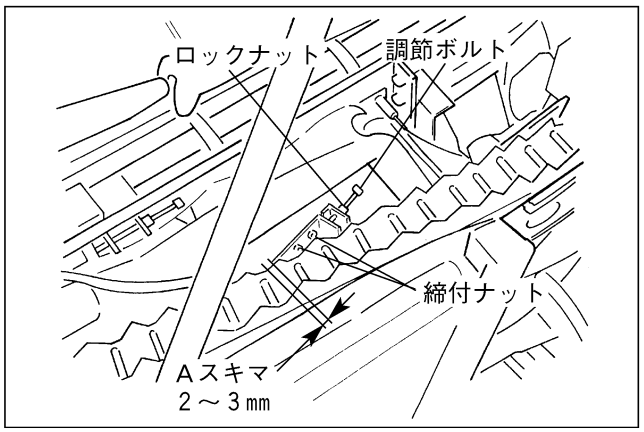
左側



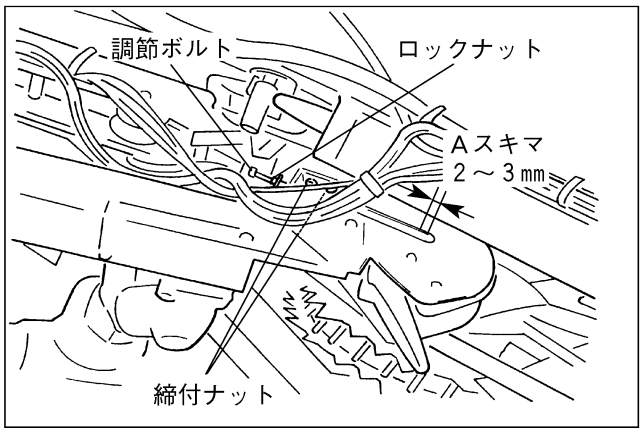
〈Ａスキマの調節〉



中側



後側



20．下部搬送チェン（右・左）

❶ 点検

テンションバネのフック長は 132～135㎜（右側）・ 120～123㎜（左側）ですか。

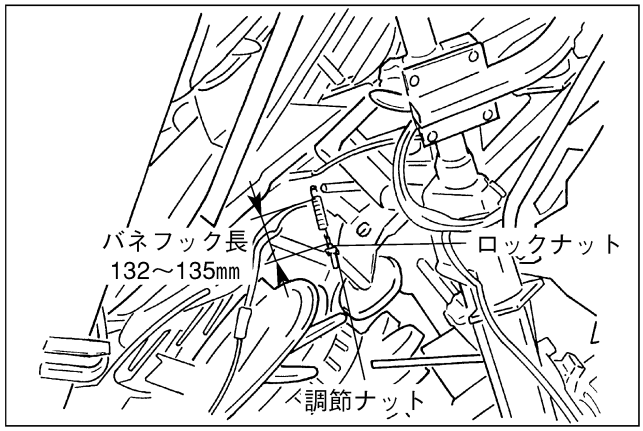
❷ 調節

① 刈取部のカバーを外します。

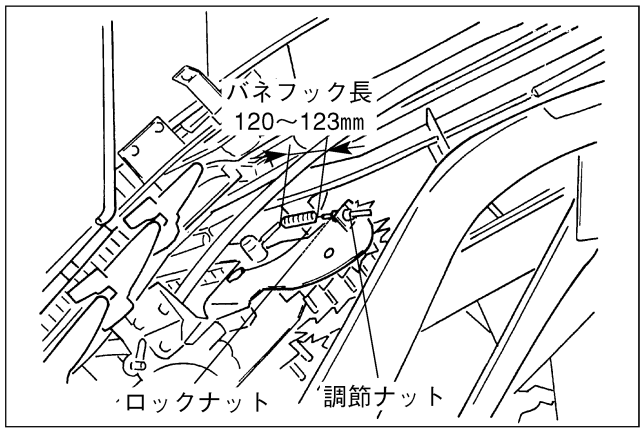
② 各テンションバネのロックナットをゆるめ，調節ナットを回し，バネフック長を調節します。

③ ロックナットで固定します。

右側



左側



21．下部搬送チェン（中）

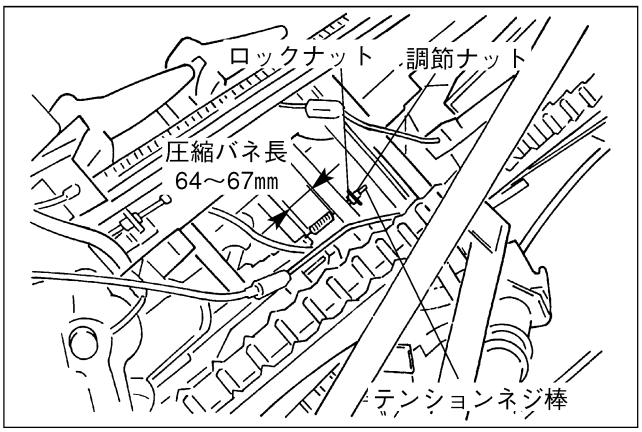
❶ 点検

テンションネジ棒の圧縮バネ長は 64～67㎜ ですか。

❷ 調節

① テンションネジ棒のロックナットをゆるめ，調節ナットを回し，圧縮バネ長を調節します。

② ロックナットで固定します。



22．縦搬送チェン

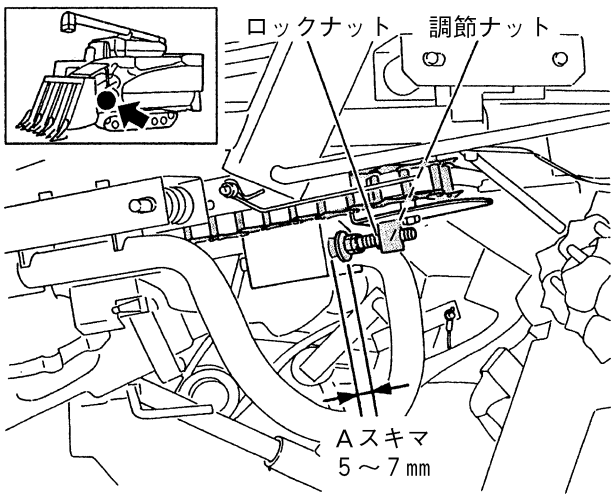
❶ 点検

Aスキマは 5～7㎜ ですか。

❷ 調節

① ロックナットをゆるめ，調節ナットを回し，Aスキマを調節します。

② ロックナットで固定します。



23．補助搬送チェン

❶ 点検

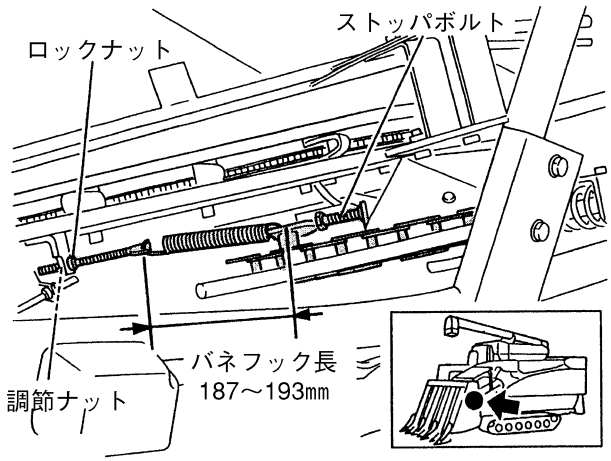
テンションバネのフック長を 187～193㎜ に調節します。

❷ 調節

① ロックナットをゆるめ，調節ナットを回し，バネフック長を調節します。

② ロックナットで固定します。

③ ストッパボルト先端が，テンションアームに軽く当たるように調節します。



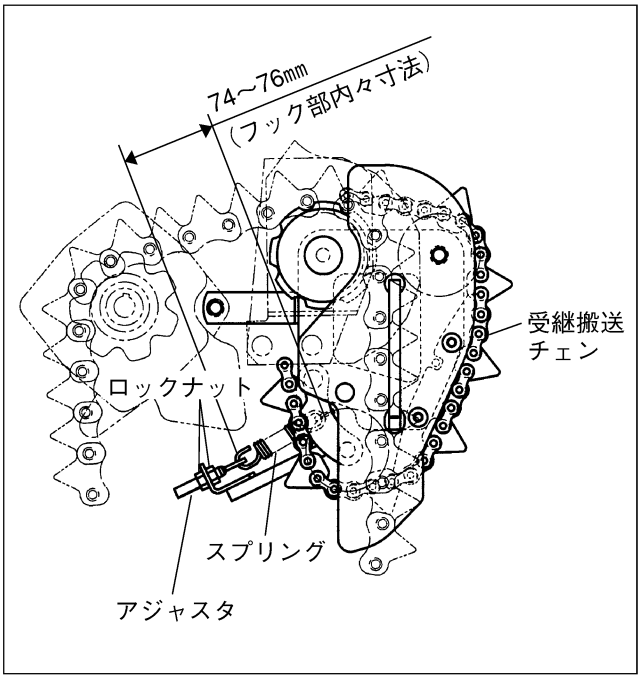
24．受継搬送チェン

❶ 点検

スプリング長が 74～76㎜ ですか。

❷ 調整

ロックナットをゆるめてアジャスタを調整します。



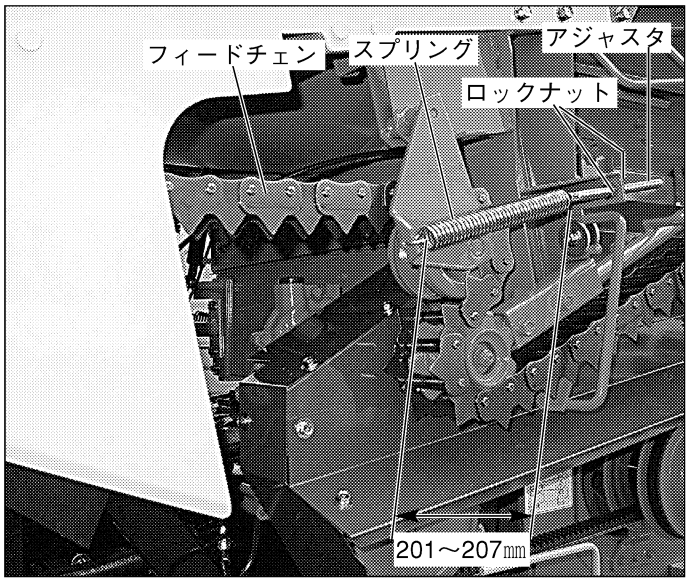
25．脱こくフィードチェン

❶ 点検

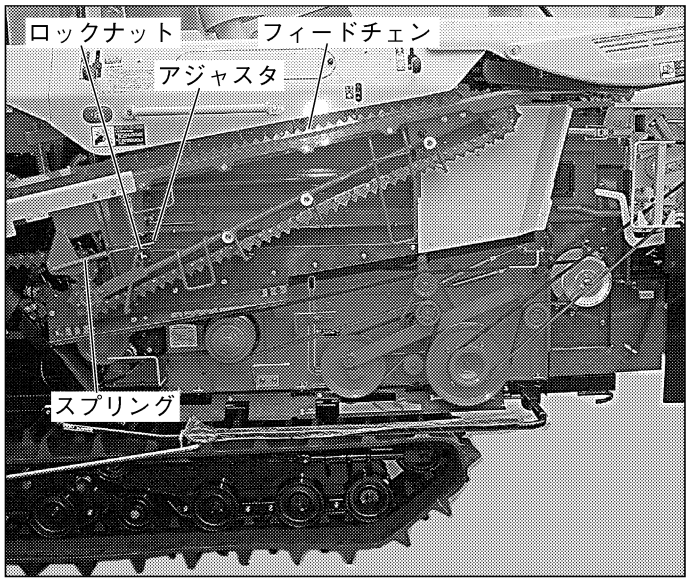
スプリング長さが 201～207㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下），（前）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。



［スプリング部拡大］



［全体］

26. 穂先排ワラチェン

❶ 点検

・スプリング長さが 118～122mm になっていますか。

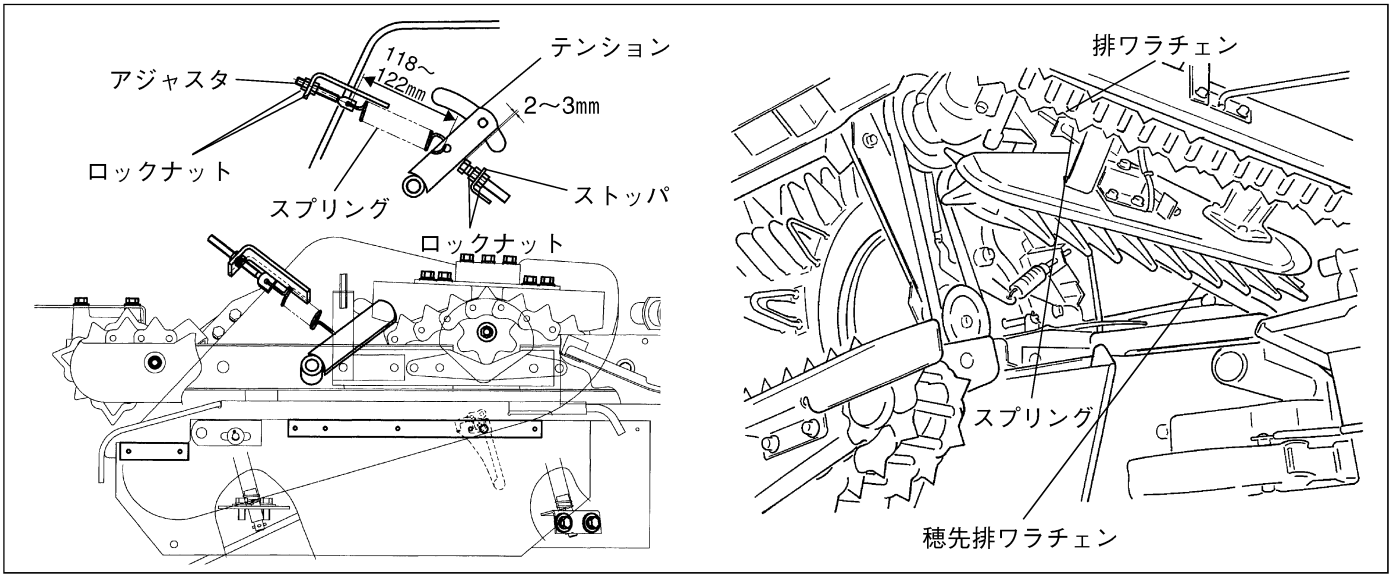
・テンションとストッパのスキマが 2～3mm ありますか。

❷ 調整

(1) こぎ胴部を開き，自動ロックをかけます。

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

(3) ストッパのロックナットをゆるめスキマを調整します。



27. 排ワラチェン

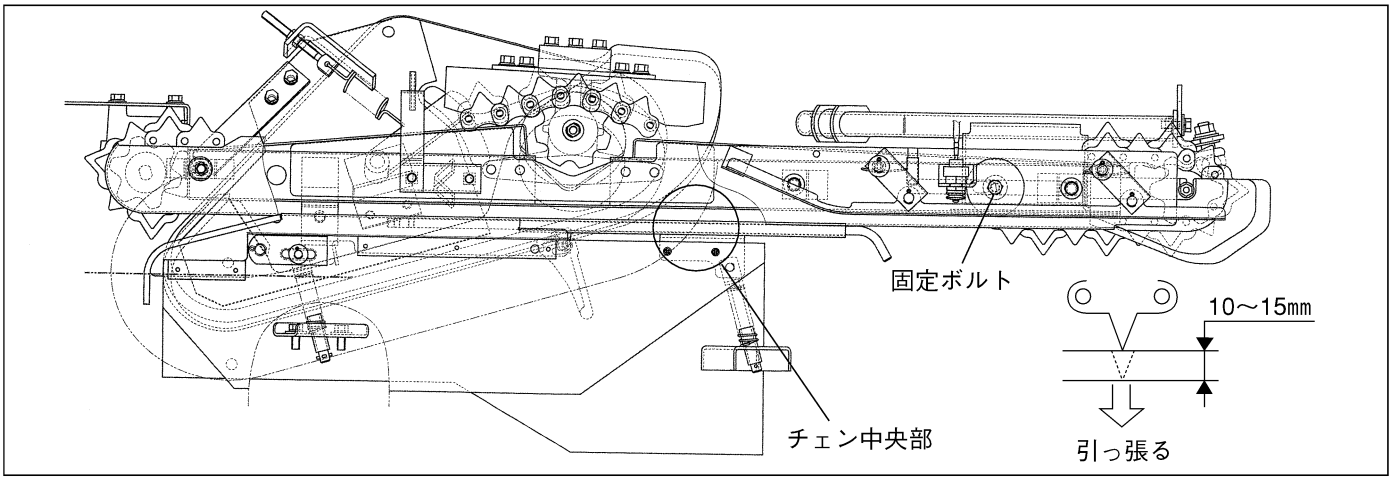
❶ 点検

排ワラチェンの中央部を軽く引きタワミ量が 10～15mm になっていますか。

❷ 調整

・カッタをオープンし，ストッパを掛けます。

ロックナットをゆるめた後固定ボルトをゆるめると自動的にチェンの張り調整ができます。調整後固定ボルトを締付け，ロックナットで固定します。なお調整ができなくなったときはチェンの半駒リンクを外し，チェンの長さを修正します。



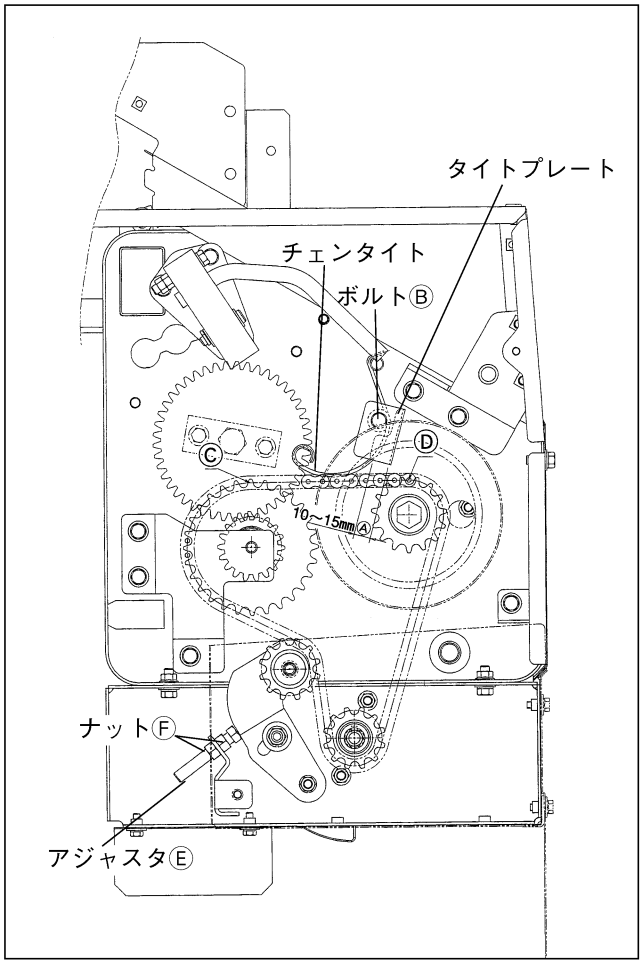
28．拡散装置駆動チェン

❶ 点検

カッタサイドカバーを外します。

(1) チェンⒸ～Ⓓ間にたるみがありませんか。

(2) タイトプレートとチェンタイトのスキマⒶは 10～15㎜ ですか。



❷ 調整

(1) チェンⒸ～Ⓓ間がまっすぐに張る様にアジャスタⒺを締め込みます。調整後，ナットⒻを締め固定します。

(2) ボルトⒷをゆるめてタイトプレートを動かしてⒶ寸法を調整します。

「刈刃の手入れのしかた」

29．刈刃

⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈刃の着脱作業をする時は，厚手の手袋をして行なってください。刈刃は内側のボルトを外してから外側のボルトを外してください。

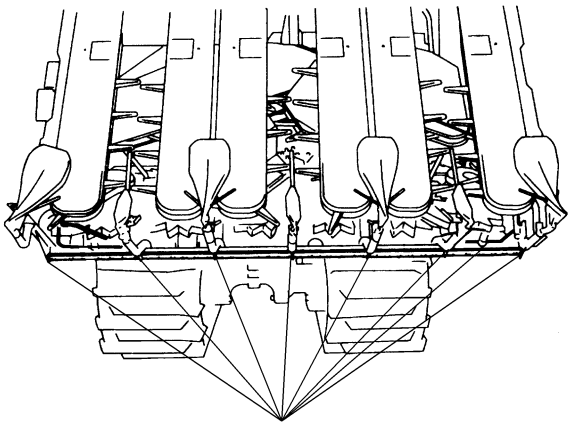
◆刃部に手をかけないでください。刈刃が動いてけがをすることがあります。

◆刈刃の点検調整する時は，刈取部を上げ，油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にしてフックをかけ，刈取部の下に固定脚等を入れて作業してください。

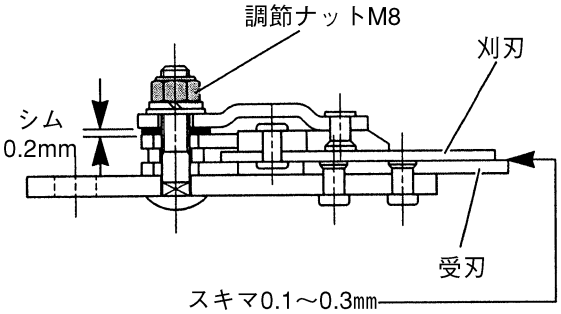
刈跡が揃わなくなったりした場合は，刈刃に注油をし，刈刃と受刃のスキマを調節してください。

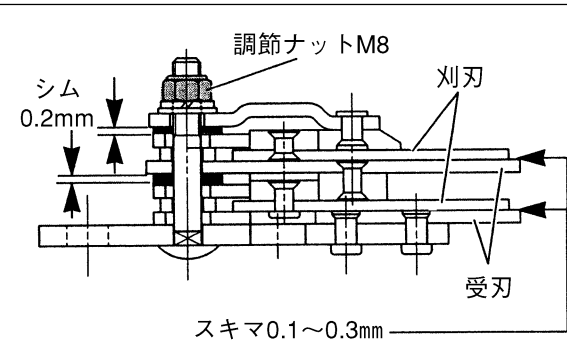
〈調節のしかた〉

0.2㎜のシムで刈刃と受刃のスキマを調節します。



調節個所は８個所あります。





取扱いのポイント

- **調節ナットＭ８は，締めすぎないようにしてください。**
- **シーズン終了後には，刈刃に付着している泥やワラクズなどを取除き，注油をしてください。**

「クローラの点検・調整」

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ガレージジャッキがめり込んだり移動したりしない平坦な場所で行なってください。
◆ガレージジャッキは２ｔ以上の仕様のものを使用してください。
◆ジャッキアップ（上げ・下げ）は機体のバランスを確認しながらゆっくり行い，必要以上の高さに上げないでください。
◆ジャッキアップしたら，固定脚をかませて落下，転倒防止をしてください。

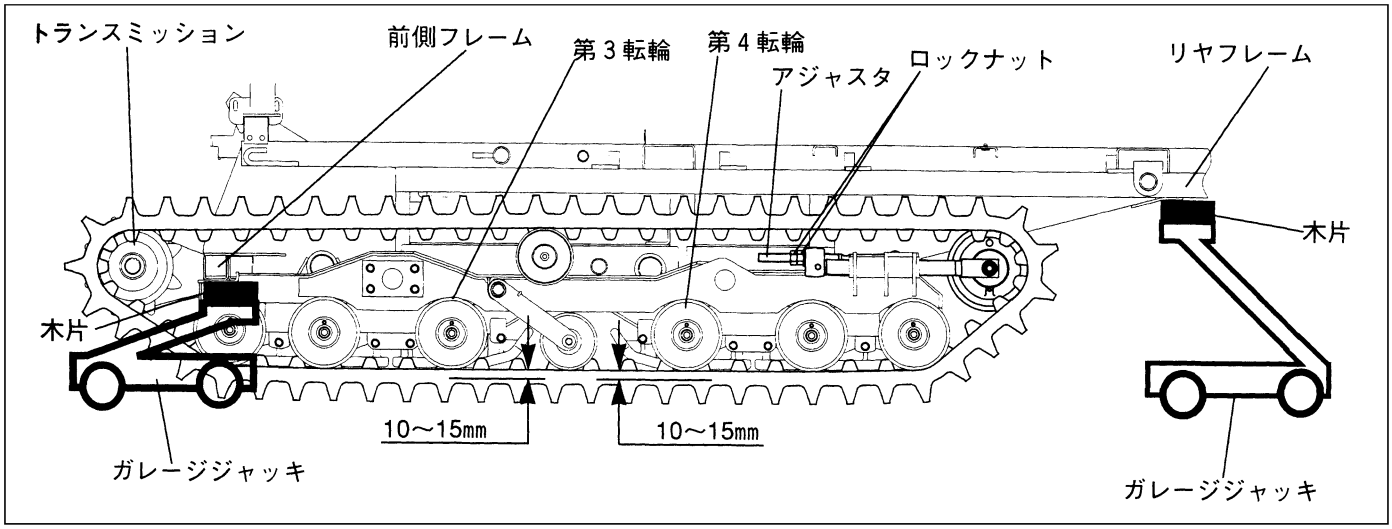
30．クローラ

❶ 点検

フレームをジャッキアップした状態で図示の第３転輪及び第４転輪とクローラのスキマが各々 10～15㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) 図示のようにトランスミッション後方の前側フレームとリヤフレームの右または左にガレージジャッキで間に木片をかませてジャッキアップします。
(2) アジャスタのロックナットをゆるめ，アジャスタを締込んで張ります。



取扱いのポイント

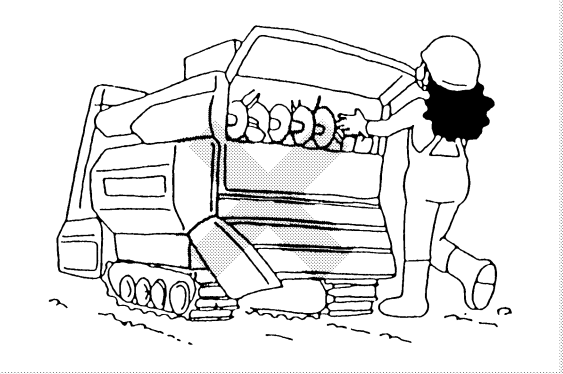
- トランスミッションケースに直接ガレージジャッキを掛けるとケースが破損する恐れがありますので，木片をかませて行なってください。
- クローラは片側ずつ外します。まず，機体を傾斜手動レバーで最上げ，水平にし，外したい側のクローラの近くにガレージジャッキをかませ，外したい側のクローラが宙に浮く様に傾斜手動レバーを《右下り》又は《左下り》に操作します。

長期格納のしかた

・シーズンが終わったらつぎの作業をして格納します。

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆回転部・刈取部（刈刃）などに付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。



◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電でヤケドや損傷することがあります。点検し，傷んだ配線は交換，修理してください。

◆燃料ホースの老化や，傷による燃料もれがあると火災の原因になります。作業前後に点検し，損傷したりもれている場合は交換してください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因となることがあります。

◆機械にシートカバーをかける時はエンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱い時にシートカバーをかけると火災の原因になることがあります。

1．機械の掃除と洗浄

❶ 泥・ワラクズ・雑草などを取除き，汚れをきれいに水洗いし，乾いた布でふき取ります。

❷ 脱こく内部およびグレンタンクのゴミ・残溜こく粒などを掃除口よりきれいに取除きます。
（128～141ページ脱こく内部の掃除の項を参照）

2．錆止めと注油

❶ 刈刃は掃除したのち，全面にグリスを塗布し錆止めをします。

❷ チェン・ワイヤ類にも注油をし，錆ないようにします。

❸ 塗装がはげた個所は補修塗装を行います。

3．エンジンの手入れ

❶ エンジンコントロールレバーはいっぱいに戻しておきます。

❷ 新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満タンにしておきます。

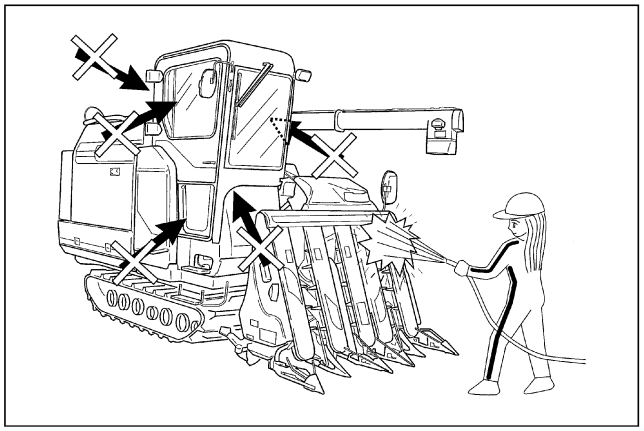
❸ 気温が0℃以下になるときは，エンジンの凍結割れを防ぐため，冷却水を交換し，不凍液を入れます。（101～102ページ参照）

4．点検・整備

「**定期点検整備表**」の項を参考に該当する項目について点検・整備します。
（91～94ページ参照）

取扱いのポイント

- **エンジン部・脱こく部・運転操作部・電装部には水をかけないでください。**
- **［キャビン仕様］は「水・スチーム厳禁」ラベル貼付付近には水をかけないでください。キャビン内部に水が入るおそれがあります。**



5．格　　納

機体の掃除・点検・整備を終えたら風通しのよい乾燥した屋内を選び，シートをかけて保管します。

❶　「**クローラ**」の下には板等を敷いておきます。

❷　各レバーは《**切**》・《**N**》（**中立**）の位置にします。

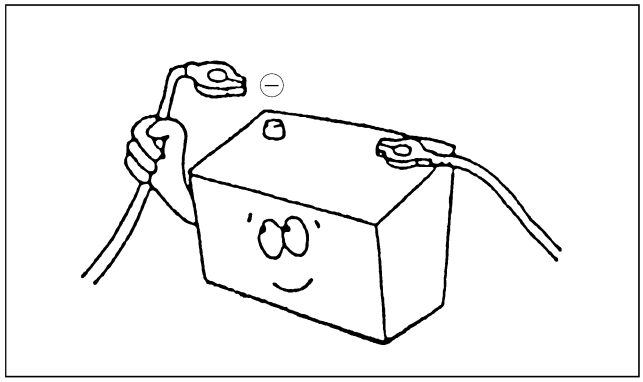
❸　「**ナローガイド**」「**サイドステップ**」を収納し，デバイダ先端に「**バンパ**」を取付けておきます。

❹　刈取部を下げて，スタータスイッチの「**始動キー**」を抜取ります。

❺　駐車ブレーキをかけます。

❻　クローラに「**歯止め**」をします。

❼　「**バッテリ**」は取外して，日陰の乾燥した場所に保管するか、㊀側のコードをはずしておきます。１ケ月に１回，バッテリ補充電のためエンジンを約10分間回します。



取扱いのポイント

- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。**
- **エンジンを始動する前に，バッテリターミナル等保管する時に処置した項目を復元してください。**

6．再使用にあたって

格納後，はじめて使用するときには各部の点検を入念に行なった後に運転します。

❶　エンジンを始動する前に，バッテリターミナル等保管する時に処置した項目を正しく復元します。

❷　シーズン前点検を確実に行います。

不調時の処置

・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし故障を大きくしないようにします。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し点検を受けます。
・そのときは「**型式**」,「**機械番号（製造番号）**」,「**エンジン番号**」をあわせてお知らせください。

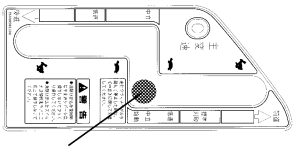
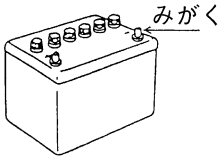
⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。点検処置は参照ページの安全上の項目をよく読んでから行なってください。
◆ソレノイドバルブの操作をする時は，機械の周囲に人がいないことを確認してから行なってください。
◆調整を必要とするバルブ以外は操作しないでください。他のバルブを操作すると，不意に他の装置が動いて事故になることがあります。

⚠注意

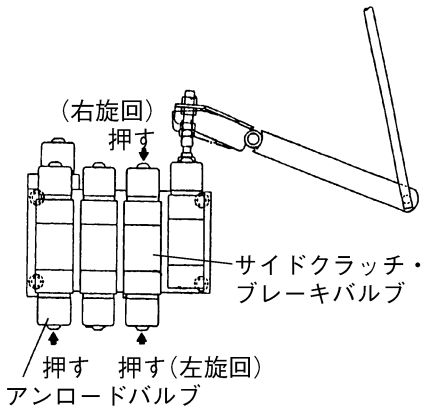
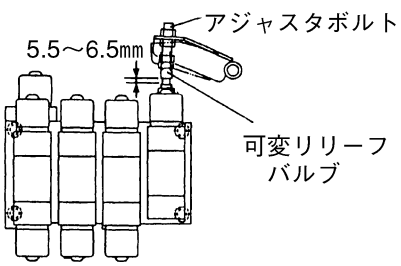
◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

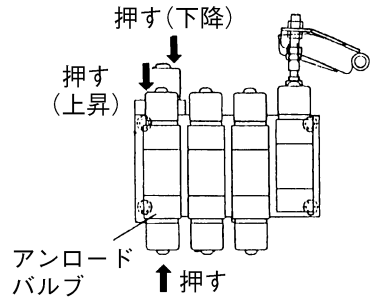
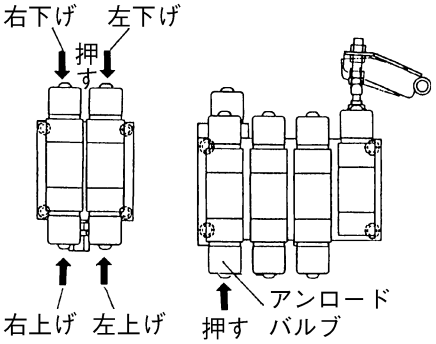
1．エンジン部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
セルモータが回らない	❶ 主変速レバーを《**中立始動**》位置にしていない。作業機クラッチを《**切**》にしていない。クラッチペダルをいっぱい踏込んでいない。	●主変速レバーを《**中立始動**》位置にし，作業機クラッチを《**切**》にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。	9
	❷ バッテリターミナルのゆるみ。（接触不良）	●ターミナル部をよくみがき締付けます。	119〜122
	❸ メインヒューズまたは，パワーリレーヒューズが切れている。	●配線の短絡個所を点検し，修正後，メインヒューズまたは，パワーリレーヒューズを交換します。	28〜31
	❹ バッテリが放電している。	●バッテリを充電します。	119〜122
	❺ 《**スタータスイッチ**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	28〜31

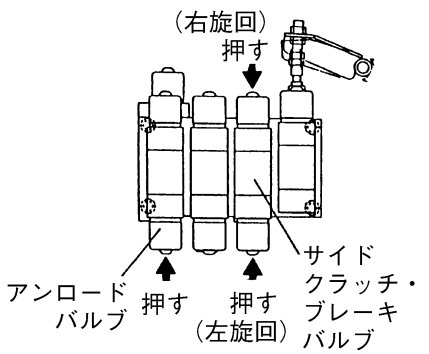
不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
セルモータは回るが始動しない	❶　燃料タンクに燃料がない。	●燃料を補給し，エア抜きをします。	96，117
	❷・燃料系統にエアが入っている。 ・フィルタにエアがたまっている。	●エア抜きをします。	117
	❸　《ランプ・計器》ヒューズが切れているため，燃料ポンプが作動しない。	●ヒューズ（15A）を交換します。	28〜31
	❹　燃料コックが「閉」のままになっている。	●燃料コックを開ける。	116〜117
エンジンの馬力が出ない，または自然に止まる	❶　燃料系統に水・ゴミの混入。	●燃料系統の点検・掃除をします。 ●燃料フィルタポット部の水抜き。 ●燃料ポンプ内臓フィルタの掃除。 ●燃料フィルタを交換します。	116〜117
	❷　エアクリーナの目詰まり。	●掃除またはエアクリーナエレメントを交換します。	115
	❸　ラジエータ防じんフィルタ（エンジンカバー，金網）の目詰まり。	●防じんフィルタ（エンジンカバー，金網）を掃除します。	114
	❹　エンジンオイルの不良（汚れ）または不足。	●指定のオイルを補給または交換します。	97〜98
	❺　冷却水の不足。	●冷却水を補給します。	100〜101
	❻　エンジンファンベルトのゆるみ。	●ファンベルトを調整します。	164
	❼　《ランプ・計器》ヒューズが切れているため燃料ポンプが作動しない。	●ヒューズ（15A）を交換します。	28〜31
エンジンが停止しない	❶　《キー切りソレノイド》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（40A）を交換します。	28〜31
	❷　《パワーリレー用》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（40A）を交換します。	28〜31
	❸　《メイン》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（60A）を交換します。	28〜31

2．走行・運転操作部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
主変速レバーを操作しても走行しない	❶　副変速レバーが《N》（中立）位置になっている。	●条件に合わせ《倒伏》，または《標準》，《走行》位置にセットします。	22
	❷　油圧オイルタンクのオイル不足。	●規定量まで油圧作動油を補給します。	104～105
	❸・クラッチペダルを踏んでいる。 ・駐車ブレーキがかかっている。	●クラッチペダルを放します。 ●駐車ブレーキを解除します。	19～20
マルチステアリングレバーを操作しても旋回しない	❶　《操向・リフト》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	28～31
	❷　油圧バルブへのゴミかみ。  	●各操作レバーを《N》（中立）にしてエンジンを始動します。アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチ・ブレーキバルブの《右旋回》および《左旋回》の手動プッシュを数回押すとゴミかみが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	―
	❸　スピンドライブターン「入，切」が確実になっていない。 ［S仕様］	●低速度で前進走行しながら副変速レバーを左右に切替えます。	22
マルチステアリングレバーを操作しても急旋回ができない	❶　ブレーキの効きが悪い。  	●可変リリーフバルブ部のアジャスタボルトを調整します。 ●エンジン回転を2400rpmまで上げます。	159

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
マルチステアリングレバーを操作しても急旋回ができない	❷ スピンドライブターンの「**入，切**」が確実になっていない。 ［**S仕様**］	●低速度で前進走行しながら切替えます。 ●副変速を《 倒伏 》位置に切替えます。 ●減速ターンスイッチが《**入**》の時は，マルチステアリングレバーを操作しても急旋回できません。減速ターンスイッチを《**切**》にします。	22 47
マルチステアリングレバーを操作しても刈取部が上昇または下降しない	❶ 《**操向・リフト**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	28〜31
	❷ 油圧バルブへのゴミかみ。  	●各操作レバーを《**N**》（**中立**）にしてエンジンを始動します。アンロードバルブを押したり，前処理リフトバルブの《**上昇**》および《**下降**》の手動プッシュを数回押すとゴミかみが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	―
	❸ 油圧固定スイッチが《**油圧固定**》位置か《**下る**》位置になっている。	●油圧固定スイッチを《**作業時**》位置にします。	24
水平操作レバーを操作しても作動しない 水平自動制御が作動しない	❶ 《**水平制御**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズまたは《**操向・リフト**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	28〜31
	❷ 油圧バルブへのゴミかみ。 ［**水平バルブ**］  	●各操作レバーを《**N**》（**中立**）にしてエンジンを始動します。メインバルブユニットのアンロードバルブを押しながら，水平制御用バルブユニットの手動プッシュを数回押します。ゴミかみが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下側にあります。）	―

3．電気・自動制御部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
モニタランプ・前照灯・作業灯・バックブザー・ホーンが点灯または作動しない	❶　《**ランプ・計器**》ヒューズ，《**マイコン**》ヒューズまたは《**作業灯**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 ランプ・計器ヒューズ……15A マイコンヒューズ……10A 作業灯ヒューズ……15A	**28〜31**
	❷　バッテリの放電。	●バッテリを充電します。	**119〜122**
方向指示器が点灯しない	❶　《**フラッシャ・制動**》ヒューズが切れている。または《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（15A）を交換します。 マイコンヒューズ……10A	**28〜31**
こぎ深さ自動制御が作動しない	❶　《**こぎ深さ制御**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 こぎ深さ制御ヒューズ……20A マイコンヒューズ……10A	**28〜31**
	❷　刈取部のこぎ深さセンサにワラクズがたまっている。	●ワラクズを取除きます。	**70**
・刈高さ自動制御が作動しない［A,S使用］ ・刈高さポジションコントロールが作動しない［A,S使用以外］	❶　《**操向・リフト**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	**28〜31**
選別自動制御が作動しない	❶　《**選別**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 選別ヒューズ……30A マイコンヒューズ……10A	**28〜31**
	❷　揺動部にワラクズがたまっている。	●ワラクズ等がきれいに排出されるまで脱こく部の空運転をします。	**—**
方向自動制御が作動しない	❶　《**操向・リフト**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	**28〜31**
	❷　刈取部の方向センサに草・泥・ワラクズ等がたまっている。	●草・泥・ワラクズ等を取除きます。	**—**
	❸　油圧バルブへのゴミかみ。  	●エンジンを始動し，アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチ・ブレーキバルブの《**右旋回**》および《**左旋回**》の手動プッシュを数回押すとゴミかみが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	**—**

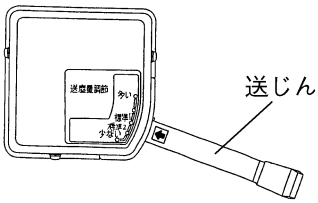
不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
クイックアップデバイダが作動しない	❶　《**操向・リフト**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	**28〜31**
強制かき込みが作動しない	❶　《**操向・リフト**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	**28〜31**

4. 刈　取　部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
刈取部で「カタカタ音」がしてチェンが動かない	❶　搬送通路に詰まりがある。	●つぎの操作手順で処置します。 ①作業機クラッチレバーを《**切**》にします。 ②エンジンを停止します。 ③刈取搬送部の詰まり個所を取除きます。 ④エンジンを始動します。 ⑤作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《**入**》にして確認します。 **取扱いのポイント** ●**デバイダが土中に突っ込んで，株抜けしないようにしてください。搬送詰まりの原因になります。**	―
	❷　刈取クラッチワイヤの調整不良。（ベルトがスリップしている）	●刈取クラッチワイヤの調整をします。	161，163
刈株の長さにムラがある	❶　刈刃の注油不足。	●刈刃に十分注油します。	113
	❷　刈刃の調整不良。（刈刃のスキマが広い）	●調整ライナでスキマを調整します。	178
	❸　刈刃の摩耗。	●刈刃を交換します。	178，200
	❹　マルチステアリングレバーの操作不良。	●刈取り条にそって運転するときは，急激な操作はさける。	―
刈取部から脱こく部への搬送引きつぎが悪い	❶　搬送通路に雑草・ワラクズ・泥等が溜まっている。	●搬送通路の雑草・ワラクズ・泥等を取除きます。	―
	❷　「**深こぎ**」または「**浅こぎ**」となっている。	●適正こぎ深さで作業をします。	69～70
	❸　刈取り搬送の停止より脱こくフィードチェンの停止が早い。	●リフトシャットは刈取り搬送の停止と同時か，それ以後に脱こくフィードチェンが停止するようにタイミングを調整します。 ●刈取部を下げ，脱こく入口下側の連動クラッチワイヤアジャスタ部で調整します。 **取扱いのポイント** ●**調整は「お買いあげ先」に相談してください。**	163

5．脱こく部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
脱こく搬送詰まりでエンジンが停止した	❶　排ワラチェン部に詰まりがある。 （排ワラチェンエンジン停止スイッチ作動） ❷　脱こくフィードチェン終端部に詰まりがある。 （脱こくフィードチェン終端のエンジン停止スイッチ作動）	●つぎの手順により処置します。 ①作業機クラッチレバーを《**切**》にする。 ②脱こく・排ワラ関係の詰まり個所を取除く。 ③脱こくフィードチェン駆動ベルトの張りを点検・調整する。 ④脱こくフィードチェンの張りを点検・調整する。 ⑤排ワラフィードチェンの張りを点検・調整する。 ⑥エンジンを始動する。 ⑦作業機クラッチレバーを《**入**》にして確認する。 **取扱いのポイント** **●処置後脱こく部の空運転をし，脱こく内部にたまったワラクズをきれいに排出してから刈取りを開始してください。**	60
グレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）	❶　エンジン回転が規定より低い。	●刈取り作物にあったエンジン回転になっているか確認し回転計を見て，《**イネ・ムギ，種子**》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	12
	❷　ベルトがスリップしている。	●脱こく入力ベルトを張ります。 ●１番ラセン駆動ベルトを張ります。 ●選別ベルトを張ります。	167 169 170
	❸　こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」に合わせます。	49
	❹　作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網を掃除します。	128～129
	❺　刈取り時期が早く，青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●主変速レバーで速度を下げて作業します。	20～21
	❻　選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	81
	❼　１番ラセン底板，２番ラセン底板の掃除口が開いている。	●開閉レバーを《**閉じる**》位置にし，ストッパをかけます。	130～131

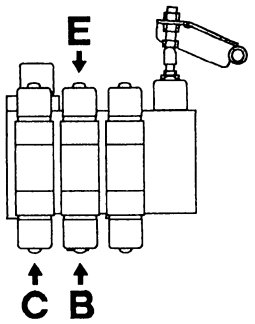
不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
能率が上がらない（こぎ室内で「ゴトゴト音」がする）	❶ 作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	128〜129
	❷ こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	49
	❸ エンジン回転が規定より低い。	●刈取り作物にあったエンジン回転になっているか確認し回転計を見て，《**イネ・ムギ，種子**》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	12
	❹ 刈取り速度が早すぎる。	●主変速（無段変速）レバーで速度を下げます。	20〜21
	❺ 送じんがスムースでない。	●送じん量調節レバーを《**多い**》側の位置にします。  	28
	❻ ワラ切カマが切れない。 **取扱いのポイント** **●ワラ切カマはこぎ歯に当たらないように取付けてください。** **●ワラ切カマの取付け方向を確認して取付けてください。**	●ワラ切カマを交換します。	156〜158
	❼ 選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。 ●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	81
三番ロスが多い	❶ こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズ発生が多い。	●脱こく能力以上の高能率作業であり，主変速（無段変速）レバーで速度を下げて作業します。 ●作物がよく乾燥してから刈取ります。	49 20〜21
	❷ 能率のあげすぎにより，揺動流板にワラクズ等が停滞気味。		
	❸ 作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰まり）	●受網の掃除をします。	―
	❹ 刈取り時期が早く青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●主変速レバーで速度を下げて作業します。	128〜129 20〜21
	❺ 選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	81

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
こぎ残しが多い	❶　こぎ深さが浅すぎる。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置にあわせます。	49
	❷　エンジンの回転が低い。	●エンジン回転を規定回転にあわせてマークの範囲内になるようにして作業をします。	12
	❸　デバイダで作物を押し刈りしている。	●押し刈りしないように，条間に沿ってデバイダを合わせます。 ●条合わせは，マルチステアリングレバーをこきざみに操作する。（強く操作すると，「**ブレーキ**」がきき，条を外れたり株元を押し倒したりし，高刈りとなります。） ●雑草・ワラクズの詰まりを除去します。 ●横刈りをするとき，刈幅いっぱいの刈取りは行わない。	48〜53

6．ワラ処理部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
巻きつきが発生し馬力をとる	❶　刃の摩耗によりカッタの切れ味が悪い。	●刃を交換します。	144〜154
	❷　排ワラの搬送姿勢が悪い。	●こぎ深さ位置を適正にします。	49
	❸　排ワラ量の増加。	●作業速度を適正にします。	20〜21
排ワラ姿勢が悪い（カッタ部での搬送姿勢が悪い）	❶　排ワラ駆動ベルトの張り不良。	●ベルトを張ります。	171
	❷　排ワラチェンの張り不良。	●チェンを張ります。	176
	❸　こぎ深さが適正でない。	●こぎ深さ位置を適正にします。	49

7．グレンタンク部

<table>
<tr><th>不調の状況</th><th>原　　因（点検個所）</th><th>処　　置</th><th>参照ページ</th></tr>
<tr><td rowspan="2">排出オーガ操作レバーを操作しても，動かない</td><td>❶ 《オーガ・排出クラッチ》ヒューズ，《マイコン》ヒューズまたは《オーガ旋回》ヒューズが切れている。</td><td>●ヒューズを交換します。
オーガ・排出クラッチヒューズ……20A
マイコンヒューズ……10A
オーガ旋回ヒューズ……40A</td><td>28〜31</td></tr>
<tr><td>❷ 油圧バルブへのゴミかみ。


<table><tr><td rowspan="2">排出オーガ</td><td>上　げ</td><td>CとEを押す</td></tr><tr><td>下　げ</td><td>CとBを押す</td></tr></table></td><td>●エンジンを始動し，アンロードバルブを押しながら，オーガバルブの《上げ》および《下げ》の手動プッシュを数回押すとゴミかみが解消する場合があります。（下図のバルブユニットは運転席ステップの下にあります。）</td><td>—</td></tr>
<tr><td rowspan="2">こく粒排出スイッチを押してもこく粒が出ない</td><td>❶ ベルトのスリップ。</td><td>●ベルトを交換します。</td><td>—</td></tr>
<tr><td>❷ 《オーガ・排出クラッチ》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。</td><td>●ヒューズを交換します。
オーガ・排出クラッチヒューズ……20A
マイコンヒューズ……10A</td><td>28〜31</td></tr>
</table>

8．キャビン部［キャビン仕様］

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
ワイパが作動しない	❶ 《クーラ・ワイパ》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換する。 クーラ・ワイパヒューズ……30A	28〜31
ウォッシャ液が出ない	❶ ウォッシャ液が不足している。	●ウォッシャ液を補給する。	111
	❷ 《クーラ・ワイパ》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換する。 クーラ・ワイパヒューズ……30A	28〜31
クーラが作動しない	❶ 《クーラ・ワイパ》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換する。 クーラ・ワイパヒューズ……30A	28〜31
クーラの風量が少ない	❶ 吸気口のフィルタが目詰まりしている。	●フィルタを掃除する。	88〜89
室内灯が点灯しない	❶ 電球（バルブ）が切れている。	●電球（バルブ）を交換する。	—
	❷ 《室内灯・オーディオ》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換する。 室内灯・オーディオヒューズ……10A	28〜31
作業灯が点灯しない	❶ 電球（バルブ）が切れている。	●電球（バルブ）を交換する。	—
	❷ 《作業灯》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換する。 作業灯ヒューズ……15A	28〜31
	❸ 作業灯リレーが破損している。	●作業灯リレーを交換する。 （「お買いあげ先」で点検を受けてください）	—
カーステレオが作動しない	❶ 《シガライタ・オーディオ》ヒューズが切れている。	●運転席下のヒューズを交換する。 シガライタ・オーディオヒューズ……20A	28〜31
シガライタが作動しない	❶ 《シガライタ・オーディオ》ヒューズが切れている。	●運転席下のヒューズを交換する。 シガライタ・オーディオヒューズ……20A	28〜31
クーラが冷えない	❶ ガスがない。	「お買いあげ先」で点検を受けてください	—

取扱いのポイント

- 各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も併せて行なってください。
- ヒューズの溶断が再発するときは点検を受けてください。

付　　表

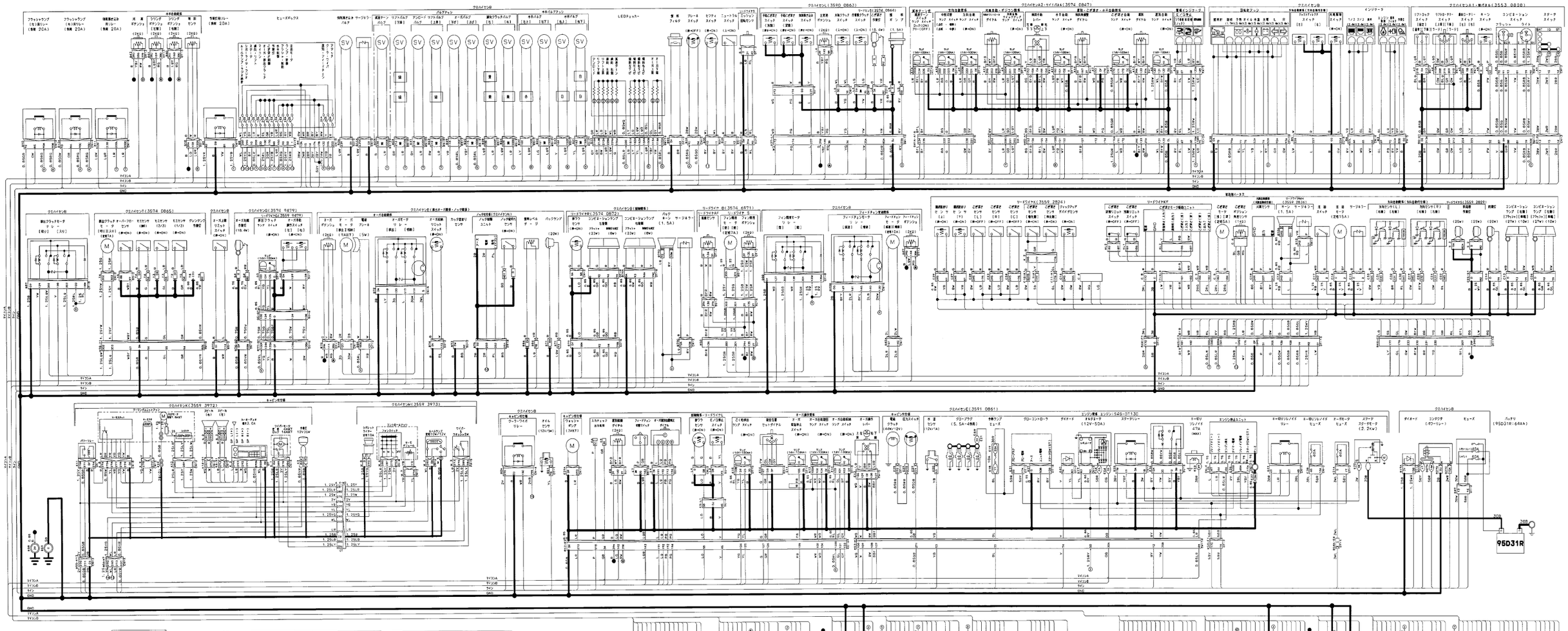
1．主要諸元

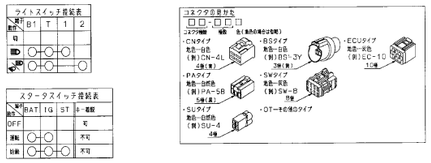
名称			三菱VR90	
型式名			三菱VR85	
区分			AM	CAM
機体寸法（格納時）	全長（mm）		4650	
	全幅（mm）		2185	2250
	全高（mm）		2360	2700
機体質量（重量）（kg）			3600	3750
エンジン	型式名		三菱S4S-DT	
	種類		水冷4サイクル4気筒立形ディーゼルターボ	
	総排気量（L{cc}）		3.331 {3331}	
	出力／回転速度（kW{PS}/rpm）		64.7{88}／2400	
	使用燃料		ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量（L）		80	
	始動方式		セルモータ式	
	バッテリ（V・Ah）		12・64	
走行部	クローラ	幅×接地長（mm）	500×1670	
		中心距離（mm）	1210	
		平均接地圧（kPa{kgf/cm²}）	21.1{0.2}	22.0{0.2}
	変速方式		油圧モータ（HST）	
	変速段数（段）		前進無段・後進無段（副変速3段）	
	走行速度（m/s）	前進	低速 0～1.05　標準 0～1.65　高速 0～2.90	
		後進	低速 0～1.05　標準 0～1.65　高速 0～2.90	
刈取部	刈取条数（条）		6	
	デバイダ先端間隔（mm）		1975	
	刈取装置形式		往復動刃式（シングル分割）	
	刃幅（mm）		1950	
	変速方式		車速同調式＋引起し変速3段	
	刈高さ範囲（mm）		40～150	
	こぎ深さ調節方式		電動式（自動・手動併用）	
脱こく選別部	脱こく方式		複胴下こぎ軸流式（増速ツインこぎ胴）	
	こぎ胴	径×幅（mm）	410×905	
		回転速度（rpm）	前459・後561	
	処理胴	径×幅（mm）	140×680	
		回転速度（rpm）	1545	
	揺動板の幅×長さ（mm）		600×1433	
こく粒処理部	こく粒処理方式		グレンタンク（オーガ排出）	
	タンク容量（L）		1950	
排ワラ処理装置			ディスク型カッタ（マルチカッタ切断長60㎜または180㎜）	
☆諸装置	警報装置		水温,油圧,充電,モミ満量,こぎ深詰まり,排ワラ詰まり,負荷警報,バックブザー,ノッタ紐切れ	
	自動化装置		方向,こぎ深,選別（MAC－Air）,水平,刈高,オーガ旋回,収納,リフトシャット	
	安全装置		エンジン自動停止，エンジン停止スイッチ	
	その他の装置		集中注油,負荷警報モニタ,モミ充てんモニタ,防じんカバー,オーガコントロール,ジャストディレクタ,クイックアップデバイダ	
適用作物全長（mm）			550～1300	
倒伏適応性（度）			追刈：85°以下・向刈：70°以下	
作業能率（min/10a）			7～10	

☆諸装置の記載内容は仕様（区分）により異なります。

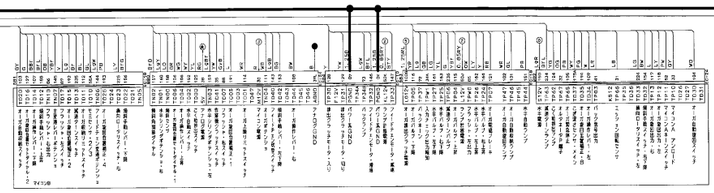
・この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

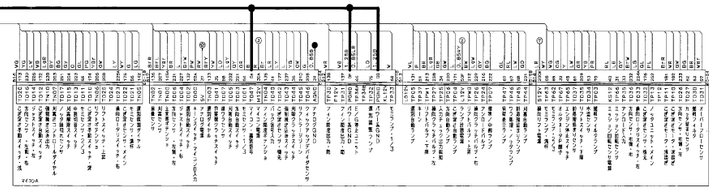
2. 配線図







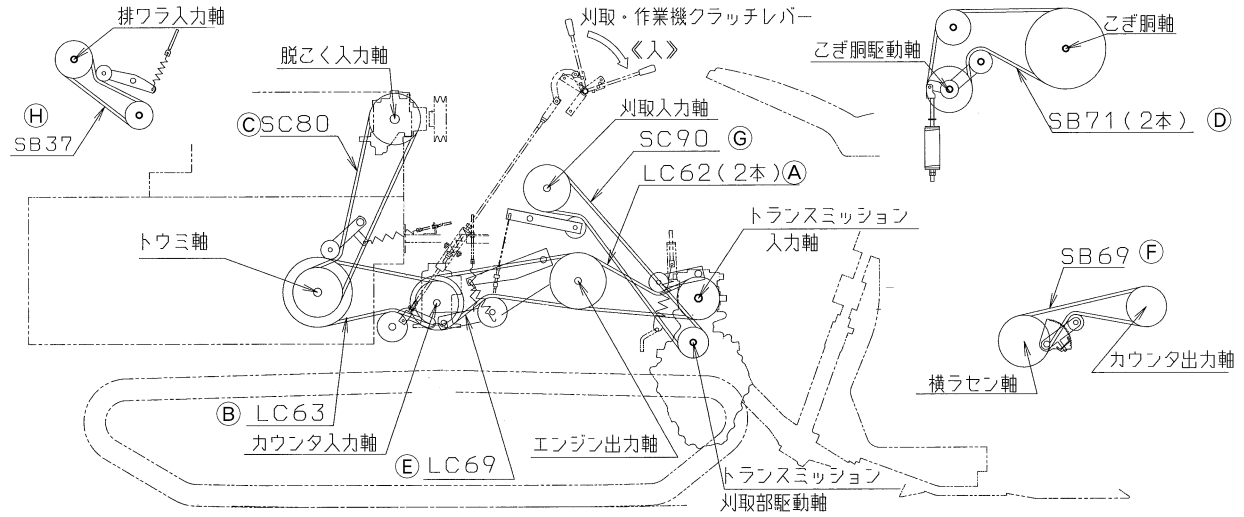


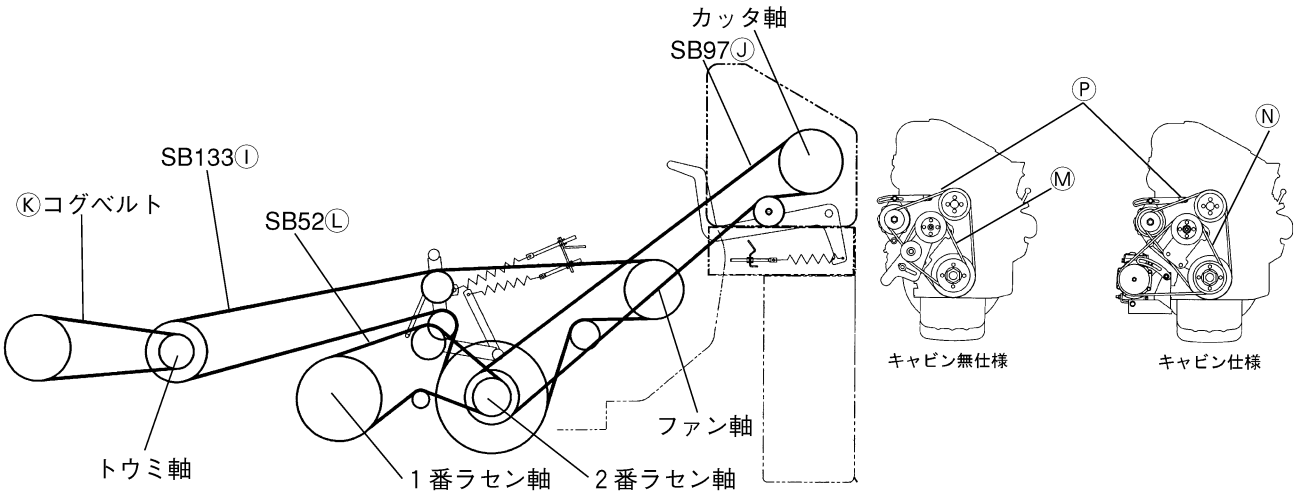


囲み内は、減速ターン付仕様品を示す

3. ベルト一覧表

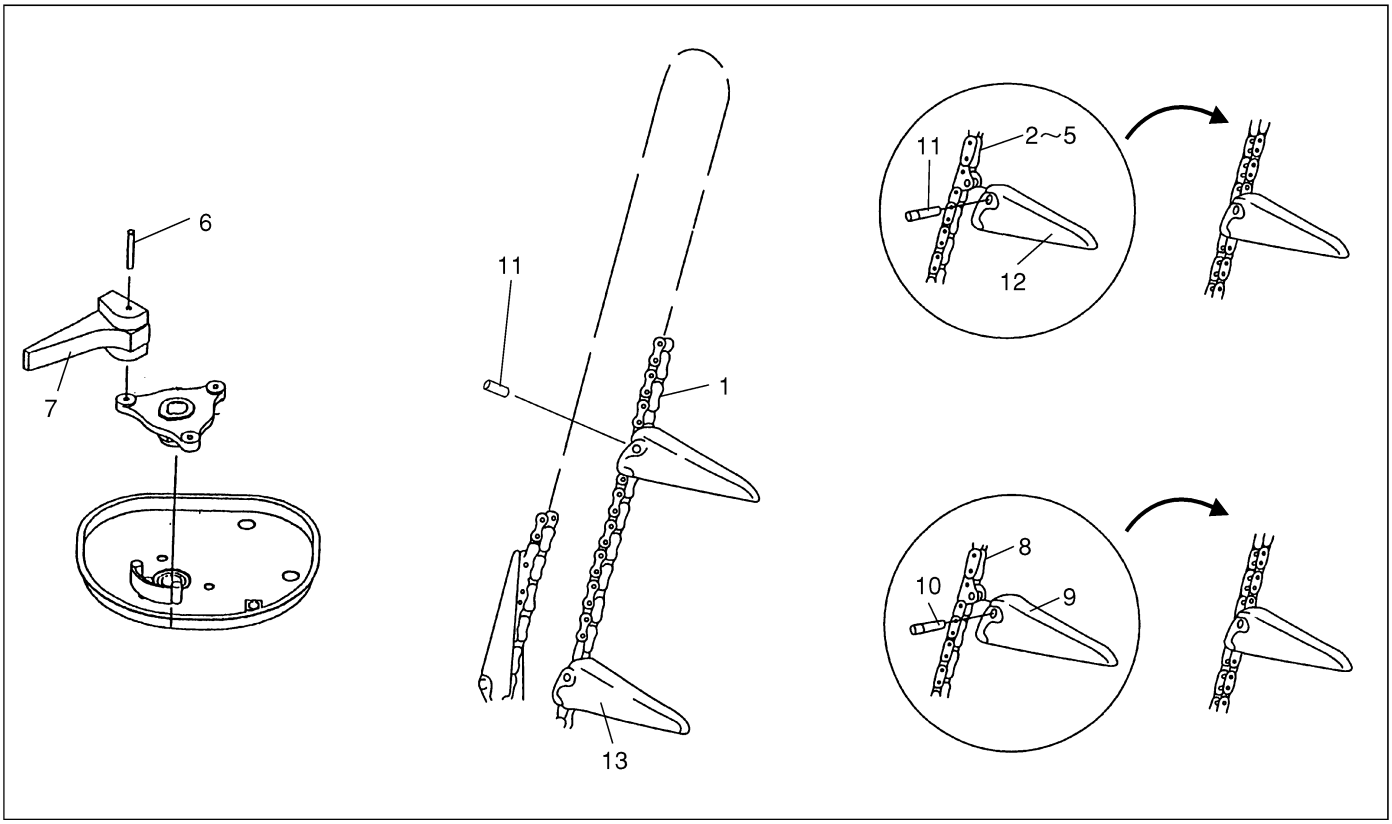
記号	伝動系統	部品番号	使用本数	サイズ	グレード
Ⓐ	走行ベルト	3574 0055 000	2	ＬＣ６２	ＡＧ８Ａ
Ⓑ	脱こく入力ベルト	3574 6541 000	1	ＬＣ６３	ＡＧ８Ａ
Ⓒ	こぎ胴伝動ベルト	3574 6107 000	1	ＳＣ８０	Ｗ８００
Ⓓ	こぎ胴ベルト	3559 6121 000	2	ＳＢ７１	Ｗ８００Ｌ
Ⓔ	カウンタ入力ベルト	3574 9021 000	1	ＬＣ６９	ＡＧ８Ａ
Ⓕ	グレン駆動ベルト	3559 9023 000	1	ＳＢ６９	Ｗ８００
Ⓖ	刈取ベルト	3574 2721 000	1	ＳＣ９０	Ｗ８００
Ⓗ	排ワラ駆動ベルト	0852 1500 037	1	ＳＢ３７	レッド-ＳⅡ
Ⓘ	選別ベルト	0852 1600 133	1	ＳＢ１３３	Ｗ４００Ｐ
Ⓙ	カッタベルト	3574 8653 100	1	ＳＢ９７	Ｗ８００Ｌ
Ⓚ	フィードチェン駆動ベルト	3574 6212 000	1	コグベルト	Ｈ.Ｐ仕様
Ⓛ	１番ラセン駆動ベルト	3574 6625 000	1	ＳＢ５２	Ｗ６００
Ⓜ	ファンベルト	3574 0032 000	1	Ａ　844mm	シルバー
Ⓝ	ファンベルト	3574 0033 000	1	Ａ　1134mm	ゴールド
Ⓟ	オルタネータベルト	05910-10045	1	Ａ　1160mm	シルバー





4．主な消耗部品

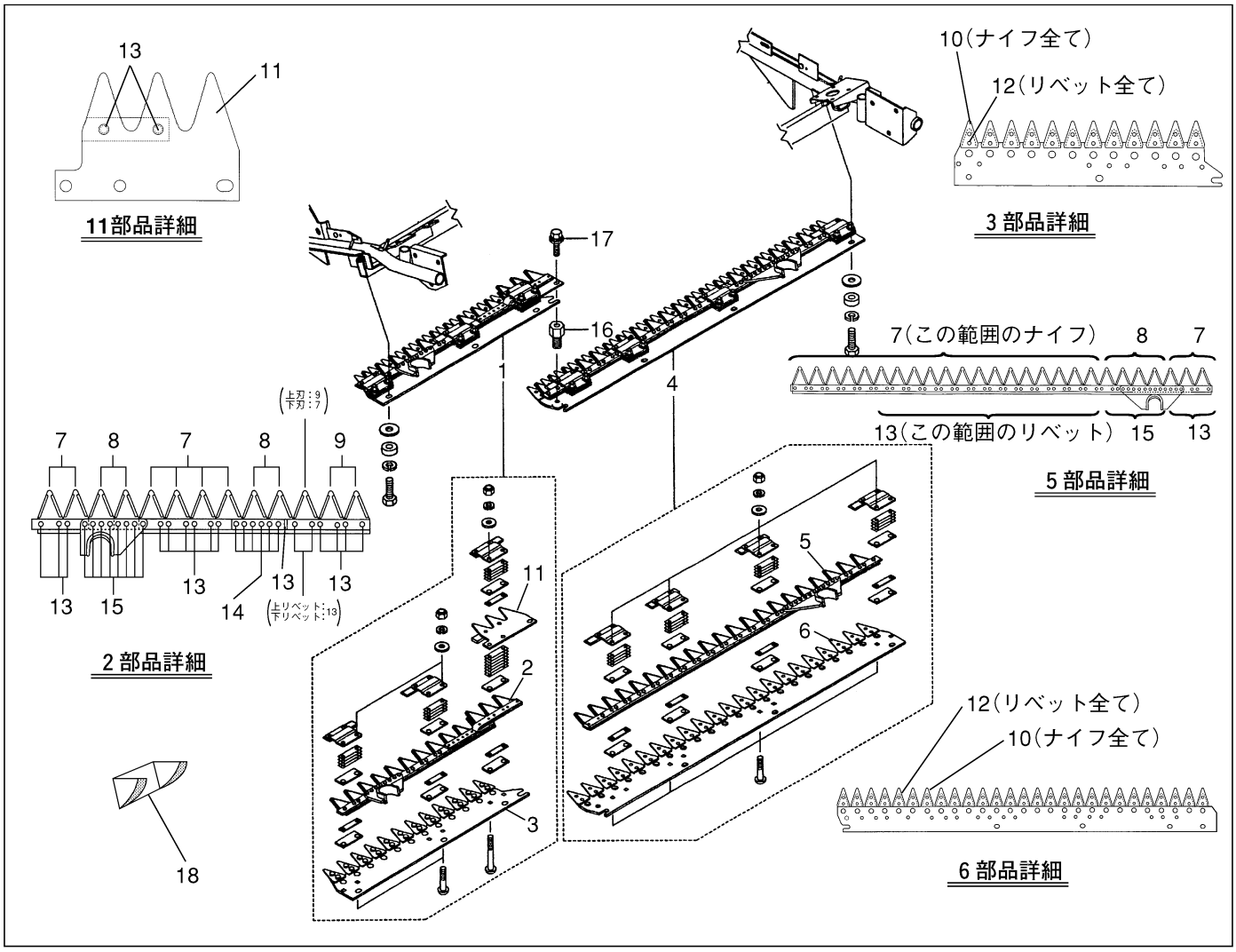
1．爪関係



No.	部　品　名　称	部　品　番　号	備　　考
1	ヒキオコシチェン140	3559　4352　001	引起し
2	ジョウブチェン184R	3559　5081　002	上部搬送右後
3	ジョウブチェン52	3559　5189　002	上部搬送中
4	ジョウブチェン114L	3574　5127　000	上部搬送左
5	ジョウブチェン147R	3574　5328　000	上部搬送右前
6	ピン33	3559　5343　000	穂先搬送
7	タイン80	3559　5344　000	穂先搬送
8	チェンアッシ	3566　7879　002	穂先排ワラ
9	ツ　メ	3579　5295　201	穂先排ワラ
10	ツメトリツケピン	3523　4428　000	穂先排ワラ
11	ピン40	3559　5081　201	１～５のチェン全てに使用
12	タイン115.5	3559　5081　102	２～５のチェン全てに使用
13	タイン129.5	3559　4352　101	引起し

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

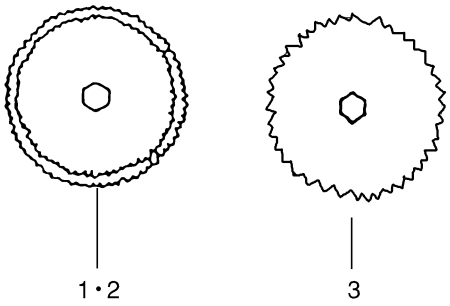
2. 刈刃・カマ関係



No.	部　品　名　称	部　品　番　号	備　　考
1	カリハＬシクミ	3559　4641　000	2，3，11部品の組品
2	カリハＬウエ	3559　4642　100	7，8，9，13，14，15部品含む
3	ウケハＬ	3559　4642　200	10，12部品含む
4	カリハＲシクミ	3574　4642　000	5，6部品の組品
5	カリハＲウエ	3574　4642　300	7，8，13，15部品含む
6	ウケハＲ	3574　4642　400	10，12部品含む
7	ナイフ（2）	3559　4641　100	29個
8	ナイフ（3）	3559　4641　200	8個
9	ナイフサラ	3559　4641　300	3個
10	ウケハナイフ	3559　4641　400	39個
11	ウケハショウ	3559　4641　500	1個
12	サラリベット	3559　4641　600	78個（サイズφ6×16）
13	リベット（サラ）	3559　4641　700	64個（サイズφ5×16）
14	リベット（サラ）	3559　4641　800	6個（サイズφ5×20）
15	リベット（ヒラ）	3559　4641　900	20個（サイズφ5×24）
16	トリツケボルト12	3559　4643　000	
17	ボルト	H154　0108　016	
18	ワラ切りカマ	3735　7321　001	

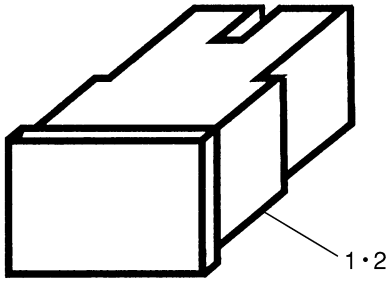
・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

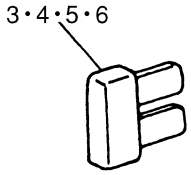
3. カッタ関係



No.	部品名称	部品番号	個数（1セット分）	
			DMR85	DMR85S
1	ノコ刃（φ170）	3574 8785 000	10	17
2	ノコ刃（φ200）	3829 0414 000	6	6
3	スターホイル刃	3574 8808 000	16	23

4. ヒューズ





No.	部品名称	部品番号	備考
1	ヒューズ	3559 0861 200	40A
2	ヒューズ	1037 5502 200	60A
3	ヒューズ	0980 1001 005	10A
4	ヒューズ	0980 1001 505	15A
5	ヒューズ	0980 1002 005	20A
6	ヒューズ	0980 1003 005	30A

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

5．アタッチメント（別売り）

・次のアタッチメントを基本作業機または部品として準備しておりますのでご利用ください。

	型　式	品　名	備　考
基本作業機・部品	KN－R85	自動スライドノッタ	株元・穂先結束両用，大玉バスケット付
	DMR85	マルチカッタ	切断長60／180㎜
	DMR85S	スーパーマルチカッタ	切断長40／160㎜
	S－R85D	ディスクカッタ用ドロッパ	
	SP－R85F	スーパーデバイダ	４連
	CHG65	コンバインフード	

6．潤滑油について

オイルは，三菱純正オイルをお奨めします。

1．エンジンオイル

メーカ	商品名
三菱農機純正油	マルチSTOUオイル（SAE・10W－30，SD/CD/GL－4）
全農	クミアイディーゼルマルチオイル（SAE・10W－30）
新日本石油	HDS－3 ファームユニバーサルオイル

・やむをえず他メーカのオイルを使用される場合は，APIサービス分類CD級オイルをお使いください。

2．油圧作動油

メーカ	商品名
三菱農機純正油	マルチSTOUオイル（SAE・10W－30，SD/CD/GL－4）
新日本石油	スーパハイランド46

3．ギヤオイル

メーカ	商品名
三菱農機純正油	マルチSHPギヤオイル（SAE90，GL－5）
新日本石油	スーパハイポイドギヤ（SAE90，GL－5　SAE140，GL－5）

取扱いのポイント

● トランスミッションケースのオイルは，ギヤオイルAPI・GL－5，SAE・90を使用してください。

4. 三菱農機 (純正油) マルチオイル

・マルチＳＴＯＵ（ストー）オイルは１種類でエンジンオイル又はギヤオイルとして１年中ご使用いただけるオールシーズンタイプです。
・マルチＧＤオイルはエンジン専用オイルです。
・マルチＧＢオイルはギヤおよび湿式ブレーキの特性を考えて開発された，ギヤ（Ｇ）と湿式ブレーキ（Ｂ）専用オイルです。
・マルチSHPギヤオイルは，ギヤ専用オイルです。
・お買い求めは，弊社販売店で取扱っていますのでご相談ください。



性状＼品名		マルチSTOUオイル	マルチGDオイル	マルチGBオイル	マルチSHPギヤオイル
密度	15℃ g／cm³	0.881	0.872	0.893	0.900
引火点	℃	210	229	230	230
流動点	℃	－37.5	－26.1	－35.0	－22.5
動粘度cSt	@ 40℃	62.0	67.5	78.4	188.5
	@ 100℃	10.8	11.4	9.8	17.5
粘度指数		168	163	104	100
ＡＰＩサービス分類		SD／CD／GL－4	SH／CD	GL－4	GL－5
ＳＡＥ粘度番号		10W－30	10W－30	80W	90
荷姿		ドラム・20Ｌ缶	18.9Ｌ缶	20Ｌ缶	ドラム・20Ｌ缶

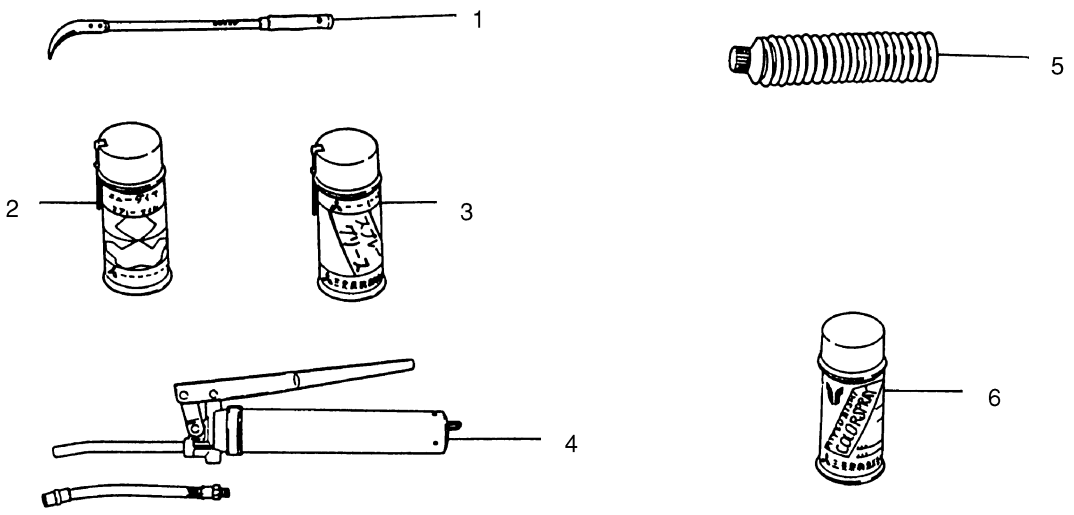
取扱いのポイント

●マルチGBオイル，マルチSHPギヤオイルはエンジンオイルとしては使用できません。

7．コンバイン関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商　品　名	商　品　番　号	
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1－420DX	金属部品の防錆，潤滑
3	スプレーグリス	SP300	〃
4	グリスポンプ	N850－666	フレキシブルパイプ付
5	グリス	NMP400	グリスポンプ詰め替え用
6	カラースプレー（赤）	0975　0000　270	補修用塗料
	〃　（白）	0975　0000　160	
	〃　（黒）	0975　0000　470	
	〃　（ダークグレー）	0975　0000　120	



・ご用命のときは，「商品名」「商品番号」をお知らせください。

8．用語解説

取扱説明書に使用している用語の意味は次の通りです。

ア行

アタッチメント……コンバイン購入後に取付ける装置です。

アワメータ……作業時間の集計を表示します。

インジケータランプ……機械の状態を知らせるランプです。

エアクリーナエレメント……空気清浄器用のフィルタです。

カ行

コンビネーションスイッチ……前照灯と方向指示器の操作機能を１つにまとめたスイッチです。

コンポアップ……レバー操作でこぎ胴が持上がり脱こく部がオープンします。

サ行

増速ツインこぎ胴……こぎ胴部を前後に分割し，前後のこぎ胴に回転差をつけた機構です。

タ行

ツインハーモニー……車速と脱こくフィードチェンの速度が自動的に同調する機能です。

デバイダ……分草板のことをいいます。

ナ行

ナローガイド……刈取る作物を分ける前処理誘導稈です。

ノッタ……ワラの結束機です。

ハ行

バンパ……デバイダ先端に取付ける危険防止用の保護板です。

マ行

マルチカッタ……レバーの切換で排ワラの切断長を変えることができるカッタです。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式

機械番号(製造番号)

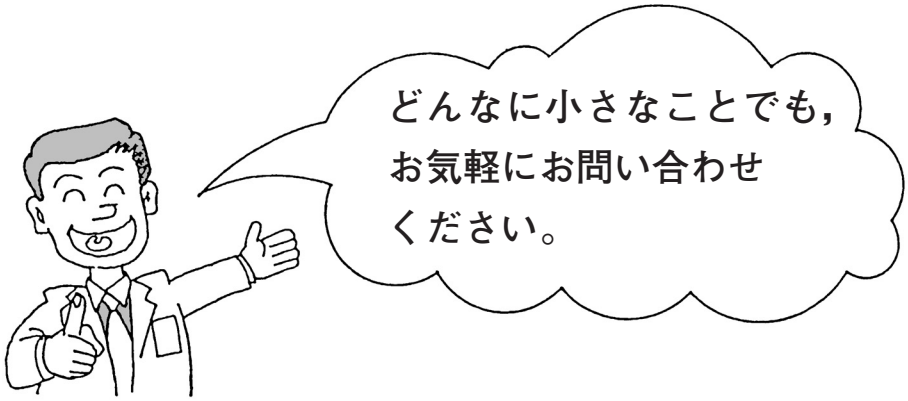
●ご使用状況は…？

(どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)